

デュエリスト・マン
シヨン

紺屋 黒猫

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

田舎からとあるマンションに引っ越して来た青年が、一人前のデュエリストになるため住民達と交流しつつ成長していくお話。

○登場カードについて

基本的にカードについてはOCGの物のみ登場させます。

(TCGのカードは日本で一般販売されるまで登場させません)

○ルールなどについて

ルールとリミットレギュレーションについては最新のが発表された場合、それを起用

する予定です。

○挨拶

はじめまして、紺屋 黒猫です。

こちら、ハーメルン様で小説の執筆並びに投稿させて頂くのは初めてになりますので、よろしくお願いします。

目次

第1章 新人デュエリスト誕生

第1話 デュエリストの道へ進む者

1

第2話 ここがひよこのカードショッ

プ

14

第3話 弟子襲来

35

第4話 白石 蒼の長い1日 (前編)

55

第4話 白石 蒼の長い1日 (中編)

75

第4話 白石 蒼の長い1日 (後編)

89

第2章 はじめての公式戦

第5話 戦いの始まり

101

第6話 デュエルの香りはカレーの香

り

116

第7話 ラフレシアを討て

139

第8話 トークン・パニック

161

第3章 ××のカード

第9話 美味しいカレーと狂戦士

188

第10話 大雨と花札

215

第11話 相談とエネルギー

239

第12話 臨時試験官やってみた

257

| | | | |
|-----|------|------------|-----|
| | 第13話 | 新たな力 | 285 |
| | 第4章 | 対決、カードハンター | |
| | 第14話 | 2つの風 | 313 |
| | 第15話 | 香りの癒やし | 343 |
| | 第16話 | 不審者達の戦い | 380 |
| | 第17話 | 強化されし力 | 406 |
| 427 | 第18話 | カードパックを買おう | |

第1章 新人デュエリスト誕生

第1話 デュエリストの道へ進む者

時は20XX年、第三次世界大戦も起きなければ予言された終末も特になかった時代。

世界的にカードゲーム「遊戯王」が流行し、人々に受け入れられ生活に浸透していった。そして技術革新により「ソリッドヴィジョン」や「デュエルディスク」が生み出され、「デュエリスト」と言う職業が認知されたちよつとだけ未来のお話。



空に太陽が昇りきった頃、彼はマンシヨンの前に立っていた。

白いTシャツに青いGパン姿の彼の名は白石 蒼(しらいし あお)。 今日、このマ

ンションに地方から引越して来た青年である。手持ちの大きな鞆からメモを取り出し目を通す、マンションの管理人がいる部屋の番号を確認した。

「まずは管理人さんに挨拶しに行かないとな」

部屋の前まで来ると少し緊張してきた。意を決しインターホンを鳴らす。

ピンポン

「はい、どなたでしょうか？」

「こんにちは、今日ここに引越して来た白石です」

「おお、待っていたよ。とりあえず上がりなさい」

ドアが開かれると眼鏡を掛けた40代くらいの男性が出てきた。

「おじやまします」

案内された部屋の中に入ると漫画に出てきそうな程の書類が積まれた机とそれとは対照的に背は低いが何かのシートが乗せてある机が目を引いた。背の低い机の方に通された。

「はじめまして、私が大家兼管理人の永田 幸助（ながた こうすけ）です。お茶をどうぞ」

「こちらこそはじめまして、僕は白石 蒼です。ありがとうございます、頂きます」

出されたお茶を一口飲む、芳ばしい香りが口の中に広がる。ほうじ茶だろうか？

「管理人さん、こちら引つ越し見舞いの品と今月と来月分の家賃です」

「ご丁寧にも、家賃確かに頂きました。……そうだ、忘れるところだった。白石

君、これが君の部屋の鍵とこのマンションでのルールなどをまとめた書類だよ」

「ありがとうございます」

「……話は変わるけど、君は確かデュエル経験がなかったと聞いてるが本当かな？」

「はい、今までする機会が一度もありませんでした」

「そうか、ではこの入居条件は知っているよね」

「はい、デュエリストまたはデュエリスト志望である事です」

「君はデュエリストになる気があるとの事だったけど、どうすればなれるか知っているかな？」

「いいえ、どうすればなれますか？」

管理人さんは引き出しからカードの束を3つ取り出して机の上に置いた。因みに、机の上にあるシートはプレイシートと言うらしい。

「それならば、ここにある3つのデッキから一つ選びなさい。それを引つ越し祝いとして私からプレゼントしようじゃないか。デュエリストになるには、まず自分のデッキが必要だよ」

「え、いいんですか？」

「ああ、じっくり選ぶといい。どのデッキも店で売られてるストラクチャーデッキ程ではないかも知れないが、どれもちゃんと戦えるようには作ってある」

「ありがとうございます！さて、どれにしようかな？」

管理人さんからそれぞれのデッキの概要を聞いたりしながら自分にあつたデッキを選んでいく。

3つあるデッキはそれぞれ、「ライトロード」、「ブルーアイズ」、「TG（テックジーナス）」と言うらしい。デッキを選び終えた後、管理人さんからデュエルのルールやカードの使い方をレクチャーしてもらった。

今回のルールは新マスタールール（2020年4月改訂版）と言うやつらしく、EXモンスターゾーンと言う場所は今回気にしなくても管理人さんは言っていた。

「さて、ルール説明もやった事だし後は実際にやってみて大体の流れを君に体験してもらおうかな」

「わかりました、よし頑張るぞ」

僕が選んだデッキは「ライトロード」、自分のデッキを毎ターン墓地へ送る代わりに爆発力のあるテーマだ。

「デュエル！」

白石 LP 8000

管理人 LP 8000

「白石君、先攻はどうぞ。まずは好きに動いてみるといい、カードのテキストもよく目を通すといいよ」

「わかりました、それなら〈ライトロード・アサシン ライデン〉を通常召喚します」

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 攻撃表示

星4 / 光属性 / 戦士族 / チューナー / 効果モンスター

ATK / 1700 DEF / 1000

「モンスター効果を発動してデッキを上から2枚墓地へ送ります。エンドフェイズにデッキを上から2枚墓地へ送り、これでターンを終了します。」

「では私のターン、ドロロー。手札から魔法カードを発動、〈予想GUY〉。このカードは自分の場にモンスターが居なければ発動出来る、デッキからレベル4以下の通常モンスターを特殊召喚する。私は〈ジェネティック・ワーウルフ〉を特殊召喚」

〈ジエネティック・ワーウルフ〉 攻撃表示

星4／地属性／獣戦士族／通常モンスター

ATK／2000 DEF／100

「さらに、もう一体〈ジエネティック・ワーウルフ〉を通常召喚。そしてバトルフェイズに突入、〈ジエネティック・ワーウルフ〉で〈ライトロード・アサシン ライデン〉を攻撃、続けて2体目で君に直接攻撃」

白石 LP8000↓7700↓5700

「メインフェイズ2に移行して、カードを1枚伏せてターンを終了。 さあ、君の番だよ」

「僕のターン、ドロロー。 手札の〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉を捨てて魔法カード〈ソラー・エクステンジ〉を発動します。 デッキから2枚ドロローして、デッキの上から2枚墓地へ送ります」

ドロローしたカードを見て口元が緩んだ。

「何か良いカードを引けたみたいだね」

「デッキの上から3枚墓地へ送り魔法カード〈光の援軍〉を発動します。デッキから2枚目の〈ライトロード・アサシン ライデン〉を手札に加えます。続けて、手札から

〈裁きの龍〉を特殊召喚します」

〈裁きの龍〉(ジャッジメント・ドラグーン) 攻撃表示

星8/光属性/ドラゴン族/効果モンスター

ATK/3000 DEF/2600

「LP1000を支払い〈裁きの龍〉のモンスター効果を発動します」

白石 LP 5700→4700

「そうきたか、ならばその効果に合わせて伏せてたカードを発動しようか。罠カード〈サンダー・ブレイク〉手札を1枚捨てて〈裁きの龍〉を対象に発動。破壊させてもらうよ」

「〈裁きの龍〉は破壊されますが、モンスター効果はどうなりますか？」

「この場合だと、効果が無効になってないから私のフィールドのカードは全て破壊されるよ」

「わかりました、手札から〈ライトロード・アサシン ライデン〉を通常召喚してモンスター効果を発動します。墓地へ送られた中に〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉があつたので〈ライトロード・アサシン ライデン〉の攻撃力は200アップ、さらに〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉は自身の効果で墓地から特殊召喚します。……これでもいいんですね？」

〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉 攻撃表示

星4／光属性／獣戦士族／効果モンスター

ATK／2100 DEF／300

「ああ、大丈夫だ。そのまま続けてみて」

返答の代わりに首肯すると、視線を自分の手札に戻す。

「2枚目の〈ソーラー・エクステンジ〉、手札の〈ライトロード・マジシャン ライラ〉を捨てて発動します。2枚引いて、上から2枚墓地へ。さらに、今引いた3枚目の

〈ソーラー・エクステンジ〉を〈ライトロード・アサシン ライデン〉を捨てて発動。

2枚引いて、上から2枚墓地へ送ります」

「良い感じに動き始めたようだね」

「手札から〈裁きの龍〉を特殊召喚して、バトルフェイズに入ります。3体のモンスターの攻撃は通りますか？」

「ああ、全て通るよ」

管理人 LP 8000↓5000↓3100↓1000

「バトルフェイズを終了してエンドフェイズにデッキを上から〈裁きの龍〉で4枚、〈ライトロード・アサシン ライデン〉で2枚墓地へ送ります。ターン終了」

「では私のターン、ドロウ。手札から魔法発動〈儀式の下準備〉、このカードの効果でデッキから儀式魔法カード1枚を選び、さらにその儀式魔法カードに名前が記された儀式モンスター1体を自分のデッキまたは墓地から選ぶ。そしてその2枚を手札に加える。私が選ぶのは、〈合成魔術〉と〈ライカン・スロープ〉」

管理人さんがデッキから魔法カードと共に見慣れぬ水色のカードを手札に加えた。疑問に思っていると管理人さんが「儀式モンスター」と言う種類のカードだと教えてくれた。

「では続けて、2枚目の〈予想GUY〉を発動。デツキから3枚目の〈ジエネティック・ワーウルフ〉を特殊召喚。さらに手札から儀式魔法〈合成魔術〉を発動、レベルの合計が6以上になるようにモンスターを生け贄に捧げる事で手札の〈ライカン・スロープ〉を儀式召喚する。手札のレベル4の〈ブラッド・ヴォルス〉とフィールドの同じくレベル4の〈ジエネティック・ワーウルフ〉を生け贄に捧げ、〈ライカン・スロープ〉を儀式召喚！」

儀式召喚、儀式魔法と言うカードを使いそのカードに対応する様々な儀式モンスターを呼び出す召喚方法で、呼び出すためには生け贄として1体から複数体のモンスターを使うのが特徴だと管理人さんが教えてくれた。

〈ライカン・スロープ〉 攻撃表示

星6 / 地属性 / 獣戦士族 / 儀式 / 効果モンスター

ATK / 2400 DEF / 1800

「バトルフェイズに突入、〈ライカン・スロープ〉で〈ライトロード・アサシン ライデ
ン〉を攻撃」

白石 LP 4700↓4200

「相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた事により、ヘライカン・スロープ」の効果発動。私の墓地に存在する通常モンスターの数×200ポイントのダメージを君に与える。私の墓地には〈サンダー・ブレイク〉のコストで送った〈ブラッド・ヴォルス〉を含め5体の通常モンスターがある、よって1000ポイントのダメージだ」

白石 LP 4200↓3200

「バトルフェイズを終了して、メインフェイズ2に移行。カードを1枚伏せてターンを終了」

「僕のターン、ドロロー。バトルフェイズに移行して〈裁きの龍〉で〈ヘライカン・スロープ〉を攻撃します」

管理人 LP 1000↓400

「いい攻撃だ、だがここで伏せカードを使おう罨カード〈戦線復帰〉。自分の墓地から

モンスタ―ー体を守備表示で特殊召喚する、ヘライカン・スロープを墓地からフィールドへ特殊召喚する」

「ヘライトロード・ビースト ウォルフ」で攻撃、ヘライカン・スロープを破壊します。続けて、ヘライトロード・アサシン ライデン」で直接攻撃」

管理人 LP 400↓0

「お見事、どうだった初めてのデュエルの感想は」

「月並みかも知れませんがとても楽しかったです！」

「それは良かった、他にデュエリストに必要な物はここに大体揃ってるから暇な日に行ってみるといい」

簡単な地図の載ったメモを渡された。目的地に「ひよこのマーク」が描かれている。

「何から何までありがとうございます」

「新人のデュエリストが増えるのは良いことだからね」

右腕に付けてる腕時計からアラームが鳴った。

「あ、もうこんな時間か。すみません、長居してしまつて……、そろそろ帰りますね」

「そうか、また何かあったらいつでもおいで」

「はい、色々ありがとうございます。おじやました」

お茶をグイッと飲み干すと管理人さんの部屋を後にし、自分の部屋へ足を運んだ。

扉を開けると荷物はすでに運び込まれているらしく、部屋の中から数は多くないが山積みになったダンボール箱が見えている。

「これ片さないとな……、でもその前に他の部屋の人に引越見舞いを渡しに行こうか」

他の部屋の住民に見舞い品を渡し終え、帰宅すると急に眠気が襲ってきた。仕分け作業をいくらか終えると、ダンボール箱を枕代わりにそのまま心地の良い誘惑に身を任せる事にした白石であった。

第2話　ここがひよこのカードショップ

翌朝、白石は目が覚めると身仕度を整え朝食を摂ると、昨日管理人から貰ったメモの場所へ向かった。メモにあった道を進み、商店街を抜け、駅の側まで来ると大きくて黄色い看板が見えてくる。看板には大きく「ひよこの絵」が描かれている、メモにあったマークはこれの事らしい。

「ひよこのカードショップか、とりあえず入ってみよう」

中に入ると、入店音なのだろうかひよこのような鳴き声が響く。店内は明るく落ち着いた雰囲気だ漂う場所だったが、単に他の利用客がいらないからそう感じるのかも知れない。

「おはようございます、いらっしやいませ！　ひよこのカードショップへようこそ！」
髪を後ろで一纏めにして、ひよこのマークの付いたエプロンを着た女性店員が声をかけてきた。名札に氷室（ひむろ）と書いてある。

「店員さん、ここにデュエリストになるのに必要な物を揃えられると聞いて来たのですが、何からすればいいのかわからないので教えて下さい」

「かしこまりました、デツキはお持ちですか？」

「はい、あります」

「それでしたら、こちらのカウンターへどうぞ。デュエリストIDカードを作りますので、ハガキに必要な事項の記入をお願いします」

「わかりました」

カウンターでハガキに必要な事項を記入していると、入店音が聞こえてきた。

「おはようございます、氷室さんか木戸さん居る？」

「おはようございます、いらっしやいませ！今日も朝からのご来店ありがとうございます」

入店して来たのは10代後半くらいの青年だった。あれ、学校は大丈夫なのだろうか？と言う考えが頭を過ぎったが、自分と同じように高校を卒業して自由な時間を得た人かも知れないと思った。

「氷室さん、頼んでいたカードは届いているかな？」

「ちよつと確認して来ますね」

店員さんがカウンター内に引つ込むと、青年がこちらに近づいてきた。

「おや、君は昨日引つ越して来た新人君じゃないか。自己紹介がまだだったね。はじめまして、ボクの名前はカミュ。君の部屋の隣に住んでる者さ」

「はじめまして、白石 蒼です」

カミュと名乗った青年が手を差し出したので、それを握り返す。ついでにハガキも書き終わったのでカウンターのところに置いておく。

「ご注文のカードありましたよ」

「そうですか、お会計お願いします」

カミュは会計が終わると、「プレイゾーン」と吊り看板があるテーブルにつきデッキを改良し始めた。

「お待たせしました、デュエリストIDカードを発行しました。後日、ハガキの住所にデュエルディスクが郵送されますのでお受け取り下さい」

「わかりました。ところで、このIDカードは何に使うのですか?」

「IDカードは公式大会等でライセンスカードの代わりになります。試合での戦績も記録されますね、なので紛失されないようにお願いします」

「……思ったより、重要なカードなんですね。他にデュエリストに必要な物は何かありますか?」

「基本的に『デッキ』と『デュエルディスク』、そして『IDカード』の3つがあれば大会への参加が可能になります。プロやアマチュアを問わず、優勝商品付きの大型の大会や世界大会でも必要な物はこの3つだけです。もし他にあるとすれば『気持ち』でしょ

うか」

「気持ち、ですか？」

「はい、何事も気持ちで負けたら上手く行かない事がありますから個人差はあれど必要だと思えます」

店員さんと話していると、カミュがこちらへ戻ってくるのが見えた。

「白石君と言ったね、良かったらボクとデュエルしないか？」

「わかりました、やりましょう」

「だけど、その前にデュエルディスクを借りておこうか。氷室さん、デュエルディスク借りてもいいかな？」

「ええ、良いですよ。2人分ですね、どうぞ」

「ありがとうございます。じゃ、プレイゾーンまで行こうか」

カミュが左腕にデュエルディスクを付けたので、白石もそれに習い左腕に付ける。あまり重さを感じない上に、装着した腕からずれる事もない。デッキをセットするとデュエルディスクが起動した。

「デュエル！」

白石 LP 8000

カミュ LP 8000

カミュのデュエルディスクに赤いランプが点灯する。デュエルディスクには先行・後攻を決める手段としてデュエル開始時に赤いランプが点灯する機能があるらしい。

「どうやらボクが選べるようだね、先攻をもらうよ。手札を5枚全て伏せてターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。〈ライトロード・アサシン ライデン〉を通常召喚」

浅黒い肌二本のナイフを持ち青いマフラーを巻いた男がフィールドに降り立つ。ソリッドヴィジョンは凄いいものと白石は感心した。

「そして効果を発動。デツキを上から2枚墓地へ送ります。さらにデツキを上から3枚墓地へ送り魔法カード〈光の援軍〉を発動、デツキから〈ライトロード・サモナー ルミナス〉を手札に加えます。続けて、手札から〈ライトロード・ウオリアー ガロス〉を捨てて〈ソーラー・エクステンション〉を発動、2枚ドロローしてデツキの上から2枚墓地へ送ります。バトルフェイズに入ります、〈ライトロード・アサシン ライデン〉で直接攻撃」

「その攻撃、受けるよ」

二本のナイフが煌めきカミユを十字に切り裂く、ソリッドヴィジョンだから血は出ないが、なかなかリアルな光景だった。

カミユLP 8000↓6300

「エンドフェイズにへライトロード・アサシン ライデン」の効果でデッキを上から2枚墓地へ送ります」

「こちらもこのタイミングでカードを使わせてもらおうか、リバーズカードオープン！ 罠カードへ幻影騎士団ダーク・ガントレット、デッキから『ファントム』魔法・罠カードを1枚墓地へ送る。このカードの効果によりデッキからへ幻影死槍」を墓地へ送る」

「ターンを終了します」

「ボクのターン、ドロ。魔法カードへおろかな埋葬」を発動、デッキからへ幻影騎士団ラギッドグローブ」を墓地へ送る。そして墓地から除外して効果発動、デッキから『幻影騎士団』カードまたは『ファントム』魔法・罠カードをデッキから墓地へ送る、この効果でへ幻影騎士団サイレントブーツ」を墓地へ送る。さらに墓地のへ幻影騎士団サイレントブーツ」を除外して、デッキから『ファントム』魔法・罠カードを手札に加える。

この効果で〈幻影騎士団ウロング・マグネリング〉を手札に加え、そのまま伏せてターニングエンド」

「僕のターン、ドロ。まずは〈ライトロード・アサシン ライデン〉の効果でデッキを上から2枚墓地へ送ります、墓地へ送られた中に〈ライトロード・エンジェル ケルビム〉があつたので相手ターン終了時まで攻撃力が200アップします。〈ライトロード・サモナー ルミナス〉を通常召喚」

白い服を着た女性が両手を輝かせながらライデンの隣に並び立つ。

〈ライトロード・サモナー ルミナス〉 攻撃表示

星3／光属性／魔法使い族／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1000

「手札を1枚捨てて、墓地の〈ライトロード・ウォリアー ガロス〉を対象に〈ライトロード・サモナー ルミナス〉の効果発動。そのモンスターを特殊召喚します」

ルミナスが両手の輝きを強め何かの呪文のようなものを唱えると、その隣に白い鎧を纏った大男が槍を構えて並んでいた。

〈ライトロード・ウォリアー ガロス〉 攻撃表示

星4／光属性／戦士族／効果モンスター

ATK／1850 DEF／1300

「……レベル4が2体、来るか」

「えつと……、何の事ですか？ ターン続けますね、バトルフェイズに入ります。ヘライトロード・ウォリアー ガロス」で直接攻撃」

「この瞬間、リバースカードオープン！ 〈幻影霧剣〉をヘライトロード・ウォリアー ガロス」を対象に発動。このカードが魔法・罠ゾーンに存在する限り、対象のモンスターは攻撃できず、攻撃対象にならず、効果は無効化される」

ガロスの周りに青白い霧のようなものが発生し、鎖のように体に巻きついた。

「続けて、〈ライトロード・サモナー ルミナス〉で直接攻撃」
「それはライフで受ける」

ルミナスは両手をカミュに向けて、手のひらからビームを打ち出す。多分、光を凝縮したようなものだろう。

カミュ LP 6300 ↓ 5300

「ヘライトロード・アサシン ライデン」で直接攻撃」

「それは通さない、リバースカードオープン！罠カード〈幻影騎士団ウロング・マグネリング〉を発動。その攻撃を無効にする。その後、このカードは効果モンスターとなりモンスターゾーンに攻撃表示で特殊召喚される」

攻撃を仕掛けたライデンの二本のナイフがはじき飛ばされ、床から模様の描かれた輪っかを持つ幽霊のようなモンスターが這い出てきた。

〈幻影騎士団（ファントムナイツ）ウロング・マグネリング〉 攻撃表示

星2／闇属性／戦士族／効果モンスター

ATK／0 DEF／0

「バトルフェイズを終了してエンドフェイズ、ヘライトロード・アサシン ライデン」と
 〈ライトロード・サモナー ルミナス〉の効果をそれぞれ発動します」

「待った、その効果は『チェーン』を組む」

「『チェーン』って何ですか？」

「……デュエリストなのに、まさか知らないとは言わないよね？」

「すみません、昨日始めたばかりなのでわかりません……」

「そうか、それなら仕方ない教えるでしょうか。『チェーン』とは言わば『積み木』のよ
うなものさ、処理したい順番を決めて積み上げていく、効果を解決する時は積み上げた
のとは逆の順番、『積み木』のように上から順番に解決して取り除くんだ。今回の場合だ
と、どちらかのモンスターを『チェーン1』、残った方を『チェーン2』と決めておき、
『チェーン2』の効果から処理する。もし、この一連の処理の途中で他に効果が発動出来
るカードが出た場合、そのカードは順番待ちとなり『チェーン1』まで解決した後、別
の『チェーン』を組んで処理していくんだ。……たまに例外はあるけどね。それと、と
ても重要な事になるけど『チェーン』が発生した時は必ず順番を宣言して処理するん
だよ。ここまでで何か質問はあるかな？」

「いえ、特に無いです」

「ならば、よし。さあ、処理を続けて」

『チェーン1』〈ライトロード・サモナー ルミナス〉、『チェーン2』〈ライトロード・ア
サシン ライデン〉。ライデンの効果でデッキの上から2枚墓地へ送り、ルミナスの効
果で上から3枚墓地へ送ります。これでターンを終了します」

「ボクのターン、ドロロー。魔法カード〈増援〉を発動、デッキからレベル4以下の戦士族
モンスターを1枚手札に加える。ボクが加えるのは〈幻影騎士団ダスティローブ〉、そし

てそのまま通常召喚」

ボロボロのローブを纏った幽霊のようなモンスターがカミュの足元から出てくる。

〈幻影騎士団ダステイローブ〉 攻撃表示

星3／闇属性／戦士族／効果モンスター

ATK／800 DEF／1000

「リバーズカードオープン、罨カード〈幻影騎士団シールド・ブリガンダイン〉を発動。このカードは発動後、通常モンスターとなりモンスターゾーンに守備表示で特殊召喚される」

青白い焰を吹き出しながら鎧の一部のような姿のモンスターが呼び出される。

〈幻影騎士団シールド・ブリガンダイン〉 守備表示

星4／闇属性／戦士族／通常モンスター

ATK／0 DEF／300

「ボクは〈幻影騎士団ウロング・マグネリング〉のモンスター効果をマグネリング自身と

ブリガンダインの2枚を墓地へ送り発動する。デッキから2枚ドロ。」

カミュのフィールドから2体のモンスターが虚空に消え、その代わりカードが2枚カミュの手札に加わった。

「いいカードが引けたよ、ボクは〈幻影騎士団サイレントブーツ〉(2枚目)の効果により、自分フィールドに他の幻影騎士団が存在しているのでこのカードを特殊召喚する。」
茶色くボロボロな衣装のモンスターがふわふわと降り立つ。見ようによつては案山子にも見えなくもないと思つた。

「君は初心者だつたね、ならこの召喚方法はよく覚えおくといい。ボクは〈幻影騎士団ダスティローブ〉と〈幻影騎士団サイレントブーツ〉でオーバーレイネットワークを構築、エクシーズ召喚！現れる！ランク3、〈幻影騎士団ブレイクソード〉」

ダスティローブとサイレントブーツが床に出現した暗い穴の中に吸い込まれ、代わりに黒い馬に乗った首のない騎士が飛び出してきた。

〈幻影騎士団ブレイクソード〉 攻撃表示

ランク3 / 闇属性 / 戦士族 / エクシーズ / 効果モンスター

ATK / 2000 DEF / 1000

「エクシーズ召喚……?」

「そうさ、この召喚方法は基本的に同じレベルのモンスターを複数体素材として、そのモンスターの上に重ねるようにして召喚するんだ。そして、レベルの代わりにランクと言うものをもつ。モンスター効果は基本、召喚素材としたモンスターを取り除いて発動するから使用回数に制限がある。もちろん、素材を必要としない効果をもつカードもある。この召喚方法はエクストラデッキを使うから、試合前に組み込むのを忘れなければ大丈夫さ」

「なるほど、よくわかりました」

「さて、簡単な説明もしたし試合を再開しようか。〈幻影騎士団ブレイクソード〉のオーバレイユニット（以下、ORU）を1つ取り除き、〈幻影騎士団ブレイクソード〉と君の〈ライトロード・アサシン ライデン〉を対象に効果発動。そのカードを破壊する」
ブレイクソードがライデンに向かって駆けて行き、先の砕けた大剣をおもいつき振り下ろしライデンを破壊する。その後、対象を破壊したブレイクソードは自身の大剣で胸を貫くと爆散した。

「え、せっかく出したモンスターを破壊した?」

「〈幻影騎士団ブレイクソード〉のもう一つの効果発動。エクシーズ召喚したこのカードが破壊された場合、自分の墓地の同じレベルの『幻影騎士団』モンスター2体、ボクは

ダステイローブとサイレントブーツの2体を対象にして発動。そのモンスターを特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはレベルが1つ上がる。この効果の発動後、ターン終了時までボクは闇属性モンスターしか特殊召喚できない。」

床に穴が空くと、そこからダステイローブとサイレントブーツの2体が登場する。レベルが1つ上がったためか、どこか誇らしげにも見える。

「また、同じレベルのモンスターが揃った……！」

「さあ、呼び出すとしよう！ レベル4となった〈幻影騎士団ダステイローブ〉と〈幻影騎士団サイレントブーツ〉でオーバーレイネットワークを構築、エクシーズ召喚！ 現れる！ ランク4 〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉」

再び床に暗い穴が出現し、ダステイローブとサイレントブーツが吸い込まれる。その中から〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉が翼を広げ飛翔する。

〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉 攻撃表示

ランク4／闇属性／ドラゴン族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2500 DEF／2000

「バトルフェイズに入る、〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉で〈ライトロー

ド・サモナー ルミナスを攻撃。」

ダーク・リベリオンが電気を纏い下顎を槍のようにルミナスへ向けて突撃する。貫かれてなるものかとルミナスはバリアを張るが、易々と貫かれ爆散した。

白石 LP 8000↓6500

「ボクはこれでターンエンド」

「僕のターン、ドロー。ヘライトロード・ウォリアー ガロス」をリリースしてヘライトロード・ドラゴン グラゴニス」をアドバンス召喚。」

ガロスが光の粒子となって消え、白く大きな体に金色の体毛が特徴的なドラゴンが代わりに舞い降りた。

ヘライトロード・ドラゴン グラゴニス」 攻撃表示

星6／光属性／ドラゴン族／効果モンスター

ATK／2000 DEF／1600

「ヘライトロード・ドラゴン グラゴニス」は自身の効果で攻撃力・守備力が墓地の『ラ

イトロード』モンスターの種類×300ポイントアップします。墓地には〈ライトロード・ウオリアー ガロス〉、〈ライトロード・サモナー ルミナス〉、〈ライトロード・アサシン ライデン〉、〈ライトロード・エンジェル ケルビム〉、〈ライトロード・マジシャン ライラ〉の5種類が居るので攻撃力・守備力はそれぞれ1500ポイントアップします。」

〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉 ATK/2000 ↓ 3500 DEF/1600 ↓ 3100

「バトルフェイズに入ります！ 〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉で〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉へ攻撃」

グラゴニスが羽ばたき、ダーク・リベリオンへ狙いを定めると口から光線を吐き出した。

「その攻撃宣言時に、リバースカードオープン。罠カード〈幻影翼〉、〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉を対象に発動。そのモンスターの攻撃力は500ポイントアップし、このターンに1度だけ戦闘・効果では破壊されない。……ダメージは受けられない」

〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉 ATK/2500 ↓ 3000

青白い焔の翼がダーク・リベリオンを包み込み光線から身を守った。

カミュ LP 53000↓4800

「バトルフェイズを終了して、エンドフェイズにヘライトロード・ドラゴン グラゴニス」の効果でデッキを上から3枚墓地へ送ります。墓地へ送られた中にヘライトロード・モnk エイリン」が居たのでさらに攻撃力・守備力が300ポイントアップ。これでターン終了です」

ヘライトロード・ドラゴン グラゴニス ATK/3500↓3800 DEF/3100↓3400

「ボクのターン、ドロロー。まずはヘダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴンの効果をおおう。ORUを2つ取り除き、ヘライトロード・ドラゴン グラゴニスを対象に発動。そのモンスターの攻撃力を半分にし、その数値1900ポイントをヘダーク・リベリオンエクシーズ・ドラゴン」に加える」

ヘライトロード・ドラゴン グラゴニス ATK/3800↓1900

ヘダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン ATK/3000↓4900

ダーク・リベリオンが翼を展開し、電気を撒き散らしながら周囲からエネルギーを集める。力を吸われたかのごとくグラゴニスは元気を失いぐったりとしている。

「バトルフェイズに入る、〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉で〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉を攻撃」

再び、突き出した下顎を武器にダーク・リベリオンが突撃してくる。グラゴニスは迎撃しようと体勢を立て直す、ダーク・リベリオンの攻撃の方が早く、胴体を貫かれて爆散した。

白石 LP 6500↓3500

「ボクはバトルフェイズを終了して、ターンエンド」

「僕のターン、ドロ。墓地に4種類以上『ライトロード』モンスターが居るので〈裁きの龍〉を攻撃表示で特殊召喚します。さらに、ライフを1000ポイント支払い効果発動。このカード以外の全てのカードを破壊します。」

裁きの龍がフィールドに降り立ち、翼を広げ力を解放せんとする。

白石 LP 3500↓2500

「ボクはその効果にチェーンしてリバースカードオープン、罨カード〈幻影霧剣〉(2枚

目)を〈裁きの龍〉を対象に発動。これでその効果を無効にさせてもらうよ、他に発動するカードはないかな?」

「ありません」

「ならば、『チェーン2』の〈幻影霧剣〉の効果で〈裁きの龍〉の効果を無効にして、『チェーン1』の〈裁きの龍〉の効果は不発に終わる」

だがしかし、力を解放する直前に青白い霧に体を拘束され未遂に終わった。

「ターンを終了します」

「ボクのターン、ドロロー。初心者にしては、よく頑張ったね。このターンで決着を着けようじゃないか。手札から魔法カード〈非常食〉を発動中の〈幻影霧剣〉を墓地へ送り発動。ボクは1000ポイントのライフを回復する。」

カミュ LP 4800↓5800

「バトルフェイズ、〈ダーク・リベリオン・エクシーズ・ドラゴン〉で〈裁きの龍〉を攻撃」

拘束の解けた裁きの龍に向けて、ダーク・リベリオンが突撃する。裁きの龍は口から炎を吐き出し応戦するもダーク・リベリオンはそれをかわし胴体を突き抜ける。裁きの

龍は墜落すると共に爆散した。

白石 LP 2500↓600

「ここで墓地の〈幻影霧剣〉を除外し、自分の墓地の〈幻影騎士団ブレイクソード〉を対象に効果発動。そのモンスターを特殊召喚する。」

カミュの後ろの空間に穴が出現しブレイクソードがそこから駆け抜けてくる。

「バトルフェイズ中に特殊召喚されたモンスターは攻撃する権利を持っている、〈幻影騎士団ブレイクソード〉でダイレクトアタック！」

白石 LP 600↓0



「白石君、対戦ありがとうございました」

「こちらこそ、負けたけど色々勉強になりました。ありがとうございます」

2人は対戦の後、デュエルディスクを店員さんに返却した。

「そう言えば、対戦中にエクストラデッキを使わなかったけど何かあるのかい？」

「……それが、1枚もないんです。エクストラデッキの存在も今日初めて知りました」

「本当かい？ それなら、ボクが幾つか相性の良いカードを選ぼうじゃないか、予算はどれぐらいにする？」

「できれば安くお願いします」

「わかった、ついでにカードを選びながら他の召喚方法も教えようじゃないか」

「ありがとうございます！」

こうして2人は日が暮れるまで、デッキの改良やカードの選び方など様々な話を話し合った。彼らの間に友情が芽生えたのはいままでもない。

第3話 弟子襲来

ひよこのカードショップに行つた日から3日が経ち、家に自分用のデュエルディスクが届いた。

これでいつデュエルの誘いがきても大丈夫だ。デツキも改良用のカードを買い集め、エクストラデツキもちゃんと組み込んでいる。だがしかし、現実は無慈悲だ。

彼は昨日まで忘れていた事を思い出した。

「今日も就活行かなきゃな」

就職活動、学校を卒業して自由な時間ができたからこそ見なければならぬ現実もあるのだ。新米デュエリストになった今で言える事だが、デュエリストとして稼ぐにはプロとしてどこかの企業と契約を交わし勝ち続けるか、アマチュアでも優勝賞金のかつた大会に参加して、並みいる猛者達を倒しその中で賞金を手にしなくてはならない。正直、新米になって3日のひよっこには何から何まで足りないのだ。身支度を済ませ朝食を摂ると、白石は職業安定所へ向かつた。



白石が職業安定所に着いて仕事を検索し始めた頃、カミュは自室でデッキの調整をしていた。3つあるデッキの内1つが納得のいく改良が出来ていない状態なのだ。

彼はこれでも賞金のかかった大会に参加するタイプのアマチュアデュエリストだったりする。

「あと1枚が決まらないな……、これを入れると妨害にはなるけど突破力が足りなく感じる。……ふう、少し休憩しよう」

煮詰まった時は切り替えが大切である、昔の著名人が言っていた気がするが今のカミュには重要だったりする。冷蔵庫から瓶入りの牛乳を取り出すと一煽りする。

冷たい牛乳が喉を降りていく感覚で彼はクールダウンをする。冷たい飲み物ならだいたいはOKなのだ。因みに、彼は未成年なのでまだ酒は飲めない。

「……気分転換に外に出よう、何かヒントが見つかるかも知れない」
カミュは緑色の上着を着ると外へと出かけた。



入ってから2時間ほど経って白石が微妙な顔をして職業安定所から出てくる。成果はよくなかったらしい。

「コンビニやスーパーで働くのも悪くなさそうだけど、資格とかあまり持ってないからそっち系は全然ダメだったし、かと言って内職は裁縫ばかりで出来そうなの無かったしな……」

そんなことをブツブツ言いながら家路についた。彼は裁縫がとても苦手である。

マンションまでたどり着くと、2人の子供がデュエルしようとしていた。皆デュエルディスクを付けている辺り、このマンションの住人なのかもしれない。白石は今後の参考のために観戦する事にした。

「みんな、やっつけてやる!」

「やれるものならやってみな!」

「デュエル!」

女の子 LP 8000

男の子 LP 8000

背の低い女の子とやや太り気味な男の子のデュエルが始まった。デュエルディスクのランプが点灯したのは男の子の方だ。

「おれさまは先行をもらうぜい、手札から〈先史遺産トウспа・ロケット〉を通常召喚」
空からロケットとおぼしきモンスターが呼び出される。コクピットには乗組員のよ
うなものも乗っている。

〈先史遺産（オーパーツ）トウспа・ロケット〉 攻撃表示

星4 / 地属性 / 岩石族 / 効果モンスター

ATK / 1000 DEF / 1000

「召喚に成功したので、デッキまたはエクストラデッキ（以下、EXデッキ）から『先史遺産』モンスター1体を墓地へ送り、フィールドのモンスターを対象として発動する。

この効果でデッキから〈先史遺産ネブラ・ディスク〉を墓地へ送り、自身を対象にし
て〈先史遺産トウспа・ロケット〉のモンスター効果発動。そのモンスターの攻撃力

はターン終了時まで墓地へ送ったモンスターのレベルまたはランク×200ダウンする」

「自分のモンスターを弱くしてどうするんだ？」

「おれさまのターンだから別にいいだろ。続けて、墓地へ送った〈先史遺産ネブラ・ディスク〉の効果発動。おれさまのフィールドのモンスターが『先史遺産』モンスターのみならず墓地からこのカード表側守備表示で特殊召喚できる。この効果を発動するターン、おれさまは『オーパーツ』カードの効果しか発動出来ない」

緑色の円盤型のモンスターが転がりながらやってきた。見ようによつてはマンホールの蓋にも見えなく無い気がする。

〈先史遺産ネブラ・ディスク〉 守備表示

星4 / 光属性 / 機械族 / 効果モンスター

ATK / 1800 DEF / 1500

「これでレベル4のモンスターが2体だぜい。さらに、おれさまはレベル4の〈先史遺産トウスパ・ロケット〉と〈先史遺産ネブラ・ディスク〉でオーバレイネットワークを構築、エクシーズ召喚！ランク4、〈No. 36 先史遺産―超機関フォーク||ヒュー

ク〉を準備表示で特殊召喚するぜい」

2体のモンスターが空にいた暗い穴に吸い込まれ爆発したかと思うと、丸いバリアによって守られた都市遺跡のようなモンスターが空から現れた。バリアには『36』という数字が映っている。

〈No. 36 先史遺産―超機関フォークⅡヒューク〉 準備表示

ランク4／光属性／機械族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2000 DEF／2500

「おれさまはこれでターンエンドするぜい」

「あたしのターン、ドロー。まずは〈月光黒羊〉を手札から捨ててデッキから〈融合〉を持ってくる効果を発動。」

「チエーンはある?」

「いや、ないぜい。止める時は『待った』かけるから、そのまま回すといいぜい」

「そう、それなら〈融合〉を手札に加えてから、〈月光彩雛〉を通常召喚」

黄色いひよこの帽子をかぶった女の子がフィールドに現れる。

〈月光彩雛（ムーンライト・カレイド・チック）〉 攻撃表示

星4／闇属性／獣戦士族／効果モンスター

ATK／1400 DEF／800

「1ターンに1度、デッキまたはEXデッキから『ムーンライト』モンスター1体、またはデッキの〈月光黄鼬〉を墓地へ送って〈月光彩雛〉のモンスター効果発動。このターン、このカードを融合素材とする場合、墓地へ送ったモンスターと同じ名前のモンスターとして融合素材に出来る。さらに、〈月光彩雛〉の効果で墓地へ送られた〈月光黄鼬〉の効果発動。デッキから『ムーンライト』魔法・罨カードを1枚手札に加える。

この効果でデッキから〈月光融合〉を手札に加える」

「相変わらずよく回るデッキだけい」

「手札から〈融合〉発動。自分の手札・フィールドから融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体を融合召喚する。手札の〈月光蒼猫〉とフィールドの〈月光彩雛〉を墓地へ送り、EXデッキから〈月光舞猫姫〉を融合召喚」

両手にナイフを持った赤い髪の女性がリズムカルにフィールドへ踊り出る。

〈月光舞猫姫（ムーンライト・キャット・ダンサー）〉 攻撃表示

星7／闇属性／獣戦士族／融合／効果モンスター

ATK／2400 DEF／2000

融合召喚、手札・フィールド・墓地といった場所のモンスターまたはゲームから除外されているモンスターを『融合』や『フュージョン』と名の付く魔法・罫カードや一部のモンスター効果をj使用して、融合モンスターに記されたモンスターを素材に強力なモンスターを呼び出す召喚方法でカードは紫色だとカミュが言っていたのを思い出した。

「融合素材となり墓地へ送られた〈月光彩雛〉の効果、今使った墓地の〈融合〉を対象に発動。手札に加える。続けて魔法カード〈月光香〉を墓地の〈月光黒羊〉を対象に発動。そのモンスターを特殊召喚する」

肩から角の生えた黒い服を着たモンスターが墓地からフィールドへ呼び戻される。

〈月光黒羊（ムーンライト・ブラック・シープ）〉 攻撃表示

星2／闇属性／獣戦士族／効果モンスター

ATK／100 DEF／600

「再び〈融合〉を発動。 フィールドの〈月光黒羊〉と〈月光舞猫姫〉を素材に〈月光舞豹姫〉を融合召喚」

フィールドにいた2体のモンスターが光に飲まれ、混ざり合い、そこから出てきたのは腕に刃物を付けた褐色の女性だった。

〈月光舞豹姫〉(ムーンライト・パンサー・ダンサー)〈 攻撃表示

星8 / 闇属性 / 獣戦士族 / 融合 / 効果モンスター

ATK / 2800 DEF / 2500

「〈月光黒羊〉の2つ目の効果発動。 融合素材となり墓地へ送られた場合に、〈月光黒羊〉以外の自分のEXデッキの表側表示の『ムーンライト』ペンデュラムモンスターまたは墓地の『ムーンライト』モンスター1体を選んで手札に加える。 あたしはこの効果で墓地の〈月光彩雛〉を手札に加える。 さらに、魔法カード〈融合回収〉を発動。 自分の墓地から〈融合〉1枚と融合に使用した融合素材モンスター1体を手札に加える。 〈融合〉と〈月光黒羊〉を手札に戻す」

この時点で女の子の手札があまり減っていない事に白石は気が付いた。「遊戯王」と言うカードゲームにおいて一部の例外はあるが、基本的に手札は重要なものであり上

手く管理する事もそのプレイヤーの強さを表す。つまり、あの女の子は強いのではないか？と白石は感じるのであった。

「これで準備は整ったぞ。あたしは〈融合〉を発動。手札の〈月光黒羊〉と〈月光彩雛〉、フィールドの〈月光舞豹姫〉を素材に〈月光舞獅子姫〉を融合召喚！」

3体のモンスターが光の中で混ざり合い、光が消えると一本の剣を持った女性が立っていた。

〈月光舞獅子姫（ムーンライト・ライオ・ダンサー）〉 攻撃表示

星10／闇属性／獣戦士族／融合／効果モンスター

ATK／3500 DEF／3000

「再び融合素材となり墓地へ送られた〈月光黒羊〉の効果発動。墓地の〈月光蒼猫〉を手札に戻す。手札のスケールの〈月光狼〉を左のペンデュラムゾーンにセットイング！」

カードの中には、ペンデュラムカードと呼ばれる一部のモンスターが存在する。

カードの上下で色が違い、モンスターでもあるが魔法・罫カードのように魔法・罫カードゾーンの両端にある場所を『ペンデュラムゾーン』として表側表示で置く事が出来る。

だが、置けるだけではないペンデュラムゾーンにある時に発動出来る強力な効果を基本的に持っている。

「へ月光狼」のペンデュラム効果発動。1ターンに1度、自分メインフェイズに発動出来る。自分フィールド、墓地から『ムーンライト』融合モンスターによって決められた融合素材モンスターを除外し、その融合モンスターをEXデッキから融合召喚する。墓地からへ月光彩雛、へ月光黒羊、へ月光舞猫姫の3体を除外しへ月光舞劍虎姫を融合召喚！」

両手に剣を持った女性が光の中から獅子姫のとなりに降り立つ。

へ月光舞劍虎姫（ムーンライト・サーベル・ダンサー） 攻撃表示

星9／闇属性／獣戦士族／融合／効果モンスター

ATK／3000 DEF／2600

「バトルフェイズに移行！」

「待った！ おれさまはメインフェイズ終了時に手札のモンスター効果、相手が5体以上のモンスターを召喚・特殊召喚したメインフェイズに発動出来る。お前はこのターン合計で6回召喚・特殊召喚しているぜい！ 自分・相手フィールドの表側表示で存在

する全てのモンスターをリリースし、〈原始生命態ニビル〉を特殊召喚するぜい！」

巨大な隕石のようなモンスターがフィールドに存在していた全てのモンスターを蒸発させながら墜ちてきた。

〈原始生命態（げんしせいめいたい）ニビル〉 攻撃表示

星11／光属性／岩石族／効果モンスター

ATK／3000 DEF／600

「うそでしょ……、〈原始生命態ニビル〉を持つているなんて全然聞いてないんだから！」
「カードパックを開けたら出てきたんだぜい！ その後、相手フィールドに『原始生命態トークン』を特殊召喚する。 このトークンの攻撃力・守備力はこの効果でリリースした元々の攻撃力・守備力をそれぞれ合計した数値になる。 トークンは守備表示で出しておくんだぜい」

もうもうと煙の上がるフィールドの中に蠢く何かがいる。

〈原始生命態トークン〉 守備表示

星11／光属性／岩石族／トークン／通常モンスター

ATK/? DEF/?

〈原始生命態トークン〉 ATK/? ↓8500 DEF/? ↓8100

「……くつ、一掃されたけどまだやれる。メインフェイズに墓地の〈月光香〉を除外し、

〈月光蒼猫〉を手札から捨てて効果発動。 デッキから『ムーンライト』モンスターを1

体手札に加える。 この効果でデッキから〈月光虎〉を手札に加える。 右のペンデュ

ラムゾーンにスケール5の〈月光虎〉をセッティングして、そのままペンデュラム効果を

を墓地の〈月光蒼猫〉を対象に発動、そのモンスターを特殊召喚する。 この効果で特

殊召喚したモンスターは攻撃できず、効果は無効化され、エンドフェイズに破壊される。

守備表示で特殊召喚する」

蒼白色く猫っぽい女性がフィールドに現れる。

〈月光蒼猫 (ムーンライト・ブルー・キャット)〉 守備表示

星4 / 闇属性 / 獣戦士族 / 効果モンスター

ATK / 1600 DEF / 1200

「エンドフェイズ、フィールドに特殊召喚した〈月光蒼猫〉が破壊され効果発動。 デッ

キから『ムーンライト』モンスターを1体特殊召喚する。あたしは〈月光蒼猫〉(2体目)を守備表示で特殊召喚してターンエンド」

フィールドに居た蒼猫が手を振りながら『ポンッ』と音を立てて爆発すると、2体目の蒼猫が空から落ちてきて着地する。マジックと言えば通じそうな登場だった。

「おれさまのターン、ドロロー。手札から〈先史遺産ゴールデン・シャトル〉を通常召喚」
金色の飛行機型のモンスターが空から飛来する。

〈先史遺産ゴールデン・シャトル〉 攻撃表示

星4 / 光属性 / 機械族 / 効果モンスター

ATK / 1300 DEF / 1400

「〈先史遺産ゴールデン・シャトル〉の効果発動だけい、自分フィールド上全ての『先史遺産』モンスターのレベルを1つ上げる」

〈先史遺産ゴールデン・シャトル〉 星4 ↓ 5

「続けて、〈先史遺産モアイ〉を特殊召喚。このモンスターは自分フィールドに『先史遺産』モンスターが存在する場合、手札から守備表示で特殊召喚出来るんだぜい」

地面を突き破り、モアイ像が生えてくる。

〈先史遺産モアイ〉 守備表示

星5／地属性／岩石族／効果モンスター

ATK／1800 DEF／1600

「おれさまはレベル5になった〈先史遺産ゴールデン・シャトル〉とレベル5の〈先史遺産モアイ〉でオーバーレイネットワークを構築、エクシーズ召喚！ ランク5、〈No.33 先史遺産―超兵器マッシュマック〉を攻撃表示で特殊召喚するぜい！」

再び空にあいた暗い穴に2体のモンスターが吸い込まれ爆発する。中央に水色の光を蓄えた都市遺跡が空中に浮かんでいる。

〈先史遺産―超兵器マッシュマック〉 攻撃表示

ランク5／光属性／機械族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2400 DEF／1500

「これで終わりだぜい！ 〈No.33 先史遺産―超兵器マッシュマック〉の効果、ORUを1つ取り除き、相手フィールドに表側表示で存在する〈原始生命態トークン〉を

対象に発動。 選択したモンスターとの攻撃力と、その元々の攻撃力の差分のダメージを相手に与え、与えたダメージの数値分だけこのカードの攻撃力をアップする！ 〈原始生命態トークン〉の元々の攻撃力は『?』だけい、だが攻撃力『?』は『0』の扱いを受ける。 よって、トークンの攻撃力分のダメージ、8500ポイントを受けてもらうぜい！」

水色の光が輝き、壁面から無数の大砲が出てくる。 大砲がトークンに狙いを定めると一斉に砲撃を開始する。 着弾する瞬間に煙が晴れ、そこにいた異形のクリーチャーに命中する。

女の子 LP 8000↓0

「……くっ、負けた。 さあ、煮るなり焼くなり好きにすればいい！ だが、あたしの心までもものに出来ると思うな！」

「いや、確かに勝ったがお前を好きにする気は無いぜい ……と言うか、お前はそれを言いたいだけじゃないのか？」

2人の試合も終わったようなので、そのまま部屋に戻ろうとする白石を男の子が呼び止めた。

「ちよつとすみません、あなたもこの『デュエリスト・マンション』に住んでる方ですか？」

「ああ、一応そうだけど。……ところで『デュエリスト・マンション』って何？」

「え？」

2人が揃って変な声を上げ、こそこそと何かを話し始めた。話し合いはすぐに終わった、どうやら何かまとまったようだ。

「あー、おれさ……ぼくは、岡山 大地（おかやま だいち）です。このマンションに住んでるカミュさんに用事があつて来ました。ですが、誰も出てこないのどこへ出かけたのかご存知ないでしょうか？」

「さっきの試合見てたから、おれさまのままでもいいよ。堅苦しいのもなしでいいから。カミュがどこへ行ったかはちよつとわからないな……、隣の部屋だから伝言あるなら伝えておくけど？」

「……今、隣の部屋って言いましたよね。あたしは東北 明里（とうほく あかり）っていいです。カミュ師匠の一番弟子です」

「え？ 一番弟子……？ カミュに弟子居たんだな、それで用事って何？」

「あたしはカミュ師匠に稽古を付けてもらうためです！」

「おれさまはカミュさんを倒すためにここに来たんだぜい！」

話しを聞きまとめると、だいたいこうなる。

2人は別々の目的でこのマンションに来たが、目的の人物は外出していて会えなかった。そこで、とりあえず戻ってくるまで待つことにしたが、なかなか戻って来ないので2人はどちらが先に目的を果たすかを賭けてデュエルで決めようとしたところに、丁度白石が戻って来て試合観戦をし始めたと言う事らしい。

「なるほどね、事情はわかったよ。僕で良ければカミュが戻ってくるまでの間、相手になるよ」

「やったぜい！ 遂に他の『デュエリスト・マンション』の住人と戦える日が来るなんて！ 全力で行かせてもらうぜい！」

「こいつの後は、あたしもお願いします！」

その後、カミュが戻ってくるまでの間、2人を交互に相手取りむちやくちやデュエルする白石であった。



時間は少し巻き戻り、白石が観戦を終えた頃のカミュは商店街で福引きを回していた。ゴロゴロと福引き機を回しつつ、改良中のデツキの事を考えていた。

「お、また白だね。はい、残念賞のポケットティッシュ1つ。さあ、次が最後だよ」

(……あと少し、あとちよつとだけが足りない。それさえ揃えば全てがまとまる!)

「お、お客さん! 回しすぎは勘弁してください!」

「あ、すみません…… 考え事をしていましたもので」

(いけない、今は目の前の事に集中しなくては……)

改めて、ゆっくりと福引き機を回し始めたカミュの頭の中に突如、電光が走る。

その電光は幾何学的な起動を描きながら、複数枚のカードを貫いて行き一つの大きな円を形作る。この瞬間、出かける前に感じていた迷いや悩みが消し飛び、ここに1つのデツキが完成したのである。

「これだ!!」

「お、大当たり! お客さん、良かったね大当たりだよ! はい、特賞の商品券5万円分

だよ!」

カミュは福引き機から出た玉が虹色に輝いているのを見た。今日はツイている、良

い日になりそうだ。

「ありがとうございます!」

受け取った商品券を上着の中に仕舞うと、荷物を持って足早に家路に就いた。



カミュが荷物を持ってマンションに戻ると、白石達がベンチに座りなにやら楽しそうに話していた。

「やあ、白石君。ただいま、なにやら楽しそうな話しをしているね。ボクも混ぜてくれないか?」

「おかえり、やっと帰ってきたね。今、カードの話しをしていたんだ。手札誘発カードって凄く出にくい上に、高額カードだったとは知らなかったよ」

「あれさえ無ければ勝てたのに……、悔しいな」

「今日のところは、おれさまが勝てただけだぜい。次はどうなるかわからないぜい」

「ここで話しをするのも何だし、良かったらウチに上がってかないかい?」

「「お邪魔します」」

こうして4人は日が暮れるまでカミュの部屋でデュエルするのであった。

第4話 白石 蒼の長い1日 (前編)

デュエリスト・マンシヨン、デュエリストが集まり住む事で知られるとあるマンシヨンの俗称。いつからそう呼ばれるようになったかは定かではないが、皆腕に覚えのあるデュエリストであると、まことしやかに囁かれていると、白石がカミュに聞いたならその答えが返ってきた。

「白石君、一体どうしたんだい？ 今日が変わった質問をするじゃないか」

「いや、この前来たあの2人が言ってたから気になってね」

「なんだ、そんなことか。君も今やここの住人、徐々に慣れていけばいいさ」

腕時計がピピピツと鳴る。

「もうこんな時間か。カミュ、仕事行ってくるよ」

「そうか、いつてらっしゃい。頑張っておいでよ」

「ありがとう、行ってきます」

白石は就活の末、近くのコンビニで朝から昼まで働く事になった。賃金は安かったが、デュエリスト・マンシヨンの住人だと判ると日曜日は必ず休みが貰えるようになった。日曜日には公式大会がひよこのカードショップで開かれるらしく、マンシヨンの

ルールに可能であれば仕事や予定の無い日曜日に公式大会に参加する事とあり、とても都合が良かった。



仕事から帰って来ると白石は着替えを手早く済ませて、デッキの調整をし始めた。

明日は日曜日、初めて参加する公式大会なのだ。まだ初めてから日の浅さはあるが気合いは十分である。

「……このカードはまだ使いこなせないから、しばらくはこっちに入れておこう」

数枚のカードを入れ替え用のカードをなおしている箱に入れる。デッキに入れれば確実に強くなるカードだが、いかんせん白石自身が使いこなせずにいる。今はまだ使う時では無いのだろうと思った。

「二応、出来たな。明日は大会だし、カミュに調整相手を頼むのもなんか悪い気がするから1人で回しておくか……」

ピンポーン

「誰だろう？ カミュかな？」

玄関に行きドアを開けると、3人の小さな子供達がいた。白石は瞬時に記憶を辿る。少なくとも、小学生くらいの子供に知り合いはいない。しかも、3人とも金髪碧眼なのである、余計に記憶に無かった。事案は緊急回避するに限る！

「こんにちは！」

3人が揃って挨拶する。

「はい、こんにちは。お嬢ちゃん達、どこかの部屋と間違えたりしてないかな？」

「ここであつてるよね？」

「あつてるよねー」

「あなたが、白石 蒼お兄さんだよね？」

「あ、ああ。そうだけど、何かご用かな？」

3人の子供達が揃って後ろからデュエルディスクを取り出し、装着する。

「わたし達、あなたとデュエルしに来ました！」

へビ柄のポーチを付けた子供が言う。

「この前、このマンシヨンの前でたくさんデュエルしてたよね？ アリス達みてたの」

片目が髪に隠れた子供が言う。

「それでねー、お兄ちゃんとデュエルしたくて仕方なくなっちゃったのー」

片手にぬいぐるみを抱いた子供が言う。

「ダメかな？」

3人が上目遣いで聞いてくる。あ、駄目だ。これは逃げられないやつだ。

「……仕方ないな、でもデュエルは外でやろうか」

白石は何かに負けた。回避手段はあったかも知れないが、回避出来なかった。だが、最後の抵抗はなんとかなっただけマシだと思う。こんな時にカミュが居てくれたら何か知恵を貸してくれそうな気がした。



マンションの前まで来た4人はとりあえず、じゃんけんをする事になった。白石と同じのを出した子が最初にデュエルでき、その後残った2人がじゃんけんで2番目と3番目を決めると言う変わったルールだった。

「じゃーんけーん、ぼんー！」

じゃんけんの結果、白石と最初に試合するのがヘビ柄のポーチの子、2番目が片目の

隠れた子、そして最後がぬいぐるみを抱いた子と言う順番となった。順番待ちの子はすでにベンチに座って観戦モードである。

「あ、自己紹介がまだでしたね。わたしの名前はナージャです。それで、あっちの片目が隠れてるのがアリスで、ぬいぐるみを抱いてるのがフィーネです」

「僕は白石 蒼、よろしくね」

2人は距離を十分に離すと、デュエルディスクを構えた。

「デュエル！」

白石 LP 8000

ナージャ LP 8000

デュエルディスクにランプが灯ったのはナージャの方だった。

「わたしが選べるのね、それなら先行をやります」

「どうぞで」

「まずはモンスターを伏せて、これでターンエンドです」

カードが1枚伏せられた状態でフィールドに出てきた。

「僕のターン、ドロ。魔法カード〈増援〉を発動。デッキからレベル4以下の戦士族モンスターを手札に加える。デッキからヘライトロード・アサシン ライデンを
加え、そのまま通常召喚」

浅黒い肌の男がフィールドに現れる。

「ヘライトロード・アサシン ライデン」の効果発動。デッキを上から2枚墓地へ送る。

バトルフェイズに入り、伏せてあるモンスターを攻撃！」

ライデンが双剣でカードを切り裂く。だが、切り裂く瞬間カードの下から何かが飛び出てライデンに噛みついた。

「伏せてあったモンスターはヘレプティレス・ナージャ」でした。このカードは戦闘では破壊されません」

蛇が頭から生えてる女の子はライデンから離れるとクスクスと笑っている。

ヘレプティレス・ナージャ 守備表示

星1 / 闇属性 / 爬虫類族 / 効果モンスター

ATK / 0 DEF / 0

「バトルフェイズを終了して……」

「まって、バトルフェイズ終了時にヘレプティレス・ナー ज्याのモンスター効果発動。

このカードと戦闘を行った相手モンスターの攻撃力を『0』にします」

噛まれたところから毒が回ったのか、ライデンが膝を屈する。

「……くつ、バトルフェイズを終了してメインフェイズ2に移行。カードを2枚伏せ

て、エンドフェイズにヘライトロード・アサシン ライデンの効果がデッキを上から

2枚墓地へ送る。これでターンを終了」

デッキのカードが光り、墓地へ送られる。

「わたしのターン、ドロ。ヘレプティレス・スキュラを通常召喚」

下半身が沢山の口が付いた獣の姿の女性がフィールドに飛び込んで来た。

ヘレプティレス・スキュラ 攻撃表示

星4 / 闇属性 / 爬虫類族 / 効果モンスター

ATK / 1800 DEF / 1200

「バトルフェイズ、ヘレプティレス・スキュラでヘライトロード・アサシン ライデンを攻撃！」

スキュラが獲物であるライデンにトドメを刺さんと詰め寄る。
 「攻撃宣言時、墓地の〈ネクロ・ガードナー〉を除外し効果発動。その攻撃を無効にする」

鉤爪を振り下ろした瞬間、黒い影が割り込み攻撃をはじき飛ばした。黒い影は役目を果たすとどこかへと消え去った。

「それならメインフェイズ2に入って、フィールドの〈レプティレス・ナージャ〉とヘライトロード・アサシン ライデン〉の攻撃力『0』のモンスター2体をリリースして、手札から〈レプティレス・ヴァースキ〉を特殊召喚します」

フィールドから2体のモンスターが消え、手に蓮の花を持った下半身が蛇の女性が現れる。

〈レプティレス・ヴァースキ〉 攻撃表示

星8／闇属性／爬虫類族／効果モンスター

ATK／2600 DEF／0

「これでターンエンドです」

「僕のターン、ドロロー。〈ライトロード・サモナー ルミナス〉を通常召喚」

白い服の女性がフィールドに着地する。

「1ターンの1度、手札を1枚捨て、墓地のレベル4以下の『ライトロード』モンスター1体、〈ライトロード・アサシン ライデン〉を対象に〈ライトロード・サモナー ルミナス〉の効果発動。そのモンスターを特殊召喚する。攻撃表示で特殊召喚！」

ルミナスが両手を輝かせると、その隣にライデンが立っていた。

「続けて、〈ライトロード・アサシン ライデン〉の効果発動。デツキを上から2枚墓地へ。墓地へ送られた中に〈ライトロード・メイデン ミネルバ〉があつたので攻撃力を200アップ。さらに、デツキから墓地へ送られた〈ライトロード・メイデン ミネルバ〉の効果発動。デツキを上から1枚墓地へ送る」

片手に白いフクロウを止まらせた女の子がデツキの上からカードを預かるとどこかへと去っていった。

「これで準備は整った。レベル3の〈ライトロード・サモナー ルミナス〉にレベル4の〈ライトロード・アサシン ライデン〉をチューニング！ シンクロ召喚！ レベル7、〈ライトロード・アーク ミカエル〉を攻撃表示で特殊召喚！」

ライデンの体が透け4つの緑色の輪になると、その中をルミナスが通過する。金色の鎧を纏い、白い竜の上に立った大男が剣を輝かせながらフィールドに舞い降りる。

〈ライトロード・アーク ミカエル〉 攻撃表示

星7／光属性／ドラゴン族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2600 DEF／2000

シンクロ召喚、チューナーと書かれたモンスターとそれ以外のモンスターを使い、お互いのレベルを合計したモンスターを呼び出す召喚方法。 召喚条件には他に制限のあるものも存在するが、召喚さえ出来ればその強力な力を遺憾なく発揮する可能性は大いにある。 カードが白いのも特徴の1つだったりする。

〈ライトロード・アーク ミカエル〉の効果。 1ターンに1度、1000のライフポイントを支払い、フィールドのカードを1枚、〈レプティレス・ヴァースキ〉を対象にして発動。 そのカードをゲームから除外する。 」

白石 LP8000↓7000

ミカエルがヴァースキに向けて剣を振ると、光の刃が飛んでいく。 それに当たったヴァースキは次元の彼方へと消え去った。

「バトルフェイズに突入、〈ライトロード・アーク ミカエル〉で〈レプティレス・スキュ

ラ`に攻撃`

竜が口から光線を放ち、それに合わせるかのようにミカエルが再び光の刃を飛ばす。スキュラは光線と光の刃を浴びると爆散した。

ナー ज्या LP 8000↓7200

「バトルフェイズを終了してエンドフェイズ、`ライトロード・アーク ミカエル`の効果でデッキの上からカードを3枚墓地へ送り、ターンエンド`

「わたしのターン、ドロ`。墓地の`レプティレス・スキュラ`をゲームから除外して`レプティレス・スポーン`を発動します。わたしのフィールドに`レプティレストークン`を2体特殊召喚します。どちらも守備表示です`

角の生えたヤモリのようなトークンが2体フィールドに這い出てくる。

レプティレストークン` 守備表示

星1/地属性/爬虫類族/トークン/通常モンスター

ATK/0 DEF/0

「手札の〈ヘレプティレス・ヒュドラ〉の効果。このカードが手札に存在し、自分フィールドのモンスターが『爬虫類族』のみの場合、相手フィールドのモンスター、ヘライトロード・アーク ミカエルを対象に発動します。そのモンスターの攻撃力を0にし、このカードを特殊召喚します。その後、対象に取ったモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受けます。守備表示で特殊召喚します」

下半身が赤い鱗が特徴の蛇だったりする女の子がフィールドに登場する。その赤い瞳が妖しく輝き、ミカエルから急速に力を奪い取る。

〈ヘレプティレス・ヒュドラ〉 守備表示

星2／闇属性／爬虫類族／チューナー／効果モンスター

ATK／0 DEF／0

ナージャ LP 7200↓4600

「レベル1の〈ヘレプティレストークン〉2体に、レベル2の〈ヘレプティレス・ヒュドラ〉をチューニング！ シンクロ召喚！ レベル4、〈古神ハストール〉を攻撃表示で特殊召喚します！」

ヒュドラが2つの光の輪になり、その中をトークンが通過する。黄色衣を纏い、仮面で素顔を隠したモンスターがフィールドに呼び出される。

〈古神（こしん）ハストール〉 攻撃表示

星4／風属性／爬虫類族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2300 DEF／1000

「バトルフェイズ、〈古神ハストール〉で〈ライトロード・アーク ミカエル〉を攻撃します」

ハストールがミカエルに向けて手をかざすと、衝撃波が放たれる。

「墓地の〈ネクロ・ガードナー〉（2枚目）の効果発動。その攻撃を無効にする」

衝撃波が着弾する直前、黒い影が再び現れ攻撃の軌道を逸らすとどこかへと消え去る。

「バトルフェイズを終了してメインフェイズ2で、カードを1枚伏せてターンエンドです」

「待った！ エンドフェイズにリバースカードオープン！ 罠カード〈砂塵の大嵐〉、今伏せたそのカードを対象に発動。そのカードを破壊する」

「あなたは鬼なの……?」

「い、いやそんな事は無いかな」

「冗談です。 あなたのターンです」

「僕のターン、ドロロー。 〈ライトロード・ウオリアー ガロス〉を通常召喚」

白い鎧を纏った大男が登場し、武器を構える。

「〈ライトロード・アーク ミカエル〉の効果。1000のライフポイントを支払い 〈古神ハストール〉をゲームから除外する。 さらに、守備表示に変更」

白石 LP 7000↓6000

「バトルフェイズ、〈ライトロード・ウオリアー ガロス〉でダイレクトアタック！」

ガロスが接近し手にした武器を振り下ろす。

「その攻撃、ライフで受けます」

ナージャ LP 4600↓2750

「バトルフェイズを終了してエンドフェイズ、〈ライトロード・アーク ミカエル〉の効

果発動。デッキを上から3枚墓地へ。さらに、ヘライトロード・ウオリアー ガロスへの効果発動。自分フィールドに表側表示で存在するヘライトロード・ウオリアー ガロス以外の『ライトロード』モンスターの効果でデッキの上からカードが墓地へ送られる度に、デッキを上から2枚墓地へ送る。この効果で墓地へ送られた『ライトロード』モンスター1体につき1枚デッキからカードをドロウするけど、1体も送られなかったのでドロウは発生しない。これでターンを終了」

「わたしのターン、ドロウ。魔法カード〈サンダー・ボルト〉を発動します。この効果でああなたのフィールドのモンスターを全て破壊します」

空から無数の雷撃が降り注ぎ、白石のフィールドのモンスターを一掃する。

「続けて、魔法カード〈悪夢再び〉を発動します。墓地の守備力が『0』の閻属性モンスターを2体、ヘレプティレス・ヒュドラとヘレプティレス・ナー ज्याを対象に選択して手札に加えます。モンスターを伏せてターンエンドです」

「僕のターン、ドロウ。ヘライトロード・サモナー ルミナス(2枚目)を通常召喚し、手札を1枚捨てて墓地からヘライトロード・サモナー ルミナス(1枚目)を特殊召喚。今、特殊召喚した方のヘライトロード・サモナー ルミナスの効果も発動。最後に手札を捨てて墓地からヘライトロード・メイデン ミネルバを特殊召喚」

2体のルミナスの間に、先ほどカードをどこかへ持つて行った女の子が呼び出され

へライトロード・メイデン ミネルバへ 攻撃表示

星3／光属性／魔法使い族／チューナー／効果モンスター

ATK／800 DEF／200

「2体のレベル3のへライトロード・サモナー ルミナスへレベル3のへライトロード・メイデン ミネルバへをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル9、へ氷結界の龍トリシューラへを攻撃表示で特殊召喚」

ミネルバから光の輪が飛び出し、2体のルミナスを包み込む。氷河期を連想させそうな3首の龍が吹雪を纏ってフィールドに現れた。

「へ氷結界の龍トリシューラへがシンクロ召喚に成功した時に発動できる。相手の手札・フィールド・墓地のカードをそれぞれ1まで選んでゲームから除外する！ 僕は君の手札とフィールドに伏せられたモンスター、墓地からはへサンダー・ボルトへを選ん で除外する」

「わたしのカードが……！」

「バトルフェイズ、へ氷結界の龍トリシューラへでダイレクトアタック！」

ナー ज्या LP 2750↓50

「バトルフェイズを終了して、ターンエンド」

「わたしはライフがある限りあきらめない！ わたしのターン、ドロ。 モンスターを伏せてターンエンドです」

「僕のターン、ドロ。 バトルフェイズに入つて、へ氷結界の龍トリシューラでモンスターを攻撃」

「伏せていたのはヘレプティレス・ガードナー、破壊はされるけど効果発動。 このカードが破壊され墓地へ送られた時、デッキから『レプティレス』モンスターを1枚、ヘレプティレス・ナー ज्याを手札に加えます」

3首の龍が伏せてあるカードに襲いかかる。 カードの裏から巨大な亀が這い出て来たが龍はかまわず踏み潰す。 亀は自身の姿が消える前に1枚のカードをナー ज्याに投げつけ消滅する。

「僕はバトルフェイズを終了して、ターンエンド」

「わたしのターン、ドロ。 モンスターを伏せて、永続魔法カードへゼロゼロロックを発動してターンエンドです」

「僕のターン、ドロロー。そのモンスターはヘレプティレス・ナージャンだしようかな？ とりあえず、ターンエンド」

「わたしのターン、ドロロー。カードを1枚伏せてターンエンドです」

「僕のターン、ドロロー。墓地の『ライトロード』モンスターが4種類以上あるので〈裁きの龍〉を特殊召喚」

白く巨大な龍が翼をはためかせ地上に降り立つ。その姿からは神々しさが感じられる。

「〈裁きの龍〉のモンスター効果。ライフポイントを1000支払い、このカード以外の全てのカードを破壊する」

白き龍が力を解放せんと咆哮する。

「その効果に『チェーン』します。リバースカードオープン！ 罨カード〈おじやまデュオ〉。あなたのフィールドに「おじやまトークン」を2体守備表示で特殊召喚します。「おじやまトークン」が破壊されるとそのコントローラーに1体につき、300ポイントのダメージを与えます」

「他に『チェーン』するカードは無いから処理に入るよ」

「では、『チェーン2』の〈おじやまデュオ〉の効果で〈おじやまトークン〉を特殊召喚します」

赤と青の半裸の小人がポーズを取りながら登場する。

〈おじやまトークン〉 守備表示

星2／光属性／獣族／トークン／通常モンスター

ATK／0 DEF／1000

『『チエーン1』の〈裁きの龍〉の効果で自身以外の全てのカードが破壊され、僕は〈おじやまデュオ〉の効果で合計600ポイントのダメージを受ける』

白石 LP 6000↓5400

「バトルフェイズ、〈裁きの龍〉でダイレクトアタック！」
「ライフで受けますー！」

ナージャ LP 50↓0



「……負けちゃったけど、デュエルありがとうございました！」

「こちらこそ、ありがとうございます」

白石は今回のデュエルでは墓地に送られたカードが良かったから勝てたようなものだと思った。実際、序盤早々危うかったと感じていた。明日の大会は勝ち上がる事ができるのだろうかと少し不安に思うが、今は目の前の子供達に集中しよう。

「ナージャやられちゃったのね、アリスが仇をとるから安心してね」

「うん、まかせるね」

ベンチ座っていたアリスが白石の前に立ちはだかる。

「デュエル、よろしくお願ひします」

「こちらこそ、よろしくお願ひします」

「デュエル！」

第4話 白石 蒼の長い1日 (中編)

「デュエル！」

白石 LP 8000

アリス LP 8000

今回、デュエルディスクのランプが灯ったのは白石だった。

「僕は先行をもらおうよ、ヘライトロード・アサシン ライデン」を通常召喚し、効果発動。デッキを上から2枚墓地へ送る。エンドフェイズ、さらに上から2枚墓地へ送る。これでターンエンド」

浅黒い肌の男が登場し、デッキの上から合計4枚ものカードを預かると、どこに通じているのかわからない穴に投げ捨てる。

「アリスのターン、ドロロー。魔法カードへコンドールレンズ・パペット」を発動。EXデッキから特殊召喚された相手モンスターの数＋1枚まで、デッキから『ギミック・パペッ

ト』モンスターを墓地へ送る。アリスはデツキから〈ギミック・パペットービスクドール〉を墓地へ送る。〈ギミック・パペットーボム・エッグ〉を通常召喚
赤い顔に金髪のカツラを付けた人形がフィールドに出てくる。

〈ギミック・パペットーボム・エッグ〉 攻撃表示

星4／閻属性／機械族／効果モンスター

ATK／1600 DEF／1200

「〈ギミック・パペットーボム・エッグ〉の効果。手札から〈ギミック・パペットーネクロ・ドール〉を捨て、このターンのエンドフェイズまでレベルを8にする」

〈ギミック・パペットーボム・エッグ〉 星4↓8

「手札の〈ギミック・パペットーマグネ・ドール〉は相手フィールドにモンスターが存在し、自分フィールドのモンスターが『ギミック・パペット』モンスターの場合、特殊召喚できる」

やや錆びた細長い感じの人形がフィールドに呼び出される。

〈ギミック・パペットーマグネ・ドール〉 攻撃表示

星8／闇属性／機械族／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1000

「魔法カード〈死者蘇生〉を墓地の〈ギミック・パペット・ビスクドール〉を対象に効果発動。そのモンスターを特殊召喚」

黒い服を着た人形が墓地からフィールドに舞い戻る。

〈ギミック・パペット・ビスクドール〉 攻撃表示

星8／闇属性／機械族／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1000

「3体のレベル8モンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！
ランク8、〈熱血指導王ジャイアントレーナー〉を攻撃表示で特殊召喚」

3体のモンスターが暗い穴に飛び込むと、無数のバットや鉄の棒を背負ったモンスターが現れた。

〈熱血指導王ジャイアントレーナー〉 攻撃表示

ランク8／炎属性／戦士族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2800 DEF／2000

「まずは手札が欲しいから、〈熱血指導王ジャイアントレーナー〉の効果でORUを1つ取り除き発動。デッキからカードを1枚ドロローしてお互いに確認する。確認したカードがモンスターカードだった場合、相手に800ポイントのダメージを与える。この効果は1ターンに3度まで発動できる。だけど、バトルフェイズは行えない。ドロロー、〈ギミック・パペット〉シザーアーム、モンスターカードだったから800ポイントダメージ」

白石 LP 8000↓7200

「またORUを取り除き効果発動。ドロロー、〈ギミック・パペット〉ハンプティ・ダンブティ、モンスターカードだったから800ポイントダメージ」

白石 LP 7200↓6400

「最後のORUを取り除き効果発動。 ドロー、へRUMーアーエージェント・カオス・フォー
 ス、魔法カードだったからダメージは無い。 続けて、へRUMーアーエージェント・カオ
 ス・フォー」をへ熱血指導王ジャイアントレーナー」を対象に発動。 ランクが1つ
 高い『CNo.』または『CX』モンスターを対象のカードの上に重ねてエクシーズ召喚
 扱いで特殊召喚する。 アリスは1体のモンスターのオーバーレイネットワークを再
 構築！ ランクアップエクシーズチェンジ！ ランク9、へCX 熱血指導神アルティ
 メットレーナー」を攻撃表示で特殊召喚」

ジャイアントレーナーが暗い穴に飛び込み、暗い穴から6本腕の巨人が出てくる。

へCX (カオスエクシーズ) 熱血指導神アルティメットレーナー」 攻撃表示

ランク9 / 炎属性 / 戦士族 / エクシーズ / 効果モンスター

ATK / 3800 DEF / 2300

RUM (ランクアップマジック)、対象にとったエクシーズモンスターのランクが1つ
 高いモンスターに進化させるカード。 ランクの上があったモンスターはより強力な効
 果を持つカードが多く悔れないと、カミュが言っていた。

「攻撃力3800……！」

「〈CX 熱血指導神アルティメットレーナー〉のモンスター効果。1ターンに1度、CORU（カオスオーバーレイユニット）を1つ取り除き発動。デッキから1枚ドロして、お互いに確認する。確認したカードがモンスターカードだった場合、さらに相手ライフに800ポイントダメージを与える。引いたのは〈コンドールレンス・パペット〉（2枚目）。ダメージが無くてよかったね」

アリスはダメージを与えられずつまらなそうな顔をしている。

「これで、ターンエンド」

「僕のターン、ドロ。〈ライトロード・アサシン ライデン〉の効果発動。デッキを上から2枚墓地へ。〈ライトロード・サモナー ルミナス〉を通常召喚」

白い服の女性がライデンの隣に現れる。

「〈ライトロード・サモナー ルミナス〉の効果。手札を1枚捨てて、墓地の〈ライトロード・サモナー ルミナス〉（2枚目）を対象に発動。守備表示で特殊召喚する。さらに、今特殊召喚した〈ライトロード・サモナー ルミナス〉の効果。手札を1枚捨てて、墓地の〈ライトロード・ウォリアー ガロス〉を対象に発動。攻撃表示で特殊召喚する」

ルミナスとガロスが白石のフィールドに呼び出される。

「レベル3の〈ライトロード・サモナー ルミナス〉（1枚目）にレベル4の〈ライトロー

ド・アサシン ライデンをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル7、ヘライトロード・アーク ミカエルを攻撃表示で特殊召喚」

ライデンが光の輪となり、その中をルミナスが通過する。 白き龍と共に剣を持った戦士が舞い降りる。

「ヘライトロード・アーク ミカエル」の効果……」

「CCX 熱血指導神アルティメットレーナー」はカード効果の対象にならない！」

「……くつ、それならエンドフェイズ、ヘライトロード・アーク ミカエル」の効果、『チェーン1』、ヘライトロード・サモナー ルミナス」の効果、『チェーン2』で発動する。 処理に入るよ、まず『チェーン2』でデッキの上から3枚墓地へ送り、ここでヘライトロード・ウォリアー ガロス」の永続効果でデッキの上から2枚墓地へ送り、送った中にヘライトロード・ピースト ウォルフ」があったので1枚ドロ。 続けて、『チェーン1』でデッキの上から3枚墓地へ送り、再びヘライトロード・ウォリアー ガロス」の効果でデッキを上から2枚墓地へ、送った中にヘライトロード・モンク エイリン」があったので1枚ドロ。 その後、墓地へ送られたヘライトロード・ピースト ウォルフ」の効果発動。 墓地から特殊召喚する。 これでターンエンド」

白石のフィールドに獣頭の戦士が現れる。

〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉 攻撃表示

星4／光属性／獣戦士族／特殊召喚／効果モンスター

ATK／2100 DEF／300

「アリスのターン、ドロ。〈コンドレーンス・パペット〉（2枚目）を発動。 お兄さ

んのフィールドにはEXデッキから特殊召喚された〈ライトロード・アーク ミカエル〉
 が居るから、デッキから〈ギミック・パペット〉テラー・ベビー」と〈ギミック・パペッ
 ト〉シャドー・ファイラーの2枚を墓地へ送る。 〈ギミック・パペット〉ハンプティ・

ダンプティを通常召喚」

黄色帽子をかぶった赤い顔の人形が現れる。

〈ギミック・パペット〉ハンプティ・ダンプティ 攻撃表示

星4／闇属性／機械族／効果モンスター

ATK／0 DEF／100

「〈ギミック・パペット〉ハンプティ・ダンプティの効果、このカードが召喚・特殊召喚に成功した時に手札から『ギミック・パペット』モンスター1体を特殊召喚できる。

手札からへギミック・パペットーシザーアームを特殊召喚

両腕を大きなハサミに固定した人形が呼び出される。

へギミック・パペットーシザーアーム 攻撃表示

星4 / 闇属性 / 機械族 / 効果モンスター

ATK / 1200 DEF / 600

「2体のレベル4でオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク

4、へギミック・パペットーギガンテス・ドール」を守備表示で特殊召喚

2体のモンスターが暗い穴に飛び込むと、体からハサミや大鎌が生えている巨大な人形が着地する。

へギミック・パペットーギガンテス・ドール 守備表示

ランク4 / 闇属性 / 機械族 / エクシーズ / 効果モンスター

ATK / 0 DEF / 2000

「へギミック・パペットーギガンテス・ドール」のORUを2つ取り除き、相手フィールド

ドのモンスター〈ライトロード・アーク ミカエル〉と〈ライトロード・サモナー ルミナス〉を対象にとり効果発動。そのモンスターのコントロールを得る。この効果を発動したターン、アリスは『ギミック・パペット』モンスターしか特殊召喚できず、エクシーズモンスターでしか攻撃できない。」

ギガンテス・ドールがミカエルとルミナスをつかむとアリスのフィールドへ投げ飛ばす。

「へギミック・パペットーギガンテス・ドール」のさらなる効果、このカードをリリースして発動。自分フィールドの全てのモンスターのレベルは8になる」

〈ライトロード・アーク ミカエル〉 星7↓8

〈ライトロード・サモナー ルミナス〉 星3↓8

「レベル8が2体……！」

「アリスのお人形を見せてあげるね。レベル8になった2体の『ライトロード』でオーバレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク8、〈No. 40 ギミック・パペットーヘブンズ・ストリングス〉を攻撃表示で特殊召喚！」

2体のモンスターが暗い穴に吸い込まれ爆発する、剣を持った片翼の人形が姿を表す。翼に『40』と書かれている。

「ランク5以上のエクシーズモンスターのエクシーズ召喚に成功した時、墓地のへRUM

「アージエント・カオス・フォース」の効果発動。墓地から手札に加える。バトルフェイズ、〈ギミック・パペット〉へブンス・ストリングスで〈ライトロード・ウオリアー ガロス〉を攻撃」

へブンス・ストリングスがガロスを両断し爆散させる。

白石 LP 6400↓5250

「〈CX 熱血指導神アルティメットレーナー〉で〈ライトロード・ピースト ウォルフ〉を攻撃」

アルティメットレーナーがウォルフを殴り飛ばし、星にする。

白石 LP 5250↓3550

「バトルフェイズを終了して、メインフェイズ2。お兄さん、ここで終わりだね。

〈ギミック・パペット〉へブンス・ストリングスの効果をORUを1つ使い効果発動。

このカード以外のフィールドに表側表示で存在するモンスター全てにストリングスカウンターを1つ置く。次の相手エンドフェイズ時、ストリングスカウンターが乗っ

ているモンスターを全て破壊し、破壊したモンスターの数×500ポイントダメージを相手に与える」

〈CX 熱血指導神アルティメットレーナー〉 ストリングスカウンター 0↓1

「手札から〈RUM—アージェント・カオス・フォース〉をへギミック・パペット—ヘブンス・ストリングス〉を対象に発動。このお人形の真の姿を見せてあげるね！ 1体のモンスターでオーバーレイネットワークを再構築！ ランクアップエクシーズチェンジ！ ランク9、〈CNO・40 ギミック・パペット—デビルズ・ストリングス〉を攻撃表示で特殊召喚！」

暗い穴にへブンス・ストリングスが飲み込まれ爆発する、穴の中から黒くより鋭さを増した翼を持つ人形が飛び出してきた。

〈CNO・(カオスナンバーズ) 40 ギミック・パペット—デビルズ・ストリングス〉
攻撃表示

ランク9／闇属性／機械族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／3300 DEF／2000

「〈CNO・40 ギミック・パペット—デビルズ・ストリングス〉の効果。このカー

ドが特殊召喚に成功した時、フィールド上のストリングスカウンターが乗っているモンスター全てを破壊し、アリスはデッキから1枚ドロウする。その後、この効果で破壊され墓地へ送られたモンスターの内、元々の攻撃力が一番高いモンスターの数値、3800ポイントのダメージを相手に与える。バイバイ、お兄さん」

白石 LP 3550↓0



「お兄さん、対戦ありがとうございます」

「対戦ありがとうございます」

アリスはベンチにいる他の子達のところへ走って行った

「おつかれさまー」

「ありがとう、ナージャ、仇はとったよ♪」

「アリスならやるとわたしは思ってたわ」

まさか小学生に負けるとは思ってた白石だった。

内心、ちよつとだけシヨツ

クを受けている模様。

「次はー、フィーネの番だよー、よろしくねー」
「よろしくね」

「デュエル！」

第4話 白石 蒼の長い1日 (後編)

「デュエル！」

白石 LP 8000

ファイネ LP 8000

白石のデュエルディスクにランプが灯る。

「また選べるのなら、今度は後攻をもらおうよ」

「わかったー、ファイネが先行だねー。手札から〈フェアニマル・ベア〉を墓地へ送って効果発動ー。デッキから〈トイポット〉を1枚自分の魔法・罠ゾーンにセットするよー。そして、そのまま発動するねー」

ユニークな見た目の大きなガシヤポンマシンがフィールドに現れる。

「手札を1枚、〈フェアニマル・オクト〉を捨てて〈トイポット〉の効果発動ー。デッキから1枚ドローして、お互いに確認するー。確認したカードが『フェアニマル』モン

スターだった場合、手札からモンスター1体を特殊召喚できるのー。違った場合はそのドローしたカードを捨てるのー。引いたカードはへフアーニマル・ベア（2枚目）、そのまま守備表示で特殊召喚するねー」

羽の生えたピンク色のクマが現れる。

へフアーニマル・ベア 守備表示

星3 / 地属性 / 天使族 / 効果モンスター

ATK / 1200 DEF / 800

「カードを1枚伏せて、ターンエンドなのー」

「僕のターン、ドロー。手札のへライトロード・ビースト ウォルフを捨ててへソーラー・エクステンジを発動。デッキから2枚ドローして、デッキを上から2枚墓地へ送る。墓地へ送られた中にへライトロード・メイデン ミネルバがあったので、さらにデッキの上から1枚を墓地へ送る。へライトロード・アサシン ライデンを通して常召喚」

浅黒い肌の男がフィールドに現れる。

へライトロード・アサシン ライデンの効果発動。デッキを上から2枚墓地へ送る。

墓地へ送られた中に〈ライトロード・サモナー ルミナス〉があつたので、相手ターン終了時まで攻撃力が200アップする」

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 ATK/1700↓1900

「バトルフェイズ、〈ライトロード・アサシン ライデン〉で〈フアーニマル・ベア〉を攻撃」

ライデンがベアの体を十字に切り裂く。ベアは体から綿を撒き散らし消滅する。

「あ、クマさんが！ 罨カード〈フアーニマル・クレーン〉を破壊された〈フアーニマル・ベア〉を対象に発動」。そのモンスターを手札に加え、フィーネは1枚ドロウする」

フィーネの背後に大きなクレーンが現れ、破壊されたベアを釣り上げる。

「エンドフェイズ、ライデンの効果発動。デッキを上から2枚墓地へ送る。これでターンエンド」

「フィーネのターン、ドロウ。〈トイポット〉の効果、手札の〈フアーニマル・ウイング〉を捨てて発動」。1枚ドロウ、引いたのは〈置換融合〉だったので捨てるの」。

続けて、墓地の〈フアーニマル・ウイング〉を除外して、墓地の『フアーニマル』モンスター〈フアーニマル・ベア〉を対象に発動」。そのモンスターを除外してデッキから1枚ドロウ。さらに自分フィールドの〈トイポット〉を1枚選んで墓地へ送り、デッ

キから1枚ドロ。 おまけに墓地へ送られた〈トイポット〉の2つ目の効果発動。
 デッキから〈エッジインプ・シザー〉1体または『フアーニマル』モンスターを1枚
 手札に加えられるの。 この効果でデッキから〈フアーニマル・オウル〉を手札に加
 えるの。

瞬く間に増えたファイネの手札を見て、白石は警戒心を強める。

「手札から〈フアーニマル・ベア〉(2枚目)を捨てて発動。 また〈トイポット〉(2
 枚目)をセツトするね。 そして発動。 手札から〈フアーニマル・シープ〉を捨
 てて効果発動。 1枚ドロ。 引いたのは〈フアーニマル・ペンギン〉なので手札
 から〈フアーニマル・ドッグ〉を特殊召喚するの。」
 羽の生えたイヌが現れる。

〈フアーニマル・ドッグ〉 攻撃表示

星4/地属性/天使族/効果モンスター

ATK/1700 DEF/1000

「手札からの召喚・特殊召喚された〈フアーニマル・ドッグ〉の効果発動。 デッキか
 ら〈エッジインプ・シザー〉1体または〈フアーニマル・ドッグ〉以外の『フアーニマ

ル』モンスター1体を手札に加えるのー。デツキから〈エツジインプ・シザー〉を加えるねー。それから、〈フアーニマル・オウル〉を通常召喚するねー」
 小さな眼鏡をかけたフクロウが現れる。

〈フアーニマル・オウル〉 攻撃表示

星2／地属性／天使族／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1000

「手札からの召喚に成功した〈フアーニマル・オウル〉の効果発動ー。デツキから〈融合〉を1枚手札に加えるのー。魔法カード〈縫合蘇生〉を墓地の〈フアーニマル・ベア〉を対象に発動ー。そのモンスターを効果を無効にして特殊召喚するのー。魔法カード〈融合〉を発動ー。手札の〈エツジインプ・シザー〉と〈フアーニマル・ペンギン〉にフィールドの〈フアーニマル・オウル〉と〈フアーニマル・ドツグ〉、〈フアーニマル・ベア〉で〈テストロイ・シザー・ウルフ〉を攻撃表示で融合召喚するのー」
 素材となったモンスター達が光の中で混ぜ合わさる。現れたのは、ハサミや糸で体をつなぎ止めているポロポロのオオカミのぬいぐるみだった。

〈デストーイ・シザー・ウルフ〉 攻撃表示

星6／闇属性／悪魔族／融合／効果モンスター

ATK／2000 DEF／1500

「融合素材の〈フェアニマル・ペンギン〉の効果発動なのー。デッキから2枚ドロローして1枚捨てるのー。手札から〈ハーピイの羽根箒〉を捨てるのー。バトルフェイズー。〈デストーイ・シザー・ウルフ〉は融合素材となったモンスターの枚数分、攻撃ができるのー。つまり、5回攻撃できるのー」

「5回攻撃……!」

「じゃあ、〈デストーイ・シザー・ウルフ〉で〈ライトロード・アサシン ライデン〉を攻撃するのー。1連打」

シザー・ウルフがライデンを噛み砕く。

白石 LP 8000↓7900

「2連打」

白石 LP 7900↓5900

「3連打ー」

白石 LP 5900↓3900

「4連打ー」

白石 LP 3900↓1900

「そしてこれがトドメの、グオレンダアツー!!!」

「え、なんかキヤラ違うくない!?!」

白石 LP 1900↓0



「ま、負けた…… 対戦ありがとうございました」

「お兄ちゃん、対戦ありがとうございました！」

フィーネはパタパタとベンチにいる子達のところに行くとき、ハイタッチした。

「明日の公式戦、こんなんで大丈夫かな……」

白石は自分の組み上げたデッキに一抹の不安を感じるのであった。



その後、夕方になるまでちびつ子達とデュエルしたが最初の1勝も気のせいだと言わんばかりに負け越し、ちびつ子達が帰った後、ベンチに1人座り空を見上げた。まだまだ初心者部類とは言え、連敗すると流石にへこむ。しかも、ちびつ子達はやっぱり小学生だったから余計に言い訳もできないとくる。しかも、ちびつ子達はやっぱり小学生だったから余計に言い訳もできないとくる。

「……はあ、僕は才能が無いのかな」

「おや、そこに居るのは白石君じゃないか、どうしたんだい？」

声のする方を見れば、管理人さんが居た。

「いえ、大した事では無いですよ……」

「そうかい？ 男がね、空を見上げる時は大抵何かあった後なんだよ。私で良ければ相談にのるよ」

管理人さんが隣に座り、こちらへ缶コーヒートを渡してくる。甘い事で有名なやつだった。

「実は……」

白石は今日あった事を話した。コンビニでの仕事が順調な事、帰ってきてデツキを組み直した事、ちびっ子達とデュエルしたが最初に1勝した後、全て惨敗した事、自分にデュエルの才能が無いのかと思つた事。管理人さんは黙つて全ての話聞いてくれた。

「白石君、君はデュエルする時、何を考えているのかな？ 試合に勝つ事かな？ それとも他の何かかな？ 私もね、始めた頃は上手く勝てずに沢山負け越した事があつてね。

そう言う時こそ、何かを考えてて余計な力が入っているんだ、目の前の事に集中する事はなかなか難しい。だけど、勝敗は兎も角少しでも楽しめないと辛いと言う事はよく判つたんだ。デュエルの世界には才能が必要な事もあるけど、大多数の人がそれを

持つてる訳じゃない、無い人は無いなりに楽しみ方を見つける事が重要だと私は思うよ。それに、今回ののは相手が悪かったと思う」

「どういう事ですか？」

「君が対戦したのは、大人に混じって大会に参加してる子達でね、ここら辺の小学生の中でも強い部類だったりするんだ」

「そうだったんですね」

「それと君には才能、あると思うよ」

管理人さんはベンチから立つと、大きく伸びをした。

「私があげたテツキを自分の手に馴染むように組み上げてるし、ルールや召喚方法も一通り覚えてる。そうになると、あと必要なのは対戦経験だよ。ノウハウは教えられるよりも自分で見つけた方がより良い経験になるんだ」

「つまりは、もっと戦えと？」

「そうなるね、明日の大会はいい意味で経験ができると思うよ」

「そうですか」

「さて、そろそろ私は帰るとするよ。また何かあったら相談にのるよ」

「ありがとうございます」

管理人さんは部屋に帰って行った。

「僕もそろそろ帰って、夕食を作らないとな」



夕食後、もう1度自分のデツキを調整し始めた白石はふと思いつく。

「他に何かデツキを作ってみようかな？」

幸い、ライトロード用で集めた汎用カードは沢山あり、新しいデツキを作るのに必要なカードは大体揃っていた。だが、肝心な事にデツキの中心となるカテゴリーのカードはあまり持っていないかった。

「明日、シングルカードでも見て何か考えておこう。安く組めるのが良いかな」



翌朝、仕掛けていた目覚まし時計が鳴り響く。

「もう朝か……」

結局、ライトロードの組み直しをしてから眠りに就いたが、明け方近くまで改良していたせいか全然眠気がとれない。完全に寝不足である。大きなあくびをすると着替え始めた。

「今日は折角の休みだし頑張らないとな」

朝食を食べ終えると頭が冴えてきた。気合いも十分ある。

「カミュに今日の公式戦に出るか聞いておかないとな」

外に出て、カミュの部屋のインターホンを鳴らす。すぐにカミュが出てきた。

「おはよう、白石君か、今日はどうしたんだい？」

「おはよう、カミュは今日の公式戦に参加する？」

「ああ、もちろんだとも。少し待つててくれないか、デツキを取って来るから。一緒に行くこうじゃないか」

2人は一緒にひよこのカードショップに向かった。道中で、公式戦の話のカミュから色々聞くことができた。

第2章 はじめての公式戦

第5話 戦いの始まり

ひよこのカードショップにたどり着くと、店内には参加者と思われる客がそれなりに居た。各々、デッキを調整したりフリー対戦したりと開始時間を待っているようだった。

「公式戦に参加するにはIDカードが要るんだけど持ってきてるかな？」
「ちゃんと持ってきてるよ」

財布からIDカードを取り出し見せる。

「それならよかった、参加受付はカウンターに行けばできるよ」

参加受付はすぐに終わった。まだ開始時間までだいぶあるので、カミュはフリー対戦へ、白石はシングルカードを見に一旦別れる事にした。



ショーケースの中にあるカードの金額を手持ちと比べて肩を落としたり、1枚30円のノーマルカードコーナーも見たが惹かれるカードは少ないものの、気になるカードが数枚あったのでそれらは買った。

そうこうしている内に、開始時間になったようで係りの店員が参加者を集めた。ここ数日で見知った顔も何人かいる。

「本日の公式戦に参加される方は、名前を順番に呼びますので呼ばれた方からデュエルを始めて下さい。勝敗はデュエルが終わったらカウンターまで報告をお願いします」

木戸（きど）とかかれた名札をしている20代後半ぐらいの店員が名前を呼び始める。後で知った事だが、公式戦の登録名はリングネームのようなもので別に本名で登録しなくてもいいそうだ、本名で登録してしまった事を少し後悔した白石であった。

名前が呼ばれなかった者達は一度全ての勝敗が決まった後で、再び組み合わせを発表し対戦を始めるようだ。因みに、このカードシヨップはトーナメント方式で1勝すれば勝ち上がるの事。そのためか、先に2勝する事で勝ち上がるマッチ方式で必要になる『サイドデッキ』は誰も持ってきてない。

最初の対戦者発表が終わり、呼ばれなかった者達は各々観戦したりフリー対戦などを始めた。白石とカミュは名前を呼ばれなかったので呼ばれた内の一組みの観戦を始め

る。

「デュエル！」

赤い帽子の男 LP 8000

青いリストバンドの子供 LP 8000

デュエルディスクにランプが灯ったのは赤い帽子の男の方だった。

「先攻をもらうよ。 対戦よろしくお願ひします」

「よろしくお願ひします」

「メインフェイズ、手札から魔法カード「増援」を発動。 『チェーン』はありますか？」

「ないです」

「デッキからレベル4以下の戦士族モンスター、〈空牙団の剣士 ビート〉を手札に加える。 そのままビートを通常召喚」

ハリネズミのような剣士が召喚された。

〈空牙団（くうがだん）の剣士 ビート〉 攻撃表示

星3 / 地属性 / 戦士族 / 効果モンスター

ATK / 1200 DEF / 500

「ビートのモンスター効果発動。『チェーン』は？」

「ありません」

「手札から〈空牙団の剣士 ビート〉以外の『空牙団』モンスターを1体特殊召喚する。

手札の〈空牙団の英雄 ラファール〉を特殊召喚」

水色の鱗が特徴的な4枚羽のドラゴンが呼び出される。

〈空牙団の英雄 ラファール〉 攻撃表示

星8 / 光属性 / ドラゴン族 / 効果モンスター

ATK / 2800 DEF / 2200

「この瞬間、ビートとラファールの効果発動。『チェーン』は『チェーン1』ラファール、『チェーン2』ビート。何かありますか？」

「ありません」

「処理に入って、『チェーン2』のビートの効果。このカードが既にモンスターゾーンに存在する状態で、自分フィールドにこのカード以外の『空牙団』モンスターが特殊召喚された場合に発動できる。デッキから〈空牙団の剣士 ビート〉以外の『空牙団』モンスターを手札に加える。デッキから〈空牙団の伝令 フィロ〉を加える。続いて『チェーン1』のラファールの効果。このカードが特殊召喚に成功した場合に発動できる。〈空牙団の英雄 ラファール〉以外の自分フィールドの『空牙団』モンスターの種類の数だけ自分のデッキの上からカードをめくる。その中のカードを1枚手札に加え、残りをデッキに戻す。ビートの分で1枚めくり、〈テラ・フォーミング〉を手札に加える」

カミュにやたらとチェーンの確認をしている事が気になったので聞いたところ、手札誘発モンスターを警戒して確認をしているそうだ。それにしても、よくあの高いカードをデッキに搭載するなど白石は思った。ノーマルカードでも、あの〈増殖するG〉1枚で1万円周辺だと言うのに……、それだけ物好きは多いと言うことだろうか？

「〈テラ・フォーミング〉を発動。『チェーン』は？ なければデッキからフィールド魔法を手札に加えるが？」

「ないです、止める時は『待った』かけます。いちいち聞かれるは面倒なのでそのまま回して下さい」

「わかった。では、デッキから〈飛竜艇―ファンドラ〉を加え、そのまま発動する。これでターンエンド」

「ドロー。メインフェイズ、あなたの〈空牙団の剣士 ビート〉と〈空牙団の英雄 ラファール〉をリリースして、〈溶岩魔神ラヴァ・ゴーレム〉を特殊召喚。カードを2枚セツトしてターンエンド」

赤い帽子の男が鳥かごのような檻に囚われ、その檻を首から吊り下げている溶岩でできた魔神が背後から現れる。

〈溶岩魔神（ようがんまじん）ラヴァ・ゴーレム〉 攻撃表示

星8／炎属性／悪魔族／効果モンスター

ATK／3000 DEF／2500

「厄介なモンスターを……、私のターン、ドローフェイズにフィールド魔法〈飛竜艇―ファンドラ〉の効果発動。通常のドローを行う代わりに、デッキから『空牙団』モンスターを1枚手札に加える。〈空牙団の闘士 ブラウオ〉を加える。スタンバイフェイズにラヴァ・ゴーレムの効果で1000ポイントのダメージを受ける」

ラヴァ・ゴーレムの体が溶け、滴り落ちる。とても熱そうだ。

赤い帽子の男 LP 8000↓7000

「メインフェイズ、〈空牙団の剣士 ビート〉（2枚目）を通常召喚」

再びハリネズミの剣士、ビートが現れる。

「ビートの効果発動。手札から〈空牙団の伝令 フィロ〉を特殊召喚」

拡声器を片手に持った小鳥のようなモンスターが飛んできた。

〈空牙団の伝令 フィロ〉 守備表示

星1／風属性／鳥獣族／効果モンスター

ATK／0 DEF／0

「フィロが特殊召喚に成功した事で、ビートの効果を発動」

「その効果に『チェーン』してリバースカードオープン！ 魔法カード〈禁じられた聖杯〉をビートを対象に発動。」

ターン終了時まで、そのモンスターの攻撃力は400アップし、効果は無効になる。」「ビートの効果はこれで無効になる。 フィロの効果発動。 手札から〈空牙団の伝令

ファイロ〈以外の『空牙団』モンスターを特殊召喚。この効果で〈空牙団の闘士 ブラーヴォ〉を特殊召喚」

鉤爪を装備した赤いトカゲのモンスターが呼び出された。

〈空牙団の闘士 ブラーヴォ〉 攻撃表示

星4／炎属性／爬虫類族／効果モンスター

ATK／1900 DEF／200

「ブラーヴォが特殊召喚に成功したので、ファイロの2つ目の効果。このカードが既にモンスターゾーンに存在する状態で、このカード以外の『空牙団』モンスターが特殊召喚された場合、墓地の『空牙団』モンスターを1体、〈空牙団の英雄 ラファール〉を対象にして発動。そのモンスターを守備表示で特殊召喚する。ただし、この効果で特殊召喚したモンスターはフィールドを離れるとデッキの一番下に戻る」

ファイロが拡声器に向かって何かを叫ぶと墓地に居たラファールがやってきた。

「特殊召喚に成功したラファールの効果発動。デッキを上から4枚めぐり〈サイクロン〉を手札に加え、残りをデッキに戻す」

カードがめくられ、ラファールが咆哮するとその内の1枚が彼の手札に加わる。

「現れる、大空と自由のサーキット。 召喚条件は『種族が異なるモンスター3体』、私は鳥獣族の〈空牙団の伝令 フィロ〉と悪魔族の〈溶岩魔神ラヴァ・ゴレム〉、戦士族の〈空牙団の剣士 ビート〉をリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク3、〈空牙団の大義 フォルゴ〉を私から見て左のエクストラモンスターゾーン（以下、EX モンスターゾーン）に特殊召喚」

サーキットと呼ばれるゲートが現れ、3体のモンスターが竜巻となり飛び込む、サーキットから太刀を持った狼が飛び降りてきた。

〈空牙団の大義 フォルゴ〉 攻撃表示

リンク3／闇属性／獣族／リンク／効果モンスター／マーカー（上・左下・右下）

ATK／2400

リンク召喚、召喚条件に見合う1体から複数をもンスターを素材として新たなモンスターを特殊召喚する召喚方法。 基本的に自分フィールドの表側表示のモンスターを素材として召喚するが、特徴の一つとしてリンクモンスターを召喚の素材とする場合、そのモンスターのマーカーの数と同じ体数として扱う事も出来るため、マーカーの多いリンクモンスターを特殊召喚する場合はリンクモンスターを素材とするなりして消費

を減らすのが一般的。また、他の特徴として『守備表示の概念が無い』ため呼び出されるリンクモンスターは『全て表側攻撃表示』で特殊召喚される。カードの見分け方としては、カードに赤いマーカーの付いた青いカードだったりすると、カミュが解説してくれた。

「リンク召喚に成功したフォルゴの効果発動。リンク素材としたモンスターと異なる種族の『空牙団』モンスターを1体、デッキから守備表示で特殊召喚する。私はデッキから〈空牙団の叡智 ウイズ〉を特殊召喚」

淡いピンク色の触手を持つイカのようなモンスターがデッキから現れる。

〈空牙団の叡智 ウイズ〉 守備表示

星7 / 水属性 / 魔法使い族 / 効果モンスター

ATK / 1600 DEF / 2800

「ウイズが特殊召喚されたので、ブラーヴォとウイズの効果をそれぞれ発動。『チェーン1』ブラーヴォ、『チェーン2』ウイズ。処理に入り、『チェーン2』のウイズの効果。特殊召喚に成功した場合、〈空牙団の叡智 ウイズ〉以外の自分フィールドの『空牙団』モンスターの種類×500のライフポイントを回復する。3種類居るので15

00ポイント回復する。『チェーン』のブラーヴォの効果。このカードがモンスターゾーンに存在する状態で、このカード以外の『空牙団』モンスターが特殊召喚された場合、フィールド全ての『空牙団』モンスターの攻撃力・守備力はターン終了時まで500アツプする」

赤い帽子の男 LP 7000↓8500

ラファール DEF/2200↓2700

ウイズ DEF/2800↓3300

ブラーヴォ ATK/1900↓2400

フォルゴ ATK/2400↓2900

「さらに、手札から魔法カード〈サイクロン〉を発動。伏せてある魔法・罠カード1枚を破壊する。そのカードを破壊させてもらうよ」

竜巻が伏せてあるカードを粉々に破壊する。〈神風のバリアーエア・フォース〉と言うカードだったようだ。

「サレンダー」

「何を言っている？ 公式戦でサレンダーは認められてはいないんだ……、残念だけど

君もデュエリストならこのまま続けてくれないか？」

サレンダー、試合中にする降伏の宣言。だがしかし、この宣言が認められるのはフリー対戦のみだったりする。

「ターンを続けさせてもらうよ、君のカードを破壊した事によりフォルゴの効果。相手フィールドのカードが戦闘または効果で破壊された場合に発動する。私はデッキから1枚ドロー。その後、自分フィールドの『空牙団』モンスターが3種類以上の場合、私はさらに2枚ドロー」

あつという間に手札を5枚まで回復させた赤い帽子の男に白石は感心した。

「ブラーヴォの効果発動。手札から〈空牙団の闘士 ブラーヴォ〉以外の『空牙団』モンスターを特殊召喚する。この効果で〈空牙団の孤高 サジータ〉を攻撃表示で特殊召喚する」

狙撃銃を持った鳥人がフィールドに降り立つ。

〈空牙団の孤高 サジータ〉 攻撃表示

星5／風属性／鳥獣族／効果モンスター

ATK／1200 DEF／2400

「特殊召喚に成功したサジータの効果発動。〈空牙団の孤高 サジータ〉以外の自分フィールドの『空牙団』モンスターの種類×500ポイントのダメージ、2000ポイントを相手に与える」

サジータが狙撃銃の狙いを定める。軽い音と共に弾が放たれ、青いリストバンドの子供の体を突き抜ける。もつともソリッドヴィジョンなので実際のダメージは無い。

青いリストバンドの子供 LP 8000↓6000

「バトルフェイズ、ブラーヴォでダイレクトアタック！」
ブラーヴォが鉤爪で子供を切り裂く。

青いリストバンドの子供 LP 6000↓3600

「フォルゴでダイレクトアタック！」
そのあとを、フォルゴが太刀を横なぎに振るう。

青いリストバンドの子供 LP 3600↓700

「サジータでダイレクトアタック！」

ブラーヴォとフォルゴの間を縫うようにサジータの弾丸が通り抜け、子供に命中する。

青いリストバンドの子供 LP 700↓0

「対戦ありがとうございました、よく頑張った」

赤い帽子の男が子供に歩み寄り片手を差し出すが、青いリストバンドの子供はそれを弾くと店の外へと走って行ってしまった。



しばらく白石とカミュは観戦を楽しんだ、見知った顔のデュエリストが負ける試合もあり残念に思ったが、これもまた勝負の世界である以上しかたのない事である。

「次の対戦発表をします、まだ呼ばれていない方は集まって下さい」

名前が次々と呼ばれていく。カミユは呼ばれたようなので一旦別れる事になった。カミーユの名前で登録しているらしい、覚えておこう。

「白石 蒼さん、ナムさん、おられましたらデュエルを開始して下さい」

どうやら自分の対戦者は決まったらしい。空いているスペースに行くとき既に相手が待っていた。背の高い坊主頭の男がデュエルディスクを構える。

「白石 蒼です、対戦よろしくお願いします」

「ナムです、こちらこそ対戦よろしくお願いします」

「デュエル！」

第6話 デュエルの香りはカレーの香り

「デュエル！」

白石 LP 8000

ナム LP 8000

デュエルディスクが先攻を示したのはナムだった。

「私のターン。手札から〈墓守の司令官〉を墓地へ捨てて効果発動。デッキから〈王家の眠る谷―ネクロバレー〉を1枚手札に加えます。〈王家の眠る谷―ネクロバレー〉を発動。」

周囲の景色がみるみる内に変わり、照りつける太陽と草木も生えぬ砂漠、高く険しい谷が姿を現す。その光景に驚いていると、ナムがソリッドヴィジョンによる映像で、よく見れば隣でデュエルしているデュエリストが透けて見えると、言っていた。実際、にそうなのがちよつと悲しい。驚きを返してほしいと白石は思った。

「ターンを続けますよ。魔法カード〈ネクロバレーの玉座〉、デッキから『墓守』モンスターを手札に加える効果を発動します。デッキから〈墓守の霊術師〉を加えます。

〈墓守の霊術師〉を通常召喚」

玉座が怪しく輝き、1枚のカードがナムの手札に加わる。ナムはすぐさまそのカードを召喚する。全体的に黒い服を着た女性が現れた。

〈墓守の霊術師〉 攻撃表示

星4／闇属性／魔法使い族／効果モンスター

ATK／1500 DEF／1500

「さらに、フィールド魔法〈王家の眠る谷／ネクロバレー〉の効果により、霊術師の攻撃力・守備力は500ポイントアップします」

〈墓守の霊術師〉 ATK／1500↓2000 DEF／1500↓2000

「続いて、フィールドに〈王家の眠る谷／ネクロバレー〉が存在するので霊術師のモンスター効果を発動。魔法使い族の融合モンスターカードによって決められた、フィールドのこのカードを含む融合素材モンスターを自分の手札・フィールドから墓地へ送り、その融合モンスターをEXデッキから融合召喚します。私はフィールドの霊術師と、

手札の〈墓守の偵察者〉を素材に融合召喚！ EXデッキから、〈墓守の異能者〉を攻撃表示で特殊召喚します」

2体のモンスターが光の中で混じり合い、手に持った杖が特徴的な白髪の男性がその光の中から現れた。

〈墓守の異能者〉 攻撃表示

星7／闇属性／魔法使い族／融合／効果モンスター

ATK／2000 DEF／2000

「異能者のモンスター効果。このカードの攻撃力・守備力は、このカードの融合素材とした元々のレベルの合計×100アップします。レベルの合計は8、よって800ポイントアップ！そして、〈王家の眠る谷ーネクロバレー〉の効果で攻撃力・守備力は500ポイントアップ！これはおまけですが、フィールドに〈王家の眠る谷ーネクロバレー〉が存在する限り、このカード及び自分のフィールドゾーンのカードは効果で破壊されません」

〈墓守の異能者〉 ATK／2000↓2800↓3300 DEF／2000↓2800↓3300

「カードを1枚伏せて、魔法カード〈王家の生け贄〉を発動。このカードは自分フィードの〈王家の眠る谷・ネクロバレー〉が存在している時に発動可能です。お互いの手札のモンスターカード全てを墓地へ捨てます。私の手札は0枚なので捨てるカードはありません」

どこからか黒いモヤが出てきて白石の手札にあるモンスターカードを包み込んだ。

「手札から〈裁きの龍〉と〈ゴブリンドバーク〉、〈ネクロ・ガードナー〉の3枚を墓地へ」
「最後に異能者の効果発動。私はこのターンのエンドフェイズに、デッキから『墓守』モンスター1体または『ネクロバレー』カード1枚を手札に加えます。エンドフェイズに入りデッキから『ネクロバレーの祭殿』を手札に加えます。ターンを終了」

異能者の周りにエネルギーのような何かが集まると、1枚のカードとなりナムの手札に加わった。

「僕のターン、ドロ。魔法カード〈光の援軍〉、デッキを上から3枚墓地へ送り発動。デッキからレベル4以外の『ライトロード』モンスター、〈ライトロード・メイデン ミネルバ〉を手札に加える」

白石の背後に光が集まると、そこから1枚のカードがはじき出され手札に加わる。
「続けて、魔法カード〈ソーラー・エクステンジ〉を手札のミネルバを捨てて発動」

太陽が瞬くと共に白石の手札のカードが1枚光輝き、躊躇なくそのカードを墓地へ捨

てる。

「ではここで、カウンター罫へネクロバレーの王墓。このカードは私のフィールドに『墓守』モンスターと〈王家の眠る谷―ネクロバレー〉が存在する場合に発動できます。

モンスター効果・魔法・罫カード発動を無効にし破壊します」

だが、新たに手札を加えようとした時、謎の力により引いたカードが押し戻される。多分、呪いか何かだろう。

「……くつ、だけどミネルバの効果によりデッキを上から1枚墓地へ送る。モンスターをセットしてターンエンド」

「私のターン、ドロ。魔法カード〈強欲で謙虚な壺〉を発動。デッキの上から3枚めくり、その中から1枚を手札に加え、残りのカードをデッキに戻します。このカードを発動するターン、私は特殊召喚出来ませんが問題ありません。〈墓守の石版〉を手札に加えます。」

2つの顔の付いた壺がナムの前に現れると、壺が砕けて中から3枚のカードが飛び出る。その中から1枚選ぶと、残りのカードは消えていった。

「永続魔法〈ネクロバレーの祭殿〉を発動。このカードがフィールドに存在する限り、お互いに『墓守』モンスター以外の特殊召喚が出来なくなりです」

ナムの背後に巨大な石像が床を突き抜け生えてくる。さらに奥には、長い階段と建

物が見える。

「な、なんだって!」

「バトルフェイズに入ります、異能者で伏せてあるモンスターを攻撃」

杖の先から魔力の塊が撃ち出され、伏せていたモンスターを破壊する。破壊されたカードと共にピエロのようなモンスターも消える。破壊された

「伏せていたモンスターは〈Emトリック・クラウン〉でしたか。ですが、〈ネクロバレーの祭殿〉の効果により自己蘇生の効果は発動できません。バトルフェイズを終了して、メインフェイズ2へ。異能者の効果を発動して、エンドフェイズ。デッキから〈ネクロバレーの王墓〉(2枚目)を手札に加えます。これで、ターンを終了」

再び異能者の周囲にエネルギーが集まると、カードの形となってナムの手札に加わる。

「僕のターン、ドロロー。カードを1枚セットしてターンエンド」

「私のターン、ドロロー。手札の〈墓守の石版〉を発動。墓地から〈墓守の司令官〉と〈墓守の偵察者〉の2枚を手札に加えます。この効果は〈王家の眠る谷〉〈ネクロバレー〉の効果を受けません」

巨大な石版が輝き、2枚のカードが墓地からナムの手札に加わる。

「〈墓守の司令官〉を通常召喚」

ジャツカルの仮面を付けた男が現れる。

〈墓守の司令官〉 攻撃表示

星4／闇属性／魔法使い族／効果モンスター

ATK／1600 DEF／1500

「王家の眠る谷ーネクロバレー」の効果で司令官もパワーアップ！」

〈墓守の司令官〉 ATK／1600↓2100 DEF／1500↓2000

「バトルフェイズに入ります、異能者でダイレクトアタック！」

異能者が杖の先に魔力を集めて撃ち出す。

「墓地の〈ネクロ・ガードナー〉を除外して……、できない！」

「フィールド魔法〈王家の眠る谷ーネクロバレー〉の効果により、墓地のカードに効果が及ぶ魔法・罠・モンスター効果は無効化され、お互いに墓地のカードを除外する事はできません。」

白石 LP 8000↓4700

「司令官でもダイレクトアタック！」

司令官が距離を詰め、手持ちの杖で殴りつける。

白石 LP 4700↓2600

「メインフェイズ2に入り、カードを1枚セットして、異能者の効果を発動。そしてエンドフェイズにデッキから〈ヘネクロバレーの神殿〉を手札に加えます。ターンを終了」
「待った！ ターン終了時にリバースカードオープン！ 〈砂塵の大嵐〉！ 僕は〈ヘネクロバレーの神殿〉と今セットしたカードを対象に発動。そのカードを破壊する！ このカードを発動するターン、バトルフェイズを行えないけど相手ターンだから問題ない！」

カードから発生した2つの大嵐がそれぞれのカードを吹き飛ばし破壊する。それと同時に、巨大な石像なども消え去る。

「なるほど、いいでしょう。では、改めてターン終了です」

「僕のターン、ドロロー。〈ライトロード・アサシン ライデン〉を通常召喚。効果を発動してデッキを上から2枚墓地へ送る。」

浅黒い肌の男性が現れ、短刀をデッキ向かって投げ放つ。短刀はデッキに当たり、

上から2枚のカードを墓地へ送った。

「墓地へ送られたカードは、〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉と〈ライトロード・アーチャー フェリス〉！ よって攻撃力は200ポイントアップ！」

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 ATK/1700↓1900

「さらに、墓地へ送られた2枚のカードは自身の効果によってフィールドに特殊召喚される。ウォルフとフェリスを特殊召喚！」

白い獣頭の男とネコの耳と尻尾の生えた弓兵が現れる。

〈ライトロード・アーチャー フェリス〉 攻撃表示

星4/光属性/獣戦士族/特殊召喚/チューナー/効果モンスター

ATK/1100 DEF/2000

「フェリスをリリースし、司令官を対象に効果発動。そのモンスターを破壊する。」

その後、デッキの上から3枚墓地へ送る」

フェリスが司令官に3本の矢を放つ。それらは全て司令官の体に命中し、破壊する。その後、どこかへと姿を消した。

「ウォルフとライデンでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ラン

ク4、〈ライトロード・セイント ミネルバ〉を守備表示で特殊召喚」
 2体のモンスターが暗い穴に飛び込むと、片手にフクロウを止まらせた白い服の女性が姿を現す。

〈ライトロード・セイント ミネルバ〉 守備表示

ランク4／光属性／天使族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2000 DEF／800

「ORUを1つ取り除きミネルバの効果を発動。 デッキを上から3枚墓地へ送る。

その中に『ライトロード』モンスターがあった場合、その数だけドローする」

ミネルバの手に止まっていたフクロウがデッキの上から3枚のカードを啜えてどこかへ飛び去る。

「墓地へ送られたカードは〈ライトロード・ハンター ライコウ〉と〈ライトロード・モ
 ンク エイリン〉、〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉(2枚目)の3枚。 よって、
 デッキから3枚ドロー！ その後、墓地からウォルフを守備表示で特殊召喚する」

再び、ウォルフがフィールドに現れる。 今度は身構えている。

「これでターンエンド」

「私のターン、ドロ。〈墓守の召喚師〉を通常召喚。〈王家の眠る谷〉ネクロバレー」の効果によりパワーアップ！」

黒い服に身を包んだ坊主頭の男が現れる。

〈墓守の召喚師〉 攻撃表示

星3／闇属性／魔法使い族／効果モンスター

ATK／1200 DEF／1500

〈墓守の召喚師〉 ATK／1200↓1700 DEF／1500↓2000

「バトルフェイズに入ります、召喚師でウォルフを攻撃」

召喚師がなにやら呪文を唱えるとウォルフの周辺にイナゴの群れが呼び出される。

イナゴは餌を見つけると獰猛に食らいつきウォルフを破壊する。 ……あまり見たくない光景だった

「続けて、異能者でミネルバを攻撃」

異能者から放たれた魔力の塊がミネルバを撃ち抜いた。

「破壊されたミネルバの効果発動。デッキの上からカードを3枚墓地へ送る。その中に『ライトロード』カードがあつた場合、その数までフィールドのカードを選んで破

壊できる。墓地へ送られた中に〈ライトロード・サモナー ルミナス〉(2枚目)があったので召喚師を破壊する！」

ミネルバが最後の力を振り絞り、召喚師に光の槍を撃ちだし破壊する。

「フィールドから墓地へ送られた召喚師の効果発動。デツキから攻撃力1500ポイント以下の『墓守』モンスターを1枚、手札に加えます。私はデツキから〈墓守の神職〉を加えます」

召喚師は自身が消滅する前にカードを1枚召喚すると、ナムの方へ投げ渡す。

「メインフェイズ2に入ります。カードを1枚伏せて、異能者の効果発動。エンドフェイズに〈ネクロバレーの玉座〉(2枚目)を手札に加えます。これでターンを終了」
「僕のターン、ドロロー。〈ゴブリンドバーグ〉(2枚目)を通常召喚」

赤い飛行機に乗ったゴブリンが飛来する。大きな箱を牽引しているようだ。

〈ゴブリンドバーグ〉 攻撃表示

星4/地属性/戦士族/効果モンスター

ATK/1400 DEF/0

「ゴブリンの効果発動。手札からレベル4以外のモンスターを特殊召喚し、このカー

ドを守備表示にする。〈ライトロード・スピリット シャイア〉を特殊召喚」
飛行機から箱が投下され、その中から背中に光の翼の生えた女性が姿を現す。

〈ライトロード・スピリット シャイア〉 攻撃表示

星3／光属性／天使族／効果モンスター

ATK／400 DEF／1400

「シャイアの効果。このカードの攻撃力は墓地の『ライトロード』モンスターの種類×300ポイントアップする。墓地には12種類の『ライトロード』モンスターが存在している、よって攻撃力は3600ポイントアップし、4000になる！」

〈ライトロード・スピリット シャイア〉 ATK／400↓4000

「ほう、超えてきましたか」

「バトルフェイズ！ シャイアで異能者を攻撃！」

シャイアの杖の先から光線が放たれる。

「攻撃宣言時に伏せてあるカードを発動します。永統罫〈ネクロバレーの神殿〉。私のフィールドに『墓守』モンスター及び〈王家の眠る谷―ネクロバレー〉が私のフィールドに存在する限り、あなたのフィールドの全てのモンスターの攻撃力・守備力は50

0ポイントダウンします」

巨大な神殿がナムの背後にそびえ立つ。

〈ライトロード・スピリット シャイア〉 ATK／4000↓3500 DEF／1400↓900

〈ゴブリンドバーグ〉 ATK／1400↓900 DEF／0↓0

「それでも攻撃力はこちらが上、ダメージは受けてもらおう！」

異能者が魔力の塊を放ち、光線を迎え撃つが僅かに攻撃力が勝る光線が魔力の塊を貫き異能者を破壊する。異能者がフィールドから消滅した後、白石のフィールドに掛かっていた神殿の力が消え去る。

ナム LP 8000↓7800

〈ライトロード・スピリット シャイア〉 ATK／3500↓4000 DEF／900↓1400

〈ゴブリンドバーグ〉 ATK／900↓1400 DEF／0↓0

「バトルフェイズを終了し、エンドフェイズ。シャイアの効果でデッキの上から2枚を墓地へ送る。墓地へ送られた中に〈ライトロード・アーチャー フェリス〉(2枚目)

があつたので守備表示で特殊召喚。これでターンエンド」

シャイアが輝き、デッキからカードが墓地へ送られる。その光を見たのかフェリスがどこからかやってきた。

「私のターン、ドロロー。〈ネクロバレーの玉座〉(2枚目)を発動。デッキから〈墓守の大神官〉を手札に加えます」

玉座がまた怪しく輝くと一枚のカードがナムの手札に加えられる。

「〈墓守の神職〉を通常召喚、これにより私のフィールドに『墓守』モンスターと〈王家の眠る谷〉ネクロバレー〉が揃ったので、神殿の効果によりあなたのフィールドのモンスターは攻撃力・守備力は再び500ポイントダウンします」

金色の杖を持った白黒の服の男が紫色の魔力を漂わせながら現れる。

〈墓守の神職〉 攻撃表示

星3 / 闇属性 / 魔法使い族 / 効果モンスター

ATK / 500 DEF / 1500

〈ライトロード・スピリット シャイア〉 ATK / 4000 ↓ 3500 DEF / 14

00 ↓ 900

〈ライトロード・アーチャー フェリス〉 ATK / 1100 ↓ 600 DEF / 200
0 ↓ 1500

〈ゴブリンドバグ〉 ATK / 1400 ↓ 900 DEF / 0 ↓ 0

「神職の効果。 このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した場合、墓地のレベル4の『墓守』モンスター1体、私は〈墓守の霊術師〉対象にして発動します。 そのモンスターを表側攻撃表示か裏側守備表示で特殊召喚する。 この効果は〈王家の眠る谷〉ネクロバレー〉の効果を受けません。 表側攻撃表示で特殊召喚！」

神職の不思議な力により、黒い服の女性が墓地より呼び戻される。

「霊術師の効果を発動します。 フィールドの霊術師と手札の〈墓守の大神官〉を素材に融合召喚！ 〈墓守の異能者〉（2体目）を攻撃表示で特殊召喚。 融合素材としたモンスター1のレベルの合計は12、よって攻撃力・守備力を1200ポイントアップ！ さらに、〈王家の眠る谷〉ネクロバレー〉の効果で攻撃力・守備力をもう500ポイントアップ！」

2体のモンスターが光の中で混ざり合い、再び白髪の男が呼び出される。

〈墓守の異能者〉 ATK / 2000 ↓ 3200 ↓ 3700 DEF / 2000 ↓ 3200 ↓ 3700

「バトルフェイズに入ります、異能者でシャイアを攻撃」

異能者の放つ魔力の塊が光線を突き抜けシャイアに命中し破壊する。

白石 LP 2600↓2400

「神職でゴブリンを攻撃」

漂っていた魔力を杖の先に集めると狙いを定め放つ、魔力の塊はゴブリンの乗った飛行機の当たり黒い煙を上げながらどこかへと不時着しようだ。

「メインフェイズ2に入ります。異能者の効果を発動。そのままエンドフェイズに入り、デッキから〈ネクロバレーの祭殿〉(2枚目)を手札に加えます。これでターンを終了」

「僕のターン、ドロロー。〈裁きの龍〉を攻撃表示で特殊召喚。フェリスをリリースして〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉をアドバンス召喚！」

「どちらのモンスターも神殿の効果を受けてもらいます」

「……くつ、だけど、グラゴニスは自身の効果により墓地の『ライトロード』モンスターの種類×300ポイントパワーアップ！ 13種類あるから3900ポイントアップする」

〈裁きの龍〉 ATK/30002500 DEF/26002100

〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉 ATK／2000↓5900↓5400
 DEF／1600↓5500↓5000 D

「バトルフェイズ！ グラゴニスで異能者を攻撃」

グラゴニスが光のブレスを吐く、異能者は魔力の塊を放ち迎え撃つが魔力の塊ごとブレスに飲まれて消滅する。

ナム LP 7800↓6100

「〈裁きの龍〉で神職を攻撃」

裁きの龍がその翼で突風を巻き起こす。突風と共に無数の羽根が神職を襲い、体中に突き刺さる。突風が止むと神職が床に倒れ伏しそのまま消滅する。それと同時に、神殿の効果から白石のモンスター達が解放される。

ナム LP 6100↓4100

〈裁きの龍〉 ATK／25003000 DEF／21002600

〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉 ATK／5400↓5900 DEF／50

00↓5500

「エンドフェイズ、〈裁きの龍〉とグラゴニスの効果。『チェーン1』〈裁きの龍〉、『チェーン2』グラゴニスで処理に入ります。『チェーン2』でデッキの上から3枚墓地へ送り、『チェーン1』でデッキの上から4枚墓地へ送る。墓地へ送られた中にヘライトロード・ビースト ウォルフ（3枚目）があつたので攻撃表示で特殊召喚。ター
ンエンド」

ウォルフが張り切ってフィールドに登場したが、エンドフェイズだった事を知り、少ししよんぼりしているように見えた。

「私のターン、ドロロー。モンスターを伏せてターンを終了します」

「僕のターン、ドロロー。バトルフェイズに入り、グラゴニスでモンスターを攻撃。グ

ラゴニスは貫通能力を持つ！」

グラゴニスは伏せてあるモンスターに突進し、踏み砕く。カードの下から〈墓守の偵察者〉が出てきたがボロボロである。

「ダメージ計算時に〈王家の眠る谷ーネクロバレー〉と神殿の効果が適用されます」

〈墓守の偵察者〉 ATK/1200↓1700 DEF/2000↓2500

ヘライトロード・ドラゴン グラゴニス ATK/5900↓5400 DEF/55

00↓5000

ナム LP 4100↓1200

「偵察者のリバース効果発動。デッキから攻撃力1500以下の『墓守』モンスターを特殊召喚します。〈墓守の暗殺者〉を守備表示で特殊召喚」

偵察者は自身の最後を悟り、信号弾を放つ。それを見た黒い服の暗殺者がフィールドに現れる。

〈墓守の暗殺者〉 守備表示

星4／闇属性／魔法使い族／効果モンスター

ATK／1500 DEF／1500

「暗殺者は〈王家の眠る谷／ネクロバレー〉の効果でパワーアップ!」

〈墓守の暗殺者〉 ATK／1500↓2000 DEF／1500↓2000

「〈裁きの龍〉で暗殺者を攻撃」

裁きの龍が暗殺者に向けて光線を放つ。暗殺者は波打つ刃の短剣で防ごうとするが致命傷を受けて消滅する。

「これで神殿の効果が解除される！ ウォルフでダイレクトアタック！」
 ウォルフが持っていた武器を全力で投擲する。

〈裁きの龍〉 ATK／2500↓3000 DEF／2100↓2600

〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉 ATK／5400↓5900 DEF／5000↓5500

〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉 ATK／1600↓2100 DEF／0↓300

「その攻撃、受けましょう」

ナム LP 1200↓0



「対戦ありがとうございます！」

「ええ、こちらこそありがとうございます。 そうだ、良かったらこれをどうぞ」

ナムは懐から何かのチラシを出してきた。

「ナムさんのカレー屋本店……？ もしかして……」

「はい、私のお店です。 良かったら今度食べに来て下さい、割引クーポンもありますので」

それだけ言うと、ナムはカウンターに勝敗を伝えに行った。

「カレー屋か、今度誰か誘って行ってみよう」



カウンター近くまで来ると、カミュが居た。

「お疲れ様、そっちはどうだった？」

「お疲れ様、ボクは勝てたよ。 白石君はどうだった？」

「なんとか勝てたよ。 それと対戦相手からこれもらったんだけど、今度予定の空いてる日に一緒に行かない？」

「ナムさんのカレー屋本店か、あの店だね。 いいよ、今度一緒に行こうじゃないか」

こうして次に名前が呼ばれるまで、今度の予定の事で話し合う2人だった。

第7話 ラフレシアを討て

「2回戦目の組み合わせが決まりましたので、呼ばれた方はデュエルを開始して下さい」
次々と対戦者達の名前が呼ばれていく。

「カミーユさん、ロップさん、デュエルを開始して下さい」

「ボクが呼ばれたようだね、ちよつと行つてくるよ」

「カミーユ、頑張つてね」

「ありがとう」



「ロップです、対戦よろしくお願いします」

対戦相手は赤い髪の女性のようだ。

「カミーユです、こちらこそよろしくお願いします」

お互いにデュエルディスクを構える。ランプが灯り、決定権がカミュに委ねられる。

「ボクは後攻を選ぶよ」

「わかりました、先行をやらせてもらいます」

「デュエル！」

カミュ LP 8000

ロップ LP 8000

「私のターン。永続魔法〈武装鍛錬〉を発動し、モンスターと魔法・罨ゾーンにカードをそれぞれ一枚ずつセットしてターンエンドします」

ロップの背後にたくさんの武器のアイコンが載ってるボードが出現する。

「ボクのターン、ドロロー。魔法カード〈融合〉を発動。手札の〈捕食植物スピノ・デオネア〉と〈捕食植物サンデウ・キンジー〉を素材に融合召喚！〈捕食植物キメラフレスシア〉を攻撃表示で特殊召喚！」

2体のモンスターが光の中で混ざり合う、光が収まると巨大なラフレシアの花がツタ

を触手のように伸ばし相手を威嚇している。

〈捕食植物（プレデター・プランツ）キメラフレシア〉 攻撃表示

星7／閻属性／植物族／融合／効果モンスター

ATK／2500 DEF／2000

「バトルフェイズ！ キメラフレシアでモンスターを攻撃」

キメラフレシアが勢いよく溶解液を吐き出す。溶けて消滅する寸前に緑色の牛のようなモンスターが見えた。

「破壊されたのは〈化合獣オキシシ・オックス〉か、『化合獣』珍しいテーマだね」

「おや、カミーユさんはもしかして化合獣の良さがわかる？」

「なかなか渋いテーマだと思う」

「おお！ これは久々にデュエルを楽しめそうだね」

「ボクはメインフェイズ2で、カードを2枚セットしてターンエンド」

「私のターン、ドローフェイズに〈武装鍛錬〉の効果発動。通常のドローの代わりに、

デツキまたは墓地から装備魔法を1枚選んで手札に加える。私はデツキから〈スーペ

ルヴィス〉を手札に加える」

ボードのアイコンが光り、様々な武器を經由して1つのアイコンに辿り着くと、そこから1枚のカードが降ってきてトップの手札に加わった。

「メインフェイズ、手札から魔法カードへ思い出のブランク」を墓地の「化合獣オキシンのオックス」を対象に発動。そのモンスターを特殊召喚、守備表示で出すよ」

緑色の牛のようなモンスターが墓地から現れる。

「化合獣オキシンのオックス」 守備表示

星2 / 風属性 / 獣族 / デュアル / 効果モンスター

ATK / 0 DEF / 2100

デュアルモンスター、フィールドと墓地で通常モンスターと同じ扱いを受けるモンスター。フィールドに居る時に再度召喚すれば、効果モンスターとなり元々持っている効果を得られると言う変わったモンスターである。

「オキシンのオックスを再召喚！ これで効果が使えるようになった。オキシンのオックスのモンスター効果発動。手札から『デュアル』モンスター1体を特殊召喚し、自分フィールドの全てのモンスターはターン終了時まで、この効果で特殊召喚した元々のレベルと同じになる。手札からレベル8の「進化合獣ダイオーキシン」を攻撃表示で

特殊召喚し、レベルを8に統一」

オキシンのオックスの効果で手札から両手がハサミの悪魔が呼び出され、ロップのフィールドのモンスターのレベルが統一される。

〈進化合獣ダイオーキシン〉 攻撃表示

星8／閻属性／悪魔族／デュアル／効果モンスター

ATK／2800 DEF／2000

〈化合獣オキシンのオックス〉 星2↓8

「レベル8になったオキシンのオックスとレベル8のダイオーキシンでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク8、〈魔海城アイガイオン〉を守備表示で特殊召喚」

2体のモンスターが暗い穴に沈み、海上ではなく店内にギリギリのサイズで青い機械の要塞が登場する。閉塞感がなんかすごい。

〈魔海城アイガイオン〉 守備表示

ランク8／水属性／機械族／エクシース／効果モンスター

ATK／？ DEF／3000

「狭くってゴメンね、アイガイオンのモンスター効果発動。相手のEXデッキの裏側表示のモンスターをランダムに1枚除外する。このカードの攻撃力は除外したモンスターと同じになる。この効果は相手ターンでも発動できる！」

カミュのEXデッキが裏側表示でフィールドに浮かび上がり、ロップはその内の1枚を選んだ。選ばれたカードが除外される、〈捕食植物トリフィオヴェルトウム〉と言うカードだった。

「おお！ 良いのが当たった！ そのモンスターの攻撃力は3000、よってアイガイオンの攻撃力も3000になる！」

〈魔海城アイガイオン〉 ATK／？ ↓3000

「私はこれで、ターンエンド」

「ボクのターン、ドロロー。まずは永続罫〈捕食惑星〉を発動する。続いて〈捕食計画〉、デッキから『捕食植物』モンスター1体、〈捕食植物ドロソフィルム・ヒドラ〉を墓地へ送って発動」

「私は〈捕食計画〉の発動に『チェーン』してアイガイオンの1つ目の効果発動。さら

に『チェーン』してアイガイオンの2つ目の効果をORUを1つ取り除き、除外されている融合モンスター〈捕食植物トリフィオヴェルトウム〉を対象に発動。他にチェーンはある？」

「いや、ないよ」

「それなら、処理に入って『チェーン3』のアイガイオンの効果で〈捕食植物トリフィオヴェルトウム〉をカミューさんのEXデッキに戻し、キメラフレシアを破壊する」

アイガイオンが変形し、ミサイルやレーザーを発射してくる。それらは全てキメラフレシアに命中し爆散させた。

『チェーン2』のアイガイオンの効果でまたEXデッキから1枚除外させてもらいます」

再びEXデッキのカードが裏側表示で展開され、その中から1枚をロップが選ぶ。除外されたカードは〈ヘスターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン〉だった。

「今度は攻撃力が2800になるよ」

〈魔海城アイガイオン〉 ATK/3000↓2800

『チェーン』の〈捕食計画〉の効果で、フィールドの表側表示のモンスター全てに『捕食カウンター』を1つずつ置く。『捕食カウンター』の置かれたレベル2以上のモンスターのレベルは1になるけど、エクシーズモンスターはランクだからあまり関係ないか

な」

目と口の付いた種がアイガイオンにかじりつく。これが『捕食カウンター』かと、白石は観戦しながら思った。

『捕食カウンター』の置かれたモンスタをリリースする事で墓地のドロソフィルム・ヒドラは特殊召喚できる。アイガイオンを墓地へ」

突如アイガイオンが消え去り、カミュの墓地から何食わぬ顔で緑色の植物が出てくる。

〈捕食植物ドロソフィルム・ヒドラ〉 攻撃表示

星5／闇属性／植物族／効果モンスタ

ATK／800 DEF／2300

『捕食カウンター』の置かれたモンスタがフィールドを離れた事により、〈捕食惑星〉の効果発動。デッキから『プレデター』カードを1枚手札に加える。デッキから〈プレデター・プライム・フュージョン〉を手札へ。」

〈捕食惑星〉のカードから種が飛んでくる。カミュはそれをキャッチすると種が砕け、中からカードが1枚手札に加わる。

「永続魔法〈プレテター・プランター〉を発動。1ターンに1度、手札・墓地からレベル4以下の『捕食植物』モンスターを効果を無効にして特殊召喚する。この効果で墓地から〈捕食植物スピノ・ディオネア〉を攻撃表示で特殊召喚する」

床が砕け、地面が盛り上がり、と背中に大きな口の付いた恐竜のようなモンスターが生えてきた。床は気が付くと元に戻っている。

〈捕食植物スピノ・ディオネア〉 攻撃表示

星4 / 闇属性 / 植物族 / 効果モンスター

ATK / 1800 DEF / 0

「バトルフェイズ、スピノ・ディオネアでダイレクトアタック」

スピノ・ディオネアは素早く走り距離を詰める。

「ライフで受けるよ!」

ロップの体をスピノ・ディオネアがかじりつく。

ロップ LP8000 ↓ 6200

「ドロソフィルム・ヒドラでもダイレクトアタック」

ドロソフィルム・ヒドラが触手のような部分を使い高く跳躍する。

「そつちもライフで受けるよ」

ロップの真上からドロソフィルム・ヒドラが落下し、ボディプレスを決めた。

ロップ LP 6200↓5400

「手札から速攻魔法〈プレデター・プライム・フュージョン〉を発動！ 自分ワールドのドロソフィルム・ヒドラとスピノ・デオネアの2体で融合召喚！ 〈スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン〉（2枚目）を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが混ざり合い、紫色のドラゴンが姿を現す。

〈スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン〉 攻撃表示

星8／闇属性／ドラゴン族／融合／効果モンスター

ATK／2800 DEF／2000

「墓地の〈捕食計画〉の効果。 このカードが墓地に存在する状態でボクが闇属性の融合モンスターを融合召喚に成功した場合、墓地のこのカードを除外し、フィールドのカード1枚を対象に取って発動する。 そのカードを破壊する。 ボクが選択するのは、そのセットされたままのカードだ！」

〈捕食計画〉のカードから触手が伸び、セットされていたカードを貫き破壊した。

「スターヴ・ヴェノムでダイレクトアタック」

翼を広げたスターヴ・ヴェノムがビームを放つ。

「ライフで受けるよ」

ビームがロツプを直撃する。

ロツプ LP 5400↓2600

「ボクはこれでターンエンド」

「私のターン、ドロー」

「スタンバイフェイズ、いいかな？ ボクの墓地へ送られたキメラフレシアの効果発動。

墓地へ送られた次のスタンバイフェイズに『デッキから『融合』魔法カードか『フュー

ジョン』魔法カード1枚を手札に加える。デッキから『融合』を加えさせてもらうよ」

「メインフェイズ、手札から魔法カード〈増援〉発動。デッキからレベル4以下の戦士

族モンスター、〈昇華騎士―エクスパラディン〉を手札に加えて、そのまま通常召喚」

体から蒸気を吹き出している騎士が召喚される。暑くないのだろうか……？

〈昇華騎士―エクスパラディン〉 攻撃表示

星3／炎属性／戦士族／効果モンスター

ATK／1300 DEF／200

「召喚に成功したエクスパラデインの効果発動。手札・デッキから戦士族・炎属性モンスターまたは『デュアル』モンスター1体を選び、攻撃力500ポイントアップの装備カードとして扱いこのカードに装備する。デッキからエヴォルテクター エヴェックを装備」

エクスパラデインの全身に力が宿りパワーアップする。

〈昇華騎士―エクスパラデイン〉 ATK/1300↓1800

「武装鍛錬」の2つ目の効果。墓地の『デュアル』モンスター、へ化合獣オキシシン・オックスをデッキの一番下に戻して発動。1枚デッキからドロロー」

ロップは後ろにあったボードの下にオキシシン・オックスのカードを入れると、代わりに1枚のカードが出てきた。

「カードを1枚セットして、ターンエンド」

「ボクのターン、ドロロー。スタンバイフェイズにへプレデター・プランター」の効果で800のライフを支払い維持する」

カミュ LP 8000↓7200

「バトルフェイズ、スターヴ・ヴェノムでエクスパラディンを攻撃」

鋭い尻尾でエクスパラディンを刺し貫くが、残りの力で自身を強化していた力の源を鎧の下から取り出し外へ投げ捨てる。

ロップ LP 2600→1600

「このぐらいは織り込み済み、破壊されたエクスパラディンの効果発動。このカード

に装備されていた『デュアル』モンスターを可能な限り自分フィールドに特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは再召喚した状態として扱う。墓地からへエ

ヴォルテクター エヴェックを守備表示で特殊召喚」

燃え上がるとげ付き鉄球を持つ赤い戦士が守りを固めて登場する。

へエヴォルテクター エヴェック 守備表示

星4/炎属性/戦士族/デュアル/効果モンスター

ATK/1500 DEF/1000

「再召喚状態のエヴェックの効果。エヴェック以外の墓地の戦士族・炎属性モンス

ターまたは『デュアル』モンスター1体、(進化合獣ダイオーキシン)を対象として発動。

そのモンスターを特殊召喚する。私は攻撃表示で特殊召喚！」

炎に包まれながらダイオーキシンはフィールドに復活を果たす。

「ボクはこれでターンエンド」

「待った！ エンドフェイズにリバースカードオープン！ 罠カード〈完全燃焼〉をフィールドのダイオーキシンを除外して発動。デッキから名前の異なる『化合獣』モンスターを2体、特殊召喚する。デッキから〈進化合獣ダイオーキシンの〉（2枚目）と〈進化合獣ヒュードラゴン〉を守備表示で特殊召喚」

ダイオーキシンの突然燃え上がり消滅する。その後、ダイオーキシンの首が4つある青い竜がフィールドに現れた。どちらも守りを固めているようだ。

〈進化合獣ヒュードラゴン〉 守備表示

星8／水属性／ドラゴン族／デュアル／効果モンスター

ATK／200 DEF／2800

「改めて、ターンエンド」

「私のターン、ドロロー。2体のレベル8モンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク8、〈超化合獣メタン・ハイド〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが暗い穴に飲まれる、様々な『化合獣』の特徴が入り混じったモン

スターがフィールドに降り立った。

〈超化合獣メタン・ハイド〉 攻撃表示

ランク8／炎属性／獣戦士族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／3000 DEF／3000

「手札から〈化合獣ハイドロン・ホーク〉を通常召喚」

青い翼の鳥型モンスターが空から飛んでやってきた。

〈化合獣ハイドロン・ホーク〉 攻撃表示

星2／水属性／鳥獣族／デュアル／効果モンスター

ATK／1400 DEF／700

「ハイドロン・ホークが通常召喚に成功したので、メタン・ハイドのORUを1つ取り除き効果発動。相手は自身の手札・フィールドのカード1枚を墓地へ送らなければなら

ない！」

メタン・ハイドが口から毒霧を吐き出す。

「ボクは〈捕食惑星〉を墓地へ送る」

カミュのフィールドから〈捕食惑星〉のカードが溶けて消えた。

「バトルフェイズ、メタン・ハイドでスターヴ・ヴェノムを攻撃！」

右手のハサミにエネルギーが集まり、5色のビームが発射される。スターヴ・ヴェノムは翼を広げビームを放ち対抗するが、僅かな差で押し返され爆散する。

カミュ LP 7200↓7000

「融合召喚したスターヴ・ヴェノムが破壊された事により効果発動。相手フィールドの特殊召喚されたモンスターを全て破壊する！」

爆散したスターヴ・ヴェノムの破片から毒霧がばらまかれる。それに触れたメタン・ハイドとエヴェックは苦しみもがいた末に消滅する。

「まだハイドロン・ホークが残ってる、ハイドロン・ホークでダイレクトアタック！」
ハイドロン・ホークの翼から羽根のような青い塊が撃ち出される。

カミュ LP 7000↓5600

「メインフェイズ2、〈武装鍛錬〉の2つ目の効果で墓地の〈エヴォルテクター エヴェック〉をデッキの底に戻して、1枚ドロ」

再びボードにカードを入れて、新たな手札と交換する。

「手札の装備魔法〈スーペルヴィス〉をハイドロン・ホークに装備。このカードを装備された『デュアル』モンスターは再召喚状態と同じく効果が使える」

燃え上がるような力がハイドロン・ホークに宿ると、体の色がより透明感が出て鮮やかになった。

「手札を1枚捨て、墓地の〈進化合獣ヒュードラゴン〉を対象にハイドロン・ホークの効果発動。そのモンスターを守備表示で特殊召喚する」

ヒュードラゴンが再びフィールドに戻ってきた。

「これでターンエンド」

「ボクのターン、ドロ。スタンバイフェイズに800のライフを支払う」

カミュ LP 5600↓4800

「メインフェイズ、〈プレデター・プランター〉の効果発動、墓地から〈捕食植物スピノ・デオネア〉を効果を無効にし特殊召喚」

背後からカミュを飛び越えスピノ・ディオネアがフィールドに戻ってきた。

「フィールド魔法〈融合再生機構〉を発動。さらに、手札から〈融合〉発動。手札の

〈捕食植物コーデイセツプス〉とフィールドの〈スピノ・ディオネア〉を素材に融合召喚

！〈捕食植物キメラフレシア〉（2体目）を攻撃表示で特殊召喚！」

フィールドが瓦礫の山に切り替わり、山積みになっていた鉄くずの中からキメラフレシアが触手を器用に使い這い込んできた。

「キメラフレシアの効果。1ターンに1度、このカードのレベル以下のモンスター、

〈化合獣ハイドロン・ホーク〉を対象に発動。そのモンスターを除外する」

口の付いた触手がハイドロン・ホークを咥えると、ガリガリ音を立てて食べてしまった。

「表側表示の〈スーパーヴィス〉がフィールドから墓地へ送られた事により効果発動。

墓地から通常モンスター1体を特殊召喚する！ 墓地から守備表示でダイオーキシンを復活！」

墓地からダイオーキシンが呼び出される。

「バトルフェイズ、キメラフレシアでダイオーキシンを攻撃」

触手を叩きつけると体にヒビが入り、このままバラバラに砕けてしまった。

「エンドフェイズ、〈融合再生機構〉の効果でこのターン融合素材となったモンスターを

1体を墓地から手札に加える。〈捕食植物スピノ・ディオネア〉を手札に戻す。これでターンエンド」

「私のターン、ドロロー。〈武装鍛錬〉の効果発動。墓地の〈化合獣カーボン・クラブ〉をデッキの底に戻して1枚ドロロー。ヒュードドラゴンを再召喚してターンエンド」

「ボクのターン、ドロロー。スタンバイフェイズ、〈プレデター・プランター〉のライフコストを支払わずに破壊する。メインフェイズ、〈捕食植物スピノ・ディオネア〉を通常召喚」

どこからかスピノ・ディオネアが走ってやってきた。

「召喚に成功したスピノ・ディオネアの効果。ヒュードドラゴンを対象に『捕食カウンター』を1つ置く。『捕食カウンター』の置かれたレベル2以上のモンスターのレベルは1になる」

ヒュードドラゴンに向けて、口から顔の付いた種を勢いよく吐き出した。吐き出された種はヒュードドラゴンにかじりつきレベルを下げた。

「キメラフレシアの効果発動。ヒュードドラゴンを除外する！」

触手がヒュードドラゴンに絡みつき、締め上げる。弱ってきたところに溶解液を吐きかけトドメを刺す。残った残骸をバリバリと音を立てて食べ尽くしてしまった。

酷いドキュメンタリーもあつたものだと思戦中の白石は思った。

「バトルフェイズ、キメラフレシアでダイレクトアタック！」

凶悪な触手をロップに向けて伸ばす。

「直接攻撃宣言時に、墓地の〈完全燃焼〉を除外して、除外されているダイオーキシンを対象に効果発動。 攻撃表示で特殊召喚する！ この効果で特殊召喚したダイオーキシンは再召喚状態として扱う。 迎え撃て、ダイオーキシニン！」

ダイオーキシニンが次元の壁を破り、主人に向けられた触手をはねのける。 間近まで迫ったキメラフレシアにダイオーキシニンは得意の格闘戦で応戦する。

「攻撃対象が増えた事により、戦闘の巻き戻しが発生する！ キメラフレシアでダイオーキシニンを攻撃、この攻撃宣言時にキメラフレシアのさらなる効果発動。 ターン終了時まで、戦闘する相手モンスターの攻撃力は1000ダウンし、このカードの攻撃力は1000アップする！」

〈捕食植物キメラフレシア〉 ATK/2500↓3500

〈進化合獣ダイオーキシニン〉 ATK/2800↓1800

キメラフレシアがダイオーキシニンを敵と認識すると溶解液を吐きかけ、触手で締め上げる。 溶解液を吐きかけられたダイオーキシニンは普段のパワーを出せずにバラバラに碎かれ破壊される。

「ライフで受ける！」

ロップ LP 1600↓0



「対戦ありがとうございます」

「こちらこそ、ありがとうございます。 楽しめたけど、しばらくは『捕食植物』は見たくないかな……、特にキメラフレシアだけよ」

「ボクもあんな行動を取るのは初めて見たよ」

ロップはややげんなりした感じでカミュと別れた。

「お疲れ様」

観戦を終えた白石はカミュのところへ行った。

「観戦お疲れ様、少しは参考になったかな？」

「え、うん、まあ、なったと思うよ」

白石の頭の中には、キメラフレシアが怪獣のごとく暴れ回っている姿が鮮明に残るの

であった。

「それなら良かった、次は白石君の番かも知れないから用意していた方がいいよ」
「わかった、ありがとう」

公式戦もまだまだ2回戦、次はどうなるのやらと白石は思うのであった。

第8話 トークン・パニック

対戦していた組み合わせが終わり、次の試合で対戦する者の名前が呼ばれ始める。

白石 蒼さん、ひんでんぶるくさん、デュエルを始めて下さい」

空いている場所で対戦相手を待っていると、頭に大きめのゴーグルを付けたが男性やってきました。

「ひんでんぶるくです、対戦宜しくお願いします」

白石 蒼です、こちらこそ対戦宜しくお願いします」



「デュエル！」

白石 LP 8000

ひんでんぶるく LP 8000

デュエルディスクのランプが灯り、決定権がひんでんぶるくに移る。

「私は先行をもらいます。私のターン、〈幻獣機ライテン〉を通常召喚」

薄い茶色のボディにテンの頭が付いた飛行機が飛んで来た。

〈幻獣機（げんじゅうき）ライテン〉 攻撃表示

星4／風属性／機械族／効果モンスター

ATK／1500 DEF／1500

「手札1枚をコストで捨てて、ライテンの効果発動。自分フィールドに『幻獣機トークン』を1体特殊召喚する。私は守備表示で特殊召喚。この効果の発動後、ターン終了時まで、私は『幻獣機』モンスターしか融合・シンクロ・エクシーズ・リンク召喚の素材にできない」

半透明のライテンがフィールドに現れた。

〈幻獣機トークン〉 守備表示

星3／風属性／機械族／トークン／通常モンスター

ATK／0 DEF／0

「さらに、コストで捨てた〈幻獣機オライオン〉の効果発動。このカードが墓地へ送られた場合、『幻獣機トークン』を1体特殊召喚できる。これも守備表示で特殊召喚」

たてがみの無いライオンっぽい顔の半透明のモンスターがフィールドに現れた。

「現れる天空のサーキット！ 召喚条件は機械族モンスター2体以上。私は2体の

『幻獣機トークン』とライテンをリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク3、

〈幻獣機アウローラドン〉を私から見て左のEXモンスターゾーンに特殊召喚！」

3体のモンスターが竜巻となり、現れたゲートに飛び込む。ゲートから黒い偵察機が飛び出して来た。

〈幻獣機アウローラドン〉 攻撃表示

リンク3／風属性／機械族／リンク／効果モンスター

ATK／2100

「アウローラドンがリンク召喚に成功した場合に発動できる。『幻獣機トークン』を3体特殊召喚する。トークンは守備表示で特殊召喚するよ。このターン、私はもうリンク召喚出来ない」

アウローラドンが3体のトークンを投影する。

「あ、あれ？ 前よりモンスターが増えて無いですか？」

「そうだよ、アウローラドンはリンク召喚すると一気に増えるんだ」

「なるほど」

「ターンを続けるよ、アウローラドンの2つ目の効果、『幻獣機トークン』を2体リリースして発動。デッキから『幻獣機』モンスターを1体特殊召喚するよ、へ幻獣機コルトウイングを攻撃表示で特殊召喚」

白い飛行機が飛来する。

「コルトウイングが特殊召喚に成功した時、他に『幻獣機』モンスターが存在する場合、『幻獣機トークン』を2体特殊召喚する。このトークンも守備表示で出すよ」

コルトウイングが2体のトークンを投影する。フィールドがトークンまみれだ。

「カードを1枚セットしてターンエンドだよ」

「僕のターン、ドロー。へゴブリンドバークを通常召喚」

赤い飛行機に乗ったゴブリンがやってくるが、無数のトークン達を目撃し生還出来ない

さそうなのを察知した。だが、ゴブリンの役目は輸送する事なのであまり関係ない。

「ゴブリンのモンスター効果、手札の〈Emトリック・クラウン〉を特殊召喚し、自身は守備表示になる。トリック・クラウンは攻撃表示で特殊召喚」

ゴブリンが飛行機から大きな箱を投下する。箱からは道化師のようなモンスターが出てきた。

「2体のレベル4モンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！
ランク4、〈ライトロード・セイント ミネルバ〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが空中にできた暗い穴の中に吸い込まれ、左手にフクロウを止まらせた白い服を着た女性が降りてくる。

「ミネルバのORUを1つ取り除き効果発動。デッキを上から3枚墓地へ送り、その中にあつた『ライトロード』モンスターの数だけドロウする。〈ライトロード・アーチャー フェリス〉と〈ライトロード・メイデン ミネルバ〉の2枚があつたので2枚ドロウ。」

ミネルバの持つてる杖から光りがデッキに降り注ぐ、光りに包まれたカードが墓地へと送られた。

「ここで墓地へ送られたフェリスとミネルバの効果が『チェーン』する。『チェーン1』ミネルバ、『チェーン2』フェリスで処理しますけど、何かありますか？」

「いや、無いよ」

「わかりました。処理に入って『チェーン2』のフェリスを守備表示で特殊召喚。

『チェーン1』のミネルバの効果でデッキを上から1枚墓地へ送ります」

墓地から元気よくネコ型獣人のフェリスが飛び出てくる。

「バトルフェイズ、ヘライトロード・セイント ミネルバでコルトウイングを攻撃」

杖の先から光弾を放ち、コルトウイングを攻撃する。

「コルトウイングは私のフィールドにトークンが存在する限り、戦闘・効果で破壊されな
い」

「だけど、ダメージは通る」

ひんでんぶるく LP 8000→7600

「メインフェイズ2、フェリスをリリースしアウローラドンを対象に効果発動。破壊
して自分のデッキの上から3枚墓地へ送る」

フェリスがアウローラドンに矢を3発放つ、それらは全てアウローラドンの装甲を貫
き爆散させる。その後、白石からデッキの上より3枚のカードを渡されるとどこかへ
去っていった。

「フェリスの効果で墓地へ送られた中に〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉があったので、攻撃表示で特殊召喚」

フェリスと入れ違いにウォルフがフィールドにやってきた。

「カードを1枚セットして、ターンエンド」

「私のターン、ドロロー。まずはそのセットカードが気になるから、もつたないけど魔法カード〈ハーピィの羽根箒〉を発動。相手の魔法・罠ゾーンのカードを全て破壊する」

「そのカードに『チェーン』してリバースカードオープン！ 罠カード〈ブレイクスルー・スキル〉。コルトウイングを対象に効果発動。このターン終了時までモンスター効果を無効化する」

「処理に入ろうか、『チェーン2』の〈ブレイクスルー・スキル〉で私のコルトウイングの効果が無効化され、『チェーン1』で君の魔法・罠ゾーンのカードが一掃される」

〈ブレイクスルー・スキル〉の効果でコルトウイングの効果が封じられた後、羽根箒から出た風が突風となり、白石のカードを吹き飛ばす。

「懸念材料は無くなったから、魔法カード〈鹵獲装置（ろかくそうち）〉を発動。お互いは自分のモンスターを1体選択し、そのモンスターのコントロールを入れ替える。

ただし、私は通常モンスターしか選択出来ないんだ。この効果で私は『幻獣機トーク

ン』を選ぶよ」

「ウオルフを選択します」

「では、入れ替えるよ。いいモンスターをありがとう」

お互いに選択したモンスターがフィールド間を移動し、入れ替えが終わる。この時、ひんでんぶるくがニヤリと笑ったのに白石は気付かなかった。

「え、ああ、どういたしまして……?」

「バトルフェイズに入ろうか、コルトウイングで『幻獣機トークン』を攻撃」

コルトウイングの胴体の装甲がスライドし、バルカン砲が出る。投影されたトークンをバルカン砲で攻撃し掻き消す。

「メインフェイズ2、〈鹵獲装置〉(2枚目)を発動。効果はさつき説明した通りさ、私

は『幻獣機トークン』を選択」

「ミネルバを、選択します」

「はい、交換つとね。私はこれでターンエンドさ」

「僕のターン、ドロロー。魔法カード〈ソーラー・エクステンジ〉を手札の〈ライトロード・アーチャー フェリス〉(2枚目)をコストに発動。2枚ドロローして2枚墓地へ送る。〈ライトロード・アサシン ライデン〉を通常召喚」

浅黒い肌の男ことライデンがフィールドに現れた。

「ライデンの効果発動。 デッキの上から2枚墓地へ送る」

短刀をデッキに投げつける。 2枚のカードが刺さり、墓地へ送られる。

「バトルフェイズ、ライデンで『幻獣機トークン』を攻撃」

空を飛び回るトークンに向かってナイフを投げつける。

「攻撃宣言時、リバーズカードオープン！ 速攻魔法〈ヘッドロー・マッスル〉を発動。 私のフィールドの守備力1000以下の表側表示モンスター1体を対象として発動できる。 対象は『幻獣機トークン』だ。 私はデッキから1枚ドロウする。 対象に選択された『幻獣機トークン』はこのターン、戦闘では破壊されない」

ナイフが当たる直前で、トークンが軌道を変え回避する。

「メインフェイズ2、レベル3の『幻獣機トークン』にレベル4のライデンをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル7、〈ライトロード・アーク ミカエルン〉」

白き竜に乗った黄金の戦士がフィールドに降り立つ。

「ミカエルの効果。 1000ライフを支払い、コルトウイングを対象に発動。 そのモンスターを除外する！」

飛び回るコルトウイングに向けて斬撃を飛ばす。 斬撃が命中し、コルトウイングを次元の彼方に吹き飛ばす。

白石 LP 8000↓7000

「エンドフェイズ、ミカエルの効果でデッキの上から3枚を墓地へ送る。これでターンエンド」

「私のターン、ドロロー。〈鹵獲装置〉(3枚目)を発動。私の『幻獣機トークン』と君のミカエルを交換だ」

「くっ、ミカエルが……!」

「〈幻獣機メガラプター〉を通常召喚」

恐竜のような面影のある戦闘機が現れた。

「バトルフェイズ、メガラプターで『幻獣機トークン』を攻撃」

メガラプターが小型ミサイルを発射する。逃げ回るトークンに小型ミサイルが命

中し、消滅させる。

「ミカエルでダイレクトアタック」

「攻撃宣言時、墓地の〈ネクロ・ガードナー〉を除外し効果発動。その攻撃を無効にする」

白き竜と黄金の戦士が突撃してくる。それを阻むように黒い影が現れ攻撃を中断させた。

「ウォルフでダイレクトアタック」

「通します」

ウォルフが手に持つ武器で殴打する。

白石 LP 7000↓4900

「ミネルバでダイレクトアタック」

「それも通します」

杖から放たれる光弾が体を貫いていく。

白石 LP 4900↓2900

「バトルフェイズを終了し、エンドフェイズ。ミカエルの効果でデッキを上から3枚墓地へ送り、ターンエンド」

「僕のターン、ドロー。普段自分が使っているモンスターが奪われるのはなかなか辛いですね……。魔法カード〈増援〉発動。デッキからレベル4以下の戦士族モンスター、ヘライトロード・アサシン ライデン〈2枚目〉を手札に加える。ヘライトロー

ド・サモナー ルミナスを通常召喚」

白い服の女性ことルミナスが呼び出される。

「ルミナスの効果。手札を1枚コストで捨て墓地のライデンを対象に発動。特殊召喚する！」

ライデンが再びフィールドに戻される。

「このターンで自分のモンスターを取り返す！ レベル3のルミナスにレベル4のライデンをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル7、ヘブラック・ローズ・ドラゴンを攻撃表示で特殊召喚！」

赤い薔薇をイメージさせるようなドラゴンがフィールドに現れる。

「ヘブラック・ローズ・ドラゴン」のモンスター効果発動。このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド上の全てのカードを破壊する！ 焼き払え、ブラック・ローズ！」

ブラック・ローズが自身の力を解き放ち、フィールドの全てのカードを破壊する。

「墓地へ送られた「Emトリック・クラウン」の効果発動。トリック・クラウン自身を対象に守備表示で特殊召喚し、僕は1000のダメージを受ける。この効果で特殊召喚したモンスターの攻撃力・守備力は『0』になる」

白石 LP 2900 ↓ 1900

「これでターンエンド」

「私のターン、ドロ。まさか一掃してくるとは思わなかったですね、へ幻獣機テザールフ」を通常召喚」

オオカミのような顔を持つヘリコプターが飛来する。

へ幻獣機テザールフ 攻撃表示

星4 / 風属性 / 機械族 / 効果モンスター

ATK / 1700 DEF / 1200

「テザールフの効果発動。このカードが召喚に成功した時、『幻獣機トークン』を1体特殊召喚する。もちろん守備表示ですが」

テザールフが自身の姿と同じトークンを投影する。

「バトルフェイズ、テザールフでトリック・クラウンを攻撃」

テザールフが2本のアンカーを射出し、トリック・クラウンを破壊する。

「破壊されたトリック・クラウンの効果発動。再びフィールドに攻撃力・守備力を『0』

にして、特殊召喚する。その後、1000のダメージを受ける」

白石 LP 1900↓900

「バトルフェイズを終了し、ターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。レベル4のトリック・クラウンに、同じくレベル4のライデンをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル8、ヘレッド・デーモンズ・ドラゴン・スカーライト」を攻撃表示で特殊召喚！」

片方の角が折れ、右手が傷ついているドラゴンが降臨する。

ヘレッド・デーモンズ・ドラゴン・スカーライト 攻撃表示

星8/闇属性/ドラゴン族/シンクロ/効果モンスター

ATK/3000 DEF/2500

「バトルフェイズ、スカーライトで『幻獣機トークン』を攻撃」

傷ついた右手に炎が宿る。右手をトークンに向け、炎を放射する。その炎はト

クンを包み込んで焼き払う。

ひんでんぶるく LP 7600↓6300

「これでバトルフェイズを終了して、ターンエンド」

「スカーライトですか…… 私のターン、ドロー。カードを1枚セットしてテザールフを守備表示に変更、ターンエンド」

「僕のターン、ドロー。〈ライトロード・スピリット シャイア〉を通常召喚。シャイアは自身の効果で墓地の『ライトロード』の種類×300ポイント攻撃力が上がる、墓地には10種類存在するので3000ポイントアップ！」

光の翼を持つ白い服のモンスターがフィールドに現れる。

〈ライトロード・スピリット シャイア〉 ATK/400↓3400

「バトルフェイズ、スカーライトでテザールフを攻撃」

右手に炎を宿し、再びその炎を相手に向かって放射する。

「君のモンスターにはお帰り願おうか、リバースカードオープン！ 罨カード〈神風のバリアーエア・フォース〉を発動。相手フィールドの攻撃表示モンスターを全て手札に戻す！」

風のバリアが炎を遮り、ひんでんぶるくを守る。その後、風のバリアから発せられ

る暴風が2体のモンスターを吹き飛ばす。

「カードを1枚セットしてターンエンド」

「私のターン、ドロロー。テザールーフを攻撃表示に変更し、〈幻獣機ライテン〉を通常召喚」

テンの頭を持つ飛行機が飛んできた。

「バトルフェイズ、ライテンでダイレクトアタック」

「墓地の〈超電磁タートル〉の効果発動。このカードを墓地から除外し、バトルフェイズを終了する」

ライテンが白石の真上まで飛び、爆弾を投下する。それを回転しながら飛来する亀が直撃する前に甲羅ではじき飛ばし白石の身を守った。

「まだ墓地にあったとはね、君は運がいい」

「たまたま、あつただけです」

「私はこれでターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。再びシャイアを通常召喚、自身の効果で攻撃力が3000ポイントアップ」

シャイアがフィールドに戻ってくる、今度は風で飛ばされないように気合いが入っているように見える。

〈ライトロード・スピリット シャイア〉 ATK/400↓3400

「バトルフェイズ、シャイアでライテンを攻撃」

シャイアが杖の先から光線を放つ、ライテンは様々に軌道を変え回避するも追尾する光から逃れられず最後は撃墜される。

ひんでんぶるく LP 5800↓3900

「エンドフェイズ、シャイアの効果でデッキを上から2枚墓地へ送る。墓地へ送られた中に〈ライトロード・エンジェル ケルビム〉があつたので攻撃力は300ポイントアップ。これでターンエンド」

〈ライトロード・スピリット シャイア〉 ATK/3400↓3700

「私のターン、ドロ。テザーウルフを守備表示に変更し、モンスターをセットしてターンエンド」

「僕のターン、ドロ。〈ライトロード・パラディン ジェイン〉を通常召喚」

白い鎧を身に纏った騎士が剣を掲げ現れる。

〈ライトロード・パラディン ジェイン〉 攻撃表示

星4／光属性／戦士族／効果モンスター

ATK／1800 DEF／1200

「バトルフェイズ、ジェインでセットされたモンスターを攻撃」
カードが裏帰り、ネズミのような顔をした航空機が姿を現す。

〈幻獣機ハムストラット〉

星3／風属性／機械族／リバース／効果モンスター

ATK／1100 DEF／1600

「ジェインの効果。ダメージステップの間、攻撃力が3000ポイントアップ」

〈ライトロード・パラディン ジェイン〉 1800→2100

ジェインの剣がハムストラットの装甲を切り裂き、メインエンジンを破壊する。

「ハムストラットのリバース効果発動。私のフィールドに『幻獣機トークン』を2体特殊召喚する」

ハムストラットは爆散する前に、自身の分身を2体投影する。

リバース効果、裏側守備表示からめくられた時に発動する効果。カードにも依る

が、1ターンに1度の制約を持たないカードも存在する。底知れない効果だったりする。

「シャイアで『幻獣機トークン』を攻撃」

光線がトークンを貫き消滅させる。

「バトルフェイズを終了して、エンドフェイズ。『チェーン1』シャイア、『チェーン2』ジェインで効果発動。

処理に入つて、『チェーン2』でデッキの上から2枚墓地へ送る。『チェーン1』でもデッキの上から2枚墓地へ送る。ターンエンド」

「私のターン、ドロロー。墓地のオライオンを除外し効果発動。手札から『幻獣機』モンスター、〈幻獣機コルトウイング〉（2枚目）を特殊召喚する！」

コルトウイングが独特な翼を使い、空中に停滞する。

「特殊召喚に成功したコルトウイングの効果発動。私のフィールドに他の『幻獣機』モンスターが存在するので

『幻獣機トークン』を2体特殊召喚する」

コルトウイングが自身の姿を投影して、2体のトークンを生み出してみせる。

「さらに、コルトウイングの効果。自分フィールドの『幻獣機トークン』を2体リリースして発動。相手フィールドのカード1枚を選択して破壊し、除外する！ 私が選ぶ

のは、もちろんシャイア！」

2体のトークンがシャイアに特攻を仕掛ける。

1体は迎撃され消滅したがもう1

体がシャイアを次元の外へと連れ去る。

「そう言えば、1つ言っただけだね」

「何がですか？」

『幻獣機』モンスターには他に効果があるんだよ、レベル7になったモンスター2体でオーバードレーネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク7、へ幻獣機ドラゴサックを攻撃表示で特殊召喚」

空中に暗い穴が開き、そこに2体のモンスターが飛び込む。 白いドラゴンのような

大型輸送機が入れ違いに姿を現した。

へ幻獣機ドラゴサック 攻撃表示

ランク7 / 風属性 / 機械族 / エクシーズ / 効果モンスター

ATK / 2600 DEF / 2200

「さっきのモンスターはレベル4だったはず、まさか……！」

「気づいたようだね、言っただけだった効果は自身のレベルを『幻獣機トークン』のレベル

の合計分上げる効果さ。言う暇が無くてすまないね。ドラゴサツクのORUを1つ取り除き発動。1ターンに1度、『幻獣機トークン』を2体特殊召喚する」

ドラゴサツクの背後に2体のトークンを投影する。

「バトルフェイズ、ドラゴサツクでジェインを攻撃」

口からレーザーを発射しジェインを攻撃する。ジェインは白く輝く盾で身を守るも、一点に照射されたレーザーはその熱量で盾を溶かし、遂には体を貫き破壊した。

白石 LP 900↓100

「私はこれでターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。〈ライトロード・サモナー ルミナス〉(2枚目)を通常召喚」

ルミナスが両手を輝かせ登場した。

「手札を1枚コストに、ルミナスの効果。墓地のルミナスを対象に、特殊召喚。さら

に、今蘇生したルミナスの効果。手札1枚をコストに、墓地の〈ライトロード・メイ

デン ミネルバ〉を特殊召喚」

効果を連続して3体のモンスターを並べる。

「2体のレベル3のルミナスにレベル3のミネルバをチューニング！ シンクロ召喚！

レベル9、〈氷結界の龍 トリシユウラ〉を攻撃表示で特殊召喚！
 白銀の三首龍が吹雪を纏い降臨する。

「シンクロ召喚に成功したので、モンスター効果発動。相手の手札・フィールド・墓地のカードをそれぞれ1枚まで選んで除外する。手札は0枚だから除外できないけど、フィールドからドラゴサツク、墓地からアウローラドンを除外する！」

吹雪が選択したカードを氷結させ破壊する。粉々になったカードは全て除外された。

「バトルフェイズ、トリシユウラで『幻獣機トークン』を攻撃」

3つの口から吹雪のブレスを吐き出し、トークンを破壊する。

「これでターンエンド」

「私のターン、ドロロー。〈幻獣機ハムストラット〉(2枚目)を通常召喚」

ネズミ顔の航空機が姿を現した。

「ハムストラットの効果。1ターンに1度、トークンを1体、『幻獣機トークン』をリリースして発動。墓地から〈幻獣機ハムストラット〉を特殊召喚する」

もう1体、ネズミ顔の航空機が現れた。

「2体のハムストラットは『幻獣機トークン』が存在する事で、レベルアップ！」

〈幻獣機ハムストラット〉 星3↓6

「2体のレベル6になったハムストラットでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク6、〈ガントレット・シューター〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが空中に空いた暗い穴に飛び込む、赤いロボットのような戦士がフィールドに落下してきた。

〈ガントレット・シューター〉 攻撃表示

ランク6／地属性／戦士族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2400 DEF／2800

「〈ガントレット・シューター〉のORUを1つ取り除き、君のフィールドのトリシューラを対象に発動。破壊する！」

ガントレット・シューターが右手首から先をミサイルのように撃ちだす。放たれた手首は回転しながら殺傷力を増し、トリシューラを貫き破壊した。その後、右手首は何事も無かったようにガントレット・シューターの元に戻った。

「バトルフェイズ、〈ガントレット・シューター〉でダイレクトアタック」

今度は両手首を回転させて撃ち出す。

「墓地の〈ネクロ・ガードナー〉（2枚目）を除外して、その攻撃を無効にする」

黒い影が飛んできた両手首を蹴り飛ばし、軌道を変える。対象を破壊できなかつた両手首は元あつた位置に戻つた。

「バトルフェイズを終了してターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。魔法カード〈貪欲な壺〉、墓地の3枚の〈裁きの龍〉とヘライトロード・サモナー ルミナス、〈氷結界の龍 トリシューラ〉の5枚を対象に発動。

デッキに戻して、2枚ドロローする」

顔の付いたゴテゴテした装飾の壺に選択したカードを入れると、代わりのカードが口から出てきた。この壺は生きている。その後、壺は勝手に碎けて消滅した。

「……くつ、このカードか。モンスターをセットしてターンエンド」

「私のターン、ドロロー。その顔だと万策尽きたようだね。〈ガントレット・シューター〉のORUを1つ取り除き、セットされたモンスターを破壊する！」

撃ち出された手首にセットしていたカードが貫かれる。カードの下から白いイヌが吹き飛ばされ、再び動き出した手首によって破壊される。

「バトルフェイズ、〈ガントレット・シューター〉でダイレクトアタック」

白石 LP 100↓0



「対戦ありがとうございます」

「こちらこそ、対戦ありがとうございます」

「いやはや、手こずらされたよ。また機会があつたらやろうじゃないか」

「その時は負けません」

ひんでんぶるくは去って行った。それと入れ違いにカミュがやってくる。

「お疲れ様、残念だったね……」

「ありがとう」

「とりあえず、結果報告に行くといい。カードパックが1つ貰えるよ」

カミュと一緒にカウンターまで報告に行った。貰ったカードパックの中に『怪獣』と言うモンスターがあつたけど、デッキに合いそうだったので今度入れてみる事にした。

「おっと、ボクの名前が呼ばれたようだね。行ってくるよ」

「頑張つてね！」

「ありがとう」

その後、カミユは準決勝まで進んだが赤い帽子の男に敗れてしまった。この日の優勝は赤い帽子の男だったようだ。



全試合が終わり参加者のほとんどが帰った後の店内で、店長の前島（まえじま）は商品整理をしていた。

「あれ、このカードはショーケースに入れた覚えがないな。ノーマルカードのようだし30円コーナーにでも入れとくか」

場違いなカードが30円コーナーに混ぜ込まれる。



部屋に帰り着いた白石は、初めての公式戦で疲れたのか玄関で眠くなる。その場で寝る訳には行かないので、簡単に着替えを済ませると布団に入りこの日は早めに眠りについた。

翌日、仕事から帰るとすぐに、ひよこのカードショップに出かけた。新しいデツキのパーツを揃えるため、30円コーナーに向かう。30分ほどカードを探し、気になったカードを見つけては手元に置いて取捨選択をしていく。

「このカードは……? まあ、とりあえず買っておこう」

妙に気になったカードはデツキの構築に使えない、全く関係ないカードだったが他のカードと一緒に買ってしまった。これが後の出会いに繋がるとはこの時は誰も予想してなかった。

第3章

××のカード

第9話 美味しいカレーと狂戦士

初めての公式戦から数日たったある日の事、白石とカミュはカレー屋で食事をしていった。

場所は『ナムさんのカレー屋本店』、公式戦の時に白石が対戦したナムが個人で営業するカレー屋である。まだ日が高い時間だからか他に客はあまり居ないが、学校の食堂を思わせる内装はとても落ち着く。

「このチキンカレー、思っていたより美味しいじゃないか！」

よく煮込まれたチキンカレーはとても美味しかったらしく、カミュがおかわりを注文していた。

「そんなに外食する方じゃないけど、このシーフードカレーなかなかイケると思う」

白石はゆっくりとカレーを食べているが、カミュは違った。かなりハイペースでかきこんで皿を空けては次の皿を注文していた。お前はフードファイターか。

「白石君、あまりゆっくりしているとカレーが冷めてしまうよ」

「大丈夫、冷める前には空になつてはるはず。それよりカミュの方こそ、すごい食べてる

けど何かあったの?」

「いや、何も無いよ? カレーは子供の頃からの大好物でね、何杯でもイケるよ」

「そうなのか。まあ、食べ過ぎには注意してね」

結局、店を出る頃にはカミュは8皿食べて胃薬のお世話になっていた。



「……………こつちを少し外して、これを入れてみよう」

白石は数日前の公式戦で得た経験と最近手に入れたカードを使い、自室でデッキの調整を行っていた。

「そろそろ、このカードも使いこなせるようになったはずだし混ぜてみようかな」

数枚のカードを手にとると、そのままデッキに混ぜ込む。普通のデッキの場合、枚数が増えるとその分手札に欲しいカードを引き込めなくなる事があるからデッキの枚数を40枚にしようとするが、ライトロードの場合だと効果でどんどんデッキが墓地へ送られて行くので、数枚増えても誤差程度にしかならないなど最近の白石は思う。

ピンポン

「誰だろ？」

インターホンが鳴ったので玄関に行ってみると、少し影のある感じの喪服を着た妙齡の女性が居た。とりあえず、扉を開け挨拶する。

「こんにちは、どなたでしようか？」

「はじめまして、私は月島 香代子（つきしま かよこ）と申します。最近、越してこられた白石さんですよね？ 回覧板を持ってきました」

「わざわざありがとうございます、良ければ上がって下さい。お茶でも出しますよ」
「ありがとうございます……」

香代子はその場に崩れ落ちる。突然の事に驚きを隠せない白石の所にカミュが丁度よくやってきた。買い物帰りだったのだろう、手には買い物袋を持っている。

「やあ、白石君。……って、香代子さんじゃないか！ 白石君、とりあえず部屋を借りるよー！」

「わかった！」

2人で香代子を抱えると白石の部屋に入る。

「香代子さんは貧血でよく倒れるんだけど、倒れたのはついさつきかな？」

「ああ、そうだけど」

「それなら、もうじき動けるようになるはずだよ。もし10分経っても反応が無い場合は救急車を呼ぼう。それと、少し台所を借りるよ」

カミュが濡れタオルを香代子の頭にのせる。それから、3分ほど経って香代子が目を覚ました。

「()は……?」

「僕の部屋です、大丈夫ですか?」

「また、私は倒れたのね……。白石さん、カミュ君、介抱してくれてありがとうございます」

「香代子さん、また無理をしたんじゃないですか?」

「いえ、まだ何もしてないですよ」

まだ顔の青い香代子が立ち上がろうとしたが、足に力が入らずよろける。

「もう少し休んで下さい。お茶持ってきますね」

「ありがとうございます……」

それから10分ほど経って香代子の顔色が戻ったのを確認して、ホツとした2人であった。



香代子が回復し、ふと辺りを見回しデュエルディスクを見つけた。

「そういえば、白石さんもデュエリストですか？」

「はい、今月に入ってからなつたのであまり強くは無いですが……」

白石は苦笑いを浮かべる。 実際、戦績は酷い有り様である。

「そうですね、もし良かったら私とデュエルしませんか？ 近頃、入院していたもので腕は落ちてるかも知れませんが……」

香代子はそう言うのと折りたたみ式のデュエルディスクを装着した。 今どこから出した？

「良いですよ、ここでは狭いので表でやりませんか？」

「わかりました、ありがとうございます」



3人が部屋を出てマンションの表にある開けた所に出た。カミュは今回デュエルしないのでベンチに座って観戦モードのようだ。

「デュエル！」

白石 LP 8000

香代子 LP 8000

デュエルディスクのランプが灯ったのは香代子だった。

「では、私が先攻でやりますね。モンスターをセット、カードを1枚伏せてターンエンドです」

「僕のターン、ドロ。魔法カードへソーラー・エクステンジン、手札のヘライトロード・ハンター ライコウをコストに2枚ドロしてデッキの上から2枚墓地へ。続けて、魔法カードへ光の援軍、デッキの上から3枚墓地へ送って発動。ヘライトロード・アサシン ライデンを手札に加え、通常召喚」

ライデンが颯爽と現れた。

「ライデンの効果発動。デッキの上から2枚墓地へ送る。送られた中に〈ライトロード・アーチャー フェリス〉が居たので攻撃力が200ポイントアップ！ さらに、フェリスを墓地から守備表示で特殊召喚」

フェリスが早足でフィールドに参上する。

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 ATK/1700↓1900

「レベル4のライデンとフェリスでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク4、〈ライトロード・セイント ミネルバ〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが暗い穴に飛び込む、白いフクロウが空を舞い、その後をミネルバが翼を広げ飛んできた。

「ミネルバのORUを1つ取り除き、効果発動。デッキを上から3枚墓地へ送り、その中にあつた『ライトロード』モンスターの数だけドロウする。墓地へ送られた中に〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉と〈ライトロード・アサシン ライデン〉(2枚目)があつたので2枚ドロウ。」

ミネルバから暖かい光が溢れ、デッキと手札を照らす。照らされたデッキのカードは墓地へ送られ、手札がそれに応じて増える。

「墓地に『ライトロード』モンスターが4種類以上存在するので〈裁きの龍〉を2体、特

殊召喚」

白き龍がフィールドに2体並ぶ。

「バトルフェイズ、ミネルバでモンスターを攻撃」

杖の先から光弾を放ちセツトされたモンスターに命中させる。

「セツトしていたのは、〈影霊の翼 ウエンデイ〉です。リバース効果発動。デッキから〈影霊の翼 ウエンデイ〉以外の『シャドール』モンスター1体を表側守備表示または裏側守備表示で特殊召喚します。私はデッキから〈シャドール・リザード〉を表側守備表示で特殊召喚」

カードの裏から、動きやすい服装の女の子が出てきた。杖の先から小さな魔法陣を出すと、そこから黒いトカゲのようなモンスターを呼び出し姿を消した。

〈影霊の翼 (リーシャドール) ウエンデイ〉 守備表示

星3／風属性／サイキック族／リバース／効果モンスター

ATK／1500 DEF／1000

〈シャドール・リザード〉 守備表示

星4／闇属性／魔法使い族／リバース／効果モンスター

ATK／1800 DEF／1000

「〈裁きの龍〉でリザードを攻撃」

光のブレスがリザードを襲う。

「この瞬間、伏せていた速攻魔法〈超融合〉を発動します。手札を1枚コストに、攻撃宣言をしていない〈裁きの龍〉と〈シャドール・リザード〉を融合！ 融合召喚！ レベル8、〈エルシャドール・ネフィリム〉を攻撃表示で特殊召喚します」

攻撃が届く寸前で、2体のモンスターが光に包まれ姿を消す。光が収まると背中から無数の糸を出している巨大な機械人形がそこに存在していた。

〈エルシャドール・ネフィリム〉 攻撃表示

星8／光属性／天使族／融合／効果モンスター

ATK／2800 DEF／2500

「墓地へ送られた〈シャドール・リザード〉と特殊召喚に成功した〈エルシャドール・ネフィリム〉の効果を『チェーン』させます。何かありますか？」

「いえ、無いです」

「でしたら、『チェーン1』でネフィリム、『チェーン2』でリザードを組みます。処理に入って『チェーン2』の効果、デッキから〈シャドル・リザード〉以外の『シャドル』カードを1枚墓地へ送ります。デッキから〈影依の巫女 エリアル〉を墓地へ、『チェーン1』の効果、デッキから『シャドル』カードを1枚墓地へ送ります。デッキから〈影依融合〉を墓地へ」

2枚のカードが墓地へ送られた、白石はこの事に警戒を強める。

「さらに、墓地へ送られた〈影依の巫女 エリアル〉の効果。お互いの墓地のカードを3枚まで対象として除外します。墓地の確認よろしいでしょうか？」

白石がデュエルディスクを操作すると、墓地のカードが香代子の前に表示される。

香代子はそこからカードを手早く選んだ。

「私は、あなたの墓地から〈トワイライトロード・ジェネラル ジェイン〉と〈ネクロ・ガードナー〉、〈対壊獣用決戦兵器メカサンダー・キング〉の3枚を除外します。……」

メカサンダー・キング、珍しいカードを入れてるのですね」

「最近、入手したので使ってみようかと」

「そうですか、デュエルに戻りますね。攻撃対象が変わりましたが、どうされますか？」

「〈裁きの龍〉でネフィリムを攻撃」

「では、ダメージステップ開始時にネフィリムの効果を発動します。特殊召喚された

〈裁きの龍〉を破壊します」

〈裁きの龍〉が糸に絡め捕られ、寸断される。

「え、そんな効果が……」

「初めて見るカードはちゃんと効果を見てあげて下さいね、でないとうなりますからね」

「はい、覚えておきます」

白石はこの事を肝に銘じる。実際、何度か初見のモンスターにやられているので、効果の把握はとても大事な事だったりする。だが、デュエルディスクの操作を完全には覚えていない白石は、後ほど香代子から幾つか操作を教わるのであった。

「バトルフェイズを終了して、メインフェイズ2。カードを1枚伏せてターンエンド」

「私のターン、ドロー。バトルフェイズ、ネフィリムでミネルバを攻撃します」

ミネルバに無数の糸が伸びる。

「モンスター効果発動。ミネルバを破壊します」

糸が絡みつき、ミネルバをバラバラにして消滅させた。

「破壊されたミネルバの効果発動。デッキを上から3枚墓地へ送り、その中に『ライトロード』カードがあつた場合、その数までフィールドのカードを破壊する。墓地へ送

られた中に〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉があったのでネフィリムを破壊する」

持ち主を失った杖が輝き、1発の光弾を放つと砕けてしまった。光弾はネフィリムの胸を貫くと爆散させる。

「では、破壊されたネフィリムの効果発動。墓地の〈影依融合〉を対象に手札に加えます」

ネフィリムは消滅する前に素早くカードを1枚回収すると、香代子に渡す。

「メインフェイズ2、モンスターをセットしてターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。魔法カード〈ソーラー・エクステンション〉(2枚目)を手札の〈ライトロード・アーチャー フェリス〉(2枚目)をコストにして発動。デッキから2ドロローして、上から2枚墓地へ送る。墓地へ送られた中に〈Emトリック・クラウン〉があったので自身を対象に効果発動。守備表示で特殊召喚し、1000のダメージを受ける」

道化師がボールに乗って登場した。

白石 LP 8000↓7000

「ヘライトロード・サモナー ルミナス」を通常召喚」

ルミナスがトリック・クラウンの後に続いてフィールドに出てくる。

「ルミナスの効果。 手札を1枚コストに、墓地のヘライトロード・モンク エイリンを対象にして発動。 特殊召喚する」

褐色の修行僧がルミナスに呼び出される。

「ヘライトロード・モンク エイリン」 攻撃表示

星4 / 光属性 / 戦士族 / 効果モンスター

ATK / 1600 DEF / 1000

「バトルフェイズ、エイリンでセットされたモンスターを攻撃」

伏せられたカードをエイリンが手にした棒で突く。 カードがめくられ、ハリネズミ型のモンスターが姿を現す。

「シャドール・ヘッジホッグ」 守備表示

星3 / 闇属性 / 魔法使い族 / リバーズ / 効果モンスター

ATK / 800 DEF / 200

「ダメージ計算前、エイリンの効果でそのモンスターをデッキに戻す！」

杖を巧みに使いヘッジホッグをどこか遠くへ吹き飛ばす。

「ですが、リバース効果は発動します。ヘッジホッグの効果で、デッキから『シャドール』魔法・罠カードを1枚手札に加えます。デッキから〈影光の聖選士〉を手札へ」
ヘッジホッグの居た場所にカードが落ちていたのを、エイリンが拾い香代子に手渡す。

「ありがとう」

「ルミナスでダイレクトアタック」

両手を合わせ光線を放つ。

「受けますよ」

香代子 LP 80000↓7000

「では、ダメージを受けたので墓地の〈ペロペロケルペロス〉を除外してエイリンを対象に取り発動です。そのカードを破壊します」

墓地から現れた〈ペロペロケルペロス〉が猛スピードでエイリンにタックルを仕掛け

破壊する。

「エンドフェイズ、ルミナスの効果でデッキを上から3枚墓地へ送る。送られた中に〈ライトロード・メイデン ミネルバ〉があつたので追加で1枚デッキの上を墓地へ送る。ターンエンド」

「私のターン、ドロロー。カードを1枚セットしてターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。魔法カード〈ソーラー・エクステンジ〉(3枚目)、手札のヘトワイライトロード・ファイター ライコウをコストに2枚ドロローして2枚デッキの上から墓地へ送る。〈ゴブリンドバーグ〉を通常召喚、モンスター効果で手札から〈ライトロード・ウオリアー ガロス〉を特殊召喚。さらに守備表示に変更」

〈ゴブリンドバーグ〉が飛来し、大きな箱を投下する。その中からガロスが箱を突き破り登場する。

「レベル4の〈ライトロード・ウオリアー ガロス〉と〈ゴブリンドバーグ〉の戦士族2体でオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク4、〈H-Cエクスカリバー〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のが暗い穴に飛び込む、両刃の剣を持つ戦士が降臨する。

〈H-Cエクスカリバー〉 攻撃表示

ランク4／光属性／戦士族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2000 DEF／2000

「手札を1枚コストにルミナスの効果発動。対象は墓地の〈ライトロード・サモナー
ルミナス〉（2体目）。攻撃表示で特殊召喚」

ルミナスの両手が輝き、もう1人のルミナスが墓地から現れる。

「魔法カード〈貪欲な壺〉、2枚の〈裁きの龍〉と、2枚の〈ライトロード・ドラゴン
グラゴニス〉、〈トワイライトロード・ファイター ライコウ〉の5枚を対象に発動。
デッキに戻して2枚ドロー！」

顔の付いた壺にカードが吸い込まれ、壺が砕けると2枚のカードが出てきた。

「2体目のルミナスの効果。手札を1枚コストに墓地の〈ライトロード・メイデン ミ
ネルバ〉を対象に特殊召喚」

墓地から白いフクロウを片手に止めた女の子が呼び出される。

「2体のレベル3のルミナスにレベル3のミネルバをチューニング！ シンクロ召喚！
レベル9、〈氷結界の龍 トリシューラ〉」

白銀の龍が吹雪を纏い現れる。

「シンクロ召喚に成功したトリシューラの効果発動！ 相手の手札・フィールド・墓地の

カードを1枚まで選んで除外する！」

「その効果に『チェーン』して、リバースカード〈影光の聖選士〉を発動。墓地の〈影霊の翼 ウエンディ〉を対象にします。他にカードは？」

「無いので、処理をどうぞ」

「墓地からウエンディを裏側守備表示で特殊召喚」

「僕は、あなたの一番左の手札と、フィールドのウエンディ、墓地のネフィリムを除外します」

手札から除外したカードは〈ライトニング・ストーム〉と言うカードだった。

「エクスカリバーのORUを2つ取り除いて効果発動！ 次の相手エンドフェイズまで、攻撃力を元々の倍にする！」

〈H-Cエクスカリバー〉 ATK/2000↓4000

「バトルフェイズ、トリシューラでダイレクトアタック」

口から吹雪のブレスを放つ。

「通します」

香代子 LP 7000↓4300

「エクスカリバーでダイレクトアタック」

両刃の剣を構え、振り下ろす。

「それも通します」

香代子 LP 4300↓300

「これでターンエンド」

「私のターン、ドロロー。魔法カード〈ライトニング・ストーム〉（2枚目）を発動。

白石さんのフィールドに攻撃表示で存在するモンスター全てを破壊します」

白石のフィールドを数多の雷撃と嵐が襲い、トリシューラ、エクスカリバーの2体は破壊されフィールドから消え去った。

「モンスターをセットして、墓地の〈影光の聖選士〉と〈シャドール・リザード〉を除外して〈影光の聖選士〉の効果発動。今セットしたモンスターを表側守備表示に変更し

ます。表側守備表示になった〈影霊の翼 ウエンデイ〉の効果発動。デッキから

『シャドール』モンスター、〈シャドール・ビースト〉を表側守備表示で特殊召喚」

黒い獣型のモンスターがフィールドに姿を現す。

〈シャドール・ビースト〉 表側守備表示

星5／閻属性／魔法使い族／リバース／効果モンスター

ATK／2200 DEF／1700

「魔法カード〈影依融合〉を発動。 フィールドのウエンディとビーストの2体を素材に『シャドール』融合モンスター1体を融合召喚！ 〈エルシャドール・アプカローネ〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが影の中で混ざり合う、下半身が魚型モンスターと融合しているモンスターがフィールドに現れた。

「融合素材として墓地へ送られた〈シャドール・ビースト〉の効果でデッキから1枚ドロー」

香代子の足元から影が伸び、手札にカードを1枚加えた。

「バトルフェイズ、アプカローネでトリック・クラウンを攻撃」

持っている杖から無数の糸が伸びる、糸に絡まれたトリック・クラウンはそのまま引き裂かれてしまう。

「破壊されたトリック・クラウンの効果発動。 自身を特殊召喚し、1000のダメージを受ける」

さっきのは何かの冗談だと言わなきゃ、墓地から無傷のトリック・クラウンが現れた。

白石 LP 7000↓6000

「メインフェイズ2、カードを1枚伏せてターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。ヘトワイライトロード・ファイター ライコウ」を通常召喚」

黒い衣を纏った白いイヌが出てきた。

ヘトワイライトロード・ファイター ライコウ 攻撃表示

星2/闇属性/獣族/効果モンスター

ATK/200 DEF/100

「召喚に成功したライコウの効果、墓地からヘライトロード・アーチャー フェリス」を除外して発動。フィールドのカード1枚を除外する！」

ライコウが体制を低くし、いつでも飛びかかれるように準備する。

「その効果に『チェーン』して、リバースカード(超融合)(2枚目)を手札1枚をコス

トに発動。 フィールドのアプカローネとライコウで融合召喚！ 〈エルシャドール・ミドラーシユ〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターがフィールドから消え去り、黒い竜のようなモンスターに乗った緑髪の人形が現れた。

〈エルシャドール・ミドラーシユ〉 攻撃表示

星5／闇属性／魔法使い族／融合／効果モンスター

ATK／2200 DEF／800

「ライコウの効果でミドラーシユを除外する」

現れてすぐのミドラーシユが次元の彼方に消えた。

「墓地へ送られたアプカローネの効果発動。 デッキ・墓地から『シャドール』カードを1枚選んで手札に加え、この後、手札を1枚捨てる。 デッキから〈影霊の翼 ウェンデイ〉(2枚目)を手札に加え、そのまま捨てます。 さらに、捨てられたウェンデイの効果でデッキから〈シャドール・ファルコン〉を裏側守備表示で特殊召喚」

香代子のフィールドにモンスターが裏側守備表示で特殊召喚される。

「これでターンエンド」

「私のターン、ドロー。カードを1枚伏せてターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。トリック・クラウンをリリースして〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉をアドバンス召喚。グラゴニスの攻撃力・守備力は墓地の『ライトロード』モンスターの種類×300ポイントアップ、墓地には11種類あるので3300ポイントアップ！」

〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉 ATK/2000 ↓ 5300 DEF/1600 ↓ 4900

「バトルフェイズ、グラゴニスでセットされたモンスターに攻撃」

グラゴニスがセットされたモンスターに向けて突進する。

「攻撃宣言時、リバースカード〈影光の聖選士〉(2枚目)を発動。墓地からヘルシャドール・アプカローネ〉を表側守備表示で特殊召喚。さらに特殊召喚に成功したアプカローネの効果でグラゴニスの効果を無効化します」

アプカローネが糸を伸ばし、グラゴニスを絡め捕るとグラゴニスの体から急速に力が抜けていく。

〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉 ATK/5300 ↓ 2000 DEF/4900 ↓ 1600

「攻撃対象が増えたので巻き戻しが発生しますが、どうします?」

「攻撃を続行します」

グラゴニスが口から光のブレスを吐く。

「攻撃されたのは〈シャドール・ファルコン〉、リバース効果を発動します。墓地の

〈シャドール・ビースト〉を対象に裏側守備表示で特殊召喚します」

黒いトリ型モンスターが光のブレスで焼かれるが、消滅する前にモンスターを呼び出した。

「これでターンエンド」

「私のターン、ドロロー。〈シャドール・ドラゴン〉を通常召喚」

黒いドラゴン型のモンスターが空から舞い降りた。

〈シャドール・ドラゴン〉 攻撃表示

星4／闇属性／魔法使い族／リバース／効果モンスター

ATK／1900 DEF／0

「〈シャドール・ビースト〉を反転召喚、リバース効果発動。デッキから2枚引いて1枚捨てます。魔法カード〈ハーピイの羽根箒〉、魔法・罫カードを全て破壊します」

羽根箒から発せられた突風が、伏せてあった〈コンセントレイト〉を破壊する。

「アップカローネを攻撃表示に変更してバトルフェイズへ、ビーストで攻撃」

「墓地の〈超電磁タートル〉の効果発動。バトルフェイズを終了する」

ビーストが駆け、グラゴニスを鋭い爪で切り裂き破壊しようとするが突如飛来してきた亀によって阻まれる。

「これでターンエンド」

「僕のターン、ドロ。〈裁きの龍〉を特殊召喚。1000ポイントのライフを支払う効果発動。このカード以外のカードを全て破壊する！」

〈裁きの龍〉が咆哮と共に力を解放する。解放された力は周囲のカードを全て破壊し尽くす。

白石 LP 7000↓6000

「効果で墓地へ送られた、ビーストとアップカローネの効果を『チェーン1』アップカローネ、『チェーン2』ビーストで組み発動します。処理に入って、『チェーン2』で1枚ドロ。『チェーン1』で墓地から〈影霊の翼 ウェンデイ〉を手札に加え、そのまま破壊。ウェンデイの効果発動。デッキから〈シャドル・ハウンド〉を裏側守備表示で特殊召喚」

「もう1度、ライフを10000ポイント支払い効果発動。破壊する」
 〈裁きの龍〉が再び力を解放する。

白石 LP 60000↓50000

「効果で墓地へ送られた〈シャドール・ハウンド〉の効果発動。〈裁きの龍〉を守備表示に変更します」

足元から現れた黒い影が手のような形で何本も現れて〈裁きの龍〉を取り押さえる。

「エンドフェイズ、〈裁きの龍〉の効果でデッキを上から4枚墓地へ送る。これでターンエンド」

「私のターン、ドロロー。モンスターをセットしてターンエンドです」

「僕のターン、ドロロー。〈裁きの龍〉(2体目)を特殊召喚。バトルフェイズ、〈裁きの龍〉で攻撃」

「ここで墓地から〈超電磁タートル〉を除外して効果発動。バトルフェイズを終了します」

「くっ……、攻め切れなかった。エンドフェイズ、〈裁きの龍〉の効果で残りのデッキを全て墓地へ送りターンエンド」

「私のターン、ドロー。何もせずターンを終了します」

「僕のターン、ドローできるカードが無いため敗北します」



「対戦ありがとうございます、お疲れ様です」

「こちらこそありがとうございます、参考になりました」

2人が握手をすると、カミュがやってきた。

「2人ともお疲れ様」

「そっちこそ観戦お疲れ様」

「白石さん、またデュエルしましょう、今度は別のデッキで！」

「相変わらずですね、香代子さん」

カミュが苦笑する。後で聞いた話によると、香代子は旦那が亡くなってからデュエ

ル狂となり、自身が倒れるまで戦い続けると言う事から『喪服の女狂戦士』と巷では噂されているらしい。

「良かったらカミュ君もやりませんか？」

「良いですよ、やりましょう」

この日、香代子がまた倒れるまでデュエルは続いた。流石に今度は、救急車を呼ぶ事になった。

深夜になり、白石が寝ているとカードを収納している箱から仄かに光が漏れていたが、それに気付く事はなかった。

第10話 大雨と花札

白石は自室で回覧板を読んでいた。

「今度、賞金付きの大会があるのか、カミュなら行きそうだな」

回覧板にあった賞金付きの大型大会に参加しないかと言う内容のプリントに興味を惹かれるものの、その日は仕事が入っていて参加はできそうにない。回覧板を読み終え、付属していた広報に目を通したが興味を惹かれる内容の記事はなかった。

「次はカミュだったな」

回覧板に張つてある順番表を確認する。

部屋を出て隣のカミュの部屋に回覧板をかけ、白石はそのまま出かける事にした。



出かけた先は、いつものひよこのカードショップ。今日は増えてきたレアカードを

収納するためのカードバインダーを探す予定だ、事前にカミユからバインダーについて説明を受けているから目当ての商品は難なく見つかった。外装が厚紙で出来ている6ポケット式のカードバインダーである。もちろん、収納用で安いカードプロテクターを買うのも忘れない。

「これください」

商品を精算し店を出ると、雨が勢いよく降り出した。大雨である。急いで店内に避難し、雨宿りする。

「酷い雨だな……」

自分のデツキを微調整しながら、しばらくプレイゾーンで時間を潰していると何人か客が来店する。

「はあ、酷い雨でした……」

「全くよね！ それより、早く席に着きましょ」

2人組の女子学生がプレイゾーンの席に座る。だが、何故に自分の対面に座るのだろうか？

「ねえ、そこのお兄さん。デツキいじってるって事はデュエリストなんでしょ？ ウチらと一対戦しない？ 雨が上がるまでの間、すごく暇なんだよね。だから、遊んで欲しいな〜って、どうかな？」

2人の内、活発そうな子が声を掛けてきた。見知らぬ相手に対戦を物怖じせずに出でくるとはいい性格してる。

「雛ちゃん、いきなり過ぎるよ!」

大人しそうな感じの子が声を上げる。

「女は度胸つてね、ただ対戦申し込んでるだけなんだし大丈夫っしょ!」

白石は一瞬考えたが、対戦する事にした。

「いいよ、やろうか。僕は白石 蒼、デュエルディスクは持つてる? 無いなら借りてくるけど?」

女子学生は鞆の中から折りたたみ式のデュエルディスクを出してみせる。準備いいな。

「ウチは相沢 雛(あいざわ ひな)で、こっちのが姫川 百合(ひめかわ ゆり)。対戦を受けてくれてありがとうございます」



「デュエル！」

白石 LP 8000

雛 LP 8000

デュエルディスクのランプが灯る、先行は雛のようだ。

「ウチが先攻もりますね、魔法カード〈花合わせ〉発動。デッキから名前の異なる攻撃力1000の『花札衛』モンスターを4体、効果を無効にして攻撃表示で特殊召喚！

来い、松、芒、柳、桐！」

4体のモンスターがデッキから現れる。

〈花札衛（カードディアン）―松（まつ）―〉 攻撃表示

星1／闇属性／戦士族／効果モンスター

ATK／100 DEF／100

〈花札衛―芒（すすき）―〉 攻撃表示

星8／闇属性／戦士族／効果モンスター

ATK／100 DEF／100

〈花札衛―柳（やなぎ）―〉 攻撃表示

星11／闇属性／戦士族／効果モンスター

ATK／100 DEF／100

〈花札衛―桐（きり）―〉 攻撃表示

星12／闇属性／戦士族／効果モンスター

ATK／100 DEF／100

「一度に4体も……!」

「驚くのはまだ早いよ! 柳をリリースして〈花札衛―柳に小野道風―〉を特殊召喚。

特殊召喚に成功した柳に小野道風の効果。デッキから1枚ドロ―してお互いに確認する、引いたのが『花札衛』モンスターなら特殊召喚できる。違った場合は、墓地へ送る。引いたのは〈最強の盾〉、墓地へ送る」

札の形をしたモンスターが1体消え、新たなモンスターが追加される。

〈花札衛―柳に小野道風（おののみちかぜ）―〉

星11／闇属性／戦士族／特殊召喚／チューナー／効果モンスター

ATK／2000 DEF／2000

「フィールドの柳に小野道風をシンクロ素材とする場合、このカードを含む全てのシンクロ素材モンスターのレベルを『2』として扱う事ができる！ レベル2扱いとなった松、芒、桐と同じくレベル2扱いとなった柳に小野道風をチューニング！ シンクロ召喚！ レベル8、〈花札衛―雨四光―〉を攻撃表示で特殊召喚！」

柳に小野道風が光の輪となり、その中を3体のモンスターが通過すると、赤い傘を持ち着物を着たモンスターが現れた。

〈花札衛―雨四光（あめしこう）―〉 攻撃表示

星8／闇属性／戦士族／シンクロ／効果モンスター

ATK／3000 DEF／3000

「これでターンエンドよ」

「僕のターン、ドロー」

「この瞬間、雨四光の効果発動！ 相手が通常ドローした場合、1500ポイントのダメージを与える！」

雨四光が傘を回し、針を飛ばしてくる。

白石 LP 8000 ↓ 6500

「魔法カード〈おろかな埋葬〉を発動。デッキから〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉を墓地へ送る。墓地へ送られたウォルフの効果発動。攻撃表示で特殊召喚する」

ウォルフが墓地からフィールドへ登場し、雄叫びを上げた。

「魔法カード〈光の援軍〉。デッキを上から3枚墓地へ送って発動、デッキから〈トワイライトロード・ファイター ライコウ〉を手札に加える」

「げ、『トワイライトロード』か……」

雖が嫌そうな顔をする。何か嫌な思い出でもあるのだろう。

「〈トワイライトロード・ファイター ライコウ〉を通常召喚」

黒い衣を纏った白いイヌがナイフを咥えてやってくる。

「ライコウの効果、墓地から〈ライトロード・アサシン ライデン〉を除外して発動。雨四光を除外する」

ライコウが雨四光の傘から放たれる針を避けながら突進しタツクルを決める。吹き飛ばされた雨四光はどこか別の次元へ消えた。

「バトルフェイズ、ウォルフとライコウでダイレクトアタック」

ウォルフが武器と鉤爪のコンビネーションで攻め、ライコウが体当たりをする。

雛 LP 8000↓7800↓5700

「これでターンエンド」

「ウチのターン、ドロー。まさか雨四光が片付けられるとはね……。〈花札衛―松

―〉(2体目)を通常召喚、召喚に成功した松の効果。デッキから1枚ドローしてお互いに確認する、確認したカードが『花札衛』モンスター以外なら墓地へ送る。引いたのは〈花札衛―柳に小野道風―〉(2枚目)、手札に加える」

札の形をしたモンスターが現れる。

「魔法カード〈札再生〉、墓地の〈花札衛―柳―〉を対象に発動。対象のモンスターを

手札に加え、その後、手札から『花札衛』モンスターを1体召喚条件を無視して特殊召

喚でできる。手札から〈花札衛―柳に小野道風―〉を攻撃表示で特殊召喚、さらに効果発動！ デッキから1枚ドローしてお互いに確認、引いたのは〈花合わせ〉、墓地へ送る」

新たな札型モンスターがフィールドに現れる。

「ウチのフィールドにレベル10以下の『花札衛』モンスターが存在するから手札の〈花札衛―柳―〉を攻撃表示で特殊召喚」

フィールドの札型モンスターがさらに1体増える。

「柳の効果、墓地の〈花札衛―松―〉を対象に発動。デッキに戻してシャッフル、その後1枚ドロー。フィールドの松をリリースして〈花札衛―牡丹に蝶―〉を手札から攻撃表示で特殊召喚。牡丹に蝶が特殊召喚に成功したので効果発動。デッキから1枚ドローしてお互いに確認、引いたのは〈花札衛―桜に幕―〉。当たったのでお兄さんのデッキを上から3枚確認してデッキの上か下に戻す。3枚ともデッキの下へ」

札型モンスターが1体消滅し、新たに補充される。

〈花札衛―牡丹(ぼたん)に蝶(ちよう)―〉 攻撃表示

星6／閥属性／戦士族／特殊召喚／チューナー／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1000

「手札の〈花札衛―桜に幕―〉を相手に見せて発動。デッキから1枚ドロ―してお互いに確認、引いたカードは〈花札衛―柳―〉だったので、このカードを特殊召喚」

4体目の札がフィールドに揃う。

〈花札衛―桜（さくら）に幕（まく）―〉 攻撃表示

星3／闇属性／戦士族／効果モンスター

ATK／2000 DEF／2000

「フィールドの牡丹に蝶をシンクロ素材とする場合、このカードを含む全てのモンスターのレベルは『2』として扱う事ができる！ レベル2扱いとなった柳と桜に幕にレベル2扱いの牡丹に蝶をチューニング！ シンクロ召喚！ レベル6、〈花札衛―猪鹿蝶―〉を攻撃表示で特殊召喚」

光の輪となった牡丹に蝶の中を2体のモンスターが通過すると、猪の鎧を身に纏った戦士がフィールドに現れた。

〈花札衛―猪鹿蝶（いのしかちょう）―〉 攻撃表示

星6／闇属性／戦士族／シンクロ／効果モンスター

ATK/2000 DEF/2000

「バトルフェイズ、猪鹿蝶でライコウを攻撃！」

猪鹿蝶が鹿の角によく似た槍でライコウを刺し貫く。

白石 LP 6500↓4700

「これでターンエンドよ」

「僕のターン、ドロー。〈ゴブリンドバーグ〉を通常召喚、モンスター効果で手札のヘライトロード・アサシン ライデンを特殊召喚、さらに守備表示になる」

ゴブリンが空輸した箱からライデンが現れる。

「ライデンの効果発動、デッキの上から2枚墓地へ送る」

ライデンがナイフを投げ、デッキの上のカードに刺さる。刺さったカードは墓地へ送られた。

「レベル4の〈ゴブリンドバーグ〉にレベル4のライデンをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル8、〈レッド・デーモンズ・ドラゴン・スカーライト〉を攻撃表示で特殊召喚」

ライデンが光の輪となり、その中をゴブリンが飛行機ごと通過する。角が片方折れた傷だらけのドラゴンが現れた。

「スカーライトの効果発動！ このカード以外のこのカードの攻撃力以外の攻撃力を持つ特殊召喚された効果モンスターを全て破壊する！ その後、破壊した数×500ポイントのダメージを相手に与える。3体破壊して合計ダメージは1500ポイント！」

スカーライトが飛翔し、傷付いた右腕に炎が宿る。その炎を凝縮して地上に放つ、爆風と共に炎が吹き荒れモンスター達を一掃した。

雛 LP 5700↓4200

「バトルフェイズ、スカーライトでダイレクトアタック！」

口から火炎弾を放つ。

雛 LP 4200↓1200

「これでターンエンド」

「ウチのターン、ドロ。魔法カード〈超こいこい〉を発動！ デッキの上から3枚め

くり、その中の『花札衛』モンスターを可能な限り、召喚条件を無視して特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは効果が無効化され、レベルは2になる。残り

のカードは全て裏側表示で除外して、1枚につき1000のライフを失う」

「なんて博打なカードなんだ」

「土壇場の賭けは盛り上がるってね、いくよウチのデッキ……！ 1枚目、〈花札衛〉桜に幕――、2枚目〈花札衛〉紅葉に鹿――、3枚目〈花札衛〉萩に猪――、3枚とも当たり！ ありがとう、ウチのデッキ……！」

更地だったフィールドに3体のモンスターが現れる。

〈花札衛〉紅葉（もみじ）に鹿（しか）―― 攻撃表示

星10／閨属性／戦士族／特殊召喚／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1000

〈花札衛〉萩（はぎ）に猪（いのしし）―― 攻撃表示

星7／閨属性／戦士族／特殊召喚／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1000

「〈花札衛―松―〉(3枚目)を通常召喚、召喚に成功したので効果で1枚ドロ―してお互いに確認、引いたのは〈花積み〉だから墓地へ送る」

4体目の札が揃う。

「魔法カード〈札再生〉(2枚目)を発動。墓地の〈花札衛―牡丹に蝶―〉を対象にして手札に回収し、そのまま召喚条件を無視して攻撃表示で特殊召喚。牡丹に蝶の効果発動、デッキから1枚ドロ―してお互いに確認。引いたのは〈花札衛―牡丹に蝶〉(2枚目)、当たったのでお兄さんのデッキを上から3枚確認。全てデッキの底へ送る」

5枚の札がフィールドに揃う。

「ウチの切り札を見せてあげる！ 牡丹に蝶の効果で全ての『花札衛』モンスターのレベルを『2』の扱いにする！ レベル2の扱いとなった松、桜に幕、紅葉に鹿、萩に猪に同じくレベル2扱いの牡丹に蝶をチューニング！ シンクロ召喚！ レベル10、〈花札衛―五光―〉を攻撃表示で特殊召喚！」

牡丹に蝶が光の輪になり、その中を4体のモンスターが通過する。独特な鎧を纏い刀を持ったモンスターがフィールドに降臨する。

〈花札衛―五光―〉 攻撃表示

星10／闇属性／戦士族／シンクロ／効果モンスター

ATK／5000 DEF／0

「バトルフェイズ、五光でスカーライトを攻撃！」

五光が刀を振り抜き斬撃を飛ばす。飛んで回避しようとしたが翼に命中し墜落する、五光が素早く距離を詰め突きを3発放ちスカーライトを倒した。

白石 LP 4700↓2700

「これでターンエンドよ」

「僕のターン、ドロロー。〈ライトロード・マジシャン ライラ〉を通常召喚」

片手に杖を持った白い服の女性が現れる。

「エンドフェイズ、ライラの効果でデッキを上から3枚墓地へ送る。ターンエンド」

「ウチのターン、ドロロー。五光でライラを攻撃！」

五光が接近し刀を振り上げる。

「墓地の〈超電磁タートル〉の効果発動！ バトルフェイズを終了する」

高速回転しながら急速接近する亀が五光の刀を弾き飛ばし、攻撃を終了させる。

「お兄さん、運がいいね。これでターンエンド」

「僕のターン、ドロ。墓地に4種類以上『ライトロード』モンスターが存在するので〈裁きの龍〉は特殊召喚できる！ 攻撃表示で特殊召喚」

白き龍がフィールドに降り立つ。

「1000のライフを支払い、〈裁きの龍〉の効果発動。このカード以外のカードを全て破壊する！」

〈裁きの龍〉が咆哮と共に力を解放する。周囲に放たれたエネルギーは敵・味方の区別無く破壊しつくす。

白石 LP 2700→1700

「相手の効果によってフィールドを離れた五光の効果発動！ EXデッキから『花札衛』モンスターを1体特殊召喚する！ 〈花札衛―雨四光―〉（2体目）を攻撃表示で特殊召喚！」

爆風が収まるとフィールドに着物を着たモンスターが立っていた。

「バトルフェイズ、〈裁きの龍〉で雨四光を攻撃」

光のプレスを〈裁きの龍〉が吐き出すが、雨四光は傘を盾にそれをかわす。お互い

に接近し、鋭い爪と傘を打ち合わせ拮抗する。雨四光が距離を離すと〈裁きの龍〉が距離を詰め、お互いが渾身の力を込めた一撃を放つ。結果は相打ちに終わり、2体が消滅する。

「メインフェイズ2、ヘライトロード・パラディン ジェインを通常召喚。エンドフェイズに効果でデツキを上から2枚墓地へ送る。ターンエンド」

「ウチのターン、ドロ。魔法カード〈花積み〉(2枚目)発動。デツキから『花札衛』モンスターを3種類選び好きな順番でデツキの上に戻す。デツキから〈花札衛—牡丹に蝶—〉と〈花札衛—萩に猪—〉、〈花札衛—紅葉に鹿—〉の3種類をこの順番でデツキの上へ。さらに魔法カード〈超こいこい〉発動、今デツキの上に戻した3体を効果を無効化し、召喚条件を無視して攻撃表示で特殊召喚！ さらにレベルは2になる！」

フィールドにまた3体のモンスターが揃う。

「レベル2になった紅葉に鹿、萩に猪に同じくレベル2になった牡丹に蝶をチューニング！ シンクロ召喚！ レベル6、〈花札衛—月花見—〉を攻撃表示で特殊召喚！」

牡丹に蝶が光の輪になる。その中を2体のモンスターが通過すると、扇子と杯を持った着物の女性がフィールドに居た。

〈花札衛—月花見(つきはなみ)—〉 攻撃表示

星6／闇属性／戦士族／シンクロ／チューナー／効果モンスター

ATK／2000 DEF／2000

「月花見の効果発動。デッキから1枚ドローしてお互いに確認。それが『花札衛』モンスターだった場合、召喚条件を無視して特殊召喚できる。さらに、この効果で特殊召喚したモンスターはダイレクトアタックできる！ただし、この効果を発動した場合、次のウチのドローフェイズはスキップされる。ドロー！引いたのはへ花札衛――桜に幕――、攻撃表示で特殊召喚する！」

「なんてドロー運なんだ……！」

「バトルフェイズ、桜に幕でダイレクトアタック！」

白石 LP 1700↓0



「対戦ありがとうございます！」

「こちらこそ、ありがとうございます！」

「それにしても、今の学生は皆これぐらい出来るのかな？」

白石はふと思った事を聞いてみた。

「いえ、そんなことは無いですよ……、雛ちゃんがやたらと運に恵まれてるだけなので……」

どうやら違うらしく、少しホツとした白石。

「ウチが幸運だけな言い方はやめてな」

「そうは言つてないよ」

雛が百合のほっぺたをぶにぶにする。

「仲良いんだね」

「小学校からの付き合いですから」

しばらく白石は彼女達と談笑した、気が付くと雨はもう上がっている。

「それじゃあ、ウチらもう帰るから。蒼やん、また機会があったらデュエルしような」

「気を付けてね、その時は勝たせてもらうよ」

「白石さん、お先失礼します」

2人を見送った後、白石も帰る事にした。



その日の夜、白石は奇妙な夢を見た。自分の周りをひたすら剣と盾を持った亡霊がぐるぐる移動すると言う夢だ。不思議と嫌な感じはしなかったが何故自分の周りをひたすら移動するのか疑問に思った。それに気が付いたのか亡霊が話かけてくる。

「ホヒ、気が付きましたね白石 蒼殿」

何故名前を知っているのか分からなかったが、夢ならそんなものだろうと白石は思った。

「意外と適応力あるんですねえ、ワタシは『夢魔の亡霊』と言います。以後お見知りおきを」

そうか、よろしく！ とか、考えたが思考出来てる辺り明晰夢なんだろうと結論付けた。

「ようやくパスが繋がったのでこうして挨拶しに来ましたが、蒼殿はワタシが何なのかわかりますか？」

さっぱり分からないが、夢なんだしこんなもんだらうと思った。

「ホヒ、それなら自己紹介をしておきましょう。ワタシは所謂『精霊のカード』と言うやつです。この前は、ご購入頂きありがとうございます」

そんなカード買った覚え無いような気が……、あった。30円コーナーのカードだ。

「ホヒヒ、思い出されたようですよ！ とりあえず、『精霊のカード』としては『下級』の者ですがこれからよろしくお願ひします蒼殿」

ところで、今更何だけど『精霊のカード』って何？

「ホヒ、一口に言えば『念』や『魂』が籠もった特別なカードですね。ワタシは悪夢や願望を糧に存在しています『下級』の存在で、特技はこうして夢の中に出て会話する事と簡単な精神改造ですかね」

おい、最後に変なの混じらなかつたか……？

「ホヒ？ 大した事じゃないですよ？ 現実で『精霊のカード』を視認したり、会話や念話できるようにしたりできるようにちよつと精神をこうクイツとするぐらいで済みますよ。クイツとね」

……副作用とか無いのか？ 聞くだけだとなんか凄くそうだけど。

「ホヒ？ たまに上手く行かず、起きた時に精神崩壊してたり、見えるものが粘液や肉の

塊に見えたり、軽いものだど全色色盲でしょうかね。まあ、稀にある事なんで問題ないですよ。因みに、蒼殿は上手く行きましたので心配ご無用ですね！ ホヒヒヒ！」

十分怖いわ！ と言うか、勝手に改造するなよ！ なんかあつた時はどうするつもりだったんだよ!!

「ホヒ？ 上手く行つたんだから良いじゃないですか？ 失敗した時は……、ご愁傷様ですかね」

責めて、失敗したならちゃんと元に戻すくらいしてやれよ！ ……他のやつには何もして無いよな？

「ホヒ？ 他のやつ？ 今まで挨拶する前にやってきましたから、覚えて無いですなえ。あ、それと元に戻すのはできませんのであしからず」

……ジーズス、呪いのカード買ったぜ。

「ホヒヒ、そう言われても何も出ませんよ、嬉しいですがね！」

誉めて無いよ！ どうしよ、朝になったら売りに行くか……！

「おお、蒼殿はワタシを手放すのをお考えで？ また、戻つて来ますのであまり意味無いですよ？」

……なんてこつた、打つ手は一つお前の本体を可能な限り細かく破いて捨ててやる！

「ホヒヒ、その非情さにシビれますねえ！ ですが、残念。瞬き一つで完全復活します

ので、ご安心を」

「安心できねえ！ それ以前に、お前本当に『下級』なのかよ！ ただのホラーじゃないか!!」

「ホヒヒ、いいですねえホラーですねえ！ 蒼殿に座布団一枚進呈します！」

オワタ……、処分不可能とか流石に打つ手無いや……

「まあまあ、そう言わないで下さいよ。同居人が増えて賑やかになったと思えば！」
もうダメだ、おしまいだ……！

「あ、もう朝のようですね。ワタシは本体に戻りますので蒼殿はお休み下さい。それでは」

白石は目覚めた、目覚まし時計でセットした時間よりも1時間早かった。

「なんだ、夢か……」

ふと、枕元に目が行くとそこには『ヤツのカード』があった。

「うわあああああつ!!」

驚いてその場から飛び退く。まるで、Gの接近を許し、今し方気付いた主婦の如く。

「夢だけど夢じゃなかった……！ 夢だけであつて欲しかったが……!」

『おお、蒼殿。 お目覚めのようですよ、おはようございます』

頭の中に声が響く、これが念話と言うやつか！ 驚きは隠せないが試しにやってみ

る。

『ああ、おはよう。最悪の目覚めだよ……』

『おお、流石は蒼殿。念話をもう使えるとはワタシは嬉しいですよ！』

『こっちは嬉しくねえ……！』

とりあえず、顔を洗いに洗面所に行った。見える、確かに見える。洗面所の鏡に

『やつ』の姿が映ってる。

『見えるって、こういう事を言うのか……。知りたくは無かった……』

『なかなか便利でしょ！』

『便利じゃ無いよ、ただのホラーだよ！』

『ホヒヒ、お褒めに預かり光栄です！』

『だから、褒めてないっての！』

この日から変な同居人？が増えた。因みに、本体を破壊しても元に戻ると言う話

だったが、本当に瞬き一つで元に戻った。ホラー過ぎる。

第11話 相談とエネルギー

ある日の事、白石はカミュに相談していた。

『「精霊のカード」ねえ……、にわかには信じがたいが、こうして何度破っても再生するカードを見せられると『呪いのカード』の方がまだしつくりくるよ』

「それは言えてる」

『ホヒヒ、お褒めに預かり光栄ですぞ』

『だから褒めてないっての!』

念話で騒ぎ始めた亡霊を叱る。

「ところで、このカードはどうするつもりだい？ 捨てても戻ってくるのだろうか？」

「とりあえず、この前買ったカードバインダーにしまおうと思ってる。捨てられないのなら保管するしか手は思いつかないからね」

どこか遠い目をしながら白石は言う。

『ホヒヒ！ ワタシをレアカードと同じく保管して頂けるのでありますか！ これは光栄ですぞ！ 良待遇でありますぞ！』

『とりあえず、しばらく黙っててくれないか……?』

この亡霊は黙ると言うのが分からないのかと白石は思う。昼夜問わずこのテンションで騒がれるのは本当に堪える。



夕方になり台所で夕食の仕込みをしていると、亡霊が念話で話しかけてきた。

『蒼殿、実は気になっていたのですが……、叶えたい願望は何か無いでありますか?』

唐突な話題に白石は少し考え、ジャガイモの皮を剥きつつ念話で答える。

『願望、要は願いだよね。今は無いかな、デュエリストになる夢は一応叶っているし、他にと言われると思いつかないかな。あ、でも負けた事のある相手にはいつかりベンジしたいとは思ってる』

『それが原因だったですか! 蒼殿はもう少し願望を持って下さい、道理でこちらに来る願望エネルギーが少ない訳です。腹ペコってやつであります!』

『そういえば、悪夢と願望が糧とか言ってたな、他のエネルギーではダメなのか?』

ジャガイモが剥き終わり、ニンジンの皮も剥いていく。

『一応、デュエルする事で得られる《デュエル・エナジー》なら若干効率は悪いですが問題ないですね!』

『《デュエル・エナジー》?』

『《デュエル・エナジー》とはデュエルする事で発生する高揚感や満足感のような様々な精神エネルギー! デュエリストがこれを生成・発散するのであります』

ニンジンの皮も剥き終わったので、次はタマネギの番になる。

『つまりはデュエルさせろって事?』

『ホヒ、極端に言えばそうなりますね。もちろん後でやって頂ければなんとかなるのですが』

タマネギの皮も剥き終わる。 ジャガイモ、ニンジン、タマネギを食べやすく切つていく。

『まあ、後でならいいよ。 だけど、デツキはどうするつもりなんだ? 生憎とデツキはライトロードと作りかけのデツキしかないんだけど?』

『それなら心配ご無用でありますぞ! 後で仮眠をしてもらい、夢の中でデツキを生成しデュエルすれば問題は解決でありますぞ! 《デュエル・エナジー》の発生効率が落ちるのが唯一の欠点でありますが……』

『それでいいなら、そうしようか』

材料を切り終わったので、小鍋に油を入れ材料を放り込み炒める。

『そういえば、蒼殿は一体何を作っているのですか？』

『カレーだよ、出来上がるにはまだかかるけどね』

10分後、カレーが完成したので仮眠をとる事になった。亡霊がどんなデツキを使うのか少し楽しみである。



仮眠をとると、すぐに夢を見た。いや、見せられてると言うのが正しいのかも知れない。

『ホヒヒ、お待ちしておりましたぞ蒼殿。早速デュエルしましょう』

亡霊の左腕には盾の代わりに白石と同じタイプのデュエルディスクが装着されている。準備万端なようだ。

「それは良いけど、その前に聞かせて欲しい。精霊のカードって何なんだ？ 詳しく教えて欲しい。」

『なるほど、あの説明では満足できなかったのですね。改めて説明しますと、ただのカードに精霊が宿った物が一般的ですが、亜種と言うのもあります。亜種は何らかの要因でカードに意志が宿ったり魂が憑依したものなどが当たります。分かり易く言えば、念が籠もって髪が伸びたり動いたりする人形みたいなのが亜種ですよ。因みに、ワタシは亜種の方です』

「そうなのか、大体わかった」

「デュエル！」

白石 LP 8000

亡霊 LP 8000

亡霊のデュエルディスクにランプが灯る。

『ワタシが先攻をしましょう。魔法カード〈ダーク・オカルティズム〉、手札を1枚コ
ストにデッキまたは墓地からレベル8の悪魔族モンスターか、〈ウイジャ盤〉のどちらか
を手札に加えます。デッキから〈ウイジャ盤〉を手札に加えます。1枚伏せてター

ンエンドです』

亡霊の背後から腕が1本伸び、手札のカードを1枚取ると別のカードを手札に加えた。その後、何事も無かったかのように引っ込んだ。

「僕のターン、ドロロー。魔法カードへソーラー・エクステンジ、手札のへライトロード・サモナー ルミナスをコストに2枚ドロローし2枚デッキの上から墓地へ送る」

太陽のような輝きが手札とデッキを照らす。カードをドロローするとデッキのカードが上から2枚勝手に墓地へ送られた。相変わらずどうして勝手にカードが動くのかわからない。

「へゴブリンドバークを通常召喚、モンスター効果で手札のへ超電磁タートルを攻撃表示で特殊召喚。さらに守備表示になる」

ゴブリンが赤い飛行機から大きな箱を投下する。中から金属質なカメが現れる。

「2体のレベル4でオーバレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク4、へライトロード・セイント ミネルバを攻撃表示で特殊召喚。さらに、ORUを1つ取り除き効果発動、デッキを上から3枚墓地へ送る。送られた中にへライトロード・ウオリアー ガロスがあつたのでデッキから1枚ドロローする」

2体のモンスターが暗い穴に飛び込み、その中から純白の翼を広げミネルバが飛翔する。フィールドに降り立った後、杖からデッキへ向けて光を降り注がせる。光に包

まれたカードは墓地へ送られ、1枚のカードが白石の手札に加わった。

「バトルフェイズ、ミネルバでダイレクトアタック」

杖から光弾を放つ。

亡霊 LP 8000↓6000

「バトルフェイズを終了、メインフェイズ2に入りカードを1枚セットしてターンエンド」

『この瞬間、伏せていた〈ウィジャ盤〉を発動！ 蒼殿のエンドフェイズ毎に手札・デッキから〈死のメツセージ〉カード1枚を〈E〉、〈A〉、〈T〉、〈H〉の順番で魔法・罫ゾーンに表側で出しますぞ！ 〈死のメツセージ〉カードが全て揃った時、ワタシはこのデュエルに勝利します！ ……ただし、1枚でもフィールドを離れたら残り全部が墓地へ送られるので頑張つて阻止したほうがいいと思いますぞ。では早速、効果で〈死のメツセージ〉「E」をデッキから配置するであります！』

空中にウィジャ盤が現れ、〈D〉の文字をなぞる。すると空中に〈D〉の文字の形をした炎が現れる。その後、〈E〉の文字も同じようになぞり、炎の文字が現れた。

『ワタシのターン、ドロロー。これでターンエンド』

「エンドフェイズにリバースカード、〈砂塵の大嵐〉で〈ウイジャ盤〉と〈死のメッセー
ジ「E」〉を破壊する」

現れた2つの竜巻が空中に浮かんだウイジャ盤と炎でできたメッセージを巻き込み、
破壊し尽くす。

『お……お……、ワタシのウイジャ盤が……、メッセージが……無情』

「いや、ほつといたら危ないから仕方ない」

『まあ、破壊されたのは仕方ないですな、ハハハ』

「切り替え早いな。 僕のターン、ドロロー。 ミネルバのORUを1つ取り除き効果発
動。 デッキを上から3枚墓地へ送る。 送られた中に〈ライトロード・ピースト
ウォルフ〉があつたので1枚ドロロー。 さらに、墓地へ送られたウォルフは自身の効果
で特殊召喚される」

再び、ミネルバが輝き手札とデッキのカードが変動さる。 ウォルフがやや遅れて
やってきた。

「〈ライトロード・アサシン ライデン〉を通常召喚、効果発動。 デッキを上から2枚
墓地へ送る」

颯爽と現れたライデンがデッキにナイフを投擲する。 しかし、墓地へ送られたのは
〈裁きの龍〉が2枚だった。

「バトルフェイズ、ミネルバでダイレクトアタック」
再び杖から光弾を放つ。

亡霊 LP 6000↓4000

「ウォルフでダイレクトアタック」
持っている武器を振りかぶって、叩きつける。

亡霊 LP 4000↓1900

「ライデンでダイレクトアタック」
亡霊に詰め寄り両手のナイフが閃く。

亡霊 LP 1900↓200

「バトルフェイズを終了して、エンドフェイズ、ライデンの効果でデッキを上から2枚墓
地へ送る。 ターンエンド」

『随分とやっちゃってくれましたね蒼殿……、本気になったワタシを見せてやりましょー！　ワタシのターン、ドロー。　まずは墓地の〈ダーク・オカルティズム〉を除外して効果発動。　墓地の〈ウイジャ盤〉と〈死のメッセージ「E」〉の2枚をデッキの底に戻して、2枚ドローします』

破壊したのにデッキの底へと戻る〈ウイジャ盤〉と〈死のメッセージ「E」〉を見ながら白石は次はどうやって突破するかを考える。

『魔法カード〈死者蘇生〉、墓地から〈カース・ネクロファイア〉を攻撃表示で特殊召喚しますぞー！』

足元に穴が開き、そこから人形のような物を抱いた黒いオーラを纏うモンスターがゆっくりと浮かび上がってきた。

〈カース・ネクロファイア〉 攻撃表示

星8／闇属性／悪魔族／特殊召喚／効果モンスター

ATK／2800 DEF／2200

『バトルフェイズですぞ、〈カース・ネクロファイア〉でミネルバを攻撃』

片腕をミネルバに向けると、周囲のオーラが集まり黒い塊が正面に出来上がる。　そ

れを放つとミネルバが迎撃せんと杖から光弾を放つ、だが威力に差があるせいか黒い塊が光弾を弾きながら進み命中する。そこにミネルバの姿は無く、痕跡として数枚のフクロウの羽根と折れた杖の破片が転がっていた。

白石 LP 8000↓7200

「破壊されたミネルバの効果発動。デッキを上から3枚墓地へ送り、その中に『ライトロード』カードがあればその数までフィールドのカードを選んで破壊する。墓地へ送られた中に『ライトロード・アサシン ライデン』（2枚目）と『ライトロード・サモナー ルミナス』（2枚目）があったので、〈カース・ネクロフィア〉を破壊する」

折れた杖から僅かだが光が溢れ、1発の光弾が作り出される。それが放たれ、持っていた人形を破壊する。人形を破壊された〈カース・ネクロフィア〉は呪詛を唱えながら消えていった。それと同時に杖も砕けて消えた。

『バトルフェイズを終了し、メインフェイズ2に入り、フィールド魔法〈ダーク・サンクチュアリ〉を発動。このカードがある限り〈ウイジャ盤〉の効果で〈死のメッセージ〉カードを出す場合、通常モンスターとして特殊召喚できませんぞ！ しかも、〈ウイジャ盤〉以外の効果を受けず、攻撃対象にもされません。……この効果でモンスターとし

て（死のメッセージ）カードを呼び出せるのは良いのですが、そのモンスターしかワタシのフィールドに存在しなければ全ての攻撃はダイレクトアタックになります」

周囲が闇に包まれ、空中に眼や口がいくつも浮かび上がる。遠くには黒い霧が漂う禍々しい城が建っている。

『カードを2枚セットして、エンドフェイズに蒼殿に破壊されたヘカース・ネクロファイアの効果発動。墓地から攻撃表示で特殊召喚してターンエンドです』

闇の中からヘカース・ネクロファイアが現れる。手には破壊されたはずの人形を携えていた。

「僕のターン、ドロウ。ヘトワイライトロード・ファイター ライコウを通常召喚、墓地のヘライトロード・サモナー ルミナスを除外してヘダーク・サンクチュアリを対象に効果発動。ゲームから除外する」

呼び出されたライコウが亡霊のデュエルディスクに襲い掛かり、フィールド魔法カードのスロットからカードを強奪する。フィールド魔法がスロットから離れたため、周囲の風景が一気に元に戻る。ライコウはカードをどこかに隠したようだ。

「レベル4のウォルフにレベル4のライデンをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル8、ヘレッド・デーモンズ・ドラゴン・スカークライトを攻撃表示で特殊召喚」

ライデンから光の輪が発生し、ウォルフがその中を通り抜けると片方の角の折れた傷

だらけの龍が現れた。

『ホヒヒ、特殊召喚に成功したこのタイミングで伏せていた〈迷い風〉をスカークライトを対象に発動。モンスター効果が無効化され、元々の攻撃力が半分になりますぞ』

スカークライトを不思議な風が包み込む。風が止むとややぐつたりとしていた。

〈レット・デーモンズ・ドラゴン・スカークライト〉 ATK/3000↓1500

「魔法カード〈光の援軍〉、デッキを上から3枚墓地へ送って発動。デッキから〈トワイライトロード・ジエネラル ジェイン〉を手札に加える。続けて、魔法カード〈増援〉、デッキから〈ライトロード・アサシン ライデン〉(3枚目)を手札に加える。

さらに、魔法カード〈貪欲な壺〉、墓地から〈裁きの龍〉3枚と〈ゴブリンドバーグ〉2枚をデッキに戻して、2枚ドロー！ 今手札に加わった〈ソーラー・エクステンション〉(2枚目)を手札の〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉をコストに発動、デッキから2枚ドローして2枚デッキの上から墓地へ送る!!」

白石は怒涛の勢いで魔法カードを連続で使用する。

「これでターンエンド」

『エンドフェイズに〈ウイジャ盤〉を発動しますぞ、さらに効果で〈死のメッセージ「E」〉を配置します』

再び、空中に〈ウイジャ盤〉と炎でできたメッセージが浮かび上がる。

『ワタシのターン、ドロロー。手札を1枚コストに〈ダーク・オカルティズム〉(2枚目)を発動。デツキから〈ダーク・ネクロファイア〉を手札に加えます。バトルフェイズに入り、〈カース・ネクロファイア〉でスカーライトを攻撃』

「墓地の〈ネクロ・ガードナー〉を除外して、その攻撃を無効にする」

ミネルバを消し去った黒い塊をスカーライトに向けて放つ。弱体化したスカーライトの前に黒い影が現れ、黒い塊をその身に受けて変わりに消滅した。

『これでターンエンドです』

「僕のターン、ドロロー。〈トワイライトロード・ジェネラル ジェイン〉を通常召喚」
黒い衣を纏い、赤黒い剣を持った男がフィールドに現れる。

〈トワイライトロード・ジェネラル ジェイン〉 攻撃表示

星4／闇属性／戦士族／効果モンスター

ATK／1800 DEF／1200

「ジェインの効果、墓地から〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉を除外して〈カース・ネクロファイア〉を対象に発動。これでターン終了時まで〈カース・ネクロファイア〉の攻撃力と守備力は除外したモンスターのレベル×300ポイントダウンする。除

外したモンスターレベルは6、よって攻撃力・守備力は1800ポイントダウン。

この効果に『チェーン』する形でライコウの効果、このカード以外の『ライトロード』モンスターの効果が発動した場合に発動。デッキを上から3枚墓地へ送る。さらに、ライコウの効果に『チェーン』してジェインの効果、自身以外の『ライトロード』モンスターの効果が発動した場合に発動。デッキを上から2枚墓地へ送る。処理に入って、ジェインの効果で2枚墓地へ、ライコウの効果で3枚墓地へ、その後パワーダウン！」

ジェインが剣を振るい黒い衝撃波を撃ち出す。それに当たったヘカース・ネクロファイアの黒いオーラが弱まった。

ヘカース・ネクロファイア ATK/2800↓1000 DEF/2200↓400
「バトルフェイズ、スカーライトでヘカース・ネクロファイアを攻撃」

炎が右腕に宿る。スカーライトは、ヘカース・ネクロファイアに右腕を向けると炎を噴出させ命中させる。ヘカース・ネクロファイアは悶え苦しみながら消滅した。

亡霊 LP 200↓0



目覚めると時計を確認する、仮眠をとってから1時間ほど経っていたようだ。

「今まで空腹で目が醒めた事は無かったけど、こんな感じなんだな」

確かに空腹ではあるが、それよりも気になったのが体が少し怠く感じる事である。

『夢魔の亡霊、聞こえてるか？ なぜ体が怠いんだ？』

亡霊に念話で問う。

『ホヒヒ、いやあ、《デュエル・エナジー》をまさかここまで頂けるとは満腹ってやつですな！』

『どういう意味だ？』

『どうも何も、生成・発散した量が予想よりも多く、満足しているのであります。その体の怠く感じるのは多くの量を発散したからだと思えます』

『発散する量って調整できないものなのか？』

『ホヒ、難しいと思います、暑い時に汗を流すのとあまり違いは無いと思いますな、後は慣れればいいと言う話でしょうか？』

『そう言う問題なのか……、わかったありがとう』

話を終えた白石は台所に行くと、皿にカレーを少し多めによそった。



白石がカレーを食べてる頃、カミユは管理人のところに行った。何でも任せたい仕事があるらしい。

「すまないね、こんな時間に呼び出して。とりあえず、お茶をどうぞ」

「ありがとうございます、いただきます」

お茶を飲みながらカミユは呼ばれた訳について考えていた。

「カミユ君、単刀直入に言つて今度1日だけでいいから学校の臨時試験官をやらなないかな?」

「ボクが臨時試験官ですか?」

「ああそうだよ、場所はデュエリスト育成学校なんだけど、その日は私を含めても人数が足りなくて困っていたんだ。そこで、君を誘つたという訳だけどどうだろう? 既に前金を学校側から貰っているから、そこから分配する形でお給料は出せるよ」

「なるほど、わかりました。それで日時はいつですか？」

「今度の日曜日、時間はお昼頃だよ」

「わかりました、当日は参加させて頂きます」

「良かった、参加してくれて。それと、当日は他に2人までなら追加で臨時試験官できるから人選も任せるかな。学生達はなかなか強いからある程度腕に覚えがある方が助かるよ。他に誰か参加する場合は、3日後までには参加の連絡をもらえるかな。」

先方に連絡を入れる必要があるから」

「わかりました」

カミュは、お茶を飲み干すと管理人の部屋を後にした。

「さて、誰に声をかけたものかな？」

部屋に戻るまでの間、他に臨時試験官を任せられる人材を誰にしようか考えるのであった。

第12話 臨時試験官やってみた

仕事から帰ってきた白石はカミュから相談を受けていた。

「……白石君、よかつたら今度の日曜日にデュエリスト育成学校の臨時試験官をやらな
いかな？ 給料も出るようだよ」

「臨時試験官か、面白そうな話だけど具体的に何をするのか？」

「実技試験で生徒とデュエルするだけらしい。評価は別の担当官がするから全力で相
手をすればいい、簡単な話だよ。何だつたら全員倒してしまっても構わない」

「それなら、なんとかなりそうだね。他に誰か参加するの？ 流石にカミュだけつて
事は無いだろうけど？」

「今のところ、管理人の永田氏と香代子さんが参加する。君がOKしてくれたら後は
1人分の枠が余るよ。白石君は誰か参加してくれそうな人の心辺りは無いかな？」

白石は連絡先を知っている中で頼れそうな相手がいなか考えたが該当する相手は
居なかった。

「ゴメン、誰も心辺りは無いかな」

「そうか、それなら仕方ないな。彼に連絡してみるとするよ」

「彼？」

「ああ、こういう時に頼りにできる相手なんだけど、割と多忙な様でね……」

カミュは携帯電話を取り出すと電話をかけた。

「……あ、もしもカミュだけ……」

電話は5分くらい続いた。カミュが電話を切り、OKサインを出してくる。

「彼は当日参加出来るそうだよ」

「その人は、どんな人なの？」

「そうだね、会えばわかるから楽しみにしてて。この事を永田氏に伝えてくるよ」

そう言うと、足早に去っていった。

「どんな相手なんだろう……？」



時は流れて土曜日の夜。白石は部屋でデッキを調整していた。

「これとこれを入れ替えて、こつちを抜いて……」

『蒼殿、やりたい事はなんとわかりましたが、このままではデツキ枚数が60枚になつてしまいますぞ!』

「わかつてる、でもこのカードを使いこなさないと明日は勝てない気がするんだ。一気に墓地へ送り込むカードがあればな……」

『そんな都合のいいカードはそうそう無いと思いますぞ? 諦めて枚数を減らした方が懸命な気がします』

「そつか……。まあ、明日は入れ替え用のカードも持つて行く事になつてるから様子を見てカードを変更出来る分、その辺はなんとかなるかもね」

『蒼殿、一つお願いがあるのですが!』

「どんなの?」

『明日はワタシも連れて行つて欲しいのであります、所謂あれですよ、えー、観戦、観戦がしたいのでありますよ』

「まあいいけど、バインダーごと持つて行けば大丈夫かな?」



当日の朝、現地集合と言う事でデュエリスト・マンションの面々は校門前に到着していた。

「皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中お越し頂きありがとうございます」

管理人が挨拶をする。

「カミュ君、そう言えば一人居ないけど何かあったのかな？」

「彼なら……」

「ここに居るぞ！」

校舎の方から黒い帽子に黒い服と言う真つ黒スタイルな男が歩いて来た。

「すまない、早く来過ぎたせいか用務員に捕まって説教受けてた」

そりゃ、不審者と間違えられたんだなと白石は思った。

「紹介します、彼はアロウン。本名と年齢不詳な点を除けば腕の立つデュエリストです」

「ご紹介に預かった、アロウンです。名前は偽名ですが、よろしくお願いします」

「アロウンさんね、私は月島 香代子です」

「私は永田 幸助です」

「僕は白石 蒼です」

「どうも、……さて、自己紹介も終わったようだし事務室に行きますか」

「許可証の事だね」

「ああ、説教受けた後に臨時試験官の事を話したら、事務室で許可証を受け取ってその後は会場へ行くように言われたよ」

5人は事務室で許可証を貰うと、会場である大型デュエルフィールドに向かって歩いた。

「アロウンさん、1つ質問なんですけどどうして偽名なんですか？」

「月島さんでしたね、それなんですけど昔海難事故に遭いましてね、意識が戻ったのは良いのですが名前や年齢に関する事が全く思い出せなくて、加えて発見された時は身分に関する品を何一つ持ってなかった事もありまして、とりあえず偽名を名乗る事になっているんですよ」

「まあ、辛い事を聞いて仕舞いましたね……、すみません」

「辛いなんてとんでもない。本当に辛い事なら場所を選びますよ、それに昔はどうであれアロウンが今の名前です。まあ、書類で多少困るぐらい大した事じゃ無いですが」

アロウンは笑いながら話していたが、どこか遠い目をしていたように白石には見えた。

「話していたら、もう会場についたね」

「確かこの辺りに……、あ、いたいた」

管理人が会場近くに居た人物に声をかけ近寄って行った。何かを話しているようだ。話していた人物がこちらへとやってきた。赤い髪の長身の男だった。

「皆さん、はじめまして。私がこのデュエリスト育成学校の教頭を勤めます、アレクサンデル・ロイターです。本日はお忙しい中のご参加ありがとうございます」

教頭から本日の日程が説明された。生徒達は正午に筆記試験を行い、昼食休憩を取った後、ここデュエルフィールドにやってきて実技試験を行うとの事。評価を付ける担当官も実技試験前にやってくるらしい。

「……と、以上が本日の予定になります。皆さんには全力で生徒達を倒して頂きたいと思っておりますのでよろしく願います。」

教頭は伝える事を伝えた後に去っていった。実技試験開始までの間は自由時間らしくデュエルフィールドを使ってよし、デッキを改良してもよし、と言った具合である。昼食は購買部で購入してもいいらしい。

「さて、今の内にデッキを改良しておこう」

白石はデッキ調整スペースと書いてあるコーナーに行こうとした時に、アロウンに呼び止められた。

「なんですか？」

アロウンは黒いジャケットから数枚のカードを差し出す。

「ラッキーカードだ、必ず君の役に立つだろう」

白石は受け取ったカードを見た瞬間、脳に電流が走った。頭の中で何かが弾けるイ

メージも出た。

「こ、これは……!」

「昨日の夜にカミュから君のデッキの事を少し聞いたんだ、それで相性の良さそうなカードを手持ちから見繕わせてもらった」

「あ、ありがとうございます!」

白石は早速、調整スペースでデッキを改良し始めた。足りなかったピースがこのタイミングで埋まった、正にそんな状況だった。彼の手と脳は休む事を許さずに3分程で作業を完了させる。

「で、出来た! これなら勝てる!!」

改良したデッキをデュエルディスクにセットして、デュエルフィールドで戦っている他のメンバーに合流するのであった。



実技試験開始前のチャイムが鳴る。その頃には、デュエルフィールドにかなりの人数の学生達が集まっていた。中には見覚えのある面々まで居るようで、こちらに向かつて手を振っていた。……皆、ここの学生だったんだね。

「それでは、実技試験を開始します。各学年の生徒は決められた試験官の所に並んで下さい」

教頭が試験開始を告げる。肝心の担当する学年だが、初等部が管理人と白石、中等部がカミュと香代子、高等部がアロウンと教頭となっており、評価担当の教員がそれぞれ2人ずつ付いている。試合としては時間無制限の1本勝負だが、試験時間があるので実際は30分1本勝負と言ったところだった。

「白石君、肩の力を抜いて楽に行こうじゃないか。皆、今日は張り切っているみたいだけど緊張してる子はいないようだし、私らも楽しめばいいと思う」

「ありがとうございます、そうします」

『そうですぞ、蒼殿。デュエリストは楽しんでる時が最もパワーを引き出しやすく、エネルギーを発散し易いのであります』

『本当はお前、観戦じゃなくてそれが狙いだったんじゃないか？』

『いえ、あくまでも観戦がメインですぞ!』

『お前な……、まあいいや、そこで新しくなったデツキの成果を見ててくれ』

『ホヒヒ、心得ましたぞ!』

そうこうしている内に、最初の相手がデュエルディスクを構えてやってきた。

「対戦よろしくお願ひします」

「よろしくお願ひします!」



少し侮っていた、初等部とは言えデュエリスト。案外、しつかりしたデツキを作っており何度か苦戦を強いられたり、負けた試合も何度かあった。だが、次が自分の担当する最後の相手だ、気を引き締めた白石は相手を見た。そこに居たのは初めての公式戦で見かけた青いリストバンドをした子供だった。この学生だったとは……

「勝負だ!」

威勢はいいらしい。

「対戦よろしくお願いします」

「デュエル！」

白石 LP 8000

青いリストバンドをした学生 LP 8000

デュエルディスクにランプが灯る、選択権は学生に移ったようだ。

「後攻を貰うぞ」

「僕のターン。一気に行かせてもらおうよ！魔法カード〈隣の芝刈り〉、自分のデッキが相手より多い場合に発動出来る。自分のデッキを相手と同じ枚数になるようにデッキの上からカードを墓地へ送る！僕のデッキは今55枚、君のデッキは今何枚かな？」

公平のため、評価を付けてた担当官が学生の元まで行きデッキを数える。

「35枚です」

そう答えると担当官は所定の位置まで戻った。

「ありがとうございます、それならデッキを上から20枚墓地へ送る！」

1度に大量のカードが墓地へ送り込まれた、1回決まると本当に凄く気持ちいいと白石は思う。

「墓地へ送られた中にヘライトロード・ビースト ウォルフが2枚あったので2枚とも特殊召喚！」

墓地からウォルフが2体やってくると、武器に置いて筋肉を誇示するようなポーズを取った。

「は？ ずりいぞ、やり直せ！」

「試験官に対する暴言のため減点1、後2回減点された場合失格とします。試験官、構わず続けて下さい」

担当官が眼鏡を光らせながら言う。子供にはこの手のタイプが居るけど、大概鼻っ柱を折るのが一番手っ取り早い方法だったりする。要は、加減しなくていいと言う事だ！

「わかりました、続けます。フィールドのウォルフ2体でオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク4、へ武神帝1カグツチを攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが暗い穴に飛び込み、青白い炎と武器を纏ったモンスターが現れる。

〈武神帝ーカグツチ〉 攻撃表示

ランク4／光属性／獣戦士族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2500 DEF／2000

「エクシーズ召喚したカグツチのモンスター効果発動、デッキの上から5枚墓地へ送る。墓地へ送られた中に〈ライトロード・アーチャー フェリス〉が居たので守備表示で特殊召喚」

墓地からフェリスが勢いよく飛び出し登場した。 今日も元気なようだ。

「墓地の〈妖精伝姫ーシラユキ〉の効果、このカードが墓地に存在する場合、手札・墓地のカードを合計7枚除外して発動。 僕は墓地から〈ライトロード・アサシン ライデン〉、〈ライトロード・ウォリアー ガロス〉、〈ライトロード・アーチャー フェリス〉、〈トワイライトロード・シャーマン ルミナス〉、〈光の援軍〉、2枚の〈隣の芝刈り〉を除外。 これにより、墓地からシラユキを攻撃表示で特殊召喚！」

7枚のカードが異次元へと送られ、墓地から童話に出てくるような服を着たりすっぱいモンスターが現れた。

〈妖精伝姫ーシラユキ〉 攻撃表示

星4／光属性／魔法使い族／効果モンスター

ATK／1850 DEF／1000

「レベル4のシラユキとフェリスでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク4、〈ライトロード・セイント ミネルバ〉を攻撃表示で特殊召喚」

空中に暗い穴が開き、2体のモンスターが飛び込む。白い翼をはためかせミネルバがフィールドに降り立った。

「ミネルバのORUを1つ取り除き効果発動。デツキを上から3枚墓地へ送る。送られた中に〈ライトロード・アサシン ライデン〉があったので、デツキから1枚ドロー」
ミネルバの杖からデツキへ光が差す、輝きと共にデツキのカードが墓地へ送られる。
白石は1枚のカードをドローした。

「〈ライトロード・マジシャン ライラ〉を通常召喚、エンドフェイズにライラの効果でデツキの上から3枚墓地へ送る。さらに、墓地へ送られた中に〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉(3枚目)と〈ライトロード・メイデン ミネルバ〉があったので『チェーン1』ウォルフ、『チェーン2』ミネルバで組み処理をします。デツキから1枚墓地へ送り、ウォルフを墓地から攻撃表示で特殊召喚。これでターンエンド」

「ドロロー。魔法カード〈融合〉発動。手札の〈プランキッズ・ランプ〉、〈プランキッズ・ロック〉で融合召喚！〈プランキッズ・ロケット〉を攻撃表示で融合召喚」
 2体のモンスターが光の中で混ざり合う、腕の生えたロケットが空中をグルッと回ってフィールドに登場した。

〈プランキッズ・ロケット〉 攻撃表示

星5／炎属性／炎族／融合／効果モンスター

ATK／2000 DEF／0

「『プランキッズ』モンスターの融合素材となつて墓地へ送られたランプとロックの効果発動。『チェーン1』ロック、『チェーン2』ランプで効果を処理します。『チェーン2』の効果であなたに500ポイントダメージを与える。その後、手札・デッキからランプ以外の『プランキッズ』モンスターを1体守備表示で特殊召喚する。デッキから〈プランキッズ・パルス〉を特殊召喚。『チェーン1』の効果で手札を1枚除外して1枚ドロロー。その後、手札・デッキからロック以外の『プランキッズ』モンスターを守備表示で特殊召喚する。デッキから〈プランキッズ・ドロップ〉を特殊召喚」
 デッキから緑の子供と青い子供が現れた。

〈プランキッズ・パルス〉 守備表示

星1／風属性／雷族／効果モンスター

ATK／0 DEF／2000

〈プランキッズ・ドロップ〉 守備表示

星2／水属性／水族／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1000

白石 LP 8000↓7500

「ロケットの効果、このカードをリリースして墓地の融合モンスター以外の『プランキッズ』モンスター2種類を対象にして発動。ランプとロックの2体を特殊召喚。特殊召喚したモンスターはこのターン攻撃出来ない」

ロケットが発発すると、そこには赤い子供と茶色い子供が居た。

〈プランキッズ・ランプ〉 攻撃表示

星3／炎属性／炎族／効果モンスター

ATK／1500 DEF／500

〈プランキッズ・ロック〉 攻撃表示

星4／地属性／岩石族／効果モンスター

ATK／1500 DEF／1500

「魔法カード〈簡易融合〉を1000ポイントライフを支払い発動。 EXデッキから

〈カオス・ウィザード〉を攻撃表示で融合召喚！ この効果で特殊召喚したモンスターは

攻撃出来ず、エンドフェイズに破壊される」

フィールドにカッパ麺が唐突に現れると、中から煙がモクモクと吹き出し、それが晴れると黒い鎧に鎌を持ったモンスターが現れた。

〈カオス・ウィザード〉 攻撃表示

星4／闇属性／魔法使い族／融合／効果モンスター

ATK／1300 DEF／1100

青いリストバンドの学生 LP 8000↓7000

「開け、破壊と力を司るサーキット！ 召喚条件は『モンスター5体』、自分フィールドの5体のモンスターをリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク5、へL・G・Dをとおれから見て右のEXモンスターゾーンに特殊召喚！」

空中にサーキットが現れる。5体のモンスターが竜巻となりサーキットに飛び込む、その中から首が5つある巨大なドラゴンが現れた。

へL・G・D（リンク・ゴッド・ドラゴン） 攻撃表示

リンク5／闇属性／ドラゴン族／リンク／効果モンスター／マーカー（左、左下、下、右下、右）

ATK／5000

「これで終わりだ！ このカードが闇・地・水・炎・風属性の全てを素材としてリンク召喚に成功した場合に発動出来る。相手フィールドのカード全てを破壊する!!」

ドラゴンから発せられた強力なエネルギー波がフィールドのカードを破壊しながら広がっていく。

「カグツチは『武神』モンスターが破壊される場合、ORUを1つ取り除き破壊を免れる」
「は？ ふざけんじやねえぞ！ そいつも死ぬよ！」

「暴言2回目、減点1。次で失格とします、試験官そのまま続けて下さい」
「わかりました」

暴言には確かに思う事はあるが、今は試合に集中する白石である。

「……ちつ、クソが」

「何か言いましたか？」

「言ってるええよ！」

今の内にデュエルディスクをテキストモードに切り替え、あのドラゴンの効果を読む。『フィールドのこのカードは他のカードの効果を受けず、闇・地・水・炎・風属性モンスターとの戦闘では破壊されない』……面倒な耐性を持つてるな。読み終わったのですぐに元のモードに戻す。

「バトルフェイズ、へL・G・Dでカグツチを攻撃」

5つのドラゴンの口からそれぞれ色の事なる破壊光線が放たれる。カグツチはそれを受けて耐えようとするが吹き飛ばされる。

「ダメージは受けるが、カグツチはORUを1つ取り除き自身の破壊を免れる」

吹き飛ばされたカグツチは鎧のあちこちにヒビが入り砕けている所も幾つも見られ

るが、剣に体を預けながら立ち上がった。

白石 LP 7500↓5000

「死に損ないが！ これでターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。魔法カード〈貪欲な壺〉、墓地の〈ゴブリンドバーグ〉2枚、ヘライトロード・アサシン ライデン〉、ヘライトロード・ビースト ウォルフ〉、ヘライトロード・アーチャー フェリス〉の5枚を対象に取って発動。デッキに戻して2枚ドロロー」

ちよび髭の生えた壺が5枚のカードを呑み込むと、壺の中から2枚のカードを出して砕け散った。

「魔法カード〈闇の誘惑〉を発動。デッキから2枚ドロローして、手札の闇属性モンスター〈闇の精霊 ルーナ〉を除外する」

闇闇が現れ、その中から1本の腕が出てくる。その腕は2枚のカードを渡してくると1枚のカードを奪い取って消えた。

「カグツチをリリースして、ヘライトロード・ドラゴン グラゴニス〉をアドバンス召喚」
ボロボロだったカグツチが消滅し、その場を引き継ぐように空からグラゴニスが登場する。

「墓地には『ライトロード』モンスターが8種類存在するから、グラゴニスの攻撃力・守備力は2400ポイントアップする！」

〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉 ATK/2000 ↓ 4400 DEF/1600 ↓ 4000

「そんな攻撃力じゃ、この〈L・G・D〉は越えられない！」

「それならこうするだけだ、墓地のシラユキの効果、墓地から〈おろかな埋葬〉、〈貪欲な壺〉、〈増援〉、〈闇の誘惑〉2枚、〈カオス・ソルジャー ―開闢の使者―〉2枚を除外して特殊召喚」

再び7枚のカードを引き換えにシラユキが現れる。

「さらに、墓地にあるもう1枚のシラユキの効果で〈武神帝―カグツチ〉、〈トワイライトロード・シャーマン ルミナス〉(2枚目)、〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉、〈裁きの龍〉、〈バトルフェーダー〉、〈ソーラー・エクステンジ〉、〈砂塵の大嵐〉の7枚を除外して特殊召喚」

フィールドにもう1体シラユキが増える。

「続けて、シラユキ2体でオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク4、〈Em トラピーズ・マジシャン〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のシラユキが暗い穴に飛び込む、その中からマントをたなびかせながらピエロの

ようなモンスターが華麗に現れた。

「トラピース・マジシャンのORUを1つ取り除き、グラゴニスを対象に効果発動。グラゴニスはこのターン2回攻撃でき、バトルフェイズ終了時に破壊される」

トラピース・マジシャンが手のひらからエネルギー球を作ると、グラゴニスに投げる。グラゴニスはその飲み込むと体から光輝くオーラを発生させた。

「バトルフェイズ、グラゴニスで〈L・G・D〉を攻撃。この瞬間、手札から速攻魔法〈コンセントレイト〉をグラゴニスを対象に発動！ 対象のモンスターの攻撃力はターン終了時まで守備力分、4000ポイントアップする。このカードを発動するターン、他のモンスターでは攻撃出来ない」

〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉 ATK/4400 ↓ 8400

「止めろオー！」

「止めない！ 君もデュエリストならライフが尽きるその瞬間まで戦え！」

〈L・G・D〉が破壊光線を放つ中をグラゴニスは駆け抜け〈L・G・D〉に組み付き、その首の内1つに食らいつく。〈L・G・D〉はそれを振り払うとグラゴニスに破壊光線を集中的に打ち込む。吹き飛ばされたグラゴニスは体制を立て直して空へ飛び、自身も口から光線を放つ。〈L・G・D〉が撃ち落とそうと破壊光線を放つ、2体のドラゴンの攻撃は衝突し拮抗したかに思えたが徐々に〈L・G・D〉が押されていき、最後

はグラゴニスの光線にその身を貫かれて爆散した。

青いリストバンドの学生 LP 7000 ↓ 3600

「2度目の攻撃」

「手札から〈速攻のかかし〉を捨ててバトルフェイズを終了する」

再び攻撃体制に入ったグラゴニスは光線を放つが、それを音速を超えた速さで現れたかかしがその攻撃を受けて爆発四散した事で防いだ。

「バトルフェイズ終了時、グラゴニスは破壊される」

限界を超えた攻撃を繰り返したグラゴニスはその体を光に変え消滅した。

「これでターンエンド」

「ドロー。魔法カード〈貪欲な壺〉、墓地の〈速攻のかかし〉、〈プランキッズ・ロック〉、〈プランキッズ・ランプ〉、〈プランキッズ・ドロップ〉、〈プランキッズパルス〉の5枚を対象に取り発動。デッキに戻して2枚ドロー」

ちよび髭の壺がカードを呑み込むと、2枚のカードを吐き出した。その後、砕け散った。

「魔法カード〈テラ・フォーミング〉、デッキからフィールド魔法を1枚手札に加える。」

〈プランキッツ・ハウス〉を手札に加え、そのまま発動」

学生のフィールドが急速に書き換わる。変化が終わると、あちこちに修復の後の残る奇妙な家が建っていた。

「〈プランキッツ・ハウス〉の発動の処理としてデツキから『プランキッツ』モンスターを1体、〈プランキッツ・ドロップ〉を手札に加える。モンスターをセットして、カードを1枚伏せターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。〈ライトロード・モンク エイリン〉を通常召喚」

褐色の修行僧、エイリンが現れた。

「バトルフェイズ、エイリンでセットされたモンスターを攻撃」

エイリンがセットされたモンスターに向かって行く。

「ここで伏せていた〈神風のバリア ーエア・フォース〉を発動。相手フィールドの攻撃表示モンスター全てを手札に戻す。お前ら全部居なくなれ！」

突如発生した荒々しい風が白石のフィールドに居た2体のモンスターを吹き飛ばした。

「バトルフェイズを終了してターンエンド」

「ドロロー。〈プランキッツ・ハウス〉を墓地へ送り、2枚目を発動。デツキから〈プランキッツ・ランプ〉を発動時の処理として手札に加える」

風景が変わる事は無かったが、家の2階からカードが1枚落ちてきて学生の手札に加わった。

「モンスターを反転召喚、セットしていたのは〈プランキッツ・パルス〉だ。手札から〈プランキッツ・ランプ〉を通常召喚」

学生のフィールドに緑と赤い子供が現れる。

「ランプの召喚時に、墓地のシラユキの効果、〈ライトロード・アサシン ライデン〉（2枚目）、〈ライトロード・アーチャー フェリス〉（2枚目）、〈ライトロード・マジシャン ライラ〉、〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉（2枚目）、〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉、〈ライトロード・セイント ミネルバ〉、〈トワイライトロード・シヤーマン ルミナス〉（3枚目）を墓地から除外して特殊召喚」

シラユキが墓地から這い上がってきた。

「特殊召喚に成功したシラユキの効果、ランプを対象に取って発動。そのモンスターを裏側守備表示にする」

シラユキが手に持ったリングをランプに投げ渡すと、ランプはそれを食べて眠ってしまった。

「邪魔すんじゃないよ！ これでターンエンド！」

「僕のターン、ドロー。このターンで終わらせる。〈ゴブリンドバーグ〉を通常召喚、

モンスター効果で手札から〈ライトロード・アサシン ライデン〉(3枚目)を特殊召喚。
さらに守備表示になる」

赤い飛行機に乗ったゴブリンが大きな箱を空輸してくる。中からライデンが現れる。

「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク4、〈H-C エクスカリバー〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが暗い穴に飛び込み、両刃の剣を持ったモンスター、エクスカリバーが姿を表す。

「エクスカリバーのORUを2つ取り除き効果発動。 次の相手エンドフェイズまで攻撃力が元々の攻撃力の倍になる」

エクスカリバーが剣を天に掲げると雷が剣に落ち、帯電する。

〈H-C エクスカリバー〉 ATK/2000↓4000

「止める、来るな、負けたく無い！」

「……口が悪いだけならまだいい、だが今の君はそれ以上に見苦しい！ エクスカリバーでパルスを攻撃！」

青いリストバンドの学生 LP 3600↓0



「対戦ありがとうございます」

「ふざけんじゃねえぞ！ お前なんか死んじまえ！」

学生はそれだけ吐くと出口に向かって走り去ろうとしたが、大柄な教員に捕まり拳骨を食らって泣き出した。 ついでに逃走防止のためなんだろうけど小脇に抱えられている。

「私は生徒指導の鬼塚（おにづか）です、彼の暴言の数々本当にすみませんでした、私の指導不足です」

そう言うと、深々と頭を下げてきた。

「いえ、確かに彼には思う事がありますけど、貴方が頭を下げる必要は無いですよ」

「彼は確かに問題児ですが、それを矯正仕切れなかったのは事実ですから。重ねてお詫び申し上げます」

「わかりました、今回の件はこれで終わりと申うことにしましょう。ところで、彼はこ

の後どうなるのですか?」

「補習です」

「そうですか……」

「では、これで失礼します」

そう言うと、鬼塚はデュエルフィールドから出て行った。

「お疲れ様です、これで臨時試験官の仕事は終わりになります。

後はお帰りになられ

て大丈夫です」

「わかりました」



デュエルフィールドを出ると皆が待つてた。

「おかえり、さつき初等部の子だと思うけど、先生に小脇に抱えられて連れてかれたみただけで何かあったのかな?」

「ああ……、いえ、大した事では無いですよ」

「まあ、これで全員終わった事だし帰りましょうか。アロウン君は一旦、デュエリス・マンシヨンまで来て欲しい、給料はマンシヨンの金庫内なんだ」

「わかりました」

「アロウンさん、カードありがとうございます！ おかげで勝てました！」

「気にしないでくれ、それと呼び捨てでいい。その方が呼ばれ慣れてる」

「ねえ、アロウンさん。今度、私とデュエルして頂けませんか？ 試験中の活躍ぶりを少し見てたら火がついてしまつて……、ダメでしょうか？」

「構いませんよ、あと呼び捨てでお願いします」

皆でデュエリス・マンシヨンまで帰り着くと、管理人から給料を貰い解散となった。香代子とアロウンはそのままデュエルを始めたけれど、白石は疲れたのか部屋に戻つて仮眠する事にした。仮眠から目覚めて貰った給料を確認すると、10万円入つて驚いた白石だった。

第13話 新たな力

白石がデュエリスト・マンションに引越して1月ぐらいが経った頃。

「ようやく明日が給料日か、働いた甲斐があるな」

『ホヒ、蒼殿お疲れ様です』

「ありがとう」

白石の生活もそんなに大きな変化は無かったがこれから季節が夏になっていくため、衣替えの用意を迫られる事になるぐらいだろうか？

「そういえば、お腹空いたな……、何か作るか！」

『ホヒヒ、食事の後は《デュエル・エナジー》をお願いします！』

「構わないよ」

白石は食事を作るため台所へ向かった。今日の献立は蕎麦である。



翌日、仕事を終えた白石は銀行で金を引き出すとひよこのカードショップへ向かった。今回は夢魔の亡霊を財布の中に入れて着ている、たまには外の空気を吸いたい気分らしい。

『ホヒヒ、シャバの空気はウマイですな!』

『シャバって……、まあいいか』

ひよこのカードショップは系列店舗からの商品の取り寄せが可能だったりする。

そのおかげで店に無いカードでもある程度は融通が効いた。白石は今回、取り寄せてもらったカードの支払いに来たのだ。

「白石です、注文していたカードの支払いに来ました」

「こちらがご注文頂いたカードになります。全部で23点、3850円です」

白石は代金を支払い、商品を受け取った。

「ありがとうございます!」

帰る前にストレージコーナーや30円コーナーなどをチェックする。白石には特に探してるカードは無いが、亡霊曰わく『他の精霊のカードがあったら回収しときましよう』と言う訳で見に来たのであった。

『いふむいふむ……』

『どう、あった？』

『いえ、何も感じないですな。恐らく、誰かが買ったか店に無いかと言ったところでしようか。これからも地道に探すしか無いですな』

『そっか』

精霊のカードの収穫は無かったが、買ったカードはここにある。とりあえず家に帰る事にした。



夜になってデツキは完成した。

「やっとできた！」

『おお！ 蒼殿、良かったですな！』

「亡霊、対戦相手お願ひしてもいい？」

『いいですとも！ 早速やりましょう』

白石は寝る準備を始めた。

『そういえば、蒼殿。今回使うデッキはいつものとは異なりますのでご注意ください』

「いつもと違うのか、まあいいや。それはいつもと比べて強い？」

『安定しておりますな、強さは方向性が異なりますが強くなつてはいると思います』

「そっか、それは楽しみだ！」

そう言うのと布団に入った。白石は布団の心地良さに身を任せると直ぐに眠りに落ちた。



だんだんと意識がはつきりとしていく、亡霊が手招きしているのが見えてきた。

『蒼殿、こちらですぞ！』

「毎回思うけど、明晰夢を見せる能力でもあるの？」

『いえいえ、全くそのような能力は無いですぞ。強いて言うなら、夢を見た状態の相手をこうして手招きして連れてくるぐらいでしょうか』

「ハーメルンの笛吹男かよ……！」

『近いですが、あんな誘拐犯と同じにされるのは勘弁ですな』

「それはゴメン、つてネタが通じたよ……!」

『さて、無駄話はこのままでにしてやりましょうか!』

「そうだね!」

白石はデツキとデュエルディスクを念じるとそれらが左腕に現れる。 毎度やつてるとは言え、不思議な感覚だ。

「デュエル!」

白石 LP 8000

夢魔の亡霊 LP 8000

デュエルディスクにランプが灯る、今回は白石のようだ。

「先攻をもらおうよ、自分フィールドに効果モンスターが存在しない場合、手札から〈天威龍ーマニラ〉を特殊召喚できる。 守備表示で特殊召喚」

身体がの透けた赤い龍が現れる。

〈天威龍（てんいりゆう）ーマニラ〉 守備表示

星4／炎属性／幻竜族／効果モンスター

ATK／600 DEF／1500

「開け、天衣無縫のサーキット！ 召喚条件は『リンクモンスター以外の「天威」モンスター1体』、〈天威龍ーマニラ〉をリンクメーカーにセット！ リンク召喚！ リンク1、〈天威の拳僧〉を僕から見て右のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

空中にサーキットが現れる。 マニラが赤い竜巻となりサーキットに飛び込む、髪を後ろで1つに纏めた青年が飛び降りてきた。

〈天威の拳僧（けんそう）〉 攻撃表示

リンク1／地属性／幻竜族／リンク／通常モンスター／メーカー（下）

ATK／1000

「再び効果モンスターが存在しない状態になった事で、手札から〈天威龍ーナハタ〉を守備表示で特殊召喚」

身体の透けた緑の龍が現れる。

〈天威龍―ナハタ〉 守備表示

星4／風属性／幻竜族／効果モンスター

ATK／800 DEF／1000

「開け、天衣無縫のサーキット！ 召喚条件は『幻竜族モンスター2体』、〈天威の拳僧〉と〈天威龍―ナハタ〉をリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク2、〈天威の龍仙女〉を僕から見て右のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

2体のモンスターが赤い竜巻となりサーキットに飛び込む、大きな扇を持った女性が拳僧と同じく飛び降りてきた。

〈天威の龍仙女（りゅうせんによ）〉 攻撃表示

リンク2／炎属性／幻竜族／リンク／効果モンスター／マーカー（左下、右下）

ATK／1600

「龍仙女の効果。 手札1枚を捨てて、墓地の拳僧を対象に発動。 特殊召喚する。」

この効果の発動後、ターン終了時まで僕は『天威』モンスター以外のEXデッキから特殊召喚されたフィールドのモンスター効果を発動できない」

龍仙女が拳僧を呼ぶと、走ってやってきた。

「開け、天衣無縫のサーキット！ 召喚条件は『リンクモンスターを含むモンスター2体以上』、〈天威の拳僧〉と〈天威の龍仙女〉をリンクマーカーにセット！ リンク召喚！

リンク3、〈天威の鬼神〉を僕から見て右のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

2体のモンスターが赤いとなりサーキットへ飛び込む。身体が龍になりかけている大男が地面に着地する。

〈天威の鬼神（きじん）〉 攻撃表示

リンク3／閻属性／幻竜族／リンク／通常モンスター／マーカー（上、右下、右上）

ATK／3000

「フィールド魔法〈天威無崩の地〉を発動してターンエンド」

フィールドが岩ばかりの殺風景な景色に変わる。

『ホヒヒ、ワタシのターン、ドロ。 魔法カード〈成金ゴブリン〉発動。 ワタシはデッ

キから1枚ドロ。 その後、蒼殿は1000ライフを回復しますぞ』

身なりのいいゴブリンが現れ、周囲に金貨をばらまいて行く。ばらまかれた金貨は形を変えて、亡霊には1枚のカードへ、白石には輝く霧のようなものになり変わりライフを回復した。

白石 LP 8000↓9000

『モンスターをセットして、カードを2枚伏せる。これでターンエンドですぞ』

「僕のターン、ドロ。魔法カードへハーピイの羽根箒、相手の魔法・罠カードを全て破壊する」

『ホヒ！ ならばそのカードに「チェーン」して、リバースカードオープン！ 罠カードへディーラーズ・チョイスを発動。お互いのプレイヤーはデッキをシャッフルして1枚ドロ。その後、お互いは手札を1枚捨てます』

「もう1枚は使わないの？」

『使いませんので、処理に入ります。「チェーン2」でお互いにデッキをシャッフルして1枚ドロ。ワタシは〈暗黒界の尖兵 ベージ〉を捨てます』

仮面を付けたディーラー（？）が現れ、お互いのデッキをシャッフルするとどこかへと去って行った。

「僕は〈天威龍―アードラ〉を捨てる。『チェーニー』で亡霊の魔法・罠カードは全て破壊される」

羽根箒から突風が吹き出し、亡霊の魔法・罠カードゾーンにあるカードをことごとく吹き飛ばした。

『手札から墓地へ捨てられたページの効果発動。墓地から守備表示で特殊召喚』
 身体のおちこちから粘液を滴り落としながら、灰色の悪魔が現れた。

〈暗黒界の尖兵 ベージ〉 守備表示

星4／闇属性／悪魔族／効果モンスター

ATK／1600 DEF／1300

「バトルフェイズ、鬼神でベージを攻撃」

鬼神が間合いを詰め、拳を振るう。単純な一撃だが、守りを固めたベージをその守りごとく貫き破壊する。

「これでターンエンド」

『ワタシのターン、ドロロー。ウムム、これでターンエンドです』

「僕のターン、ドロロー。バトルフェイズ、鬼神でセットされたモンスターを攻撃」

セツトされたモンスターに鬼神の一撃が直撃し、カードの下から古めかしい壺が転がり出てきた。

『セツトされたモンスターはへメタモルポット、お互いは全ての手札を捨てて、デッキから5枚ドロシーします』

壺の中に居たモンスターがお互いの手札を吸い込み、壺ごと砕け散る。その際、それぞれのところろに5枚のカードが飛び散ってきた。

へメタモルポット 守備表示

星2 / 地属性 / 岩石族 / リバース / 効果モンスター

ATK / 700 DEF / 600

『墓地へ送られたモンスターの効果を全て「チェーン」します。「チェーン1」へ暗黒界の龍神「グラファ」で「天威無崩の地」を対象に発動。「チェーン2」へ暗黒界の狩人「ブラウウ」、「チェーン3」へ暗黒界の武神「ゴルド」、「チェーン4」へ暗黒界の尖兵「ベージ」（2枚目）。何かありますか？』

「こっちは特に無いよ」

『では、処理に入りますぞ。「チェーン4」のページを攻撃表示で特殊召喚、「チェーン

3」のゴールドも手札から捨てられた場合に特殊召喚できます、攻撃表示で特殊召喚。

「チェーン2」のブラウは手札から捨てられた時に1枚ドロウできます。「チェーン1」のグラファは対象に取ったカードを破壊しますぞ!」

亡霊の墓地から2体のモンスターが現れる。ページと斧を持った黄金の悪魔、ゴールドである。さらに、墓地から金属色の光線が放たれフィールド魔法カードを破壊する。カードが破壊された事で景色が元に戻る。

〈暗黒界の武神 ゴルド〉 攻撃表示

星5／闇属性／悪魔族／効果モンスター

ATK／2300 DEF／1400

「バトルフェイズを終了して、メインフェイズ2。カードを1枚伏せてターンエンド」
『ホヒビ、ワタシのターン、ドロウ。まずは、墓地のグラファの効果。フィールドのゴールドを手札に戻して、墓地から攻撃表示で特殊召喚します』

黄金の悪魔が1枚のカードとなり亡霊の手札に戻ると、墓地から龍の姿をした悪魔が現れる。

〈暗黒界の龍神 グラファ〉 攻撃表示

星8 / 闇属性 / 悪魔族 / 効果モンスター

ATK / 2700 DEF / 1800

『2枚のカードを伏せて、フィールド魔法〈暗黒界の門〉を発動。このカードの効果に

よりフィールドの悪魔族モンスターの攻撃力と守備力は300ポイントアップします』

亡霊の背後に巨大な門が現れ、その扉が開かれる。そこから流れ出るエネルギーが

周囲に充満する、悪魔達はそれによりパワーアップした。

〈暗黒界の尖兵 ベージ〉 ATK / 1600 ↓ 1900 DEF / 1300 ↓ 1600

0

〈暗黒界の龍神 グラファ〉 ATK / 2700 ↓ 3000 DEF / 1800 ↓ 2100

00

『魔法カード〈手札抹殺〉、お互いのプレイヤーは全ての手札を捨てて、捨てた枚数と同じ枚数をデッキからドロウします』

「そのカードに『チェーン』して罫カード〈幽麗なる幻滝〉、手札の幻竜族モンスター〈天威龍ーシユターナ〉2枚、〈天威龍ーナハタ〉、〈天威龍ーヴィシユダ〉を墓地へ送って発

動。墓地へ送ったモンスターの枚数+1枚をデッキからドロウする」

『こちらから「チェーン」するカードは無いですよ』

「それなら処理に入るよ、『チェーン2』の効果で5枚ドロ―!」

身体の透けた龍達が白石の元を集まり、それぞれがカードとなり手札に加わった。

『「チェーン1」の効果でお互いに全ての手札を捨てて同じ枚数ドロ―します。ワタシ

は4枚捨てて、4枚ドロ―』

「僕は5枚捨てて、5枚ドロ―する」

『墓地へ送られたモンスターの効果を「チェーン」しますぞ。「チェーン1」へ暗黒界の

術師 スノウ、「チェーン2」へ暗黒界の軍神 シルバ、「チェーン3」へ暗黒界の武神

ゴルド、他に何かありますか?』

「こっちは無いよ」

『では処理に入って、「チェーン3」のゴルドを攻撃表示で特殊召喚、「チェーン2」のシ

ルバも手札から捨てられた場合、特殊召喚できます。こちらでも攻撃表示。「チェー

ン1」のスノウは手札から捨てられた場合、デッキから「暗黒界」カードを1枚手札に

加えられます。デッキから「暗黒界の取引」を手札に加えます』

亡霊のフィールドにゴルドと双剣を逆手に持った銀色の悪魔、シルバが現れ、デッキ

から1枚のカードが亡霊の手札に加わった。そして2体の悪魔もエネルギーを得て

パワーアップした。

〈暗黒界の軍神 シルバ〉 攻撃表示

星5／闇属性／悪魔族／効果モンスター

ATK／2300 DEF／1400

〈暗黒界の武神 ゴルド〉 ATK／2300↓2600 DEF／1400↓1700

0

〈暗黒界の軍神 シルバ〉 ATK／2300↓2600 DEF／1400↓1700

0

『魔法カード〈暗黒界の取引〉発動。お互いのプレイヤーはデッキから1枚ドロークして、その後1枚捨てます。ワタシは〈暗黒界の龍神 グラファ〉(2枚目)を捨てます』

「僕は〈幽麗なる幻滝〉(2枚目)を捨てる」

『墓地へ送られたグラファの効果で鬼神を対象に発動。破壊しますぞ』

「その効果に『チェーン』、自分フィールドの効果モンスター以外の表側表示のモンスターを対象とする相手の魔法・罠・モンスター効果が発動した時に墓地の〈天威龍一マニラ〉を除外して発動。その発動を無効にして破壊する」

『他にカードは無いので処理をどうぞ』

「わかった、マニラの効果でグラファアの効果を無効にする」

鬼神に向けて放たれた金属色のエネルギー波を赤い龍が遮り無力化する。

『魔法カード〈テラ・フォーミング〉、デッキからフィールド魔法を1枚手札に加えます。』

デッキから〈暗黒界の門〉(2枚目)を手札へ』

空中に何かが散布されると1枚のカードとなり、亡霊の手札に加わる。

『墓地のグラファアの効果でページを手札に戻して攻撃表示で特殊召喚します』

ページがカードになり手札に戻ると、入れ替わりに墓地からグラファアが現れる。

〈暗黒界の龍神 グラファア〉(2枚目) ATK/2700↓3000 DEF/180

0↓2100

『〈暗黒界の門〉の効果、墓地から悪魔族モンスター〈魔界発現世行きデスガイド〉を除

外して発動。手札から悪魔族モンスター1体、〈暗黒界の狩人 ブラウ〉(2枚目)を

捨てる。その後、デッキからカードを1枚ドローします。』

門の中に1枚のカードが吸い込まれ、それと入れ替わりで1枚のカードが亡霊の手札

に加わる。

『手札から捨てられたブラウの効果発動。デッキから1枚ドローします』

亡霊に向けて放たれた矢が1枚のカードとなり手札に加わる。

『バトルフェイズ、グラファアで鬼神を攻撃』

グラファが金属色のエネルギー波を手から撃ち出すと、鬼神がそれを回避しつつ間合いを詰める。渾身の一撃がグラファの身体を貫くが、それと同時に鬼神も金属色の光に撃ち抜かれた。相討ちである。

「鬼神が戦闘で破壊された事により、墓地の〈天威龍―シユターナ〉を除外して発動。墓地から破壊された鬼神を特殊召喚。その後、相手フィールドのモンスターを1体、2体目のグラファを破壊する！」

地面から巨大な氷山が突き出す。それが砕けると中から鬼神が現れ、2体目のグラファに気弾を放つ。気弾が命中したグラファは破壊され消滅する。

『バトルフェイズを終了してメインフェイズ2、ゴルド、シルバの2枚を手札に戻して墓地からグラファを2体特殊召喚します。さらにパワーアップ』

ゴルド、シルバの2体が手札に戻ると再びグラファが2体フィールドに呼び戻される。

〈暗黒界の龍神 グラファ〉 ATK/2700 ↓ 3000 DEF/1800 ↓ 2100

0

『フィールド魔法〈暗黒界の門〉を墓地へ送り、2体目の〈暗黒界の門〉を発動。墓地からブラウを1枚除外して効果発動。手札から〈暗黒界の尖兵 ベージ〉を捨て、デッキから1枚ドロ。手札から捨てられたページは自身の効果により守備表示で特殊

召喚』

ページが墓地から現れる。

『魔法カード〈暗黒界の取引〉（2枚目）を発動。デッキから1枚引いて手札から〈暗

黒界の龍神 グラファ〉（3枚目）を捨てます』

「〈終末の騎士〉を捨てる」

『墓地へ送られたグラファの効果、鬼神を対象に発動。破壊しますぞ』

金属色のエネルギー波が放たれ、鬼神を破壊する。

『フィールドのページを戻してグラファを墓地から攻撃表示で特殊召喚。そしてパ

ワーアップ。これでターンエンド』

「僕のターン、ドロロー。自分フィールドに効果モンスターが存在しないから、手札の

〈天威龍1アーダラ〉を特殊召喚する」

身体の透けた茶色の龍が現れる。

〈天威龍1アーダラ〉 攻撃表示

星1／地属性／幻竜族／チューナー／効果モンスター

ATK／0 DEF／0

「開け、天衣無縫のサーキット！ 召喚条件は『リンクモンスター以外の「天威」モンスター1体』、〈天威龍1アードラ〉をリンクマーカ―にセット！ リンク召喚！ リンク1、〈天威の拳僧〉（2体目）を僕から見て右側のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

1体のモンスターが赤い竜巻となりサーキットに飛び込む、サーキットから拳僧が現れる。

「自分フィールドに効果モンスター以外のモンスターが存在する場合、墓地から〈天威龍1ヴィシユダ〉を除外し、左側の伏せてあるカードを対象に効果発動。 そのカードを手札に戻す」

『その効果に「チェーン」して対象になったカードを発動。 永続罫〈暗黒の瘴気〉、相墓地の〈天威龍1シユターナ〉を対象に効果を発動。 手札から悪魔族モンスター1体を捨て、選択したモンスターを除外する』

「他に『チェーン』するカードは無いよ」

『処理に入りますぞ、「チェーン2」の効果で手札から〈暗黒界の尖兵 ベージ〉を捨て、シユターナを除外、「チェーン1」の効果で〈暗黒の瘴気〉を手札に戻します』

身体の透けた黒い龍が伏せてあるカードに突撃するが、それよりも早く暗い色の瘴気が白石の墓地からカードを蝕み除外した。

『手札から捨てられたページを守備表示で特殊召喚、パワーアップもしますぞ』

〈暗黒界の尖兵 ベージ〉 ATK / 1600 ↓ 1900 DEF / 1300 ↓ 1600

「自分フィールドに効果モンスターが存在しない場合、手札から〈天威龍ーヴィシユダ〉（2枚目）は特殊召喚できる。 守備表示で特殊召喚」

身体の透けた黒い龍が現れる。

〈天威龍ーヴィシユダ〉 守備表示

星7 / 闇属性 / 幻竜族 / 効果モンスター

ATK / 1500 DEF / 2500

〈天威龍ーアードラ〉（2枚目）を通常召喚」

身体の透けた茶色の龍、アードラが現れた。

「開け、天衣無縫のサーキット！ 召喚条件は『リンクモンスターを含むモンスター2体以上』、自分フィールドの3体のモンスターをリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク3、〈天威の龍拳聖〉を僕から見て右側のEXモンスターゾーンに特殊召喚」
モンスターが赤い竜巻となりサーキットに飛び込む、拳僧と龍仙女の2人が現れる。

〈天威の龍拳聖（りゅうけんせい）〉 攻撃表示

リンク3／光属性／幻竜族／リンク／効果モンスター／マーカー（左下、下、右下）
ATK／2600

「龍拳聖の効果。1ターンに1度、自分フィールドに効果モンスターが存在しない場合に発動できる。自分の墓地およびフィールドに表側表示で存在する効果モンスター以外のモンスターの数まで、相手フィールドの効果モンスターを破壊する！ 僕の墓地には3体の通常モンスターが存在する、よって3体のグラファを破壊する！」

拳僧の拳に聖なる光が集まる。拳を突き出すと聖なる光が龍の形となり亡霊のモンスター達を薙払った。

「バトルフェイズ、龍拳聖でページを攻撃」

龍仙女が風を巻き起こしページを浮かび上げらせ、拳僧が重い一撃を放つ。ページは破壊された。

「バトルフェイズを終了してメインフェイズ2、カードを3枚伏せてターンエンド」

『ワタシのターン、ドロ。リバースカードオープン、罠カード〈暗黒よりの軍勢〉を発動。墓地の「暗黒界」モンスター2体を手札に戻します。ワタシが選ぶのは〈暗

黒界の龍神 グラファ〉と〈暗黒界の尖兵 ページ〉』

空間が歪み2枚のカード舞い込む、それらが亡霊の手札に加わる。

『〈暗黒界の門〉の効果、墓地から〈暗黒界の術師 スノウ〉を除外して発動。手札の〈暗黒界の龍神 グラファ〉を捨て、1枚ドロウ。さらに捨てられたグラファの効果で龍拳聖を対象に破壊します』

金属色の光が拳僧と龍仙女を貫き破壊した。

『〈暗黒界の尖兵 ベージ〉を通常召喚』

何度呼び出されたかわからなくなったベージがフィールドに現れる。今回は動きがやや鈍い。

『ベージを手札に戻して墓地のグラファを特殊召喚』

ベージが手札に戻り、墓地からグラファが現れる

『魔法カード〈陽気な葬儀屋〉を発動。手札のモンスターを3枚まで墓地へ捨てます。

〈暗黒界の尖兵 ベージ〉、〈暗黒界の軍神 シルバ〉、〈暗黒界の武神 ゴルド〉の3枚を捨てますぞー！』

棺桶を持った葬儀屋が現れると、亡霊から3枚のカードを預かりどこかへと消えた。

『墓地へ送られた3枚の効果を「チェーン」します。「チェーン1」ベージ、「チェーン

2」シルバ、「チェーン3」ゴルドの順番で処理しますが他に何かありますか？』

「無いです」

『では、ゴールド、シルバ、ベージの順番でそれぞれ攻撃表示で特殊召喚します。さらに、ベージを手札に戻してグラフアを特殊召喚。これで墓地の闇属性モンスターが3体になったので、手札から〈ダーク・アームド・ドラゴン〉を攻撃表示で特殊召喚！忘れてましたが悪魔族モンスターはパワーアップしてますぞ』

墓地から一気にモンスターが現れる。次いでとばかりに黒いドラゴンもやってくる。

〈ダーク・アームド・ドラゴン〉 攻撃表示

星7／闇属性／ドラゴン族／特殊召喚／効果モンスター

ATK／2800 DEF／1000

〈暗黒界の龍神 グラファ〉 ATK／2700↓3000 DEF／1800↓2100

〈暗黒界の武神 ゴルド〉 ATK／2300↓2600 DEF／1400↓1700

〈暗黒界の軍神 シルバ〉 ATK／2300↓2600 DEF／1400↓1700

『ダーク・アームドの効果。墓地の闇属性モンスターを1体除外し、フィールドのカード1枚を対象に取り発動。そのカードを破壊します。墓地から2枚目のページを除外して、中央に伏せられたカードを破壊します』

ダーク・アームドが肩に付いている刃物を投擲する。刃物は回転しながら目標のカードを破壊して再び肩に装着される。

「破壊されたカードは〈ミラーフォース・ランチャー〉、伏せられた状態で相手により破壊され墓地へ送られたので効果発動。このカードと手札・デッキ・墓地からへ聖なるバリアーミラーフォースを1枚選び自分フィールドに伏せる。この効果で伏せられたカードは伏せたターンでも発動できる！墓地から2枚を伏せる」

破壊されたカードが2枚のカードとなり白石のフィールドに伏せられた。

『それなら、再びダーク・アームドの効果で墓地からブラウを除外して、伏せられたへ聖なるバリアーミラーフォースを破壊します』

肩から刃物が投擲される。狙い通りのカードを破壊して元の位置に戻った。『バトルフェイズ、グラファでダイレクトアタック』

金属色のエネルギー波が白石に放たれる。

白石 LP 9000↓6000

『ゴルドでダイレクトアタック』

黄金の斧が最上段から振り下ろされる。

白石 LP 6000↓3400

『シルバでダイレクトアタック』

研ぎ澄まされた双剣が襲う。

白石 LP 3400↓800

『これでトドメです、ダーク・アームドでダイレクトアタック』

両肩の刃物を連結させより大きな刃物にすると、それを投擲する。

白石 LP 800↓0



「対戦ありがとうございました」

『対戦ありがとうございました』

2人(?)は試合後の挨拶をする。

「確かに今回のデツキは強かったね、……手加減したの?」

『……やはりわかってしまいますか、ええ手加減しました。流石に今日完成したデツ

キの力が未知数とは言え全力で回してはいけないだろうなど感じたので大幅に加減しました』

「そっか、それならもつと改良が必要か……。今度、カミュに相談してみよう」

『蒼殿、いつそのこと他のテーマと合体させてはどうでしょうか? 思わぬ成果が出るやも知れませんが』

「なるほど、合体か。それも考えてみよう」



白石と亡霊が夢の中でデュエルしている頃、ある路地裏では別の戦いがあった。

「モンスターでダイレクトアタック！」

「きゃあああつ！」

女子学生 LP 1000↓0

モンスターの攻撃を受け壁に叩きつけられる。リアルダメージが発生しないようにソリッドヴィジョンは作られており、こんな事は本来有り得ないのだ。

「アンティールールだ。君の持っているカード、精霊のカードは約束通り貰っていくよお嬢さん」

「かえ……、して……」

「ルールはルールだ。承知して挑んだのだから諦めたまえ」

顔に傷のある大男はカードを一枚、女子学生のデッキから抜き取ると去っていった。

「ふん、これもまた下級のカードか……」

廃屋の中で大男は不満げにバインダーの中に戦利品をしまう。その中には様々なカードが入れられていた。

「次はより上のクラスを手に入れなければ……」

大男は薄ら笑いを浮かべると次に狩る獲物を探すように街の景色を眺めた。

第4章 対決、カードハンター 第14話 2つの風

ある昼下がりの事、白石は部屋で閲覧板を読んでいた。

「デュエリスト襲撃事件か、なかなか物騒な事件が起きてるようだな」

『蒼殿もデュエリスト、他人事では無いので気を付けて下さい』

「そうは言っても、この事件夜しか起きてないし、いつもの時間帯なら亡霊と夢の中でデュエルしてるじゃないか」

『それもそうでしたな！ ならば安心ですな！』

「閲覧板も読み終わったし届けてくるよ」

そう言っただけで部屋を出る白石を眺めつつ、亡霊は一抹の不安を感じるのであった。



ある路地裏に真つ黒な服装に身を包んだ男が居た。

「相棒、ここに痕跡が無いか調べられるか？」

相棒と呼ばれた存在はここには無いとばかりに首を横に振る。

「そうか、それなら次をあたるか……」

男は路地裏を後にする。その後ろを大きな三つ又の角が特徴的な青い巨体のドラ

ゴンが歩いていて。



デュエリスト育成学校では全校集会が開かれていた。校長が壇上に立ちざわめく生徒達を静める。

「皆さん、静粛に。近頃起きているデュエリストを対象にした襲撃事件を受けて警察と相談した結果、明日よりしばらくの間、本校を休校とする事を決定しました。また、事件は夜間に起きていて、夜間の外出を禁止します。寮に住んでいる生徒はもちろん、自宅から登校している生徒も休校中の夜間外出を禁止します。学校が再開する場

合は連絡網を回しますので次の人へ伝え忘れが無いようお願いします。 私からの連絡は以上です」

校長が壇上を去り、次の教師の連絡が入る。 そうして時間が過ぎていき、20分程で全校集会が終わった。

所変わって中等部の教室。

「明日からしばらく休校になるけど、明里は何か予定ある？」

やや明るめの髪をした女子生徒が背の低い女子生徒に言う。

「あたし？ とりあえず明日は師匠の所に行って稽古付けてもらおうかと思ってるかな」

「師匠って言うと、確かデュエリスト・マンシヨンの人だよな？」

「そうだよ、この前の実技試験の時に来てたけど結局勝負できなかったから腕が上がったかわからなくてね」

「そっか、それならわたしも腕試しで行ってみようかな？」

「奏も来るの？ それなら師匠に連絡入れとくね」

明里は携帯を出すすとメールを作成して送信した。 返答は直ぐに返ってきた。

「もう返信着たよ。 大丈夫だって」

「わかった、明日は楽しみにしてるね」



翌日、明里と奏はひよこのカードショップの前に集まっていた

「おはよう、明里。あれ、師匠さんは？」

「おはよう、奏。師匠はまだ来てないと思う……」

「おや、2人ともおはよう」

師匠ことカミュがカードショップから出てきた。

「師匠!? もう来てたんですか？」

「君達が来る少し前くらいかな、立ち話も何だし店内に入ろうか」

3人は店内に入って行った。



昼過ぎになり、明里と対戦していたカミュは試合後に2人に食事に行かないかと誘った。だがしかし、2人ともデュエリストとしての何かが囁くのか誘いを断りデュエルする事を選んだようだ。カミュもそれに付き合う事にした。

「カミュさん、次はわたしと対戦お願いします」

「いいよ、奏さん。やろうか」

「デュエル！」

カミュ LP 8000

奏 LP 8000

デュエルディスクにランプが灯る、選択権はカミュが得たようだ。

「ボクは後攻を選ぶよ」

「わかりました、それならわたしのターン。モンスターをセットしてカードを2枚伏せターンエンド」

「ボクのターン、ドロロー。魔法カード〈おろかな埋葬〉を発動、デッキから〈SR三つ目のダイス〉を墓地へ。〈SRビータマシーン〉を通常召喚」

赤いマントと身体中のビー玉が特徴的なモンスターが現れた。

〈SR（スピードロイド）ビータマシーン〉 攻撃表示

星2／風属性／機械族／ペンデュラム／効果モンスター／スケール1

ATK／200 DEF／100

「ビータマシーンが召喚に成功した時、デッキから『スピードロイド』モンスター1体、〈SRドミノバタフライ〉を手札に加える。この効果の発動後、ターン終了時まで風属性モンスターしか特殊召喚できない」

ビータマシーンがマントの内側から1枚のカードを取り出し、カミュに渡す。

「自分フィールドに風属性モンスターが存在する場合、手札から〈SRタケトンボーグ〉は特殊召喚できる。攻撃表示で特殊召喚」

大きな竹蜻蛉が飛来し、変形するとトンボのような目が特徴的なモンスターになっ

た。

〈SRタケトンボグ〉 攻撃表示

星3／風属性／機械族／効果モンスター

ATK／600 DEF／1200

「タケトンボグをリリースして効果発動。デッキから『スピードロイド』チューナーモンスターを1体特殊召喚する。デッキから〈SR赤目のダイス〉を攻撃表示で特殊召喚」

再びタケトンボグが変形すると、どこかへと飛び去ってしまったが入れ替わりに赤い目の特徴の6面体のサイコロ型モンスターが天井から降ってきた。

〈SR赤目（あかめ）のダイス〉 攻撃表示

星1／風属性／機械族／チューナー／効果モンスター

ATK／100 DEF／100

「赤目のダイスの効果。このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分フィールドの

『スピードロイド』モンスターを1体を対象とし、1〜6までのレベルを宣言して発動する。対象のモンスターのレベルはターン終了時まで宣言したレベルになる。ビーダマシンのレベルを6にする」

赤目のダイスが発光し、ビーダマシンの色が青から赤に変わる。

「レベル6になったビーダマシんにレベル1の赤目のダイスをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル7、へクリアウイング・シンクロ・ドラゴン」を攻撃表示で特殊召喚」
赤目のダイスが光の輪になるとその中をビーダマシンの通過すると、風を纏い透き通る翼を持ったドラゴンが現れた。

へクリアウイング・シンクロ・ドラゴン 攻撃表示

星7/風属性/ドラゴン族/シンクロ/効果モンスター

ATK/2500 DEF/2000

「バトルフェイズ、クリアウイングでセットしたモンスターを攻撃」

クリアウイングが回転しながら風を纏い、1つの竜巻となりモンスターに突撃する。

「セットされたモンスターはへ音響戦士サイザス、ダメージステップでリバーブカードへ仁王立ち」を発動してサイザスの守備力を倍にします！」

伏せられたカードの裏から、音響機材に腕を生やしたようなモンスターが現れる。迫り来る竜巻の前にサイザスは仁王立ちで耐える事を選んだようだ。

〈音響戦士（サウンドウォリアー）サイザス〉 守備表示

星4／風属性／機械族／リバーズ／効果モンスター

ATK／1200 DEF／1900

〈音響戦士サイザス〉 DEF／1900↓3800

カミュ LP 8000↓6700

「ダメージステップ終了後、サイザスのリバーズ効果発動。デッキからサイザス以外の『音響戦士』モンスター1体を手札に加えます。〈音響戦士ギタータス〉を手札に加えます」

サイザスは手にした鍵盤で音楽を奏でると、それに反応したのかエレキギターに腕の生えたモンスターがやってきて奏の手札に加わった。

「バトルフェイズを終了してターンエンド」

「エンドフェイズにサイザスの守備力は〈仁王立ち〉の効果で『0』になります」
 先ほどの仁王立ちの影響で身体中にヒビが入ったサイザスは満身創痍の一言に尽きた。

〈音響戦士サイザス〉 DEF / 3800 ↓ 0

「わたしのターン、ドロロー。〈音響戦士ベース〉を通常召喚」

ベースギターに腕の生えたモンスターが現れた。

〈音響戦士ベース〉 攻撃表示

星1 / 風属性 / 機械族 / チューナー / 効果モンスター

ATK / 600 DEF / 400

「ベーススの効果。1ターンに1度、フィールドに表側表示で存在する『音響戦士』モンスター1体を対象として発動。対象のモンスターのレベルをわたしの手札の枚数分ターン終了時までアップします。わたしの手札は3枚、ベーススのレベルを3つアップさせます」

ベーススは自身の弦を調整していたが、やがて調整が上手くいったのか音楽を奏始めた。

〈音響戦士ベーシス〉 星1↓4

「レベル4のサイザスにレベル4になったベーシスをチューニング！ シンクロ召喚！

レベル8、〈ヘクリムゾン・ブレード〉を攻撃表示で特殊召喚」

ベーシスが光の輪を作り出す。サイザスはそれを通過して光の中に消えると、赤い双剣士が代わりに現れる。

〈ヘクリムゾン・ブレード〉 攻撃表示

星8／炎属性／戦士族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2800 DEF／2600

「バトルフェイズ、〈ヘクリムゾン・ブレード〉でクリアウイングを攻撃」

炎を纏った双剣がクリアウイングを襲う。

「その攻撃宣言時に墓地の三つ目のダイスを除外して発動。その攻撃を無効にする」

振り下ろされた双剣とクリアウイングの間に三つ目のダイスが入り込む。双剣は

三つ目のダイスを易々と切り裂き爆散させた。

「バトルフェイズを終了してターンエンドです」

「ボクのターン、ドロロー。魔法カード〈スピードリバー〉、墓地の赤目のダイスを対

象に発動。 攻撃表示で特殊召喚」

床から赤目のダイスが登場する。

「レベル7のクリアウイングにレベル1の赤目のダイスをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル8、ヘクリスタルウイング・シンクロ・ドラゴン」を攻撃表示で特殊召喚」
赤目のダイスが光の輪となり、クリアウイングが通過する。 翼などが水晶のように透き通ったドラゴンが現れる。

ヘクリスタルウイング・シンクロ・ドラゴン」 攻撃表示

星8／風属性／ドラゴン族／シンクロ／効果モンスター

ATK／3000 DEF／2500

「バトルフェイズ、クリスタルウイングでヘクリムゾン・ブレード」を攻撃」

翼に光とエネルギーが集まる。 集めたエネルギーを推進力を使い、クリスタルウイングは音速を超えるスピードでヘクリムゾン・ブレード」にぶつかる。

「このカードがレベル5以上の相手モンスターと戦闘するダメージ計算時に発動する。 そのダメージ計算時のみ戦闘を行う相手モンスターの攻撃力分、自身の攻撃力をアップする！」

双剣を盾代わりに使いその身を守る〈クリムゾン・ブレード〉にクリスタルウィングは拳を全力でぶち当て守りを崩す事に成功する。その隙を突いて空いているもう片方の手で真紅の鎧を貫き爆散させる。

〈クリスタルウィング・シンクロ・ドラゴン〉 ATK/3000↓5800↓3000
 奏 LP 8000↓5000

「バトルフェイズを終了してターンエンド」

「わたしのターン、ドロ。スケール7の〈音響戦士ギータス〉を左側のペンデュラムゾーンにセッティング、1ターンに1度、手札1枚を捨てギータスのペンデュラム効果を発動。デッキからギータス以外の『音響戦士』モンスターを1体特殊召喚する。

デッキから〈音響戦士ピアノ〉を守備表示で特殊召喚」

ギータスがエレキギターをかき鳴らすと腕の生えたピアノ型モンスターが現れる。

〈音響戦士ピアノ〉 守備表示

星3/風属性/機械族/チューナー/効果モンスター

ATK/900 DEF/1300

「スケール1の〈音響戦士マイクス〉を右側のペンデュラムゾーンにセッティング、これでレベル2〜6までのモンスターを同時に特殊召喚できる。ペンデュラム召喚！手札から〈音響戦士マイクス〉（2枚目）を守備表示で特殊召喚。これでターンエンドです」

腕の生えたマイク型モンスターが現れる。

〈音響戦士マイクス〉 守備表示

星5／風属性／機械族／ペンデュラム／効果モンスター／スケール1

ATK／2300 DEF／1100

ペンデュラム召喚、自身のペンデュラムゾーンの両方にペンデュラムカードを置く事で初めて使えるようになる召喚方法。両側に置いたペンデュラムカードに記載されている『スケール』を元に、その間の数字のレベルを持つモンスターを手札と自分のEXデッキに表側表示で存在するモンスターの中から選んで同時に特殊召喚できる。ただし、基本的に1ターンに1度しかペンデュラム召喚は行えず、EXデッキからモンスターを呼び出す場合は片側のEXモンスターゾーンに特殊召喚するかリンクモンス

ターの持つリンクマーカアの先にしか特殊召喚できないなどの制約がある。因みに、フィールドを離れたペンデュラムモンスターは持ち主のEXデッキに表側表示で加わる。

「ボクのターン、ドロロー。バトルフェイズ、クリスタルウイングでピアノを攻撃」
クリスタルウイングがピアノに急速接近し、片手で掴み上げると床に叩きつけ爆散させる。

「バトルフェイズを終了してターンエンド」

「わたしのターン、ドロロー。モンスターをセットしてターンエンド」

「ボクのターン、ドロロー。墓地から〈スピードリバーズ〉を除外して墓地の〈SRタケトンボーグ〉を対象に効果発動。手札に加える。〈SRシェイプ・メラン〉を通常召喚」

ブーメランがフィールドに飛んで来て、変形するとモンスターになる。

「手札の〈SRタケトンボーグ〉は風属性モンスターが自分フィールドに存在しているので特殊召喚できる。さらにリリースして発動。デッキからチューナーモンスター〈SR-OMKガム〉を準備表示で特殊召喚」

タケトンボーグが変形して飛び去ると、小型の箱が落ちてくる。箱は変形してモンスターになった。

〈SR—OMK（オーエムケ）ガム〉 守備表示

星1／風属性／機械族／チューナー／効果モンスター

ATK／0 DEF／800

「レベル4のシェイプー・メランにレベル1のOMKガムをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル5、〈HSRチャンバライダー〉を攻撃表示で特殊召喚」

シェイプー・メランが光の輪を通過すると、巨大な剣が下半身のモンスターが現れる。

〈HSR（ハイスピードロイド）チャンバライダー〉 攻撃表示

星5／風属性／機械族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2000 DEF／1000

「シンクロ素材となつて墓地へ送られたOMKガムの効果発動。 自分のデッキの上から1枚墓地へ送り、そのカードが『スピードロイド』モンスターだった場合、OMKガムを素材としてシンクロ召喚したモンスターの攻撃力を1000ポイントアップする。

墓地へ送られたのは、魔法カードへスピードリフト、パワーアップは無い」

墓地からOMKガムが出てきて、背中に背負っている箱から1枚のカードを出す。その後、再び墓地へ戻って行った。

「バトルフェイズ、チャンブライダーは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃できる！」

チャンブライダーでマイクスを攻撃」

チャンブライダーがブースターを吹かして突撃する。

「チャンブライダーが戦闘を行うダメージステップ開始時に発動する。攻撃力を200ポイントアップする」

〈HSRチャンブライダー〉 ATK/2000↓2200

マイクスが加速したチャンブライダーによって跳ね飛ばされ破壊される。

「破壊されたマイクスをEXデッキに表側表示で追加します」

「続けて、チャンブライダーでセットされたモンスターを攻撃。ダメージステップ開

始時に攻撃力がさらに200ポイントアップ」

〈HSRチャンブライダー〉 ATK/2200↓2400

ブースターがさらにチャンブライダーを加速させる。セットされたモンスターをカードごと貫いて破壊する。セットされたモンスターを

「セットされたモンスターはヘクリッター」、モンスター効果は使いません」

「懸命な判断だね、クリスタルウィングでダイレクトアタック」

奏 LP 5000↓2000

「バトルフェイズを終了してターンエンド」

「わたしのターン、ドロ。魔法カード〈サンダーボルト〉、カミユさんのフィールドに存在するモンスターを全て破壊します」

雷撃が降り注ぎカミユのフィールドのモンスター達を破壊し尽くした。

「フィールドから墓地へ送られたチャンブライダーの効果発動。除外されている『スピードロイド』カードを1枚、〈SR三つ目のダイス〉を対象に手札へ加える」

チャンブライダーがフィールドの隅に転がっていた三つ目のダイスをカミユの方へと吹き飛ばした。

「ペンデュラム召喚！ EXデッキから〈音響戦士マイクス〉をわたしから見ても右側のEXモンスターゾーンに攻撃表示で特殊召喚」

マイクスがフィールドに姿を現す。

「バトルフェイズ、マイクスでダイレクトアタック」

マイクスが超音波を発生させて攻撃する。

「その攻撃宣言時、手札の〈SRメンコート〉の効果発動。このカードを攻撃表示で特

殊召喚し、相手フィールドの表側表示モンスターを全て守備表示にする」

機械仕掛けのメンコが高速回転しながら超音波を発生させているマイクスに突撃する。高速回転によって発生した風でマイクスを吹き飛ばし超音波の発生を防いだ。

〈SRメンコート〉 攻撃表示

星4／風属性／機械族／効果モンスター

ATK／100 DEF／2000

「バトルフェイズを終了してターンエンドです」

「ボクのターン、ドロー。〈SRドミノバタフライ〉を通常召喚」

ドミノを羽代わりにしているモンスターがフィールドに現れる。

〈SRドミノバタフライ〉 攻撃表示

星2／風属性／機械族／ペンデュラム／チューナー／効果モンスター

ATK／100 DEF／300

「レベル4のメンコートにレベル2のドミノバタフライをチューニング！ シンクロ召

喚！ レベル6、〈HSSR魔剣ダーマ〉を攻撃表示で特殊召喚
 メンコートが光の輪を通過すると、薄い藍色の剣玉が変形してモンスターと化す。

〈HSSR魔剣（まけん）ダーマ〉 攻撃表示

星6／風属性／機械族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2200 DEF／1600

「バトルフェイズ、魔剣ダーマでマイクスを攻撃。このモンスターは『貫通能力』を持つ」

魔剣ダーマが突撃してマイクスを破壊する。

奏 LP 2000↓900

貫通能力、攻撃したモンスターの攻撃力が攻撃されたモンスターの守備力を上回っていた場合、その差分のダメージを与える事ができる能力。接戦になった時、この能力はとて脅威になる事がある。

「バトルフェイズを終了して、メインフェイズ2。魔剣ダーマの2つ目の効果、墓地か

ら機械族モンスター1体、〈SRシェイブ・メラン〉を除外して発動。相手に500ポイントのダメージを与える」

奏 LP 900↓400

「これでボクはターンエンド」

「わたしのターン、ドロロー。手札を1枚捨ててギータスのペンデュラム効果発動。

デッキから〈音響戦士ベシス〉(2枚目)を攻撃表示で特殊召喚」

エレキギターの音色に誘われたのかベシスが音楽を奏でながらやってきた。

「ペンデュラム召喚！ EXデッキから〈音響戦士マイクス〉をわたしから見て右側のEXモンスターゾーンに攻撃表示で特殊召喚」

EXデッキに行っていたマイクスも音楽に釣られて現れる。

「墓地の〈音響戦士ピアノ〉の効果、種族を1つ宣言し墓地のこのカードを除外する事で、わたしのフィールド上に表側表示で存在する『音響戦士』モンスター1体は宣言した種族になる。フィールドのマイクスの種族を昆虫族に変更！」

独特なピアノの旋律が流れ、マイクスを緑色の光が包み込む。

「続けて、墓地の〈音響戦士ドラムス〉の効果、属性を1つ宣言し墓地のこのカードを

除外する事で、わたしのフィールド上に表側表示で存在する『音響戦士』モンスター1体は宣言した属性になる。フィールドのベーススの属性を闇属性に変更!」

どこか不安になりそうな感じの音が響き、ベーススを紫色の光が包み込む。

「昆虫族になったレベル5のマイクスに闇属性になったレベル1のベーススをチュートニング! シンクロ召喚! レベル6、へ地底のアラクネー」を攻撃表示で特殊召喚」

マイクスが光の輪を通過すると、下半身が大きなクモのモンスターが現れた。

〈地底のアラクネー〉 攻撃表示

星6 / 地属性 / 昆虫族 / シンクロ / 効果モンスター

ATK / 2400 DEF / 1200

「ほう、珍しいモンスターをデッキに入れてるんだね」

「ええ、なかなか頼りになりますから。アラクネーの効果。1ターンに1度、相手

フィールドに存在するモンスター1体を対象して発動。そのモンスターをこのカー

ドの装備カードにします。この効果で装備できるモンスターは1体のみで、このカー

ドが戦闘で破壊される場合、代わりに装備モンスターを破壊できます。魔剣ダーマを

対象に装備カードにします」

アラクネーが糸を吐き出し魔剣ダーマを絡め取る。

「バトルフェイズ、アラクネーでダイレクトアタック」

カミュ LP 6700↓4300

「バトルフェイズを終了してエンドフェイズ、へ音響戦士マイクス」のペンデュラム効果。除外されている『音響戦士』モンスター1体を対象にして発動。そのモンスターを手札に加えます。へ音響戦士ピアーノ」を手札へ。

これでターンエンドです」

「ボクのターン、ドロロー。魔法カードへ貪欲な壺、墓地の5体のモンスターへクリスタルウイング・シンクロ・ドラゴン、へクリアウイング・シンクロ・ドラゴン、へHSRチャンバライダー、へSRメンコート、へSRタケットンボーク」を対象に取り発動。デッキに戻して2枚ドロロー」

ちよび髭の生えた壺がカードを飲み込むと砕け散る、カミュは2枚のカードを手札に加えた。

「スケール8のへSRドミノバタフライ」(2枚目)を右側のペンデュラムゾーンにセッティング。さらにスケール6のへSRへキサソーサー」を左側のペンデュラムゾーン

にセッティング」

「ここでリバースカード〈サイクロン〉を発動。ペンデュラムゾーンの〈SRドミノバタフライ〉を破壊します」

「モンスターをセットしてターンエンド」

「わたしのターン、ドロロー。墓地の〈音響戦士サイザス〉の効果。このカードを墓地から除外して、サイザス以外の除外されている『音響戦士』モンスターを1体対象として発動。特殊召喚します。〈音響戦士ドラムス〉を攻撃表示で特殊召喚」

腕の生えた赤いドラム型のモンスターが現れた。

〈音響戦士ドラムス〉 攻撃表示

星2／風属性／機械族／チューナー／効果モンスター

ATK／700 DEF／700

「ペンデュラム召喚！ 手札から〈音響戦士ピアノー〉を守備表示、EXデッキから〈音響戦士マイクス〉をわたしから見て右側のEXモンスターゾーンに攻撃表示でそれぞれ特殊召喚」

何度も呼び出されたせいかマイクスはやや疲れた印象があつたが、それをねぎらうよ

うにピアノの旋律が流れた。

「メタモルポット」を通常召喚」

古びた壺が転がりながらフィールドに現れる。

「レベル2の〈メタモルポット〉、レベル5のマイクスにレベル2のドラムスをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル9、〈灼銀の機竜〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが光の輪をくぐり抜けると、豊富な火器を搭載した戦車のようなモンスターが爆炎を背景に現れた。

〈灼銀の機竜（ドラッグ・オン・ヴァーミリオン）〉 攻撃表示

星9／炎属性／機械族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2700 DEF／1800

「〈灼銀の機竜〉のモンスター効果。1ターンに1度、手札・墓地および自分フィールドの表側表示モンスターの中からチューナー1体を除外し、フィールドのカード1枚を対象として発動。そのカードを破壊します。墓地から〈音響戦士ベシス〉を除外してセットされたモンスターを対象に破壊します」

砲門が一斉にセットされたモンスターに向けられる。それらが火を噴きモン

ターを跡形もなく破壊する。

「バトルフェイズ、〈灼銀の機竜〉でダイレクトアタック」

再び砲門が狙いを定める。

「墓地の三つ目のダイスを除外してその攻撃を無効にする」

除外された三つ目のダイスは砕け散ると中から何かの粒子を散布する。粒子は苛

烈な砲撃からカミュを守ると霧散した。

「アラクネーでダイレクトアタック」

アラクネーは口から糸を吐き出し魔剣ダーマを鎖付き鉄球の如く操り、カミュに叩き付けた。これが所謂、外道ハンマーである。

カミュ LP 4300→1900

「バトルフェイズを終了してエンドフェイズ、マイクスのペンデュラム効果で除外されているサイザスを手札に加えます。これでターンエンド」

「ボクのターン、ドロ。スタンバイフェイズ、EXデッキから特殊召喚されたモンスターが相手フィールドに存在する場合に発動。手札の〈SRビードロ・ドクロ〉は特殊召喚できる」

ドクロのような顔の付いた細長いモンスターが現れた。

〈SRビードロ・ドクロ〉 攻撃表示

星7風属性／機械族／効果モンスター

ATK／0 DEF／3000

「メインフェイズ、〈SR赤目のダイス〉（2枚目）を通常召喚」

赤目のダイスが転がりながら現れた。

「レベル7のビードロ・ドクロにレベル1の赤目のダイスをチューニング！ シンクロ
召喚！ レベル8、〈HSSRカイドレイク〉を攻撃表示で特殊召喚」

赤目のダイスから出てきた光の輪をビードロ・ドクロが通過する。 どこことなくへく
リアウイング・シンクロ・ドラゴン〉を連想させるようなモンスターが出現する。

〈HSSRカイドレイク〉 攻撃表示

星8／風属性／機械族／シンクロ／効果モンスター

ATK／3000 DEF／2800

「カイドレイクがシンクロ召喚に成功した場合、2つある効果の内1つを選択して発動する。1つ目がこのカード以外のフィールドのフィールドのカードを全て破壊する効果。2つ目が相手フィールドの表側表示のカードの効果が無効にする効果。ボクは1つ目の全体除去効果を発動する！」

カイドレイクから放たれた赤いレーザーや遠隔攻撃兵器がフィールド上のカードを破壊し尽くしていく。無差別攻撃が止むとフィールドにはカイドレイクのみが存在していた。

「シンクロ召喚した〈灼銀の機竜〉が効果によって破壊され墓地へ送られた場合、除外されているわたしのチューナー1体を対象に効果発動。手札に加えます。ベシスを手札へ加えます」

破壊されボロボロになった〈灼銀の機竜〉の中から1枚のカードが出てくる。奏はそれを手札に加えた。

「バトルフェイズ、カイドレイクでダイレクトアタック」

カイドレイクが赤いレーザーを収束させる。

「墓地の〈超電磁タートル〉を除外して効果発動。バトルフェイズを終了します」

収束されたレーザーが放たれる、そのレーザーに高速回転しながら突っ込んで来たカメがぶち当たり代わりに破壊される。

「バトルフェイズを終了して、これでターンエンド」

「わたしのターン、ドロー。モンスターをセットしてターンエンドします」

「ボクのターン、ドロー。魔法カードへヒドウン・シヨット。墓地の『スピードロイド』モンスターを2枚まで除外して、除外した枚数まで対象を選択して発動。そのカードを破壊する。墓地から〈SR—OMKガム〉を除外してセットされたモンスターを破壊する！」

OMKガムが弾丸のように発射されセットされていたモンスターを貫き爆散する。

「バトルフェイズ、カイドレイクでダイレクトアタック」

カイドレイクがクリアウイングよろしく回転しながら突撃する。その攻撃は奏をすり抜けるとライフポイントにダメージを与えた。

奏 LP 400↓0



「対戦ありがとうございました」

「対戦ありがとうございました！」

試合後、3人はひよこのカードショップを後にして近くのコンビニで昼食を取った。

「師匠、後でまたデュエルしましょう」

「いいよ、奏さんはどうする？」

「わたしもお願いします、さっきのリベンジもしたので……！」

カミュはこの日、代わる代わる弟子とその友達を相手にデュエルしまくったのであった。

第15話 香りの癒やし

デュエリスト育成学校が休校になりしばらく経った頃、学生達はそれぞれの学年毎に出された宿題を片付けていた。

「ここ分らないよ、お兄さん教えて」

「フイーネはー、ここ分かないー」

「わたしはここが分らないです」

「わかった、順番に教えていくから少し待つてね」

白石はなんでこうなったのかを勉強を教えながら思い返していた。

時間は少し巻き戻りおやつ時、自室でくつろいでいた白石はインターホンの音がしたので見に行くと、いつぞやの小学生3人組が居た。

「あなたにデュエルを申し込むわ!」

なんでも学校が休校になったらしいが、その代わりに長期休暇並みの宿題が出されて困っていたらしい。しかし、宿題の中に授業でまだ教えていない問題が幾つも紛れ込んでいたので誰かに教わりに来たとの事。だが、宿題の中に誰かとデュエルする事も

あつた為に、こうして対戦を申し込んで来たと言う事だった。要は宿題手伝つてと言う事である。

「いいよ、やろうか」

対戦したのはいいが、3人とも相変わらず強く戦績はボロボロだった。そして現在に時間は戻る。

「ここはね、こうするんだよ」

「ありがとう、お兄さん！」

「こっちは、この数式は合ってるから、ここをこうするだけで大丈夫だよ」

「お兄ちゃんー、ありがとうー」

「これは、グラフは合ってるけど図形がちよつとズレてるから、ここを直せばいいよ」
「ありがとうございます」

10分後、一段落したようなので台所からおやつを持ってくると皆で分けて食べた。

「あなた、なかなかやるじゃない！」

「どういたしまして」

「アリス達またお勉強を教わりに来てもいい？」

「いいよ、その時はまた教えるよ」

「フイーネもー、お勉強がんばるー」

「頑張ったらまたおやつでも出すよ」

それから少しして、3人は帰って行った。

『蒼殿、お疲れ様です』

「退屈だったろう、お疲れ様」

今回、夢魔の亡霊は姿を潜めていた。あれくらいの子供だと精霊を見れずとも知覚する事があるらしく、驚かせないようにバインダーの中で大人しくしていたそう。念話をすればいいとも思ったが、それも場合によっては子供に察知される可能性があるとの事で結局何もしないのが一番だったようだ。



夜、とある公園でデュエルが行われていた。

「諦めて、サレンダーするかね？」

顔に傷のある大男は対戦相手に言う。

状況は悪い、大男のフイールドには4体のモ

ンスターがおり対するこちらは手札とフィールドにカードは無い。加えて、墓地から除外して身を守るカードも使い切ってしまったている。

「諦めたりするものか、お前を倒してアイツが奪われたカードを取り返すまでは！」
デッキに手を掛け、深呼吸する。状況を打開できるカードがデッキに眠っている、その一枚を引き当てる為に全神経を集中する。

「オレのターン、ドロロー！」

引いたカードを見て表情を曇らせる、彼は引き当てる事ができなかったのだ。

「モンスターをセットしてターンエンドだ……」

「その様子では駄目だったみたいだな、ドロロー。バトルフェイズ、全てのモンスターで攻撃を仕掛ける！」

「う、うあああああつ！」

モンスターからの総攻撃を受けて、男は吹き飛ばされ地面に叩きつけられる。

男 LP 6500↓3700↓2000↓0

「さて、アンティールだ。敗者から頂いて行くでしょうか」

気を失った男のデッキから一枚のカードを引き抜くと、大男はその場から去って行く

た。

「これは中級のカードか？ まあいい」

大男は拠点としてある廃屋の中で戦利品を見ていた。一息つくくとバインダーにカードを直した。



「ここも手掛かり無しか……、なかなか尻尾を見せないヤツだな」

とある公園で真つ黒な格好をした男がため息をつく立ち上がる。

「相棒、次は病院行くぞ。他に手掛かりが無いか被害者に聞きに行こう」

「ねえ、お母さん。あの人なにやってるの？」

「見たらいけません、変なのがうつるから駄目です」

「世知辛いね」

時刻は昼を過ぎたくらい、辺りには子供とその親達が居る時間である。通報されな

いだけまだマシだろうか。男は足早に公園から立ち去り病院へ向かうのであった。

所変わって病院。男は受付で多少怪しまれたが目当ての病室へ向かう事ができた。

「こんにちは」

「あなたは？」

既にナースコールを片手にされている辺り、男は服のコーディネートを変えた方がいいのだろう。

「申し遅れました、私はこういう者です。先日、あなたを襲った大男についてお話を伺いに来ました」

男は懐から名刺を取り出しながら言う。

「……何でも屋？ まあ、警察じゃないならまだマシか。いいよ、教えようじゃないか」



日曜日、いつもの如くひよこのカードショップへ行くと楽しみにしていた公式戦がしばらくの間中止されると言う事を店員の木戸さんから聞いた。なんでも近頃流行っているウイルスが原因で、健康被害を考慮した大会運営本部がしばらくの間、各地で行っていたショップ大会を中止する旨を発表したとの事。白石はその話を聞き目眩を覚え膝を屈した。

「蒼やん、そんなところでどうしたの?」

「白石さん、何かあったんですか?」

声のした方を振り向けば、見知った顔があつた。相沢 雛と姫川 百合、2人ともデュエリスト育成学校の高等部の生徒だ。事情を話すと2人ともガツクリと肩を落とした。彼女等も今日のショップ大会を楽しみにしていたらしい。

「……ぐぬぬ、流石にこのまま退散だと腹の虫が収まらないから、蒼やんしばらくウチらと対戦してくれる?」

「いいよ、やろうか」

「ありがとうございます、白石さん」

3人はプレイゾーンに向かった。



「雛ちゃん、今回はわたしからでいいかな？」

「ええよ、前はウチが対戦したからな」

「そっか、よろしくね」

「デュエル！」

白石 LP 8000

百合 LP 8000

デュエルディスクのランプが白石の方に灯る。

「先攻をもらうね。魔法カードへ光の援軍、デッキを上から3枚墓地へ送り発動。

デッキからヘライトロード・アサシン ライデンを手札に加えて、そのまま通常召喚。

効果を発動、デッキを上から2枚墓地へ送る。送られたカードがヘライトロード・サ

モナー ルミナスとヘトワイライトロード・シャーマン ルミナスだった為、相手ターン終了時まで攻撃力を200ポイントアップ。カードを1枚伏せてエンドフェイズ、ライデンの効果でデッキを上から2枚墓地へ送りターンエンド」

ライデンが現れ、デッキの上からカードを墓地へ送った。送ったカードが目当てのカードだったらしく上機嫌である。

ヘライトロード・アサシン ライデン ATK/1700↓1900

「わたしのターン、ドロロー。フィールド魔法〈アロマガーデン〉を発動します。ヘアローマジージャスミンを通常召喚」

周囲の風景がのどかな感じに変化し、杖を持った白髪(?)の子供が現れる。白石はすかさずフィールド魔法共々テキストをチェックした。

ヘアローマジージャスミン 攻撃表示

星2/光属性/植物族/効果モンスター

ATK/100 DEF/1900

「白石さんはテキストをチェックしてる辺り、『アロマ』デッキとは対戦した事無かったんですね」

「まあね」

「ふふつ、それならたっぷり癒されて下さいね。〈アロマガーデン〉の効果発動、ライフポイントを500回復します。この効果発動後、次の白石さんのターン終了時までわたしのフィールドのモンスターの攻撃力・守備力は500アップします」

「癒されたいところではあるけど、ここでリバースカード〈砂塵の大嵐〉を『チェーン』して発動。フィールド魔法を破壊させてもらおうよ」

「まあ、癒されてくれないのですね。『チェーン』するカードはありません」

「それなら処理に入って、フィールド魔法を破壊する。これで回復効果は不発に終わるよ」

突如として発生した大嵐によってのどかな風景は一変して崩れ去った。

「魔法カード〈テラ・フォーミング〉を発動して、デッキから〈アロマガーデン〉(2枚目)を手札に加えて発動します」

再び景色が元に戻る。

「〈アロマガーデン〉の効果発動。ライフポイントを500回復して、わたしのフィールドのモンスターの攻撃力・守備力を500アップします」

百合 LP 8000↓8500

〈アロマージュジャスミン〉 ATK／1000↓600 DEF／1900↓2400

「ジャスミンの効果を発動。1ターンに1度、わたしのライフが回復した場合デッキから1枚ドロウします」

ジャスミンが杖の先から1枚のカードを召喚すると百合に渡した。

「永続魔法〈アロマガーデニング〉を発動します。〈アロマージュローリエ〉はわたしのライフポイントが相手より多い場合、手札から特殊召喚できます。守備表示で特殊召喚します」

今度は緑の服を着た子供が現れた。

〈アロマージュローリエ〉 守備表示

星1／風属性／植物族／効果モンスター

ATK／800 DEF／0

「開いて、緑と安らぎのサーキット！ 召喚条件は『植物族モンスター2体』、ジャスミンとローリエの2体をリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク2、〈アロマ

セラファイージャスミンをわたしから見て左側のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

2体のモンスターが竜巻となりサーキットに飛び込む、中から羽の生えたジャスミンが現れた。

〈アロマセラファイージャスミン〉 攻撃表示

リンク2／光属性／植物族／リンク／効果モンスター／マーカー（左下、右下）

ATK／1800

「ジャスミンがリンク召喚に成功した場合、〈アロマガーデニング〉の効果を発動。1

000のライフポイントを回復する効果に『チェーン』して墓地へ送られたローリエの効果が発動します。こっちは500のライフを回復します。処理に入っても大丈夫ですか？」

「いいよ、どんどん進めても大丈夫」

「わかりました。ライフポイントをそれぞれの効果で回復します。さらに、ジャス

ミンの効果。1ターンに1度、わたしのライフポイントが回復した場合、デッキから植物族モンスターを1体手札に加えられます。デッキから〈ローンファイア・ブロッ

サム〉を手札に加えます」

せわしなくお茶会の準備が始まる中、ジャスミンはパチパチと火花を出し続ける奇妙な植物を持ってきた。

百合 LP 8500↓9000↓10000

「カードを1枚伏せてターンエンドです」

「この瞬間、ライデンの攻撃力が元に戻る」

へライトロード・アサシン ライデン〈 ATK/1900↓1700

「僕のターン、ドロロー。魔法カード〈隣の芝刈り〉を発動。自分のデツキを相手の

デツキと同じ枚数になるように上から墓地へ送る」

「そのカードに『チェーン』します。カウンター罠〈神の宣告〉をわたしのライフポイ

ントを半分支払って発動します。魔法・罠カードの発動、モンスター召喚・反転召

喚・特殊召喚のどれか1つを無効にして破壊します。これで〈隣の芝刈り〉を無効化

します」

百合 LP 10000↓5000

「ライデンの効果発動、デッキを上から2枚墓地へ送る。送られた中に、〈ライトロード・モンク エイリン〉があつたので相手ターン終了時まで攻撃力を200ポイントアップ」

デッキからカードが墓地へ送られると、ライデンの攻撃力が上昇した。

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 ATK/1700↓1900

「バトルフェイズ、ライデンでジャスミンを攻撃」

「〈アロマガーデニング〉の2つ目の効果、あなたの攻撃宣言時にわたしのライフがあな
たより少ない場合に発動できます。デッキから『アロマ』モンスターを特殊召喚しま
す。〈アロマージュージャスミン〉(2枚目)を守備表示で特殊召喚」

ライデンが動きを見せると、お茶会の準備をしていた羽の生えてないジャスミンがパ
タパタやってきた。

「攻撃を続行して破壊する」

百合 LP 5000↓4900

「わたしの『アロマ』モンスターが戦闘で破壊され墓地へ送られたので、〈アロマガーデ
ン〉の2つ目の効果を発動します。ライフポイントを1000回復します」

百合 LP 4900↓5900

「さらに、ジャスミンの効果で1枚ドロウします」

「バトルフェイズを終了して、エンドフェイズ。ライデンの効果でデッキを上から2枚墓地へ送る。これでターンエンド」

「わたしのターン、ドロウ。〈ローンファイア・ブロッサム〉を通常召喚」

ジャスミンが鉢植えに植えられた先ほどの奇妙な植物を持ってきた。

〈ローンファイア・ブロッサム〉 攻撃表示

星3／炎属性／植物族／効果モンスター

ATK／500 DEF／1400

「ローンファイアの効果、わたしのフィールドの植物族モンスター1体をリリースして発動、デッキから植物族モンスターを1体特殊召喚します。ローンファイアをリリースしてデッキから〈アロマージーベルガモット〉を攻撃表示で特殊召喚します」

ローンファイアが弾けると花火が撃ち上がった、それを目印にベルガモットがやって

きた。

〈アロマージュ―ベルガモット〉 攻撃表示

星6／炎属性／植物族／効果モンスター

ATK／2400 DEF／1800

「アロマージュデニング」の効果発動、ベルガモットが特殊召喚に成功したのでライフポイントを1000回復します」

百合 LP 5900↓6900

「ライフポイントが回復したので、ジャスミンとベルガモットの効果発動。『チェーン1』ジャスミン、『チェーン2』ベルガモットで処理します。『チェーン2』でベルガモットの攻撃力・守備力を相手のターン終了時まで1000ポイントアップ。『チェーン1』でデッキから1枚ドロウします」

ベルガモットの周りに赤いオーラが漂い、ジャスミンが1枚のカードを持ってくる。

〈アロマージュ―ベルガモット〉 ATK／2400↓3400 DEF／1800↓2

800

「ヘアロマガードン」の効果発動。ライフポイントを500回復して、次の相手のターン終了時までわたしのフィールドのモンスターの攻撃力・守備力は500ポイントアップします」

百合 LP 6900↓7400

「ヘアロマジージュヤスミン」 ATK/100↓600 DEF/1900↓2400

「ヘアロマジューベルガモット」 ATK/3400↓3900 DEF/2800↓3

300

「永続魔法「へご隠居の大釜」を発動。発動時の効果処理としてカウンターを1つ置きま

す」 老人が大釜をかき回す。中から緑と紫の煙が出てきている。

「へご隠居の大釜」カウンター 0↓1

「へご隠居の大釜」の効果。1ターンに1度、2つある効果の中から1つ選択して発動します。わたしはカウンターの数×500のライフポイントを回復する。または、

カウンターの数×300ポイントのダメージを白石さんに与えます。わたしは回復

を選びます」

百合 LP 7400↓7900

「バトルフェイズ、ベルガモットでライデンを攻撃します」

「墓地から〈ネクロ・ガードナー〉を除外してその攻撃を無効にする」

ベルガモットが杖先から赤い魔法弾を放つが、黒い影が出てきて攻撃を無力化するとどこかへ消えた。

「バトルフェイズを終了してターンエンドです」

「再びライデンの攻撃力は元に戻る」

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 ATK/1900↓1700

「僕のターン、ドロロー。魔法カード〈おろかな埋葬〉、デッキからモンスター1体を墓地へ送る。〈超電磁タートル〉を墓地へ送る。〈ライトロード・サモナー ルミナス〉

(2枚目)を通常召喚」

両手から光を発しながらルミナスが現れる。

「手札を1枚捨て、墓地の〈ライトロード・サモナー ルミナス〉を対象にルミナスの効果発動。特殊召喚する」

ルミナスが2人並ぶ。

「ライデンの効果発動、デッキを上から2枚墓地へ送る。墓地へ送られた中にヘライトロード・メイデン ミネルバがであったので相手ターン終了時まで攻撃力を200ポイントアップ。さらに、デッキから墓地へ送られたミネルバの効果発動、デッキを上から1枚墓地へ送る」

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 ATK/1700↓1900

「手札を1枚捨て、2体目のルミナスの効果。墓地からミネルバを特殊召喚。2体のレベル3のルミナスにレベル3のミネルバをチューニング！シンクロ召喚！レベル9、氷結界の龍 トリシューラを攻撃表示で特殊召喚」

吹雪を纏い三首の龍が降臨する。

「シンクロ召喚に成功したトリシューラの効果発動。相手の手札・フィールド・墓地のカードをそれぞれ1枚まで選んで除外する。手札からは中央のカード、フィールドからはベルガモット、墓地からはローンファイアをそれぞれ除外する！」

吹雪が百合のカードを凍結させる。凍結したカードは表側で除外された。

「バトルフェイズ、トリシューラでジャスミンを攻撃」

「この瞬間、ヘアロマガードニングの効果発動。デッキからヘアマージージャスミン(3枚目)を守備表示で特殊召喚します」

ジャスミンがフィールドにトテトテとやってきたが、トリシューラを見るなり防御体制を取った。

「ジャスミンが特殊召喚された事により、ヘアロマガードニングの効果が10000のライフポイントを回復します」

百合 LP 7900↓8900

「回復した事で、2体のジャスミンの効果発動。それぞれの効果でデツキから合計2枚ドローします」

「攻撃の巻き戻しが入るけど、トリシューラでパワーアップしている方のジャスミンへ攻撃続行」

吹雪のブレスがジャスミンを襲う。逃げる間もなく氷付けにされると、氷像は砕け散った。

「ジャスミンが戦闘で破壊されたので、ヘアロマガードニングの効果が10000のライフポイントを回復します」

百合 LP 8900↓9900

「バトルフェイズを終了してエンドフェイズ、ライデンの効果でデッキを上から2枚墓地へ送る。送られた中に〈ライトロード・アーチャー フェリス〉があったので守備表示で特殊召喚。これでターンエンド」

「わたしのターン、ドロロー。スタンバイフェイズ、〈ご隠居の大釜〉に1カウンター置きます」

〈ご隠居の大釜〉 カウンター 1↓2

「メインフェイズ、〈アロマージーローズマリー〉を通常召喚」

青い髪の女性が現れた。

「わたしのライフポイントが相手より多いので、手札から〈アロマージーローリエ〉(2枚目)を守備表示で特殊召喚。続いて、ジャスミンの効果。わたしのライフポイントが相手より多い場合、通常召喚に加えて1度だけメインフェイズに〈アロマージージャスミン〉以外の植物族モンスターを召喚できます。〈アロマーファイアンゼリカ〉を召喚」

ローリエと羽の生えた小さな妖精が現れた。

〈アロマーファイアンゼリカ〉 攻撃表示

星1／光属性／植物族／チューナー／効果モンスター

ATK／0 DEF／0

「アンゼリカが召喚に成功したのでヘアロマガードニング」の効果発動。 1000のライフポイントを回復します」

百合 LP 9900→10900

「ライフポイントが回復したので、ジャスミン、ローリエ、ローズマリーのモンスター効果発動。『チェーン1』ジャスミン、『チェーン2』ローリエ、『チェーン3』ローズマリーで処理します。『チェーン3』の効果でトリシューラを対象に守備表示へ変更します。『チェーン2』の効果でローリエ自身を対象に、このターンの間チューナーにします。『チェーン1』でデッキから1枚ドロウします」

3体のモンスター効果が発揮される。ローリエはほんのり光っているようにも見えた。

「レベル4のローズマリーにレベル1のローリエをチューニング！シンクロ召喚！レベル5、ヘアロマセラファイーローズマリー」を攻撃表示で特殊召喚」

ローリエが光の輪となりローズマリーがその中を潜ると、羽の生えたローズマリーがそこに居た。

〈アロマセラファイーローズマリー〉 攻撃表示

星5／光属性／植物族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2000 DEF／900

「続けて、レベル5のローズマリーにレベル1のアンゼリカをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル6、〈アロマセラファイースイート・マジヨラム〉を攻撃表示で特殊召喚」
アンゼリカが光を発しながらローズマリーの周囲で円を描くと眩しい光が辺りを包む。光が止むとローズマリーの代わりに、羽の生えた女性が佇んでいる。

〈アロマセラファイースイート・マジヨラム〉 攻撃表示

星6／光属性／植物族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2200 DEF／2000

「スイート・マジヨラムがシンクロ召喚に成功した場合、デッキから〈潤いの風〉、〈渴き

の風、〈恵みの風〉のいずれか1枚を手札に加えられます。デッキから〈恵みの風〉を手札に加えます」

スイート・マジヨラムが杖を振ると、1枚のカードが現れ百合の手札に加わった。

「〈ご隠居の大釜〉の効果発動。ライフをカウンターの数×500ポイント回復します。カウンターは2つ、よって1000ポイント回復します」

百合 LP 10900↓11900

「わたしのライフが回復した事でスイート・マジヨラムの効果。〈ライトロード・アーチャー フェリス〉を対象に取り、破壊します」

フェリスは何かの匂いに釣られてどこかへ姿を消した。その方向で爆発音が聞こえたが気にしない事にしよう。

「バトルフェイズ、スイート・マジヨラムでトリシューラを攻撃」

「墓地の〈ネクロ・ガードナー〉(2枚目)を除外して攻撃を無効にする」

スイート・マジヨラムが杖を振る風を放つが、黒い影がそれを遮り無効化した。「バトルフェイズを終了して、メインフェイズ2。〈アロマガーデン〉の効果発動。

ライフを500ポイント回復して、わたしのモンスターは攻撃力・守備力を白石さんの

ターン終了時まで500ポイントアップします。 カードを2枚伏せてターンエンド」

百合 LP 11900↓12400

〈アロマージージャスミン〉 ATK/100↓600 DEF/1900↓2400

〈アロマセラフィースイート・マジヨラム〉 ATK/2200↓2700 DEF/2000↓2500

「エンドフェイズ、ライデンの攻撃力も元に戻る」

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 ATK/1900↓1700

「僕のターン、ドロ。魔法カード〈隣の芝刈り〉(2枚目)を発動。デツキを上から相手のデツキ枚数と同じになるように墓地へ送るけど、今そっちのデツキって何枚？」

「こっちは34枚」

「わたしのは20枚です」

お互いにデツキを裏側で数えて伝える。デュエルディスクにこの機能あればいいのに……。

「それならデツキを上から14枚墓地へ送る！ 墓地へ送られた中に3枚の〈ライトロード・ビースト ウォルフ〉と〈シャドル・ビースト〉があつたのでそれぞれの効

果を『チェーン』するよ。『チェーン1〜3』でウォルフの効果、『チェーン4』でヘシャドール・ビーストの効果。そっちは何かある?」

「わたしは特に無いです」

「それなら効果を処理するよ、『チェーン4』の効果でデッキから1枚ドロ。『チェーン3〜1』で3体のウォルフを全て攻撃表示で特殊召喚」

3体のウォルフが同時に現れる。

「ライデンの効果発動。デッキを上から2枚墓地へ送る。レベル4のウォルフにレベル4のライデンをチューニング! シンクロ召喚! レベル8、ヘゼラの天使を攻撃表示で特殊召喚」

翼の生えた戦士が空を舞う。

〈ヘゼラの天使〉 攻撃表示

星8/光属性/天使族/シンクロ/効果モンスター

ATK/2800 DEF/2300

「トリシューラを攻撃表示に変更して、バトルフェイズへ突入!」

「待つて下さい。メインフェイズ終了時、リバースカードオープン。 永続罫へ渴きの

「風」を発動します」

「効果は？」

「今は効果を使えませんので、ただ発動しただけになります」

「それなら改めてバトルフェイズ！ ゼラでスイート・マジヨラムを攻撃。ゼラは除外されている相手のカード数×100ポイント攻撃力がアップする」

ゼラが剣を構え、突撃する。

〈ゼラの天使〉 ATK/2800↓3100

「ここでリバースカード、永続罫〈恵みの風〉を発動し効果も使います。自分の墓地の植物族モンスター、〈アロマージージャスミン〉をデッキに戻してライフを500ポイント回復します」

「ここで回復……？ まさか！」

「はい、ジャスミンとスイート・マジヨラムに〈渇きの風〉の効果が発動します。

『チェーン1』スイート・マジヨラム、『チェーン2』〈渇きの風〉、『チェーン3』ジャスミンで処理します。『チェーン3』で1枚ドロウ、『チェーン2』で〈ゼラの天使〉を対象に取り、破壊します。『チェーン1』でトリシューラを対象に取り、こちらも破壊します」

ジャスミンが1枚のカードを百合に手渡す。ゼラの身体が渇き、ひび割れ、突然発

火し消滅する。 トリシューラは風の刃を不意打ちで受けて破壊された。

「バトルフェイズを終了して、メインフェイズ2。 2体のウォルフでオーバーレイ ネットワークを構築！ エクシース召喚！ ランク4、〈武神帝―カグツチ〉を攻撃表示で特殊召喚。 さらにモンスター効果で、デッキを上から5枚墓地へ送る。 これで ターンエンド」

2体のウォルフが暗い穴に飛び込み、青白い炎と鎧に包まれた戦士を呼び出した。

「わたしのターン、ドロ。 スタンバイフェイズに〈ご隠居の大釜〉に1カウンターを置きます」

〈ご隠居の大釜〉 カウンター2↓3

「メインフェイズ、魔法カード〈エンシレント・リーフ〉、わたしのライフが9000ポイント以上の場合、2000ポイントのライフを支払い発動します。 デッキから2枚ドロ」

百合 LP 12400↓10400

「ヘアマージ―カナंगा〉を通常召喚」

茶色の服を着た青年が現れた。

〈アロマージュ―カナンガ〉 攻撃表示

星3／地属性／植物族／効果モンスター

ATK／1400 DEF／1000

「ジャスミンの効果により、カナンガをリリースして〈アロマージュ―マジヨラム〉をアドバンス召喚」

茶色の服を着た青年が立ち去り、羽の生えてないマジヨラムが現れた。

〈アロマージュ―マジヨラム〉 攻撃表示

星5／闇属性／植物族／効果モンスター

ATK／2000 DEF／1600

「マジヨラムが召喚に成功したので〈アロマガーデニング〉の効果発動。10000ポイントのライフを回復します。」

百合 LP 10400 ↓ 11400

「ライフが回復したので、ジャスミンとマジヨラム、スイート・マジヨラム、〈渇きの風〉の効果が発動。『チェーン1』ジャスミン、『チェーン2』スイート・マジヨラム、『チェーン3』〈渇きの風〉、『チェーン4』マジヨラムで処理します。『チェーン4』のマジヨラムの効果でライフが回復した場合、わたしのフィールドの『アロマ』モンスターの数まで相手の墓地のカードを対象に取って除外します。『アロマ』モンスターは3体、墓地から〈ネクロ・ガードナー〉(3枚目)、〈超電磁タートル〉、〈混源龍レヴィオニア〉の3枚を除外します。『チェーン3』でカグツチを対象に取って破壊します」

「カグツチが破壊される場合、ORUを1つ取り除く事ができる」

「『チェーン2』でカグツチを対象に取って破壊します」

「それもORUを1つ取り除き破壊から守る」

「『チェーン1』でデッキから1枚ドロウします。〈ご隠居の大釜〉の効果発動。カウンターの数×500ポイント回復します。カウンターは3つ、1500ポイントのライフを回復します」

百合 LP 11400↓12900

「ヘアロマガードン」の効果発動。 ライフを500ポイント回復して、わたしのフィールドのモンスターの攻撃力・守備力を500ポイントアップします」

百合 LP 12900↓13400

「ヘアロマージュージャスミン」 ATK/100↓600 DEF/1900↓2400

「ヘアロマージューマジヨラム」 ATK/2000↓2500 DEF/1600↓2100

「ヘアロマージュースイート・マジヨラム」 ATK/2200↓2700 DEF/2000↓2500

「バトルフェイズ、スイート・マジヨラムでカグツチを攻撃」

「その攻撃宣言時に、墓地の「妖精伝姫―シラユキ」の効果。 墓地から「ゼラの天使」、

2枚の「ソーラー・エクステンジ」、「シャドル・ビースト」、3枚の「ライトロード・

ビースト ウォルフ」の7枚のカードを除外して守備表示で特殊召喚」

尻尾に本が付いているリスっぽいモンスターが現れた。

「特殊召喚したシラユキの効果発動。 スイート・マジヨラムを対象に攻撃表示から裏

側守備表示に変更する」

「スイート・マジヨラムの効果。わたしのライフが相手より多く、このカードがモンス
ターゾーンに存在する限り、わたしのフィールドの植物族モンスターは効果の対象にな
りません」

カグツチは風の刃によって破壊された。

白石 LP 8000↓7800

「バトルフェイズを終了して、ターンエンドです」

「僕のターン、ドロロー。スタンバイフェイズ、〈ゼラの天使〉が除外ゾーンからモンス
ターゾーンへ攻撃表示で特殊召喚されます」

白石のフィールドに天使が舞い降りた。

〈ゼラの天使〉 ATK/2800↓3100

「バトルフェイズ、〈ゼラの天使〉でジャスミンを攻撃」

「攻撃宣言時、〈恵みの風〉の効果。墓地の〈アロマージーローリエ〉を対象にデッキ
に戻して500ポイントのライフを回復します」

百合 LP 13400↓13900

「回復したので、ジャスミンとマジヨラム、スイート・マジヨラム、〈渇きの風〉の効果発動。『チェーン1』ジャスミン、『チェーン2』マジヨラム、『チェーン3』〈渇きの風〉『チェーン4』スイート・マジヨラムで処理します。『チェーン4』でシラユキを対象に破壊します。『チェーン3』でへゼラの天使を対象に取り、破壊します。『チェーン2』で墓地から2枚の〈戒めの龍〉、〈氷結界の龍 トリシューラ〉を除外します。

『チェーン1』でデツキから1枚ドロローします」

「バトルフェイズを終了して、ターンエンド」

「エンドフェイズ、モンスターがステータスが元に戻ります」

〈アロマーゼージャスミン〉 ATK/600 ↓ 100 DEF/2400 ↓ 1900

〈アロマーゼーマジヨラム〉 ATK/2500 ↓ 2000 DEF/2100 ↓ 1600

00

〈アロマセラフィースイート・マジヨラム〉 ATK/2700 ↓ 2200 DEF/2500 ↓ 2000

500 ↓ 2000

「わたしのターン、ドロロー。スタンバイフェイズ、〈ご隠居の大釜〉にカウンターを1つ置きます」

〈ご隠居の大釜〉 カウンター 3 ↓ 4

「メインフェイズ、〈アロマジーカナンガ〉（2枚目）を通常召喚」
再びカナンガがフィールドにやってきた。

「カナンガが召喚に成功したので、〈アロマガーデニング〉の効果で10000ポイントのライフを回復します」

百合 LP 13900↓14900

「回復したので、カナンガ、マジヨラム、ジャスミン、スイート・マジヨラム、〈渇きの風〉の強制効果が発動します。『チェーン1』ジャスミン、『チェーン2』マジヨラム、『チェーン3』カナンガ、『チェーン4』スイート・マジヨラム、『チェーン5』〈渇きの風〉で処理します。『チェーン5く3』は対象不在の為、宣言だけになります。

『チェーン2』の効果で白石さんの墓地から4枚除外します。対象は〈裁きの龍〉とヘライトロード・アーチャー フェリスを2枚ずつの合計4枚。『チェーン1』の効果でデッキから1枚ドロローします」

「強制効果？」

「はい、タイミングが合えば必ず処理しないといけない効果ですね。白石さんは確かデュエリストになってまだ1月ほどでしたっけ……」

「ええ、そうです」

「それなら、こういう効果もあると覚えて下さいね」

「はい、わかりました」

「ターンを続行します。〈アロマージュローズズマリー〉を通常召喚。〈アロマガーデ
ン〉の効果発動。ライフを500ポイント回復して、次のあなたのターン終了時まで
わたしのモンスターの攻撃力・守備力が500ポイントアップします。さらに、ロー
ズマリリーの効果も強制効果なので発動の宣言だけしておきます」

百合 LP 14900↓15400

〈アロマージュジャスミン〉 ATK/1000↓600 DEF/1900↓2400

〈アロマージュカナング〉 ATK/1400↓1900 DEF/1000↓1500

0

〈アロマージュローズズマリー〉 ATK/1800↓2300 DEF/700↓1200

00

〈アロマージュマジヨラム〉 ATK/2000↓2500 DEF/1600↓2100

00

△アロマセラフィースイート・マジヨラム▽ ATK / 2200 ↓ 2700 DEF / 2000 ↓ 2500

「バトルフェイズ、カナンガでダイレクトアタック。この時、ローズマリーの効果。

わたしのライフが相手より多く、ローズマリーがフィールドに存在する限り、わたしの植物族モンスターが攻撃する場合、ダメージステップ終了時まであなたはモンスター効果を発動できません」

「つまり、シラユキは呼べないってことか……!」

「はい、そうなります」

白石 LP 7800 ↓ 5900

「ローズマリーでダイレクトアタック」

白石 LP 5900 ↓ 3600

「マジヨラムでダイレクトアタック」

白石 LP 3600↓1100

「スイート・マジヨラムでダイレクトアタック、これでトドメです」

白石 LP 1100↓0



「対戦ありがとうございます」

「対戦ありがとうございます。ところで、高等部は皆このぐらいの強さなの……?」

「どうでしょうね? 人による、としか言えませんね」

「蒼ちゃん、次はウチの番や。早くやろっ♪」

この後、白石はへロへロになるまで2人のデュエルの相手をしたようだ。

第16話 不審者達の戦い

白石は忘れかけていた事を思い出した。

「カミュに相談しておう」

しばらく前に完成した『天威』グッズの事で、組み合わせのいいカードなどを相談しておこうと考えていたがすっかり忘れていたのを思い出したのであった。

部屋を出るとカミュが居た。なんだか元気が無いようにも見える。

「こんにちは。カミュ、何かあったの？」

「こんにちは。緊急の閲覧板は読んだかい？」

昨日、緊急で閲覧板が回ってきた。件の公式大会中止の事が書かれた内容だったが、女狂戦士とあだ名される香代子さんがフラフラになりながら部屋へ帰って行った事の方が記憶から離れない。大丈夫だろうか？

「ああ、読んだよ。とても残念だと思う」

「……あれを読んで元気を無くしてる住人はそれなりに居るはずさ、ここの住人は大なり小なりデュエルが好きだな達だし、読んで気力を奪われるだけならまだいい鬱になる人は居ないだろうけど、好きであれば好きなほど抱え込む虚無感や虚脱感は大いもの

さ。ボクもそれらを感じている、だからこうして気分転換の為に外の空気を吸いに出てきたけどなかなか気は晴れないものだね」

「……」

この時の僕は元気を無くしてる親友に掛けてあげる言葉が見つからなかった。下手な言葉でも良かったのかも知れないがそれすら思いつかなかった。

「それより、ボクに何か用事なんだろう?」

考えを切り替えたのかいつものカミュに戻った気はする。

「それなだけで……」

カミュに色々話した。最近になり『天威』デツキを作った事、亡霊と対戦して負けた事、対戦後に改良した方がいいと言われまだ何も思いついて無いこと、相性のいいカードは何か無いかと言う事などだ。

カミュはしばらく考え込んで聞いてきた。

「インターネットはある?」



カミュが普段使って無いノートパソコンを操作してあるサイトを開いた。

『遊戯王☆デツキチューン』、このサイトなら色々とデツキの構築に役立つ情報が検索できるよ。あのまま話し込んでてもよかったけど、これから先ボクが居ない時もあるだろうし、このサイトの事は伝えておきたかった」

「カミュ、どこかへ行ってしまうのかい？」

「いや、可能性の話だよ。例えば、前に回覧板に載ってた大会に参加した場合とかね」

「そっか、ちよつと心配したけどそう言う事なら仕方ないね」

それから10分くらい、談笑しつつ相性のいいカードなどを調べていった。

「それじゃ、ボクはそろそろ帰るよ。少しは気分転換にはなったよ、ありがとう」

「こつちこそ色々ありがとう、助かったよ」

「またね、おじゃましました」

カミュは帰った。



夜、白石はカミュから教えてもらったサイトでデッキに合いそうなカードを選んでいた。

「『竜星』と『召喚獣』か、どっちを混ぜたらいいのだろうか？」

『それなら試しに、「召喚獣」からやってみるのはどうでしょう？ 使いこなせなかったら他のデッキに混ぜる用で保管しておくのもできますし、確か手持ちに数枚ほどこのテーマのカードがあつたと思いますぞ』

「なるほど、それなら明日『召喚獣』のカードを見に行くとするよ」

『その時はワタシもお供として連れて行って下さい』

「わかった、連れて行こう」



一方その頃、人気の少ない堤防では……

「こんばんは、君が私と戦いたいデュエリストで間違い無いかな？」

「ああ、待ってたぜ」

顔に傷のある大男と真つ黒な服装の男が対面していた。

「私と戦う以上、ルールはわかっているのだろう？」

「ああ、精霊のカードを賭けたアンティールルだろ」

アンティールル、お互いに何かを賭けて戦うルール。だが、このご時世でそれをしたことが発覚すれば決闘罪と同じく罪に問われるのである。

「その通り、さて君は何を賭ける？」

「俺は相棒を、精霊ヘトライホーン・ドラゴン」のカードと集めてきた6枚の精霊のカードを全て賭ける」

「全て賭けるか。いいだろう、ならば不足は無いな。私は7枚のカードを賭けるとしよう」

「待ちな、あんたが賭けるのは、この街で、狩り集めてきたカード7枚全てだ。依頼人達のカード返してもらうぜ」

「ほう、なら君が私の事をかき回っていたネズミか。いいだろう、それならその7枚賭けようじゃないか」

2人の男がデュエルディスクを構える。

「デュエル！」

顔に傷のある大男 LP 8000

真っ黒な服装の男 LP 8000

デュエルディスクにランプが灯る、選択権は大男に渡ったようだ。

「先攻を頂こうか、ヘレスキューラビット」を通常召喚」

ゴーグルを頭に着けたウサギがフィールドに歩いて来た。

ヘレスキューラビット」 攻撃表示

星4 / 地属性 / 獣族 / 効果モンスター

ATK / 300 DEF / 100

「ヘレスキューラビット」を除外して効果発動。 デッキからレベル4以下の同名通常モンスター2体を特殊召喚。 この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズに破壊される。 デッキから「剣闘獣アંダル」を2体、攻撃表示で特殊召喚する」

レスキューラビットが首に掛けてあるトランシーバーで応援を呼ぶ。籠手や鎧を身に着けた隻眼のクマが2頭、二足歩行で走って来た。

〈剣闘獣（グラディアルビースト）アンダル〉 攻撃表示

星4 / 地属性 / 獣戦士族 / 通常モンスター

ATK / 1900 DEF / 1500

「開け、闘争と繁栄のサーキット！ 召喚条件は『剣闘獣モンスターを含むモンスター2体』、私は2体のアンダルをリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク2、〈スレイブパンサー〉を私から見て右側のEXモンスターゾーンに特殊召喚する」

2体のモンスターが竜巻となりサーキットに飛び込むと、鎧を纏った黒ヒョウが現れた。

〈スレイブパンサー〉 攻撃表示

リンク2 / 地属性 / 獣族 / リンク / 効果モンスター / マーカー（左下、下）

ATK / 800

「リンク召喚に成功した〈スレイブパンサー〉の効果発動。デッキから『剣闘獣』カード一枚を手札に加える。デッキから〈再起する剣闘獣〉を手札へ」

スレイブパンサーが何かを見つけ大男の下へ啞えて持つてくる。それは一枚のカードとなり手札に加わる。

「永続魔法〈剣闘排斥波（グラディアルリジエクシオン）〉を発動。私のフィールドの『剣闘獣』モンスターはバトルフェイズ以外では君の効果の対象にはならない。続けて、〈再起する剣闘獣〉を発動。同じ種族のモンスターが私のフィールドに存在しない『剣闘獣』モンスター1体を手札墓地から選んで特殊召喚する。フィールドには獣族の〈スレイブパンサー〉が存在するので、墓地より獣戦士族の〈剣闘獣アンダル〉を攻撃表示で特殊召喚。この効果で特殊召喚したモンスターは戦闘で破壊されなくなる」

墓地からアンダルが現れる。

「〈スレイブパンサー〉の2つ目の効果、フィールドのアンダルを対象に発動。アンダルをデッキに戻し、戻したモンスターとは元々の名前の異なる『剣闘獣』モンスター1体を、『剣闘獣』モンスターの効果による特殊召喚扱いとしてデッキから特殊召喚する。

来い、〈剣闘獣アウグストル〉を攻撃表示で特殊召喚」

スレイブパンサーの一声でアンダルがデッキに戻され、大きな翼を持ち鎧を着込んだトリのようなモンスターが代わりに現れる。

〈剣闘獣アウグストル〉 攻撃表示

星8／闇属性／鳥獣族／効果モンスター

ATK／2600 DEF／1000

「『剣闘獣』モンスターの効果によって特殊召喚されたアウグストルの効果発動。手札から『剣闘獣』モンスター1体を守備表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズにデッキに戻る。手札から〈剣闘獣ダリウス〉を守備表示で特殊召喚」

大男のフィールドにウマの特徴を持ったモンスターが現れた。

「ダリウスの効果、『剣闘獣』モンスターの効果で特殊召喚に成功した時、私の墓地から『剣闘獣』モンスター1体を選択し、効果を無効にして特殊召喚する。私は墓地から〈剣闘獣アングダル〉を攻撃表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはダリウスがフィールドを離れた時、デッキに戻る」

再びアングダルがフィールドに現れる。

「私はアウグストル、ダリウス、アングダルの3体を手札に戻してEXデッキから〈剣闘獣アングダバタエ〉を守備表示で特殊召喚」

3体のモンスターがデツキに戻り、代わりに武装した人型のトカゲのような姿のモンスターが現れる。

〈剣闘獣アンダバタエ〉 守備表示

星8／闇属性／獣戦士族／融合／効果モンスター

ATK／1000 DEF／2800

「アンダバタエが素材モンスターをデツキに戻して特殊召喚に成功した場合、EXデツキからレベル7以下の『剣闘獣』融合モンスター1体を召喚条件を無視して特殊召喚できる。レベル7の〈剣闘獣ゲオルディアス〉を攻撃表示で特殊召喚」

武装した人型の恐竜のようなモンスターが姿を現した。

〈剣闘獣ゲオルディアス〉 攻撃表示

星7／闇属性／恐竜族／融合／効果モンスター

ATK／2600 DEF／1500

「さらに私は、アンダバタエとゲオルディアスをEXデツキに戻して〈剣闘獣総監エー

タイトルをEXデッキから守備表示で特殊召喚」

2体のモンスターがEXデッキに戻され、杖を持った人型のシカのモンスターが現れた。

〈剣闘獣総監（グラディアルビーストティマー）エータイトル〉 守備表示

星8／闇属性／獣戦士族／融合／効果モンスター

ATK／2400 DEF／3000

「エータイトルの効果発動。1ターンに1度、〈剣闘獣総監エータイトル〉以外の『剣

闘獣』融合モンスター1体をEXデッキから召喚条件を無視して特殊召喚する。〈剣

闘獣ドミティアノス〉を攻撃表示で特殊召喚」

エータイトルが鞭で地面を叩くと、様々な装備を身に着けたモンスターが現れた。

〈剣闘獣ドミティアノス〉 攻撃表示

星10／闇属性／海竜族／融合／効果モンスター

ATK／3500 DEF／1200

「開け、闘争と繁栄のサーキット！ 召喚条件は『地属性モンスターを含むモンスター2体』、〈剣闘獣総監エーデイトル〉と〈スレイブパンサー〉をリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク2、〈崔嵬の地霊使いアウス〉を私から見て右側のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

2体のモンスターが竜巻となりサーキットに飛び込む、メガネをかけた女の子がフィールドに降り立った。

〈崔嵬（さいかい）の地霊使いアウス〉 攻撃表示

リンク2／地属性／魔法使い族／リンク／効果モンスター／マーカー（左下、右下）

ATK／1850

「〈再起する剣闘獣〉（2枚目）を発動。フィールドには海竜族と魔法使い族がいる為、墓地から獣戦士族の〈剣闘獣総監エーデイトル〉を準備表示で特殊召喚」

エーデイトルが再び現れた。今度は気合い十分なようだ。

「エーデイトルの効果を再び発動。EXデッキから〈剣闘獣ヘラクレイノス〉を攻撃表示で特殊召喚」

鞭の音が響くと、武器と防具で重武装したトラのようなモンスターがドミティアノス

の隣に現れる。

〈剣闘獣ヘラクレイノス〉 攻撃表示

星8／炎属性／獣戦士族／融合／効果モンスター

ATK／3000 DEF／2800

「私はこれでターンエンド」

「俺のターン、ドロー。魔法カード〈ライトニング・ストーム〉発動。自分フィールドに表側表示のカードが存在しない場合、2つある効果の内1つを選択して発揮する。

俺は『相手フィールドの攻撃表示モンスターを全て破壊する』効果を選択する」

「そのカードの発動に『チェーン』してヘラクレイノスの効果。手札を1枚捨てる事で魔法・罠カードの発動を無効にして破壊する」

激しい雷撃が降り注ぐが、何かを破壊する前にかき消されていく。アウスが耳を塞いでうづくまつていたが、何事も無かったのを確認すると立ち上がる。 ……どうやら

雷は苦手らしい。

「最後の手札、使ったな？」

「まさか！」

「俺は魔法カード〈サンダー・ボルト〉を発動。相手フィールドのモンスター全てを破壊する！」

雷撃一閃、大男のフィールドのモンスターはことごとく破壊され消え去った。

「やってくれたな……、リンク召喚されたアウスが相手の効果で破壊されたことにより効果発動。デッキから守備力1500ポイント以下の地属性モンスター1体を手札に加える。〈レスキューラビット〉(2枚目)をデッキから手札に加える」

アウスの使い魔が地面から現れ、大男にカードを渡すと消滅した。

「手札の〈星雲龍ネビュラ〉とレベル8のドラゴン族モンスター〈トライホーン・ドラゴン〉を相手に見せて発動。2体を効果を無効にして守備表示で特殊召喚する。この効果の発動後、ターン終了時まで俺は光・闇属性のドラゴン族モンスターしか召喚・特殊召喚できない」

黄色い龍が空から舞い降りる。もう1体は空から振ってきた。

〈星雲龍ネビュラ〉 守備表示

星8／光属性／ドラゴン族／効果モンスター

ATK／2000 DEF／0

〈トライホーン・ドラゴン〉 守備表示

星8／闇属性／ドラゴン族／通常モンスター

ATK／2850 DEF／2350

「手札・墓地の〈螺旋竜バルジ〉は自分フィールドに光・闇属性のドラゴン族モンスターが2体以上存在する場合に守備表示で特殊召喚できる。この効果で特殊召喚したこのカードはフィールドを離れた時、除外される」

銀河のように渦巻く不思議な竜が現れる。

〈螺旋竜バルジ〉 守備表示

星8／闇属性／ドラゴン族／効果モンスター

ATK／2500 DEF／2500

「俺はネビュラとバルジの2体でオーバレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚

！ ランク8、〈No.97 龍影神ドラッグラビオン〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のドラゴンが暗い穴に飛び込む、穴の中で爆発が起こり黒い翼を持つ龍が飛翔する。左の翼に『97』の数字が刻まれている。

〈N.O. 97 龍影神（りゆうえいしん）ドラッグラビオン〉 攻撃表示

ランク8 / 闇属性 / ドラゴン族 / エクシード / 効果モンスター

ATK / 3000 DEF / 3000

「このターンでケリをつけてもいいが、あんたには色々と聞きたい事がある」

「聞きたい事？ そんな事、勝ってから言うのだな」

「そうさせてもらう、ドラッグラビオンのORUを1つ取り除き効果発動。俺のEXデッキ・墓地からドラッグラビオン以外のドラゴン族の『N.O.』モンスター2種類を選ぶ、その内の1体を特殊召喚し、もう1体をそのモンスターのORUにする。この効果の発動後、ターン終了時まで俺はモンスターを特殊召喚できず、この効果で特殊召喚したモンスターでしか攻撃できない。EXデッキから〈N.O. 46 神影龍ドラッグルーオン〉と〈N.O. 38 希望魁竜タイタニック・ギヤラクシー〉を選ぶ、タイタニック・ギヤラクシーを攻撃表示で特殊召喚し、ドラッグルーオンをORUにする」

ドラッグラビオンが咆哮すると、空間が歪み半透明のドラゴンが2体現れる。白い翼の龍の上にもう1体の青い翼のドラゴンが重なり完全な姿になる。

〈No. 38 希望魁竜（きぼうかいりゆう）タイタニック・ギャラクシー〉 攻撃表示
 ランク8／光属性／ドラゴン族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／3000 DEF／2500

「バトルフェイズ、タイタニック・ギャラクシーでダイレクトアタック」

顔に傷のある大男 LP 8000↓5000

「ターンエンド」

「ドロー。〈レスキューラビット〉を通常召喚。除外して効果発動。デッキから

〈剣闘獣アングル〉を2体攻撃表示で特殊召喚」

レスキューラビットがコロコロ転がって退場するとアングルが2体現れる。

「私のデッキから『剣闘獣』モンスターが特殊召喚されたので〈剣闘排斥波〉の効果発動。
 同じ種族のモンスターが自分のフィールドに存在しない『剣闘獣』モンスターをデッキから守備表示で特殊召喚する。『チエーン』はあるかね？」

「いや、無い」

「では処理に入る。フィールドに獣戦士族が存在している為、デッキから鳥獣族の〈剣

闘獣アウグストルを準備表示で特殊召喚する」

アウグストルが現れ、守りの体制に入る。

「フィールドのアウグストルを含む3体をデッキに戻し、EXデッキから〈剣闘獣アランダバタエ〉を準備表示で特殊召喚」

3体のモンスターがフィールドから消え去り、アランダバタエが盾を構えて登場した。

「アランダバタエの効果発動。EXデッキからレベル6の〈剣闘獣ガイザレス〉を攻撃表示で特殊召喚」

アランダバタエの隣に鎧を纏ったトリ型のモンスターが降り立つ。

〈剣闘獣ガイザレス〉 攻撃表示

星6／闇属性／鳥獣族／融合／効果モンスター

ATK／2400 DEF／1500

「特殊召喚に成功したガイザレスの効果。トライホーンとタイタニック・ギャラク

シーを対象に取り、破壊する」

ガイザレスが無数の羽根を撃ち出す。2体のモンスターが羽根に貫かれて破壊される。

「ガイザレスとアンダバタエをEXデッキに戻し、EXデッキから〈剣闘獣総監エーディトル〉（2枚目）を守備表示で特殊召喚」

2体のモンスターがフィールドから消え去り、エーディトルが杖を構えて現れる。

「エーディトルの効果発動。EXデッキから〈剣闘獣ネロキウス〉を守備表示で特殊召喚」

エーディトルの杖に光が集まる。それを目印にして鎧を纏いコウモリを人型にしたようなモンスターが現れた。

〈剣闘獣ネロキウス〉 守備表示

星8／闇属性／鳥獣族／融合／効果モンスター

ATK／2800 DEF／1900

「私はこれでターンエンド」

「俺のターン、ドロロー。ドラッグラビオンの効果発動。EXデッキから〈N.O. 107

銀河眼の時空竜〉と〈C.N.O. 107 超銀河眼の時空竜〉を選ぶ、〈C.N.O. 107

超銀河眼の時空竜〉を攻撃表示で特殊召喚し〈N.O. 107 銀河眼の時空竜〉をO

RUにする」

再び空間が歪み、そこから現れた半透明の黒いドラゴンに黄金のドラゴンが重なり完全な姿になった。

〈CNO. 107 超銀河眼の時空竜（ネオ・ギャラクシーアイズ・タキオン・ドラゴン）〉

攻撃表示

ランク9／光属性／ドラゴン族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／4500 DEF／3000

「墓地の〈螺旋竜バルジ〉の効果発動。墓地から守備表示で特殊召喚する」

渦巻く竜がフィールドに現れた。

「超銀河眼の時空竜の効果。銀河眼の時空竜をORUとしている場合、自分フィールドのモンスター2体をリリースして発動できる。このターンのバトルフェイズ中に3回までモンスターに攻撃できる。ドラッグラビオンとバルジをリリース、バルジは除外される」

2体のモンスターが光となり消え、超銀河眼の時空竜が光を放つ。

「さらに、超銀河眼の時空竜のCORUを1つ取り除き効果発動。このカード以外のフィールド上に表側表示で存在する全てのカードの効果はターン終了時まで無効とな

り、このターン相手はフィールド上のカードの効果を発動できない」

時間が止まる。いや、止まったかのようにとても遅く感じられる、そんな状態になる。大男もこの不思議な感覚を感じたのか辺りを見回している。

「それも精霊のカードか？」

「質問は戦いが終わってからにしてもらおうか、ターンを続行する。バトルフェイズ、超銀河眼の時空竜で2体のモンスターを攻撃」

超銀河眼の時空竜が3つの首から光線を放つ。吐き出されたエネルギーの奔流は2体のモンスターを飲み込み破壊すると収まった。

「バトルフェイズを終了して、ターンエンド」

「ドロー。モンスターをセット、カードを1枚伏せてターンエンド」

「俺のターン、ドロー。魔法カード〈ハーピィの羽根箒〉を発動。相手の魔法・罠カードを全て破壊する」

羽根箒から巻き起こされる突風がカードを吹き飛ばしていく。

「魔法カード〈復活の福音〉、墓地のレベル7・8のドラゴン族モンスター1体を特殊召喚する。墓地から蘇れ、相棒！〈トライホーン・ドラゴン〉を攻撃表示で特殊召喚」

三つ叉の角と青い体色が特徴的なドラゴンがフィールドに舞い戻る。

「バトルフェイズ、トライホーンでセットされたモンスターを攻撃」

トライホーン・ドラゴンが口からエネルギー弾を放つ。伏せられたカードごと潜んでいたモンスターを破壊した。

「超銀河眼の時空竜でダイレクトアタック」

3つの光線が大男を襲う。

「ぐおおおおおっ!!」

顔に傷のある大男 LP 5000↓500

「この衝撃、やはり精霊のカードか!」

「答える必要はない! バトルフェイズを終了してターンエンド」

「ドロー。魔法カード〈再起する剣闘獣〉(3枚目)を発動。墓地からエーディトルを守備表示で特殊召喚」

片方の角が折れたエーディトルが杖を構えて現れる。

「墓地の〈剣闘獣の底力〉の効果。このカード以外の墓地の『剣闘獣』カード2枚をデッキに戻す事で、墓地からこのカードを手札に戻す。墓地から〈剣闘獣ドミティアノス〉と〈剣闘獣ヘラクレイノス〉を戻す」

2枚のカードを手札に戻し、墓地からカードを手札に加える大男。

「エーデイトルの効果発動。 EXデッキから〈剣闘獣ガイザレス〉を守備表示で特殊召喚。 さらに効果発動、2体のドラゴンを対象に破壊する」

ガイザレスが貫通力の極めて高い羽根を撃ち出す。

「墓地の〈復活の福音〉の2つ目の効果。 ドラゴン族モンスターが戦闘・効果で破壊される場合、代わりに墓地からこのカードを除外できる」

2体のドラゴンが無数の羽根を打ち払う。

「カードを1枚伏せて私はターンエンド」

「俺のターン、ドロロー。 相手フィールドに攻撃力2000ポイント以上のモンスターが存在する時、このカードは手札から特殊召喚できる。 〈限界竜シュヴァルツシルト〉を攻撃表示で特殊召喚」

茶色のドラゴンが現れ、身体をくねらせて『∞』の文字を作る。

「シュヴァルツシルトとトライホーンでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ ランク8、〈聖刻神龍―エネアード〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが暗い穴に飛び込み、黄金の鎧を纏ったオレンジ色のドラゴンが現れる。

〈聖刻神龍―エネアード〉 攻撃表示

ランク8／光属性／ドラゴン族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／3000 DEF／2400

「エネアードのORUを1つ取り除き効果発動。自分の手札・フィールド上のモンスターを任意の数だけリリースし、リリースしたモンスターの数だけフィールド上のカードを破壊する。エネアード自身をリリースし、エーデイトルを破壊する」

エーデイトルにオレンジ色の光線を放ち破壊すると、エネアードが霧散する。
「バトルフェイズ、超銀河眼の時空竜でガイザレスを攻撃」

ガイザレスが放たれた光線から逃れようと回避を試みるが、その動きが鈍くなり全ての攻撃が命中する。

「手札から速攻魔法〈銀龍の轟咆（ごうほう）〉発動。自分の墓地のドラゴン族の通常モンスターを1体選択して特殊召喚する。墓地からヘトライホーン・ドラゴン〉を特殊召喚」

どこか遠くで咆哮したドラゴンの声に反応して、トライホーン・ドラゴンが再び立ち上がる。

「相棒！ 依頼人からの伝言だ、『思いつきりぶん殴ってやれ』だそうだ！ ヘトライホーン・ドラゴン〉でダイレクトアタック」

トライホーン・ドラゴンが大男に駆け寄り、あまり曲がらぬ拳で殴りつけ、トドメに強靱な尻尾で払いのける。

「うぐおとおつ！　ち、ちくしよめええええ！」

顔に傷のある大男　LP　500↓0



戦いが終わると大男の姿は無かったが、足元に数枚のカードが散らばっていた。

真つ黒な服装の男はそれを手早く拾うと、懐からバインダーを取り出しカードに傷が付かないよう収納した。

「逃げられたか……、色々と聞いたかったが仕方がない。一応、カードは取り戻したから依頼は完了かねえ。相棒もお疲れ様、よく頑張った」

それを聞き、トライホーン・ドラゴンの姿が消滅する。

「さてと、俺もさっさとずらかるとするか」

男は辺りを確認すると、そそくさと夜の街の中に消えて行った

第17話 強化されし力

朝になり、白石は身支度と朝食の用意を済ます。今日は日曜日である。

朝食を食べつつ、亡霊と会話をする。

「今日はひよこのカードシヨップで『召喚獣』のカードを探せば良かったんだよね」
『そうであります』

トーストにバターを塗りながら再び念話をする。

「安く集まるといいな」

『それならあまり心配しなくても問題ないと思いますぞ』

「何故に？」

『ホヒ、この前出たブースターパックで一部のカードが再録されたのであります。それにより、ぐっと集め易くなったはずですよ。ですが、再録されなかったカードもありますのでそこは注意でしょうか』

トーストを食べつつ、少しぬるめの紅茶を飲む。

「この際だし、相性のいいカードも集めておくかな」

『ホヒヒ、そうするのも良いと思いますぞ。特に〈超融合〉と〈簡易融合〉はオススメ

です』

「その2枚か、覚えておくよ」

それから5分ほどして朝食を食べ終わると、食器を片付けて外出した。約束通り夢魔の亡霊のカードも持って行く。



見慣れた街並みを抜けて白石はひよこのカードショップにたどり着いた。

『ホヒ、探すカードは覚えておりますからわかんなくなったら気兼ねなく聞いて下さい』
亡霊がそうやってきたので念話で返す。

『それは心強いね、その時は遠慮無く聞くよ』

白石達はストレージコーナーから見に行った。

20分後、大体のカードを買い揃えた白石達はプレイゾーンにある席に着いてデッキを改良していた。

周囲の事を考え念話で会話する。

『ホヒ、まさか〈超融合〉が売り切れとは思わなかったですな』

『それには同意見だね』

『これも巷を騒がせている〈超魔導竜騎士―ドラグーン・オブ・レッドアイズ〉のせいですな』

『戦った事が無いからなんとも言えないけど、そこまで酷いのアレ?』

『蒼殿、流石に環境で暴れまくってる危険なカードを知らないのはデュエリストとしてどうかと……』

『いや、年がら年中デュエルだけでは生活できないからね』

亡霊と念話で言い合いをしながらもデッキの改良が済み、対戦相手を探すか家に帰って一人でデッキを回すかを考えていた時に後ろから声をかけられた。

「その君、良かったら私と対戦してくれないかな?」

振り向くと眼鏡を掛けた顔に傷のある大男がいた。

「良いですよ、やりましょう。丁度、対戦相手を探していたんです」

『蒼殿、気をつけて下さい。この大男何かよからぬ気配がしますぞ』

亡霊が念話で伝えてきたので、念話で返す。

『よからぬ気配？ 気のせいじゃない？』

『気のせいなら注意はしません！』

「どうした、準備しないのかね？」

大男はすでに準備が終わってデュエルディスクを装着している。

「すみません、ちよつとぼんやりしてました」

急いでデッキとデュエルディスクの準備をする。



白石が大男と対戦を始める少し前、寂れた事務所内で真つ黒な服装の男が女性に何かを渡そうとしていた。

「あなたが大男とのアンティールールで奪われたカードはこちらで合ってますか？」

「ええ、確かにこのカードで合ってます！ 本当に取り返して頂きありがとうございます！

す！」

「そういう仕事なので、気にしないで下さい」

「それで、あの大男はどうなりました？」

「それが……、逃げられてしまつて……」

「あの大男は危険です、早く捕まえて下さい！」

「それは警察の役目になります、ただの何でも屋には逮捕に関する権限は一切ありません」

その後、女性は言いたい事を言うだけ言つて歸つて行つた。

「やれやれだ」



「デュエル！」

白石 LP 8000

大男 LP 8000

デュエルディスクのランプが大男の方に灯る。

「では、私が先攻をやらせてもらおう。〈コアキメイル・ガーディアン〉を通常召喚」
床を突き破り白色の石像が現れる。

〈コアキメイル・ガーディアン〉 攻撃表示

星4 / 地属性 / 岩石族 / 効果モンスター

ATK / 1900 DEF / 1200

「ライフを2000ポイント支払い、魔法カード〈同胞の絆〉を発動。私のフィールドのレベル4以下のモンスター1体を対象に発動。そのモンスターと同じ種族・属性・レベルが同じでカード名が異なるモンスターを2種類特殊召喚する。このカードを発動するターン私はバトルフェイズを行えず、このカードの発動後、ターン終了時までモンスターを特殊召喚できない。私は〈コアキメイル・ガーディアン〉を対象に、デッキから〈コアキメイル・ウォール〉と〈コアキメイル・オーバードーズ〉をそれぞれ攻撃表示で特殊召喚」

床が盛り上がり、巨大な壁のモンスターと土や岩石の塊のようなモンスターが起き上

がる。

へコアキメイル・ウォール〈 攻撃表示

星4 / 地属性 / 岩石族 / 効果モンスター

ATK / 1900 DEF / 1200

へコアキメイル・オーバードーズ〈 攻撃表示

星4 / 地属性 / 岩石族 / 効果モンスター

ATK / 1900 DEF / 1200

大男 LP 80000 ↓ 60000

「カードを1枚伏せる。 エンドフェイズ、フィールドのガーディアン、ウォール、オーバードーズの効果により、手札からへコアキメイルの鋼核〈を1枚墓地へ送るか手札の岩石族モンスターを相手に見せなければこのモンスター達を破壊する。 手札のへコアキメイル・ロック〉を見せる事で破壊を防ぐ。 これでターンエンド」

『うわ、岩石族のコアキメイルですか……、厄介な相手に挑まれましたな』

滅多に試合中に念話をしない亡霊が言ってくるので、念話で返す。

『知っているのか?』

『そりゃ勿論カードの精霊なので知ってますとも、岩石族のコアキメイルは色々なカード効果を自信をリリースして無効にしてきますぞ。お気を付けて下さい』

『わかった』

念話を止め、意識を試合をする事だけに切り替える。

「僕のターン、ドロロー。魔法カードへテラ・フォーミングへ発動。デッキからフィールド魔法カードを一枚手札へ加える。デッキからへ暴走魔法陣へを手札に加える。さらに、へ暴走魔法陣へを発動」

「では、その魔法カードの発動時にへコアキメイル・ウォールへをリリースして効果発動。その発動を無効にして破壊する」

魔法陣が現れ赤く輝き始めたが、ウォールがそこに飛び込み無力化するとガラガラと音を立てて崩れ消滅した。

「自分フィールドに効果モンスターが存在しないので、手札からへ天威龍ーアシユナへを守備表示で特殊召喚」

身体の透けたの黄色い龍が現れる。

〈天威龍―アシユナ〉 守備表示

星7 / 光属性 / 幻竜族 / 効果モンスター

ATK / 1600 DEF / 2600

「開け、天衣無縫のサーキット！ 召喚条件は『リンクモンスター以外の「天威」モンスター1体』、アシユナをリンクマークカーにセット！ リンク召喚！ リンク1、〈天威の拳僧〉を僕から見て左のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

アシユナが赤い竜巻となり空中のサーキットに飛び込む。拳僧がフィールドに降り立つ。

「相手がモンスターを特殊召喚する際にオーバードーズをリリースして効果発動。それを無効にして破壊する」

オーバードーズが自らを砕き、礫弾を拳僧に飛ばし破壊する。役目を終えた土と岩石の巨人は崩れ去った。

「魔法カード〈虚ろなる龍輪〉を発動。デッキから幻竜族モンスター1体を墓地へ送る。デッキから〈天威龍―ヴィシユダ〉を墓地へ送る。カードを1枚伏せてターンエンド」

「私のターン、ドロー。メインフェイズ開始時にEXデッキをランダムに6枚、裏側表

「示で除外して〈強欲で金満な壺〉を発動。　デッキから2枚ドロロー。　このカードの発動後、ターン終了時まで私はカードの効果でドロローできない」

緑と黄色の壺が天井から降ってきて割れる。　中から2枚のカードが出てきて大男の手札に加わる。

「永続魔法〈一族の結束〉を発動。　私の墓地に存在する元々の種族が1種類の場合、そ

れと同じ種族の私のフィールドのモンスターの攻撃力は800ポイントアップする」

〈コアキメイル・ガーディアン〉　ATK/1900↓2700

「魔法カード〈死者蘇生〉、墓地のモンスター1体を特殊召喚する。　私の墓地から〈コ

アキメイル・ウォール〉を攻撃表示で特殊召喚。　さらに、〈一族の結束〉の効果でパワー

アップ」

〈コアキメイル・ウォール〉　ATK/1900↓2700

「バトルフェイズ、ガーディアンでダイレクトアタック」

ガーディアンが白い岩でできた剣を振り下ろす。

白石　LP　8000↓5300

「ウォールでダイレクトアタック」

ウォールが壁でできた拳で殴りつける。

白石 LP 5300↓2600

「バトルフェイズを終了して、エンドフェイズ。手札から〈コアキメイル・ロック〉を見せる事で2体の『コアキメイル』モンスターは破壊を免れる」

「同じくエンドフェイズに罨カード〈幽麗なる幻滝〉を発動。手札の2枚の〈天威龍〉〈アードラ〉を墓地へ送り、墓地へ送ったモンスターの数＋1枚ドロウする。デツキから3枚ドロウ」

「ターンエンド」

「僕のターン、ドロウ。魔法カード〈ハーピィの羽根箒〉を発動。相手の魔法・罨カードを全て破壊する」

「ウォールをリリースして、そのカードの発動を無効にして破壊する」

羽根箒から発せられた突風をウォールが遮る。だが、突風を耐えきった後に崩れ去ってしまった。

「フィールド魔法〈暴走魔法陣〉(2枚目)を発動。発動時の効果処理として、デツキから〈召喚師アレイスター〉を手札に加える。そしてアレイスターを通常召喚」

大きな杖と魔導書を手にした男がフィールドに現れる。

〈召喚師アレイスター〉 攻撃表示

星4／閥属性／魔法使い族／効果モンスター

ATK／1000 DEF／1800

「召喚に成功したアレイスターのモンスター効果発動。デッキから〈召喚魔術〉を1枚手札に加える。」

魔導書のページがひとりでに捲れていく。

「その効果に『チェーン』して、カウンター罠〈神の通告〉をライフポイント1500を支払い発動。そのモンスター効果を無効にして破壊する」

ページがある項目まで捲れた時に、雷撃がアレイスターに落ち黒こげにして消滅させた。

大男 LP 6000↓4500

「自分フィールドに効果モンスターが存在しない場合、〈天威龍―シユターナ〉は特殊召

喚できる。 守備表示で特殊召喚」
 身体の透けた青い龍が現れる。

〈天威龍―シユターナ〉 攻撃表示

星4 / 水属性 / 幻竜族 / 効果モンスター

ATK / 400 DEF / 2000

「開け、天衣無縫のサーキット！ 召喚条件は『リンクモンスター以外の「天威」モンスター1体』、シユターナをリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク1、〈天威の拳僧〉（2枚目）を僕から見て左のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

シユターナが赤い竜巻となり空中のサーキットに飛び込む。 拳僧が再びフィールドに降り立った。

「自分フィールドに効果モンスター以外のモンスターが存在しているので、墓地の〈天威龍―ヴィシユダ〉を除外して〈コアキメイル・ガーディアン〉を対象に取り効果発動。そのカードを持ち主の手札に戻す」

「いいでしょう、ガーディアンを手札に戻す」

黒い龍がガーディアンに突撃して1枚のカードに戻し、大男の手札に加えさせた。

「墓地のアーダラを除外して、除外されているヴィシユダを対象に効果発動。手札に加える」

茶色の龍が天に昇り姿を消すと、1枚のカードが白石の手元に舞い落ちる。

「手札の〈天威龍―ヴィシユダ〉は自分フィールドに効果モンスターが存在しない場合、特殊召喚できる。守備表示で特殊召喚」

身体の透けた黒い龍が現れる。

「自分フィールドに効果モンスター以外のモンスターが存在しているので、墓地から〈天威龍―アシユナ〉を除外して効果発動。デッキからアシユナ以外の『天威』モンスターを特殊召喚。この効果の発動後、ターン終了時まで自分は幻竜族モンスターしか特殊召喚できない。デッキから〈天威龍―ナハタ〉を守備表示で特殊召喚」

墓地から黄色の龍が姿を見せ天に昇ると、どこからか身体の透けた緑色の龍が現れる。

「開け、天衣無縫のサーキット！ 召喚条件は『リンクモンスターを含むモンスター2体以上』、リンクモンスターの拳僧とヴィシユダ、ナハタをリンクマーカーにセット！ リンク召喚！ リンク3、〈天威の鬼神〉を僕から見て左のEXモンスターゾーンに特殊召喚」

3体のモンスターが赤い竜巻となりサーキットに飛び込み、身体が龍になりかけてい

る大男が現れる。

「バトルフェイズ、鬼神でダイレクトアタック」

大男 LP 4500↓1500

「ターンエンド」

「私のターン、ドロロー。メインフェイズ開始時にEXデッキを裏側表示でランダムに6枚除外して〈強欲で金満な壺〉(2枚目)を発動。デッキから2枚ドロロー。〈コアキメイル・ガーディアン〉を通常召喚、一族の結束〉の効果でパワーアップ！カードを2枚伏せて、エンドフェイズ。手札の〈コアキメイル・ロック〉を見せてガーディアンを破壊から守る。これでターンエンド」

白い巨像が再び床を突き破り現れた。

〈コアキメイル・ガーディアン〉 ATK/1900↓2700

「僕のターン、ドロロー。バトルフェイズに突入」

「おっと待ちたまえ、メインフェイズ終了時にリバースカードオープン。罨カード〈サンダー・ブレイク〉、手札1枚をコストに発動。フィールドのカード1枚を破壊する。この効果で鬼神を破壊する」

鬼神に雷撃が直撃し、倒れ付したまま動かない。

「効果モンスター以外の自分フィールドの表側表示モンスターが戦闘・効果で破壊された場合、墓地の〈天威龍―シユターナ〉を除外し、その破壊されたモンスターを対象に発動。そのモンスターを特殊召喚する」

「そのモンスター効果に『チェーン』してガーディアンをリリースし効果発動。その発動を無効にして破壊する」

青い龍が鬼神を蘇生させようと迫るが、ガーディアンが巨大な盾で弾き飛ばし阻止した。その後、ガーディアンは崩れ去り、鬼神は砕けて消えた。

「まだメインフェイズだが、どうする?」

「ターンエンド」

「私のターン、ドロロー。〈コアキメイル・ロック〉を通常召喚」

顔や手足の付いた岩が現れる。

〈コアキメイル・ロック〉 攻撃表示

星4／地属性／岩石族／効果モンスター

ATK／1200 DEF／1000

「〈一族の結束〉の効果でパワーアップ！」

〈コアキメイル・ロック〉 ATK/1200↓2000

「ロックでダイレクトアタック」

口から岩の塊を吐き出しす。

白石 LP 2600↓600

「これでターンエンド」

「僕のターン、ドロー。自分フィールドに効果モンスターが存在しないので〈天威龍—アシュナ〉(2枚目)を特殊召喚。さらに、〈天威龍—アーダラ〉を通常召喚」

白石のフィールドに黄色と茶色の2体の龍が並ぶ。

「レベル7のアシュナにレベル1のアーダラをチューニング！シンクロ召喚！レベル8、〈天威の龍鬼神〉を攻撃表示で特殊召喚」

アーダラが光の輪になり、その中をアシュナが潜る。遂に龍と化した鬼神が現れる。

〈天威の龍鬼神(りゅうきしん)〉 攻撃表示

レベル8／闇属性／幻竜族／シンクロ／効果モンスター

ATK／3000 DEF／0

「特殊召喚に成功した時、リバースカードオープン！ 罨カード〈サンダー・ブレイク〉（2枚目）を手札1枚をコストに発動。破壊対象は〈天威の龍鬼神〉」

「ターンエンド」

「私のターン、ドロー。バトルフェイズ、ロックでダイレクトアタック」

吐き出された岩の塊が白石へ迫る。

「その直接攻撃宣言時、手札の〈バトルフェーダー〉の効果発動。このカードを特殊召喚し、バトルフェイズを終了する」

白石と岩の塊の間にモンスターが割り込むと、片腕に付いたベルを鳴らし障壁を作る。岩の塊が障壁に当たり攻撃を遮断した。

〈バトルフェーダー〉 攻撃表示

星1／闇属性／悪魔族／効果モンスター

ATK／0 DEF／0

「ターンエンド」

「僕のターン、ドロロー。魔法カード〈召喚魔術〉を発動。融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを手札から墓地へ送り、その融合モンスター1体を融合召喚する。『召喚獣』モンスターを融合召喚する場合、自分フィールド及び自分・相手の墓地のモンスターを除外して融合素材とする事もできる。自分の墓地から〈召喚師アレイスター〉と相手の墓地から〈コアキメイル・ガーディアン〉を除外して融合召喚！ 〈召喚獣メガラニカ〉を攻撃表示で特殊召喚」

2体のモンスターが異次元に飛ばされ、山脈よりも巨大な大地の化身が現れるはずだったが、あまりの大きさに店内では巨大な足しか投影されていないようだ。

〈召喚獣（しようかんじゆう）メガラニカ〉 攻撃表示

星8 / 地属性 / 岩石族 / 融合 / 通常モンスター

ATK / 3000 DEF / 3300

「バトルフェーダー」を守備表示に変更。墓地の〈召喚魔術〉の2つ目の効果を発動。

墓地のこのカードをデッキに戻し、除外されている〈召喚師アレイスター〉1枚を手

札に加える」

除外されていたアレイスターが手札に加わった。

「バトルフェイズ、メガラニカでロックを攻撃」

巨大な足が動き出す。

「ダメージステップ開始時、手札から〈召喚師アレイスター〉を墓地へ送り、メガラニカを対象にして発動。攻撃力・守備力をターン終了時まで1000ポイントアップする」

巨大な足はロックを蹴り砕き、残骸を踏み砕いた。

〈召喚獣メガラニカ〉 ATK／3000↓4000 DEF／3300↓4300

大男 LP 1500↓0



「対戦ありがとうございました」

「こちらこそ、ありがとうございました」

白石は大男と握手をする。

「今度はお互い全力を尽くし、共に奪い合おうじゃないか」

「何の事ですか？」

「デュエルの勝敗に決まっているじゃないか！ まあ、私は夜型なので夜間に予定が空いてれば、ここへ来てくれないだろうか？ 君の予定が空いているならいつでも構わない、待っているよ」

一枚の紙切れを渡し、大男は店から去って行った。

『蒼殿、ここに向かうのは止めておいた方がいいであります』

亡霊が念話で警告してくるので念話で返す。

『まあ確かに、怪しい人ではあるけどいつでももいいと言ってるから、じっくり考えてから決める事にするよ』

『蒼殿、後で後悔しても知らないですよ』

『後悔して……、まあいいか』

白石は念話を止めると、店を出て帰路につくのであった。

第18話 カードバックを貰おう

大男から紙切れを貰ってしばらく経ったある日の事。

「今日も平和だね」

『ホヒヒ、そうでありますな』

白石は居間でお茶を飲んでいた。

『……ところで、あの紙切れの件はどうしますか？』

「どうするも何も行こうと考えてる」

『何故です、前に警告はしたはずですよ』

「そうは言ってもここしばらく亡霊以外の誰かとデュエルしたこと無かったから、誰か他の相手と戦いたいと思っていたんだ。カミュは最近はどこかに行ってる事が多くて会えないし、香代子さんや管理人さん、小学生3人組もしばらく見かけないから対戦を申し込みたくてもできないんだ、今は怪しい相手からの誘いでもデュエルできるならやりたいって思う」

『……そこまで言うならもう止めはしません。ですが、何かあった時のためにワタシも連れて行って下さい』

「亡霊を？」

『それでも役に立つときもあると思いますぞ！ ……多分』

「多分って……、まあいいけど」

お茶を飲み終えた白石は仕事へ向かうのであった。



薄暗い部屋の中で真つ黒な服装の男が書類仕事をしていた。

「……ふう、一息入れるか」

机から離れ、愛用のマグカップにポットからコーヒーを注ぐ。 時間が経ったせいで

少しぬるくなっている。

「安物だが悪くない」

あまり味や香りには詳しく無いが酸味が少なく飲みやすかったからかそんな感想を

つぶやいた。

「相棒は……、寝てるか」

ソファの近くで丸くなって寝ている相棒ことトライホーン・ドラゴンのカードの精霊。なんだか気持ち良さそうだ。

「さて、仕事の続きでもやるとしますかね」

コーヒーを飲み干すとマグカップを置いて書類作業に戻る。今書いているのは先日取り逃がした大男、カードハンターに関するレポートだ。男は文章を考えつつ文字を打ち込んでいく。

「次にあつたら逃がさねえ……」

しばらくして書類作業が大体終わると、男は軽くストレッチをして部屋を後にする。



白石は仕事から帰ると着替えを済ませてひよこのカードショップへ向かった。店内に入ると少しひんやりとした空気が体を包む。

「さて、あのカードはあるかな?」

ストレージコーナーへ足を運ぼうとするが、レジに出来た行列に目が行った。

「何だろう?」

よく見れば皆、手に同じカードパックの購入札を持っていた。

白石は忘れていたが今日は最新のカードパックの発売日である。

「そうか今日だったのか……!」

手早くショーケースから購入するカードをピックアップすると、パックコーナーから最新弾と書かれた購入札を手に取り白石も列に並んだ。

並ぶこと数分、会計を済ませるとプレイゾーンの空いている席に座ってカードパックを開封していく。

どんなカードが出るかわからないからとてもワクワクする一時である。

「ん? このカードは……?」

出てきたカードの中から一枚のカードを手にとるとカードテキストを読み込む。

「いいカードが当たったみたいだ」

腰に下げているデッキケースからデッキを取り出すとき当たったカードや単品で買ったカードを組み込み、変わりに組み込んだのと同じ枚数のカードをデッキから抜いてケースに入れる。たまに勝負を挑まれるからデッキは出かける時に必ず携帯するようになっている。

「スミマセン、チョット イイデスカ?」

声をかけられたので振り返ると中学生くらい金の髪に赤い瞳をした少女が居た。左手には既にデュエルディスクを装着しており準備万端といたところだ。

「ワタシ、『エイル』ト イイマス。デュエル シマセンカ？」

どうしようかと少し思ったが、久方ぶりの亡霊以外の相手からの誘いは考えるまでもなかった。

「ご丁寧にも、僕は白石 蒼です。良いですよ、やりましょう！」



白石はカウンターでデュエルディスクを借りるとプレイゾーンに戻ってきた。

「早速、やろうか」

「ハイ！」

「デュエル！」

白石 LP 8000

エイル LP 8000

白石のデュエルディスクに赤いランプが灯る、先行は決まった。

「僕のターン、手札から魔法カード〈隣の芝刈り〉を発動。僕のデッキは60枚、初期の手札を差し引いても55枚はあるけどそつちは何枚ありますか？」

「ワタシ ノ デッキ ハ 40枚、手札 ヲ ヒイテ 35枚 アリマス。 アト

『チエーン』 ハ、 アリマセン」

「それじゃ処理に入って、デッキを上から相手と同じ枚数35枚になるように20枚を墓地へ送る」

20枚のカードが床に開いた穴に吸い込まれる。

「ヘライトロード・アサシン ライデン」を通常召喚、モンスター効果を発動しデッキの上から更に2枚墓地へ。墓地へ送られたカードはヘライトロード・アーチャー フェリスとヘソラー・エクステンジ、よってライデンの攻撃力は200ポイントアップ。さらにモンスター効果で墓地へ送られたフェリスを自身の効果でフィールドに守備表示で特殊召喚する」

褐色肌の男と猫耳の弓兵がフィールドに並ぶ。

〈ライトロード・アサシン ライデン〉 ATK1700↓1900

「墓地から闇属性モンスター、〈トワイライトロード・シャーマン ルミナス〉を除外して手札から〈闇の精霊 ルーナ〉を特殊召喚」

黒いドレスを纏った女悪魔が静かに現れた。

〈闇の精霊 ルーナ〉 攻撃表示

星4／闇属性／悪魔族／特殊召喚／効果モンスター

ATK／1600 DEF／1200

「墓地から光属性モンスター、〈ライトロード・アサシン ライデン〉（2枚目）を除外して手札から〈光の精霊 ディアーナ〉を特殊召喚」
白いドレスに身を包んだ女性がフワリと現れた。

〈光の精霊 ディアーナ〉 攻撃表示

星4／光属性／雷族／特殊召喚／効果モンスター

ATK／1700 DEF／1000

「光属性・レベル4のディアーナにレベル4のフェリスをチューニング！ シンクロ召喚！ レベル8、〈ライトエンド・ドラゴン〉を攻撃表示で特殊召喚」

フェリスの放った矢が光の輪となり、ディアーナがその中を進むと4枚の翼を持った白き龍が現れた。

〈ライトエンド・ドラゴン〉 攻撃表示

レベル8／光属性／ドラゴン族／シンクロ／効果モンスター

ATK／2600 DEF／2100

「闇属性・レベル4のルーナにレベル4のライデンをチューニング！ シンクロ召喚！

レベル8、〈ダークエンド・ドラゴン〉を攻撃表示で特殊召喚」

ライデンが短刀を投擲すると空間に光の輪が現れ、ルーナがそこを通過すると闇の塊が現れその中から2つの顔を持つ黒き龍が現れる。

〈ダークエンド・ドラゴン〉 攻撃表示

星8／闇属性／ドラゴン族／シンクロ／効果モンスター

ATK/2600 DEF/2100

「ワオ、精霊 ガ ドラゴン ニ ナリマシタ！」

エイルは精霊が龍になったのが気に入ったのか興奮した様子だった。手札状況から並ばせられるなど思ったのでやってみたが、相手が気に入った様でこっちまでなんだか嬉しくなってくる。

「ドラゴンが好きなの？」

「ハイ！」

ついでとばかりに2体の龍が白石を挟むように並び立つ。エイルのデッキがどんなデッキなのかワクワクしながら白石は宣言する。

「僕はこれでターンエンド」

「ワタシ ノ ターン デスネ。 ドロー。 メインフェイズ、
〈EMドクロバット・ジョーカー〉ヲ 通常召喚 シマス」

道化師のような格好のモンスターがエイルのフィールドに現れる。

〈EM（エンタメイト）ドクロバット・ジョーカー〉 攻撃表示

星4 / 閻属性 / 魔法使い族 / ペンデュラム / 効果モンスター / スケール8

ATK/1800 DEF/100

「EMドクロバット・ジョーカー」ガ 召喚 二 成功シタ ノデ、モンスター効果
 ヲ 発動 シマス。 デッキ カラ ドクロバット・ジョーカー イガイ ノ 『EM』
 モンスター、『魔術師』ペンデュラム モンスター、『オッドアイズ』モンスター
 ノ ウチ イズレカ 1体 ヲ 手札 二 クワエマス。 デッキ カラ ヘオッドア
 イズ・アークペンデュラム・ドラゴン」 ヲ 手札 二 クワエマス」

ドクロバット・ジョーカーが継ぎ接ぎの帽子を脱ぎ、中から1枚のカードをエイルに
 渡す。

「スケール 8 ノ ヘオッドアイズ・アークペンデュラム・ドラゴン」 ヲ 右側 ノ
 ペンデュラムゾーン 二 セッティング シマス、 反対側 ノ ペンデュラムゾーン
 二 スケール 4 ノ ヘオッドアイズ・ペンデュラム・ドラゴン」 ヲ セッティン
 グ シテ フィールド魔法 「天空の虹彩」 ヲ 発動 シマス」

2体のドラゴンが入った光の柱が立ち、その後天井付近に虹色の輪が現れる。 な
 かなか綺麗だけど出来れば外で見たかったな。

「天空の虹彩」 ノ 効果、 左側 ノ スケール 二 セッティング サレテイル
 ヘオッドアイズ・ペンデュラム・ドラゴン」 ヲ 対象 二 発動。 対象 ノ カード

ヲ 破壊シテ デッキ カラ 『オッドアイズ』 カード ヲ 1枚 手札 ニ ク
 ワエマス。 〈オッドアイズ・セイバー・ドラゴン〉 ヲ 手札 ニ クワエマス」

虹色の輪から赤い体色のドラゴンが入った柱に向けて光弾が発射され、それを破壊した
 後1枚のカードが降ってきた。

「ワタシ ノ フィールド ノ 『オッドアイズ』 カード ガ 破壊 サレタノデ
 〈オッドアイズ・アークペンデュラム・ドラゴン〉 ノ ペンデュラム効果 ヲ 発動
 シマス。 手札 デッキ 墓地 カラ 『オッドアイズ』 モンスター ヲ 1体 エ
 ランデ 特殊召喚 シマス、 デッキ カラ 〈オッドアイズ・ファントム・ドラゴン〉
 ヲ 攻撃表示 デ 特殊召喚 シマス」

光の柱の中に居た躰から水晶の柱が何本も生えているドラゴンが唸りを上げると、
 フィールドに変わった角をした白っぽいドラゴンが現れる。

〈オッドアイズ・ファントム・ドラゴン〉 攻撃表示

星7/闇属性/ドラゴン族/ペンデュラム/効果モンスター/スケール4

ATK/2500 DEF/2000

「手札 ノ 〈オッドアイズ・ウィザード・ドラゴン〉 ノ 効果、 ドクロバット・ジョー

カーヲ リリース シテ 発動 シマス。 デッキ カラ 〈オッドアイズ・ドラゴン〉ヲ 墓地 ヘ オクリ コノカード ヲ 特殊召喚 シマス」

暗い体色のドラゴンが現れ、両手に赤と緑の色違いの魔法陣を発生させた。 ちよつとかつこいいかも。

〈オッドアイズ・ウィザード・ドラゴン〉 攻撃表示

星7／闇属性／ドラゴン族／効果モンスター

ATK／2500 DEF／2500

「スケール 3 ノ 〈相克の魔術師〉 ヲ 左側 ノ ペンデュラムゾーン ニ セツ ティング シマス」

光の柱が再び立つ。 今度は青い髪の変わった盾を持った魔術師が入っている。

「コレデ レベル 4 〽 7 ノ モンスター ガ 同時 ニ 召喚可能 デス。

ペンデュラム召喚！ EXデッキ カラ 〈オッドアイズ・ペンデュラム・ドラゴン〉

ヲ ワタシ カラ ミテ 左側 ノ EXモンスターゾーン ヘ 手札 カラ ハ

〈オッドアイズ・セイバー・ドラゴン〉 ト 〈EMペンデュラム・マジシャン〉 ヲ ス

ベテ 攻撃表示 デ 特殊召喚 シマス」

2つの光の柱の周りを振り子の様なものが揺れ動く、虹色の輪の中から3体のモンスターが現れた。

その内の赤い体色のドラゴンが〈オッドアイズ・ペンデュラム・ドラゴン〉

〈オッドアイズ・ペンデュラム・ドラゴン〉 攻撃表示

星7/闇属性/ドラゴン族/ペンデュラム/効果モンスター/スケール4

ATK/2500 DEF/2000

白い体色と剣の様な鋭い翼を生やしたドラゴンが〈オッドアイズ・セイバー・ドラゴン〉

〈オッドアイズ・セイバー・ドラゴン〉 攻撃表示

星7/光属性/ドラゴン族/効果モンスター

ATK/2800 DEF/2000

赤い帽子と赤い服に振り子を持った人型のモンスターが〈EMペンデュラム・マジシャン〉

〈EMペンデュラム・マジシャン〉 攻撃表示

星4/地属性/魔法使い族/ペンデュラム/効果モンスター/スケール2

ATK/1500 DEF/800

あつと言う間にエイルのフィールドに複数のモンスターが展開される。

ペンデュラム召喚、これは忘れずに覚えておこう。

「特殊召喚 ニ 成功シタ ペンデュラム・マジシャン ノ 効果、〈天空の虹彩〉ト

ペンデュラム・マジシャン ヲ 対象 ニ 発動 シマス。 対象 ノ カード ヲ

破壊シテ デッキ カラ ペンデュラム・マジシャン イガイ ノ 『EM』 モンス

ター ヲ 手札 ニ クワエマス。 破壊シタ ノハ 2枚 ナノデ デッキ カラ

〈EMオッドアイズ・ディゾルヴァー〉ト 〈EMクリボーダー〉ヲ 手札 ニク

ワエマス」

虹色の輪とペンデュラム・マジシャンが爆発し、2枚のカードがエイルの手札に加わる。

「レベル 7 ノ 〈オッドアイズ・ペンデュラム・ドラゴン〉ト 〈オッドアイズ・フア

ントム・ドラゴン〉デ オーバーレイネットワーク ヲ 構築、エクシーズ召喚！

オイデ！ ランク 7 〈オッドアイズ・アブソリユート・ドラゴン〉 ヲ 攻撃表示
 デ 特殊召喚 シマス」

2体のドラゴンが暗い穴に飛び込み、代わりに青い体色のドラゴンが現れる。 氷の
 ような印象を受ける。

〈オッドアイズ・アブソリユート・ドラゴン〉 攻撃表示

ランク7／水属性／ドラゴン族／エクシーズ／効果モンスター

ATK／2800 DEF／2500

「〈相克の魔術師〉ノ ペンデュラム効果、〈オッドアイズ・アブソリユート・ドラ
 ン〉ヲ 対象 ニ 発動 シマス。 コノターン 対象 ニ シタ モンスター ハ
 ソノランク ト 同じ数値 ノ レベル ノ モンスター トシテ エクシーズ召
 喚 ノ 素材 ニ デキマス」

光の柱の中に居た魔術師が盾をクルリと回転させるとアブソリユート・ドラゴンの周
 りに光が満ち、それが収まると軀の周りを光が覆っていた。

デュエルディスクのテキストモードで見ると、黒かったランクの星マークが赤く
 点滅していた。

「レベル 7 ノ 〈オッドアイズ・ウィザード・ドラゴン〉 ト レベル 7 ノ アツカイ ニ ナッタ 〈オッドアイズ・アブソリュート・ドラゴン〉 デ オーバーレイ ネットワーク ヲ 構築、 エクシーズ召喚！ アラワレテ！ 〈霸王烈竜オッドアイズ・レイジング・ドラゴン〉 ヲ 攻撃表示 デ 特殊召喚 シマス」

再びドラゴン達が暗い穴に飛び込む、禍々しい雰囲気、赤い体色のドラゴンが現れた。

〈霸王烈竜（はおうれつりゅう）オッドアイズ・レイジング・ドラゴン〉 攻撃表示

リンク7／闇属性／ドラゴン族／ペンデュラム／効果モンスター／スケール1

ATK／3000 DEF／2500

「1ターン ニ 1度、 レイジング・ドラゴン ノ OUR ヲ 1つ トリノゾキ 発動 デキマス。 アナタ ノ フィールド ノ カード ヲ スベテ 破壊シテ コノカード ノ 攻撃力 ハ ターン 終了時 マデ、 破壊シタ カード ノ カズ ×200 ポイント アップ シマス」

「全体破壊効果……!? これは不味いな……！」

レイジング・ドラゴンが光線の如く光の翼を広げ咆哮する。 その咆哮は衝撃波を纏

い白石のフィールドのカードを破壊していく。

「2枚 ノ カード ヲ 破壊 デキタノデ 400 ポイント 攻撃力 ガ アップ
シマス」

〈霸王烈竜オツドアイズ・レイジング・ドラゴン〉 ATK/3000↓3400

「バトルフェイズ、レイジング・ドラゴン デ ダイレクトアタック シマス！ レイ
ジング・ドラゴン ハ エクシーズモンスター ヲ 素材 ニ エクシーズ召喚 シタ
ノデ、1度 ノ バトルフェイズ中 ニ 2回攻撃 デキマス！」

赤い熱線がレイジング・ドラゴンから放たれる。

「墓地から〈超電磁タートル〉を除外して効果発動。バトルフェイズを終了する！」

どこからか高速回転しながら飛来してきた亀が熱線に直撃して爆散する。煙が晴
れると白石の周りには薄緑色のバリアが張られていた。

「バトルフェイズ ヲ 終了シテ ターンエンド シマス。 レイジング・ドラゴン
ノ 攻撃力 ハ モトニ モドリマス」

〈霸王烈竜オツドアイズ・レイジング・ドラゴン〉 ATK/3400↓3000

「僕のターン、ドロ。自分フィールドにモンスターが存在しない場合、手札からこの
モンスターは特殊召喚出来る。〈フォトン・スラッシュャー〉を攻撃表示で特殊召喚」

青白く光る戦士が剣を振りながら現れた。

〈フオートン・スラッシュャー〉 攻撃表示

星4 / 光属性 / 戦士族 / 効果モンスター

ATK / 2100 DEF / 0

「魔法カード〈増援〉発動。デッキからレベル4以下の戦士族モンスターを1枚手札に加える。この効果で〈ライトロード・アサシン ライデン〉(3枚目)を手札に加える。

そして通常召喚!」

フィールドに再び現れるライデン。さっきのとは別人(?)でいいのだろうか?

「ライデンの効果発動。デッキの上から2枚のカードを墓地へ送る」

墓地へ送られたのはどちらも魔法カードだった。今日はちよつとツイてない。

「今日当たったカード、早速使ってみるか! レベル4の〈フオートン・スラッシュャー〉に、レベル4のライデンをチューニング! シンクロ召喚! レベル8、〈混沌魔龍 カオス・ルーラー〉を攻撃表示で特殊召喚!」

ライデンとスラッシュャーが光の輪と共に消えて行き、黒き魔龍が姿を現す。

〈混沌魔龍 (こんとんまりゆう) カオス・ルーラー〉 攻撃表示

星8／闇属性／ドラゴン族／シンクロ／効果モンスター

ATK／3000 DEF／2500

「カオス・ルーラーがシンクロ召喚に成功した場合に発動出来る。自分のデッキを上から5枚めくり、その中から光属性または闇属性のモンスターを1体選んで手札に加える事が出来る。残ったカードは墓地へ送る」

5枚のカードがめくられる。〈シャドール・ビースト〉、〈闇の誘惑〉、〈裁きの龍〉、〈コンセントレイト〉、〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉だった。

「光属性の〈裁きの龍〉を手札に加え、残りのカードを墓地へ送る。カードの効果で墓地へ送られた〈シャドール・ビースト〉の効果発動。デッキから1枚ドロウする」

手札に加わったカードに顔を綻ばせ、次の手を打つ。

「墓地に〈ライトロード・アサシン ライデン〉、〈ライトロード・アーチャー フェリス〉、〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉、〈ライトロード・サモナー ルミナス〉、〈ライトロード・マジシャン ライラ〉、〈トワイライトロード・シャーマン ルミナス〉の4種類以上が墓地に眠っているので〈裁きの龍〉を攻撃表示で特殊召喚」

光と共に白く輝く〈裁きの龍〉が現れる。

「LPを1000支払い〈裁きの龍〉の効果発動。このカード以外のフィールドに存在

するカードを全て破壊する！」

白石 LP8000↓7000

「モンスターゾーン ノ レイジング・ドラゴン ガ 破壊 サレタノデ 効果発動
シマス。 コノカード ヲ ワタシ ノ ペンデュラムゾーン ニ オキマス。 左
側 ニ 配置 シマス」

レイジング・ドラゴンが破壊されても光の柱となり再びフィールドに戻ってくる。

そんな効果があったとは……

「さらにLPを1000支払いレイジング・ドラゴンを破壊する！」

白石 LP7000↓6000

「墓地のカオス・ルーラーの効果、このカード以外の光属性と闇属性のモンスターを1体
ずつ手札または墓地から除外して発動する。 墓地から光属性のへ光の精霊 デイアー
ナ」と闇属性のへ闇の精霊 ルーナを除外し効果発動。 カオス・ルーラーを墓地か
ら攻撃表示で特殊召喚、この効果で特殊召喚したカオス・ルーラーはフィールドから離

れたら除外される」

2体の精霊を糧に魔龍がフィールドに舞い戻った。

「墓地から光属性モンスター〈カオス・ソルジャー開闢の使者〉と2枚の〈裁きの龍〉の合計3体を除外して、手札から〈混源龍レヴィオニア〉を攻撃表示で特殊召喚！」

空間を歪めながら青白い角の生えた白き龍が現れる。

〈混源龍（こんげんりゅう）レヴィオニア〉 攻撃表示

星8／闇属性／ドラゴン族／特殊召喚／効果モンスター

ATK／3000 DEF／0

「墓地のモンスターを除外して特殊召喚したレヴィオニアの効果発動。この特殊召喚の為に除外した属性によって効果が変わる。光属性3体を除外した場合は、自分の墓地からモンスター1体を守備表示で特殊召喚する。墓地の〈ライトロード・ドラゴン グラゴニス〉を特殊召喚。このターン、レヴィオニアは攻撃出来ない」

再び空間が歪み、その中からグラゴニスが現れ守りを固めた。ついでにパワーアツプもする。

ヘライトロード・ドラゴン グラゴニス〈 ATK / 2000 ↓ 3500 DEF / 1600 ↓ 3100

「ドラゴン ガ アットイウマ ニ デテキマシター！」

エイルがまた興奮した様子で言った。 本場にドラゴンが好きなようだ。

「バトルフェイズ、〈裁きの龍〉でダイレクトアタック」

「ライフ デ ウケマス！」

エイル LP8000 ↓ 5000

「続けて、カオス・ルーラーでダイレクトアタック」

「ココデ 手札 ノ 〈EMクリボーダー〉ノ 効果 ヲ 発動 シマス。 ダイレク

トアタック宣言時 ニ コノカード ヲ 手札 カラ 特殊召喚 シ、 ソノ 相手

モンスター ノ 攻撃対象 ヲ コノカード ニ ウツシカエテ ダメージ計算 ヲ

オコナイマス。 ソノ 戦闘 デ ワタシ ガ ダメージ ヲ ウケル バアイ

カワリ ニ ソノ 数値分 ダケ 回復 シマス。 攻撃表示 デ 特殊召喚 シマ

ス」

赤と緑のシマシマな帽子を被った毛玉のような悪魔がカオス・ルーラーの前に現れ、勢いよく突撃するも片手で弾き飛ばされ消滅する。 エイルの周りに虹色の光が集まりLPを回復した。

〈EMクリボーダー〉 攻撃表示

星1／闇属性／悪魔族／効果モンスター

ATK／300 DEF／200

エイル LP5000↓7700

「バトルフェイズを終了してエンドフェイズ、グラゴニスの効果でデッキを上から3枚墓地へ送る。 これでターンエンド」

「ワタシ ノ ターン、ドロー。 魔法カード 〈ペンデュラム・ホルト〉ヲ 発動

シマス。 ワタシ ノ EXデッキ ニ 表側表示 ノ ペンデュラムモンスター

ガ 3種類以上 存在 スル バアイ、デッキ カラ 2枚 ドロー シマス。 コ

ノカード ノ 発動後、ターン 終了時 マデ ワタシ ハ デッキ カラ カード

ヲ 手札 ニ クワエル コト ガ デキマセン」

2枚のカードがエイルの前に現れ、手札に加わった。

「左側 ノ ペンデュラムゾーン ニ スケール4 ノ 〈EMオッドアイズ・デイズルヴァア〉ヲ セツテイング シマス」

光の柱が立ち、青白い髪の毛の魔法使いがその中に居た。

「右側 ノ ペンデュラムゾーン ニ スケール8 ノ 〈オッドアイズ・ミラージュ・ドラゴン〉ヲ セツテイング シマス」

緑色の体色をしたドラゴンの入った光の柱が立つ。再びペンデュラム召喚の準備が整った。

「コレデ レベル 5 6 7 ノ モンスター ガ 同時 ニ 召喚可能 デス。

ペンデュラム召喚！ EXデッキ カラ 〈オッドアイズ・アークペンデュラム・ドラゴン〉ヲ ワタシ カラ ミテ 右側 ノ EXモンスターゾーン ニ 攻撃表示 デ
特殊召喚 シマス」

振り子が揺れ動き、2つの柱の間からアークペンデュラム・ドラゴンが降ってきた。

〈オッドアイズ・アークペンデュラム・ドラゴン〉 攻撃表示

星7／闇属性／ドラゴン族／ペンデュラム／通常モンスター

ATK/2700 DEF/2000

「アークペンデュラム・ドラゴン ヲ リリース シテ ヘオッドアイズ・アドバンス・ドラゴン」 ヲ アドバンス召喚 シマス。 コノカード ハ レベル 5 以上 ノ モンスター 1体 ヲ リリース シテ アドバンス召喚 デキマス」

アークペンデュラム・ドラゴンが光の粒子と共に消えて、ヘオッドアイズ・ペンデュラム・ドラゴン」にも似た赤い翼の生えたドラゴンが姿を現す。

「ヘオッドアイズ・アドバンス・ドラゴン」 攻撃表示

星8/闇属性/ドラゴン族/効果モンスター

ATK/3000 DEF/2500

「アドバンス召喚 ニ 成功シタ アドバンス・ドラゴン ノ 効果 ヲ 発動 シマス。 アナタ ノ フィールド ノ モンスター ヲ 1体 エラントデ 破壊 シ、 ソノ モンスター ノ 元々 ノ 攻撃力分 ノ ダメージ ヲ アナタ ニ アタエマス (「裁きの龍」 ヲ 破壊 シテ 3000 ポイント ノ ダメージ ヲ アタエ マス」

アドバンス・ドラゴンが火球を放ち〈裁きの龍〉を破壊する。
「くっ……！」

白石 LP6000↓3000

「ワタシ ハ コレデ ターンエンド シマス」

アドバンス・ドラゴンをフィールドに残した辺り、こちらのモンスターとの相討ちを嫌っての事なのだろうと白石は思った。

「僕のターン、ドロロー。 グラゴニス を攻撃表示へ変更してバトルフェイズへ突入！
グラゴニスでアドバンス・ドラゴンを攻撃」

光線と火球が同時に放たれる。 だが、互いが交わる事は無く光線がアドバンス・ドラゴンの躰を貫き、火球はグラゴニスを掠り飛んで行った。

エイル LP7700↓7200

「カオス・ルーラーでダイレクトアタック」

「スベテ ライフ デ ウケマス！」

カオス・ルーラー手のひらから赤い閃光が放たれ、エイルに直撃してLPを削った。

エイル LP7200↓4200

「続けて、レヴィオニアでダイレクトアタック」

空間が歪み、そこから大小様々な隕石が降り注ぐ。

エイル LP4200↓1200

「ここが墓地の〈妖精伝姫―シラユキ〉の効果、墓地から7枚のカードを除外して発動。

このカードを特殊召喚する。 攻撃表示で特殊召喚、これでトドメ！」

床に穴が空いたかと思えば、そこから手にリングを持ったリスのようなモンスターが這い出てきて周囲を見渡しドラゴンばかりが目立つフィールドに一瞬ビクツとしながらも手にしていたリングをエイルの顔面に向けて投げつけるのであった。

〈妖精伝姫（フェアリーテイル）―シラユキ〉 攻撃表示

星4／光属性／魔法使い族／効果モンスター

ATK / 1850 DEF / 1000

「ハウツ！」

エイル LP1200↓0



「対戦ありがとうございます」

「イイ デュエル デシタ、アリガトウ ゴザイマシタ！」

試合後に白石は気になったのでエイルに聞いてみた。

「そういえば、日本語がカタコトだけど……どこかの国から来たの？」

「ハイ、アルビオン島 カラ キマシタ」

「アルビオン島……？ まあ、いいか。良かったらだけど、少し日本語を教えようか

？」

「ゼヒ、オネガイ シマス！」

こうしてしばらくの間、白石はエイルに日本語を少し教え若干マシな感じに話せるようにする事に成功した。

「日本語 ヲ 教えて頂き アリガトウゴザイマシタ！」

「あまり教えるのが上手くなくてごめんね」

「とても参考に ナリマシタ」

2人はその後、2時間程デュエルすると店を後にするのであった。